愛知県埋蔵文化財センター調査報告書　第159集

下津新町遺跡（おりづしんまち）

2009

財団法人　愛知県教育・スポーツ振興財団
愛知県埋蔵文化財センター

序

愛知県の北西部に所在する稲沢市は、今日では植木や苗木の産地として知られ、また多くの企業の工場が並ぶ産業都市としても発展しています。尾張平野の中心に位置するこの地は、古くから尾張の中心地として栄え、古代には国府・国分寺・国分尼寺が作られ、中世には下津に守護所が設置されました。三宅川や五条川などの河川交通、鎌倉街道などの陸上交通も発達し、人々の往来は活発で、多様な文化が花開いた歴史があるといえましょう。

今回発掘調査を行いました下津新町遺跡は、尾張守護所が設置された下津城の近くに立地しており、古代から中世を中心に様々な時期の遺構や遺物が確認されています。稲沢市域では、古くから多くの地点で発掘調査などが行われてきており、既に膨大な知見の蓄積がありますが、今回の調査によって、その中でも下津城近隣の歴史的景観復元において新たな成果を加えることができました。本書は、その成果をまとめたものであります。

今後、こうした調査成果が、稲沢市域の歴史を明らかにする上で一助となり、埋蔵文化財の保護や啓蒙活動に活用されることを願ってやみません。

最後になりましたが、発掘調査の実施に際して、地元住民の方々をはじめとする関係者および関係諸機関のご理解とご協力を賜りましたことに対し、厚くお礼申し上げる次第です。

平成21年3月

財団法人　愛知県教育・スポーツ振興財団
理事長　林　良三

例　言

1　本書は愛知県稲沢市下津新町に所在する下津新町遺跡（県遺跡番号 090270）の発掘調査報告書である。

2　調査は、主要地方道路名古屋豊山稲沢線の道路改良工事に伴う事前調査として、愛知県建設部道路建設課より愛知県教育委員会を通じて委託を受けた財団法人愛知県教育・スポーツ振興財団愛知県埋蔵文化財センターが実施した。

3　調査期間は平成 17 年 4 月から 11 月までで、2278 ㎡の面積を行った。整理および報告書作成作業は平成 19 年 4 月から平成 20 年 3 月にかけて実施した。

4　調査担当者は、宮腰健司（本センター調査研究専門員：当時主査）・鈴木正貴（本センター調査研究専門員：当時主任）、加藤博紀（現津島東高等学校：当時調査研究員）である。発掘調査は安西工業株式会社の支援を受けて実施した。なお、安西工業株式会社の調査スタッフは本文第 1 章に記した。

5　調査にあたっては、愛知県教育委員会生涯学習課文化財保護室、愛知県埋蔵文化財調査センター、愛知県建設部道路建設課、稲沢市教育委員会をはじめとする、多くの関係諸機関のご協力を得た。

6　本書の執筆と編集は鈴木正貴が担当したが，一部に分担執筆がある。

第 3 章第 2 節(1)　宮腰健司

第 4 章第 1 節　鬼頭剛

第 4 章第 2 節　パレオ・ラボ　藤根久・中村賢太郎

7　整理作業は鈴木正貴が担当した。整理作業は伊藤ますみ、小嶋由美子、三浦里美（整理補助員）の協力を得て実施し，遺物トレース作業をテイケイトレード株式会社に、地籍図および地図のトレースを GIS 中部株式会社に、編集作業を有限会社アルケーリサーチに、写真撮影を写真工房遊（金子知久）にそれぞれ作業を委託した。

8　本書に提示した座標数値は、国土交通省に定められた平面直角座標第Ⅶ系に準拠する。海抜表記は東京湾平均海面（T.P.）の数値である。

9　遺物は、本書に掲載された遺物図版番号を登録番号として整理した。

10　写真や図面などの調査記録は愛知県埋蔵文化財センターで保管している。

〒 498-0017 愛知県弥富市前ヶ須町野方 802-24（0567-67-4161）

11　出土遺物は愛知県埋蔵文化財調査センターで保管している。

〒 498-0017 愛知県弥富市前ヶ須町野方 802-24（0567-67-4164）

12　本書の作成に至るまでに、本センター専門委員・職員をはじめとして下記の方々から多くのご指導とご助言を得ている。記して感謝したい。（五十音順：敬称略）

磯谷和明・北村和宏・都築暢也・中野晴久・野口哲也・藤澤良祐・北條献示

目　次

第１章　調査の概要

第１節　調査の経緯…… 1

第２節　調査の方法と経過…… 4

第３節　地理的・歴史的環境…… 8

第２章　遺　構

第１節　基本層序と遺構の概要…… 9

第２節　古墳時代の遺構……10

第３節　古代の遺構……13

第４節　中世の遺構……70

第５節　近世の遺構……80

第３章　遺　物

第１節　出土遺物の概要……85

第２節　土器・須恵器・陶磁器類……85

第３節　石製品…… 114

第４節　木製品…… 114

第５節　金属製品・金属関連遺物…… 119

第４章　自然科学的分析

第１節　下津新町遺跡における地下層序と表層地形解析…… 122

第２節　下津新町遺跡出土木製品の樹種同定…… 128

第５章　考　察・まとめ

第１節　地籍図・村絵図による河道の検討…… 132

第２節　遺構の変遷…… 135

第３節　下津新町遺跡における古代土師器甕について…… 141

第４節　総　括…… 143

抄　録…… 149

付　表…… 151

遺構図版…… 171

写真図版…… 179

挿 図 目 次

第 1 図　遺跡位置図（1）…… 1
第 2 図　遺跡位置図（2）…… 2
第 3 図　調査区位置図（1）…… 3
第 4 図　調査区位置図（2）…… 4
第 5 図　調査区周辺の地籍図 …… 5
第 6 図　基本土層断面図 …… 9
第 7 図　SX07 遺物出土状態図……10
第 8 図　SX08・09・10 遺物出土状態図 ……11
第 9 図　土手状遺構とその周辺の遺構図 ……12
第 10 図　竪穴建物跡 SB03 遺構図……14
第 11 図　竪穴建物跡 SB04 遺構図……15
第 12 図　竪穴建物跡 SB05 遺構図……16
第 13 図　竪穴建物跡 SB06 遺構図……17
第 14 図　竪穴建物跡 SB07 遺構図……18
第 15 図　竪穴建物跡 SB08・09 遺構図……19
第 16 図　竪穴建物跡 SB10 遺構図……20
第 17 図　竪穴建物跡 SB11・12 遺構図……21
第 18 図　竪穴建物跡 SB13 遺構図……22
第 19 図　竪穴建物跡 SB14 遺構図……23
第 20 図　竪穴建物跡 SB15・16 遺構図……24
第 21 図　竪穴建物跡 SB17 遺構図……25
第 22 図　竪穴建物跡 SB18 遺構図……26
第 23 図　竪穴建物跡 SB19・21・22 遺構図（1）……27
第 24 図　竪穴建物跡 SB19・21・22 遺構図（2）……28
第 25 図　竪穴建物跡 SB20・36 遺構図……29
第 26 図　竪穴建物跡 SB23 遺構図……30
第 27 図　竪穴建物跡 SB23 地床炉遺構図……31
第 28 図　竪穴建物跡 SB24 遺構図……32
第 29 図　竪穴建物跡 SB25・26 遺構図（1）……33
第 30 図　竪穴建物跡 SB25・26 遺構図（2）……34
第 31 図　竪穴建物跡 SB27 遺構図……35
第 32 図　竪穴建物跡 SB28 遺構図……36
第 33 図　竪穴建物跡 SB29 遺構図……37
第 34 図　竪穴建物跡 SB30・37 遺構図……38
第 35 図　竪穴建物跡 SB37 遺構図……39
第 36 図　竪穴建物跡 SB31 遺構図……40
第 37 図　竪穴建物跡 SB32・33 遺構図（1）……41
第 38 図　竪穴建物跡 SB32・33 遺構図（2）……42
第 39 図　竪穴建物跡 SB34 遺構図……43
第 40 図　竪穴建物跡 SB35 遺構図……44
第 41 図　竪穴建物跡 SB40・44・45 遺構図……45
第 42 図　竪穴建物跡 SB41 遺構図……46
第 43 図　竪穴建物跡 SB42 遺構図……47
第 44 図　竪穴建物跡 SB46 遺構図……48
第 45 図　竪穴建物跡 SB47 遺構図……49
第 46 図　竪穴建物跡 SB48 遺構図……50
第 47 図　竪穴建物跡 SB49 遺構図……51
第 48 図　竪穴建物跡 SB50 遺構図……52
第 49 図　竪穴建物跡 SB51 遺構図……53
第 50 図　竪穴建物跡 SB54 遺構図……54
第 51 図　竪穴建物跡 SB56・57 遺構図……55
第 52 図　竪穴建物跡 SB58 遺構図……56
第 53 図　竪穴建物跡 SB59 遺構図……57
第 54 図　竪穴建物跡 SB60 遺構図……58
第 55 図　竪穴建物跡 SB61・62 遺構図……59
第 56 図　竪穴建物跡 SB63 遺構図……60
第 57 図　竪穴建物跡 SB64・65 遺構図（1）……61
第 58 図　竪穴建物跡 SB64・65 遺構図（2）……62
第 59 図　掘立柱建物跡 SB52 遺構図（1）……63
第 60 図　掘立柱建物跡 SB52 遺構図（2）……64
第 61 図　掘立柱建物跡 SB53 遺構図（1）……65
第 62 図　掘立柱建物跡 SB53 遺構図（2）……66
第 63 図　掘立柱建物跡 SB66、SA01・02 遺構図 ……67
第 64 図　溝 SD43・46 遺構図……68
第 65 図　土坑 SK20 遺構図……69
第 66 図　掘立柱建物跡 SB01 遺構図（1）……71
第 67 図　掘立柱建物跡 SB01 遺構図（2）……72
第 68 図　掘立柱建物跡 SB02 遺構図（1）……73
第 69 図　掘立柱建物跡 SB02 遺構図（2）……74
第 70 図　溝 SD03・04・08・11・12・13・14 遺構図 …75
第 71 図　溝 SD23・30・33・39・42 遺構図 ……76
第 72 図　井戸 SK14・土坑 SK05・08・09 遺構図 ……77
第 73 図　火葬施設？ SX05 遺構図……78
第 74 図　SD01・SX12 遺構図……79
第 75 図　井戸 SK33・37 遺構図……81
第 76 図　井戸 SK58・65 遺構図……82
第 77 図　SX03 遺構図 ……84
第 78 図　古墳時代の土器 ……87
第 79 図　竪穴建物跡出土遺物（1）……89
第 80 図　竪穴建物跡出土遺物（2）……90
第 81 図　竪穴建物跡出土遺物（3）……91
第 82 図　竪穴建物跡出土遺物（4）……92
第 83 図　竪穴建物跡出土遺物（5）……93
第 84 図　竪穴建物跡出土遺物（6）……94
第 85 図　竪穴建物跡出土遺物（7）……95
第 86 図　竪穴建物跡出土遺物（8）……96
第 87 図　竪穴建物跡出土遺物（9）……98
第 88 図　竪穴建物跡出土遺物（10）……99
第 89 図　竪穴建物跡出土遺物（11）…… 100
第 90 図　竪穴建物跡・溝 SD43 出土遺物 …… 101

第 91 図　土坑出土遺物（1）…… 103
第 92 図　土坑・竪穴建物跡出土遺物 …… 104
第 93 図　溝出土遺物（1）…… 106
第 94 図　溝出土遺物（2）…… 107
第 95 図　溝出土遺物（3）…… 108
第 96 図　溝出土遺物（4）…… 110
第 97 図　溝出土遺物（5）…… 111
第 98 図　柱穴等出土遺物 …… 112
第 99 図　土坑出土遺物（2）…… 113
第 100 図　井戸出土遺物（1）…… 115
第 101 図　井戸出土遺物（2）…… 116
第 102 図　溝・井戸出土遺物 …… 117
第 103 図　石製品 …… 118
第 104 図　木製品（1）…… 119
第 105 図　木製品（2）…… 120
第 106 図　金属製品・金属関連遺物 …… 121
第 107 図　下津新町遺跡における深掘調査地点 …… 122
第 108 図　地点 1（05B 区）における深掘層序断面　123
第 109 図　地点 2（05C 区）における深掘層序断面　123
第 110 図　下津新町遺跡周辺の等高線図 …… 126
第 111 図　明治 17 年作成地籍図からみた河道…… 133
第 112 図　天保 12 年作成村絵図…… 134
第 113 図　古墳時代の遺構配置図 …… 135
第 114 図　古代の遺構変遷図 …… 137
第 115 図　中世～近世の遺構変遷図 …… 140
第 116 図　下津新町遺跡周辺の旧河川と
自然堤防の想定 …… 144
第 117 図　下津新町遺跡の範囲図 …… 147

挿表目次

第 1 表　地点 1（05B 区）における
放射性炭素年代測定結果 …… 125
第 2 表　地点 2（05C 区）における
放射性炭素年代測定結果 …… 125
第 3 表　木製品の樹種一覧表 …… 130
第 4 表　木製品の樹種組成表 …… 131

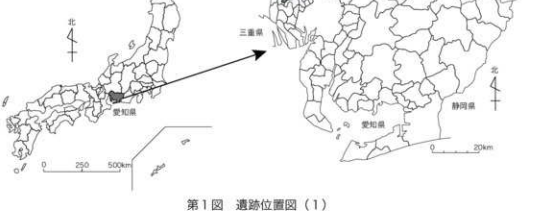
第1章　調査の概要

第1節　調査の経緯

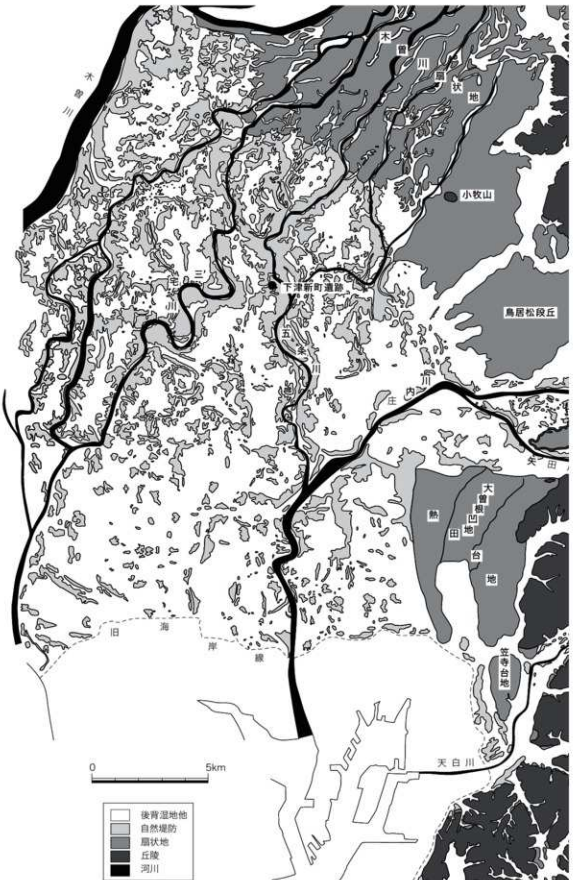
下津新町（おりづしんまち）遺跡は、愛知県稲沢市下津新町に位置する遺跡である。下津新町遺跡は平成20年3月に県遺跡台帳に新規登録された遺跡であり、発掘調査を実施した平成17年度の時点では鎌倉街道周辺遺跡として周知されていたものである。鎌倉街道周辺遺跡（遺跡番号090001）は赤池東山町から下津下町まで広がる広大な範囲を持ち、これまでに稲沢市教育委員会によって下津城跡（鎌倉街道周辺遺跡に含まれる）の発掘調査などが実施され、中世を中心として多くの成果が明らかになっている。

愛知県建設部は、西春日井郡豊山町と稲沢市街地を結ぶ県道名古屋豊山稲沢線の建設を計画した。この計画路線の一部は鎌倉街道周辺遺跡の範囲に含まれており、遺跡の境界部の状況を確認するため、平成16年度に愛知県教育委員会生涯学習課文化財保護室は稲沢市下津新町143番地他に所在する道路建設予定地内に遺跡の有無確認調査を行った。調査の結果、旧岐阜街道の東側では遺跡は濃密に展開することが確認されたが、現宮田用水の西側では旧河川の堆積が確認されたに過ぎず、遺構や遺物が発見されなかった。このため、旧岐阜街道の西側には遺跡が展開しないと判断された。

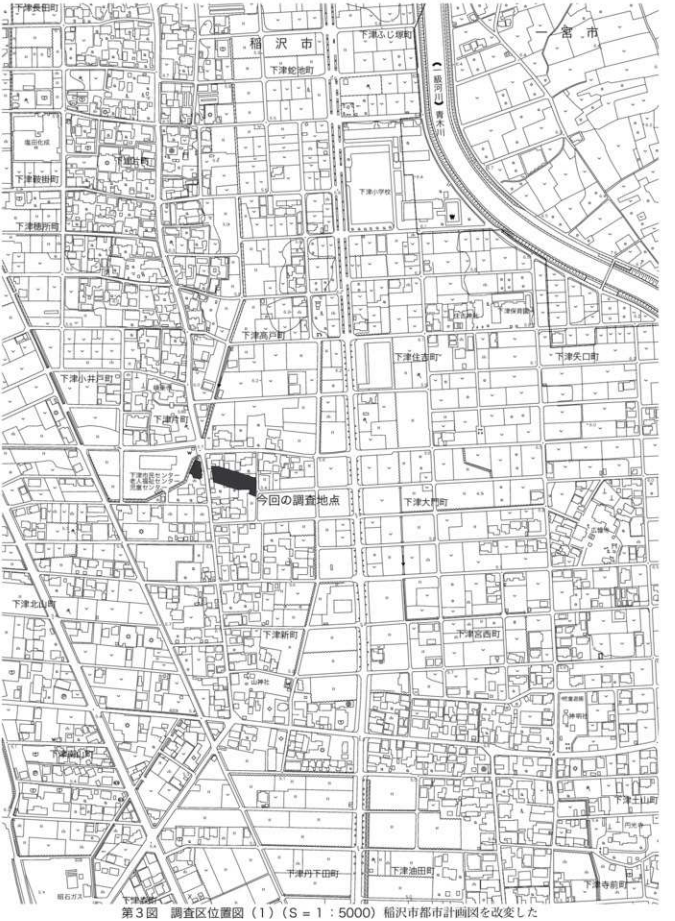
発掘調査は、愛知県建設部から委託を受け、平成17年4月から財団法人愛知県教育サービスセンター愛知県埋蔵文化財センター（当時）が実施した。調査開始当初は上記の経緯から旧岐阜街道の東側1678㎡が、実際に調査を開始してみると旧岐阜街道に接する部分でも古代の掘立柱建物跡などの遺構が展開していることが判明し、旧岐阜街道と現宮田用水の間の区域にも遺跡が展開することが十分に予測された。これを受け、本センター専門委員橋崎彰一や稲沢市教育委員会北條献示らの助言を得て、県教委文化財保護室と調整を図り、平成17年9月2日に県文化財保護室野口哲也と県埋蔵文化財調査センター磯谷和明の立会のもとで範囲確認試掘調査を実施した。結果、旧岐阜街道の東側と同様の堆積が存在し、近世と中世の遺構面および中世遺構面で土坑1基と遺物約10点が確認された。中世遺構面の下層についても遺跡が存在する可能性が極めて高くなったため、平成17年10月1日から旧岐阜街道西側部分の道路建設予定地内600㎡の発掘調査を引き続き実施した。



第1図　遺跡位置図（1）


木曽川
木曽川扇状地
小牧山
下津新町遺跡
鳥居松段丘
五条川
三宅川
矢田川
大曽根台地
熱田台地
旧海岸線
笠寺台地
天白川
0
5km
後背湿地他
自然堤防
扇状地
丘陵
河川

第２図　遺跡位置図（２）



第３図　調査区位置図（1）（S＝1：5000）稲沢市都市計画図を改変した

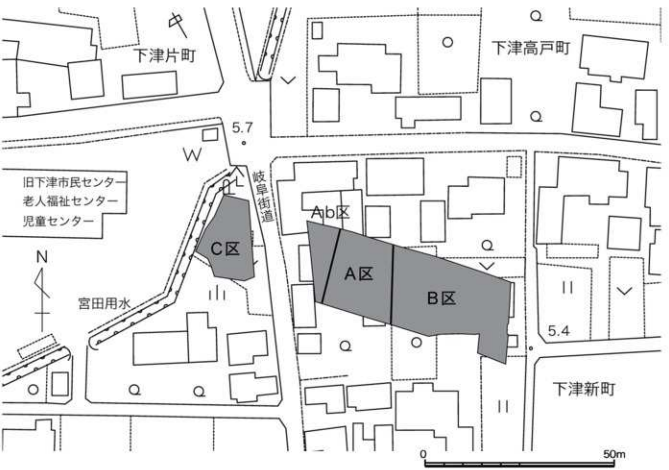
第２節　調査の方法と経過

発掘調査は愛知県埋蔵文化財センターが安西工業株式会社の支援を受け実施した。調査担当者は宮腰健司・鈴木正貴・加藤博紀である。安西工業のスタッフは下記のとおりである。

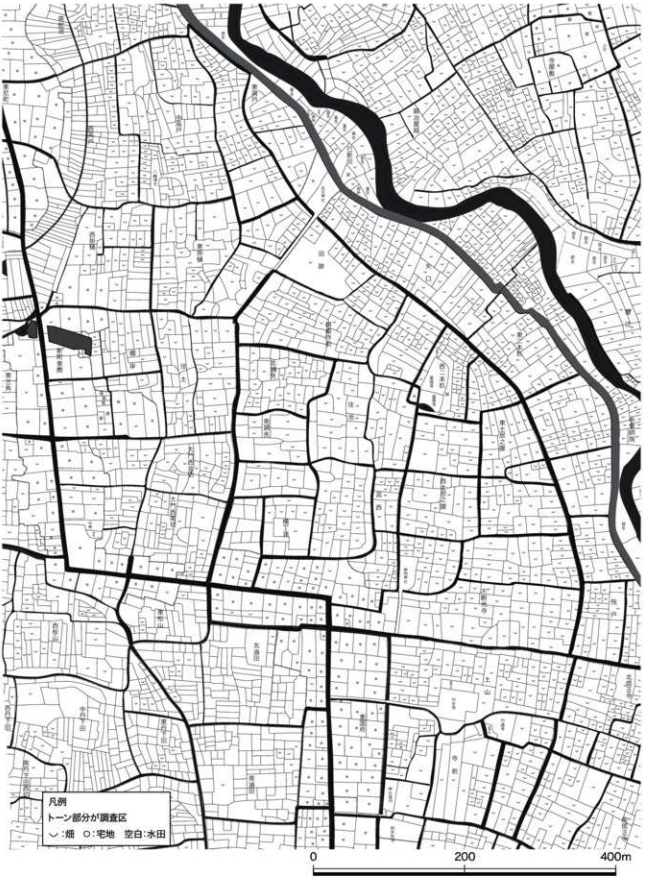
現場代理人：水野裕貴、調査補助員：久富正登、測量技師：岩竹則和・儀間博、調査助手：山本雅徳・吉岡宏・鈴木淳子、職長：林田玄、作業員：安藤慶子・池田秀子・市橋久美子・岩室一栄・岩本三希子・小田清子・鮎谷和美・加藤尾羽・黒谷日佐子・後藤純子・近藤洋子・今よし江・柴山香代子・杉田千代子・杉本たみゑ・曽我雅彦・武田一二男・中沢節子・西保・野垣豊子・羽田野明美・久田友子・前芝忍・松永容子・山之内なつ子、土工：倉田正夫・島哲司・中上登志夫・服部浩・松本親弘

調査区は便宜上、旧岐阜街道の東側をＡ区とＢ区、旧岐阜街道の西側をＣ区の３区に分けて実施し、Ｂ区→Ａ区→Ａｂ区（Ａ区の道路際部分）→Ｃ区の順に行った。

調査方法は、はじめにバックホウにより黄褐色砂質土などの表土を除去し、室町時代の遺構面まで掘削した。実際にはその上位に江戸時代の遺物が確認されたが、少なくとも最初に調査したＢ区では江戸時代の顕著な遺構を発見できなかったので、上記のように判断した。遺構は最終的には、古墳時代、奈良時代、平安時代末期～鎌倉時代、鎌倉時代、室町時代、江戸時代の各時期の遺構面が存在することが明らかになったが、現実的に遺跡全体をこの各遺構面で掘り分けることは難し



第４図　調査区位置図（２）（Ｓ＝１/1000）



第５図　調査区周辺の地籍図（愛知県公文書館蔵「地籍字分全図」をトレースした）

く、結果的に鎌倉時代から江戸時代までの遺構を第１面、奈良時代から平安時代末期までの遺構を第２面、奈良時代の遺構を第３面、古墳時代から奈良時代の遺構を第４面として調査を実施した。したがって、この第１～４面の区分は時期的なまとまりを保証するものではなく、上位から順に検出・掘削した便宜上の遺構面にしか過ぎない。

5m グリッドを設定し、遺物は原則このグリッドごとに取り上げている。部分的に包含層を人力で掘削しながら遺構検出を行い、土坑類は半裁掘削、溝や竪穴建物跡などは土層観察用ベルトを残して掘削し、必要な記録を採取した後に全掘作業を行った。遺構の実測は電子平板による測量を実施し、成果品は全てデジタルデータで作成した。写真は６×７リバーサルフィルムとデジタルカメラによる撮影を調査補助員久富正登が行った。

平成 17 年６月 25 日には現地説明会を開催し、検出された遺構と出土した遺物について説明した。約 90 人の参加者があった。また、出土した遺物は現場で洗浄作業を実施し終え、その量は洗浄が終了した時点で 27 リットル入りコンテナで 103 箱に及ぶ。現地作業は平成 18 年 11 月１日に終了した。

整理・報告書作成作業は平成 19 年度に鈴木が担当して弥富市の愛知県埋蔵文化財センターで実施した。遺物は整理補助員の協力を得て接合・選別作業を実施し、報告書に掲載する遺物については全て鈴木が実測図作成を行った。遺物実測図のトレースは多くの部分をテイケイトレード株式会社に、遺物の写真撮影は写真工房遊に、樹種同定分析をパレオラボ株式会社に、報告書編集作業（遺構図作成を含む）はアルケーリサーチにそれぞれ作業を委託し行った。整理作業を終了した時点で、遺物は 27 リットル入りコンテナで 75 箱に整理され、愛知県に移管された。

平成 20 年度に報告書印刷作業を行い，印刷は新日本法規出版株式会社に委託した。

調査日誌抄

★３月 29 日　（火）：安西工業と初打合せ。
★４月 18 日　（月）：本調査前に状況確認の試掘を２ヶ所実施し遺構面などを確認。
★４月 25 日　（金）：Ｂ区表土掘削を開始。下津詰所稼働。
★５月９日　（月）：作業員による掘削作業を開始。壁トレンチ掘削。
★５月 11 日　（木）：トレンチの状態から遺構の状況を確認。稲沢市教委北條献示他１名来訪。
★５月 16 日　（月）：Ｂ区１面遺構検出作業を開始。県サービスセンター監事視察。
★５月 17 日　（火）：Ｂ区１面遺構掘削作業を開始。県教育長と稲沢市教委北條献示来訪。
★５月 20 日　（金）：大溝ＳＤ 08 の掘削を開始。
★５月 27 日　（金）：Ｂ区１面遺構清掃と高所作業車による写真撮影。
★５月 30 日　（金）：Ｂ区１面遺構補足調査と２面に向け人力による包含層掘削作業。
★６月７日　（火）：B区２面遺構検出作業を開始。
★６月８日　（水）：B区２面遺構掘削作業を開始。
★６月９日　（木）：県埋文調査センター都築暢也来訪。
★６月 17 日　（金）：B区２面遺構清掃と写真撮影。
★６月 20 日　（月）：Ｂ区２面遺構補足調査と３面に向け人力による包含層掘削作業。
★６月 21 日　（火）：Ｂ区３面遺構検出作業を開始。安全パトロール実施。
★６月 22 日　（水）：B区３面遺構掘削作業を開始。
★６月 23 日　（木）：県埋文調査センター磯谷和明・江崎武来訪。
★６月 24 日　（金）：Ｂ区３面遺構清掃と高所作業車による写真撮影。現地説明会準備。
★６月 25 日　（土）：地元向け現地説明会開催。約 90 名参加。
★６月 27 日　（月）：Ｂ区３面遺構補足調査。
★６月 28 日　（火）：中山春義来訪。
★７月１日　（金）：城ヶ谷和広来訪。
★７月５日　（火）：Ｂ区４面に向け重機による包含層掘削作業と遺構検出作業を開始。

★7月7日　(木):B区4面遺構掘削作業を開始。
★7月8日　(金):B区4面遺構清掃と高所作業車による写真撮影。
★7月11日　(月):B区補足調査(土層断面図調査)を開始。
★7月14日　(金):B区補足調査(深掘り調査)を実施。鬼頭剛によりサンプル採取。井戸SK14断ち割り調査。埋め戻し作業も開始。
★7月19日　(火):A区表土掘削を開始。
★7月20日　(水):壁トレンチ掘削とA区1面遺構検出作業を開始。
★7月22日　(金):A区1面遺構掘削作業を開始。
★7月28日　(木):A区1面遺構清掃と高所作業車による写真撮影。
★7月29日　(金):A区1面遺構補足調査と2面に向け人力による包含層掘削作業。
★8月1日　(月):A区2面遺構検出作業を開始。稲沢市教委北條献示他1名来訪。
★8月2日　(火):A区2面遺構掘削作業を開始。
★8月3日　(水):県埋文調査センター磯谷和明来訪。
★8月4日　(木):A区2面遺構清掃と写真撮影。
★8月5日　(金):A区2面遺構補足調査と3面に向け人力による包含層掘削作業。弥富町立桜小学校教諭3名来訪し取材。
★8月8日　(月):A区3面遺構検出作業を実施。
★8月9日　(火):A区3面遺構掘削作業を開始。
★8月11日　(木):A区3面遺構清掃と高所作業車による写真撮影。
★8月12日　(金):A区3面遺構補足調査。
★8月16日　(火):A区4面に向け重機による包含層掘削作業を開始。堀木真美子によりSX05出土骨片サンプル採取。
★8月17日　(水):SB49炭化物土壌の篩別作業を実施するが、微細遺物などは確認されず。
★8月19日　(金):A区4面遺構掘削作業を開始。
★8月23日　(火):A区4面遺構清掃と高所作業車による写真撮影。
★8月24日　(月):A区4面補足調査を開始。稲沢市教委北條献示他2名来訪。
★8月25日　(火):橋崎彰一の指導を受ける。
★8月26日　(金):A区補足調査(深掘り調査)を実施。鬼頭剛によりサンプル採取。井戸SK32・SK33・SK37断ち割り調査。県教委野口哲也来訪。
★8月29日　(月):埋め戻し作業を開始。
★9月2日　(金):旧岐阜街道西側で遺跡範囲確認調査を実施し、遺跡は広がることが判明した。
★9月6日　(火):旧岐阜街道西側(C区)の調査を引き続き実施する方針を決定する。
★9月8日　(木):Ab区表土掘削。1面遺構検出と掘削作業を開始。
★9月9日　(金):Ab区1面遺構清掃と写真撮影。2面に向け人力による包含層掘削作業。
★9月12日　(月):Ab区2面遺構検出と掘削作業を開始。稲沢市教委北條献示来訪。
★9月13日　(火):Ab区2面遺構清掃と写真撮影。
★9月14日　(水):Ab区2面遺構補足調査と3面遺構検出・掘削・清掃・写真撮影を実施。
★9月15日　(木):Ab区4面に向け重機による包含層掘削と4面遺構検出・掘削作業を開始。
★9月16日　(金):A区4面遺構清掃と写真撮影。終了後埋め戻し作業。
★9月26日　(月):詰所の移設作業。
★10月6日　(木):C区表土掘削を開始。
★10月12日(水):壁トレンチ掘削とC区1面遺構検出作業を開始。
★10月13日(木):C区1面遺構掘削作業を開始。
★10月19日(水):C区1面遺構清掃と高所作業車による写真撮影。鬼頭剛によりサンプル採取。
★10月20日(木):C区2面遺構検出と掘削作業を開始。鬼頭剛によりサンプル採取。
★10月24日(月):稲沢市教委北條献示他1名来訪。遺跡名称変更などの問題提起がある。
★10月25日(火):C区2面遺構清掃と写真撮影および補足調査。
★10月26日(水):C区3面に向け重機による

包含層掘削作業。
★10月28日（金）：C区3面遺構検出・掘削作業。
★10月31日（月）：C区3面遺構清掃と高所作業車による写真撮影。井戸SK58サンプル採取。
★11月1日（火）：C区深掘り調査、鬼頭剛によりサンプル採取、井戸SK58・SK65断ち割り調査など実施。終了後埋め戻し作業。県埋文調査センター都築暢也来訪。
★11月11日（金）：埋め戻し作業が終了。
★11月30日（水）：現場の全ての撤去作業が終了。
★12月16日（金）：センターにて成果品納品。調査の反省会を開催。

第3節　地理的・歴史的環境

遺跡が所在する稲沢市は愛知県北西部に所在し、広大な濃尾平野のほぼ中央に位置している。市域には三宅川や日光川などの北東部から南西部にかけて流れる河川が多く存在し、河川に伴う自然堤防と後背湿地によって形成されている。鎌倉街道周辺遺跡は青木川右岸のやや規模が大きい自然堤防上に立地しており、地表面の標高は6～7m前後を測る。鎌倉街道周辺遺跡から分離して設定された下津新町遺跡は、既に滅失した旧河川に伴う右岸自然堤防上に所在している。この河川は現青木川が下津蛇池町から分派し、現宮田用水を経由して下津新町付近で西に流れ大塚方面に向かうものであり、西接する下津北山遺跡で15世紀には埋没した流路として検出されたものと同一と思われる。

下津新町遺跡の周辺には、古代～中世の時期を中心に多くの遺跡が分布している。最も古い時期では、縄文時代後期末葉には下津城下層遺跡で遺物が出土し人々の営みの存在が確認され、弥生時代には伝法寺野田遺跡の水田跡や飯守神遺跡と元屋敷遺跡の集落跡などが明らかになっている。古墳時代でも伝法寺本郷遺跡などで水田跡が確認され、後背湿地の開発が進んでいたことが判明した。古代には青木川などの河川がもたらす堆積による自然堤防の微高地が発達し、尾張国府跡、北丹波・東流遺跡、中之郷北遺跡、権現山遺跡などがある。これらは、尾張国府を除くと集落の展開は部分的で、当地域が活発に開発されるのは中世を待たなければならない。中世には、鎌倉街道周辺遺跡をはじめ、下津北山遺跡、島崎遺跡、伝法寺本郷遺跡など多くの遺跡が展開する。記録の上では、鎌倉街道が整備されるとともに下津五日市などの町場が開発され、14世紀末には曹洞宗の巨刹正眼寺が創建され街道沿いに多くの末寺も建てられたと伝えられる。また、15世紀後葉まで尾張守護所が下津に存在したとされ、その段階では尾張の中心地であったといえる。近世以降は、岐阜街道が設置され下津下町や下津片町に町場が形成された。

（鈴木正貴）

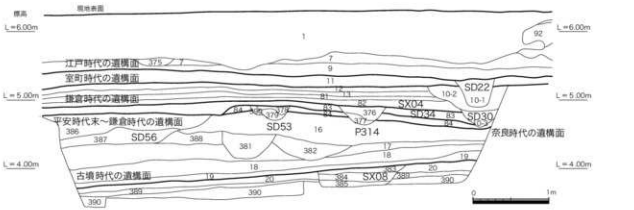
第２章　遺　構

第１節　基本層序と遺構の概要

下津新町遺跡における基本的な層序は、Ａｂ区北壁土層断面図（第６図）でみると、第１層：黄褐色砂質土（第６図１層）、第２層：鈍い黄橙色砂質土（第６図7,9層）、第３層：鈍い黄橙色砂質土（第６図11層）、第４層：褐色砂質土 と灰黄褐色砂質土のブロック（第６図13層）、第５層：鈍い黄褐色砂質シルト（第６図83層）、第６層：灰黄褐色砂質シルトと鈍い黄橙色砂質土のブロック（第６図84層）、第７層：粘性の弱い鈍い黄橙色砂質シルト（第６図16層）、第８層：鈍い黄橙色砂質シルトと黄褐色砂質土のブロック（第６図17層）、第９層：粘性の強い鈍い黄橙色砂質シルト（第６図18層）、第10層：鈍い黄橙色粘質土と黄褐色粘質土のブロック（第６図19層）、第11層：黄灰色粘質シルト（第６図20層）、第12層：鈍い黄色粘土と褐色砂質土のブロック（第６図389層）、第13層：灰黄褐色粘土（第６図390層）の順に堆積している。上記の堆積層はその他の地点でも概ねが確認されるが、全く同一となっているわけではなく多少の異同が認められる。

このうち、第１層は表土で現代の盛土層、第３層の上面が江戸時代の遺構面である。第４層は斑土状の整地層と思われ、その上面が室町時代の遺構面と考えられる。第５層の上面が鎌倉時代の遺構面、第６層の上面が平安時代末期から鎌倉時代初期の遺構面と推測される。第７層から第10層までは大半は河川堆積物と思われるが、第７層の上面が奈良時代の遺構面となっていて、そこから竪穴建物跡が重複して掘削されたと理解される。第11層の上面が古墳時代の遺構面と考えられ、この面は西に向かうにつれて下がる傾斜面となっている。概ね第７層以下はＡ区とＢ区の境界部分が最も高くなっている印象がある。

ところで、第13層よりも下位の堆積については、第14層：黄灰色粘土、第15層：黒色粘土、第16層：青灰色シルト、第17層：灰色砂の順で堆積しており、第16層および第17層は1m以上堆積していてそこに至ると湧水が著しい。周辺の



05Ab区北壁セクション土層説明

第１層　10YR 5/6 黄褐色砂質土
第７層　10YR 6/3 鈍い黄橙色砂質土
第９層　10YR 4/3 鈍い黄褐色砂質土
第11層　10YR 5/4 鈍い黄褐色砂質土
第12層　10YR 5/3 鈍い黄褐色砂質土
第13層　10YR 4/4 褐色砂質土 + 10YR 6/2 灰黄褐色砂質土ブロック
第16層　10YR 7/2 鈍い黄橙色砂質シルト（粘性弱）
第17層　10YR 7/3 鈍い黄橙色砂質シルト + 10YR 5/6 黄褐色砂質土ブロック
第18層　10YR 7/4 鈍い黄橙色砂質シルト（粘性強）
第19層　10YR 7/4 鈍い黄橙色粘質土 + 10YR 5/6 黄褐色粘質土（土器片混）
第20層　2.5Y 4/1 黄灰色粘質シルト
第81層　10YR 5/3 鈍い黄褐色砂質シルト + 10YR 6/2 灰黄褐色砂質土ブロック
第82層　10YR 5/2 灰黄褐色砂質土
第83層　10YR 5/4 鈍い黄褐色砂質シルト
第84層　10YR 6/2 灰黄褐色砂質シルト + 10YR 7/2 鈍い黄橙色砂質土ブロック

第６図　基本土層断面図（05Ab 区北壁）

他の遺跡の成果からみて、第15層黒色粘土層が弥生時代相当の堆積層と考えられるが、本遺跡では該期の遺構や遺物は確認されなかった。

今回の調査で検出された遺構は全部で550基存在する。これらの遺構は上記で説明した各遺構面から掘削されたものと思われるが、実際の調査では、調査精度に問題があるためか、厳密に検出された遺構と遺構面が対応できる事例は限定されているのが現状である。本来は遺構面ごとに記述を進めるべきであろうが、ここでは大きく古墳時代・古代・中世・近世の4時期に区分して記述していきたい。

第2節　古墳時代の遺構

古墳時代の遺構には土坑や落ち込み、土手状遺構などが存在する。標高4.0m前後の黄灰色粘質シルトまたは黒色粘土の上面で遺構が検出され、その上位は厚い黄褐色砂質土などの堆積で覆われていた。A区西部からC区東部の間に、南北方向に伸びる流路(谷)状の緩やかな落ち込みが存在し、その肩部分に遺構が展開するようである。この緩やかな落ち込みは確認できた範囲で標高3.2mまで落ち込むことが分かっており、おそらく現岐阜街道部分が最深部になると思われる。遺構の時期は概ね古墳時代前期（廻間Ⅱ式期～松河戸Ⅰ式期）に属する。では、個別に遺構を紹介していく。

（1）土坑

ＳＸ07（第7図）　直径約0.3mの円形土坑で非常に浅く、灰黄褐色粘質土の埋土中にＳ字状口縁甕が横位に埋設されていた。口縁部が北に向けられていた。

（2）落ち込み

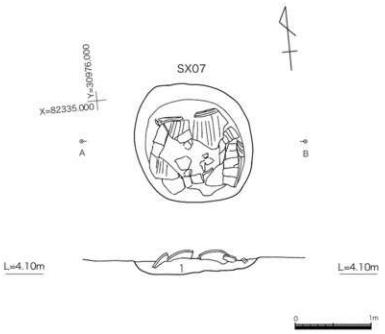
ＳＸ08（第8図）　A区北部で検出された浅い落ち込みで、北側は調査区外に拡がる。落ち込みの中央で丸底壺などの古式土師器が出土した。

ＳＸ09（第8図）　A区で検出された不定形の浅い落ち込みで、旧流路に向かって緩やかに傾斜する斜面に構築されていた。Ｓ字状口縁甕や高坏などの土師器がまとまって出土した。

ＳＸ10（第8図）　ＳＸ09に近接して検出された小型の落ち込みで、屈折脚高坏などの土師器が出土した。

（3）溝

ＳＤ64・ＳＤ65　C区西部に所在する南北方向に平行して走る溝である。ＳＤ64は幅約60cm、ＳＤ65は幅約80cmで、深さは共に10cm強を測る。A区西部からC区東部の間にある南北方向に伸びる谷状の落ち込みの西肩部分に構築されており、谷状の落ち込みと西に拡がる微高地を画する遺構の可能性が考えられる。出土遺物はほとんど

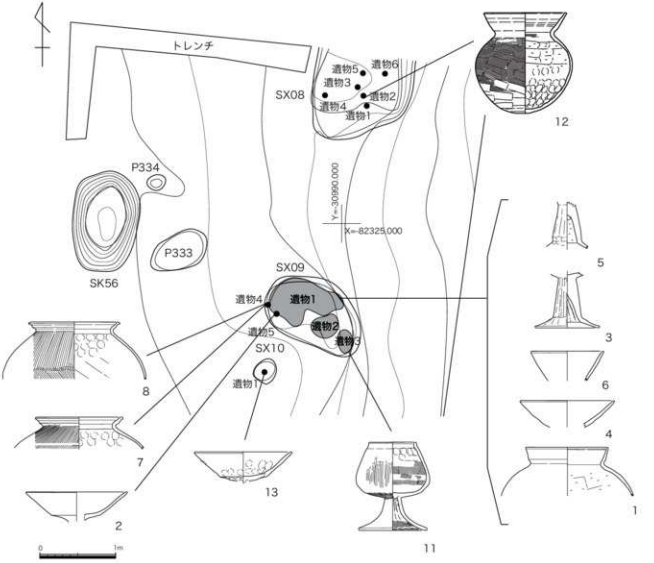


第7図　ＳＸ07遺物出土状態図（Ｓ＝1/50）

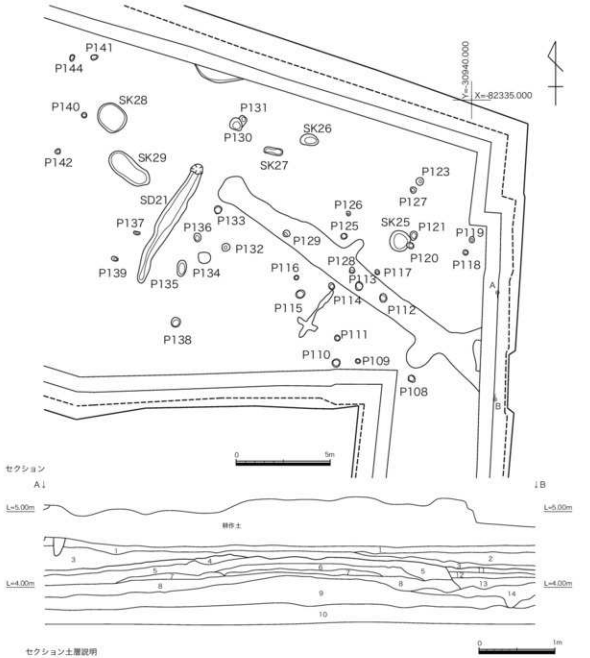
認められないが、検出された土層断面からみて古墳時代前期と考えられる。

（4）土手状遺構とその関連遺構群（第９図）

B区中央部から東部にかけて、帯状に拡がる土手状の高まりが検出された。黄灰色粘土層上にオリーブ黄色砂質シルトや鈍い黄色砂質シルトを約0.1m盛り上げて造られたものである。幅は約1.4mを測り、北西から南東に伸びる形で検出され、３ヶ所の張り出し部が認められた。これに直交する方位の溝ＳＤ21や平面形が十字形となる小規模な高まりが併存することから、水田状遺構の可能性が考えられるが、これ以上決め手となる状況が確認されなかった。時期は検出された面からみて古墳時代と推測される。



第８図　ＳＸ08・09・10遺物出土状態図（Ｓ＝１/50、遺物はＳ＝１/６）



セクション土層説明

第1層　10YR 7/3 鈍い黄橙色　砂質シルト+10YR 5/6 黄褐色　砂質土ブロック
第2層　2.5Y 6/3 鈍い黄色　砂質シルト
第3層　10YR 6/2 灰黄褐色　砂質シルト
第4層　2.5Y 4/1 黄灰色　粘質シルト
第5層　2.5Y 6/3 鈍い黄色粘土+10YR 4/4 褐色　砂質土ブロック
第6層　5Y 6/3 オリーブ黄色　砂質シルト
第7層　2.5Y 6/4 鈍い黄色　砂質シルト
第8層　2.5Y 6/2 灰黄褐色粘土
第9層　2.5Y 5/1 黄灰色粘土
第10層　2.5Y 2/1 黒色粘土
第11層　2.5Y 5/1 黄灰色　砂質シルト
第12層　2.5Y 6/4 鈍い黄灰色　砂質シルト
第13層　2.5Y 6/2 灰黄色　砂質土ブロック
第14層　7.5GY 6/1 緑灰色　粘質シルト

第９図　土手状遺構とその周辺の遺構図

第３節　古代の遺構

古代（古墳時代後期～平安時代）の遺構には竪穴建物跡50棟・掘立柱建物跡３棟・溝・土坑などが存在する。標高4.7m前後の黄橙色砂質シルトや黄褐色シルトの上面で遺構が検出され、遺構の密度が高く遺構の切り合いは激しい状態であった。そのため遺構検出は難しく上位は厚い黄褐色砂質土などの堆積で覆われていた。この段階の遺構検出面（地表面）は東が高くて西が低い非常に緩やかな斜面となっていて、古代の中でも上位の遺構検出面のレベルはＢ区東部で標高約5.00m、Ａｂ区で標高約4.80m、Ｃ区西部で標高約4.60mとなって傾斜している。

古代の遺構は検出状況や出土遺物から概ね８段階に区分して整理することができた（第５章第２節参照）。ここではこれに基づいて、個別に遺構を紹介していく。

（１）竪穴建物跡

竪穴建物跡と思われる遺構は全部で50棟検出された。これらは遺構間の重複が激しく全体の形状が不明なものも多く含まれているが、ほぼ全て隅丸方形または隅丸長方形の平面プランを持つものである。多くの場合、掘形ににぶい黄褐色砂質シルトで整地した床面（貼床）を持っており、その上位には地山と同様な砂質シルト（覆土）が堆積している。したがって、平面での遺構検出は難しい場合があり、実際の調査では覆土から中世の遺物が多く混入したり、平面プランを誤ることもあった。

ＳＢ03（第10図）　Ｂ区北東部に所在しＳＢ04とＳＢ05を切る。東辺が調査区外に拡がり形状は特定できないが、平面形は4.07m×3.71m以上の隅丸長方形？で深さは11cmを測る。黄褐色砂質シルトを整地して床面にし、四隅に主柱穴がある。北面では外側に掘り込まれたカマド状遺構が発見されたが、そこに焼土は確認されなかった。高蔵寺２号窯式期に属する須恵器が出土するが、切り合い関係などからみて時期は古代７段階（第５章第２節参照：以下同様）と考えられる。

ＳＢ04（第11図）　Ｂ区東端部にありかつＳＢ03や撹乱に切られるので、詳細な形状は不明である。主柱穴らしきピットが２基確認された。出土須恵器からみて古代６段階と思われる。

ＳＢ05（第12図）　Ｂ区北東部に存在しＳＢ03に切られ、西隅部のみ確認された。下位にはＳＢ19・ＳＢ23などが拡がっている。主柱穴が１基検出されたが、その他の施設は不明である。時期は古代６段階に比定される。

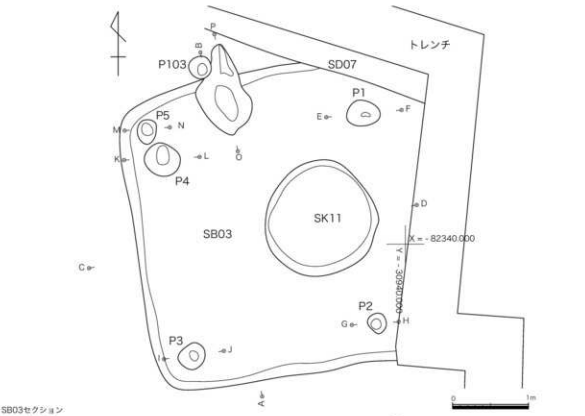
ＳＢ06（第13図）　Ｂ区北部で検出された建物跡でＳＤ13に切られ、下位にＳＢ07・ＳＢ23・ＳＢ24などがある。平面形は5.55m×5.50mの隅丸方形で深さは23cmを測る。にぶい黄褐色砂質土で床面が整地され、四隅に主柱穴がある。北面には部分的に周溝が確認されたが、カマドなどの火処遺構は検出されなかった。９世紀前半の遺物も含まれ、古代７段階に位置づけられる。

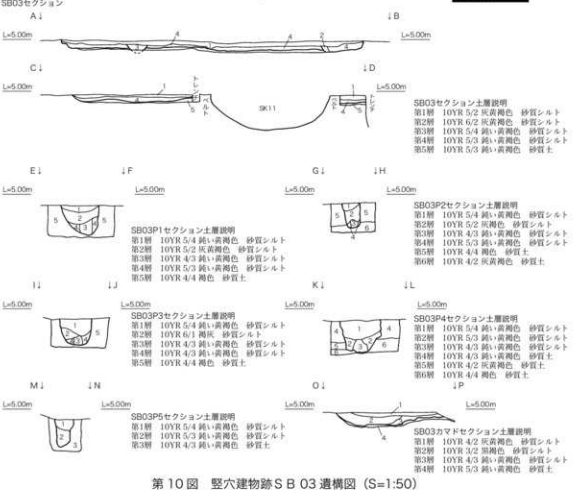
ＳＢ07（第14図）　Ｂ区北部に位置しＳＢ06に切られ、下位にはＳＢ24が展開する。南西隅のみが確認され大部分は調査区外に拡がる。本来存在すると思われる南西隅に主柱穴は検出されず、黒褐色砂質シルトを整地層と西辺の周溝のみが確認された。出土須恵器からみて古代６段階の遺構と考えられる。

ＳＢ08（第15図）　Ｂ区北西部で南東辺のみを検出した建物跡で大半は調査区外に展開する。主柱穴などの建物内施設は全く不明。ＳＢ09を切るので、古代８段階もしくはそれ以降に位置づけられよう。

ＳＢ09（第15図）　Ｂ区北西部に所在しＳＢ08に切られる竪穴建物跡で、下位にＳＢ28が存在する。北辺と西辺は不明であるが、平面形は6.22m以上×4.56m以上の隅丸長方形で深さは22cmを測る。灰黄褐色砂質シルトを整地して床面にし、周溝ＳＤ01とＳＤ02を巡らせている。主柱穴らしきピットが多く存在するが、その中でもＰ１～４がほぼ方形に配置されている。当初方形の竪穴

遺　構





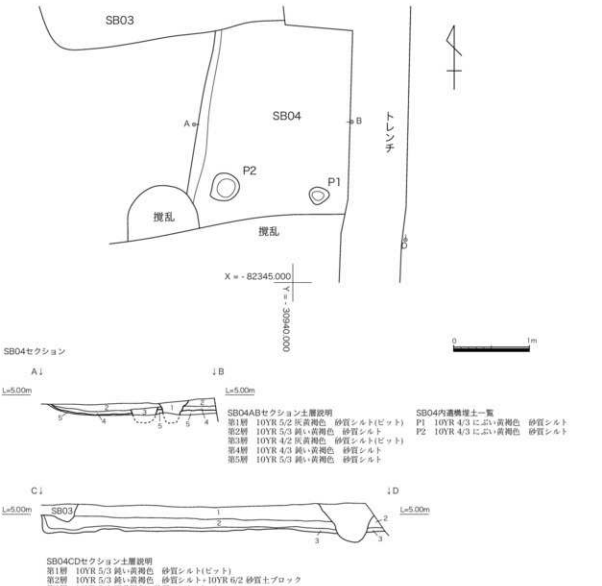
第 10 図　竪穴建物跡ＳＢ 03 遺構図（S=1:50）

建物跡であったのが北側に拡張された可能性も考えられる。火処遺構は確認されなかった。出土遺物からみて古代８段階に比定される。

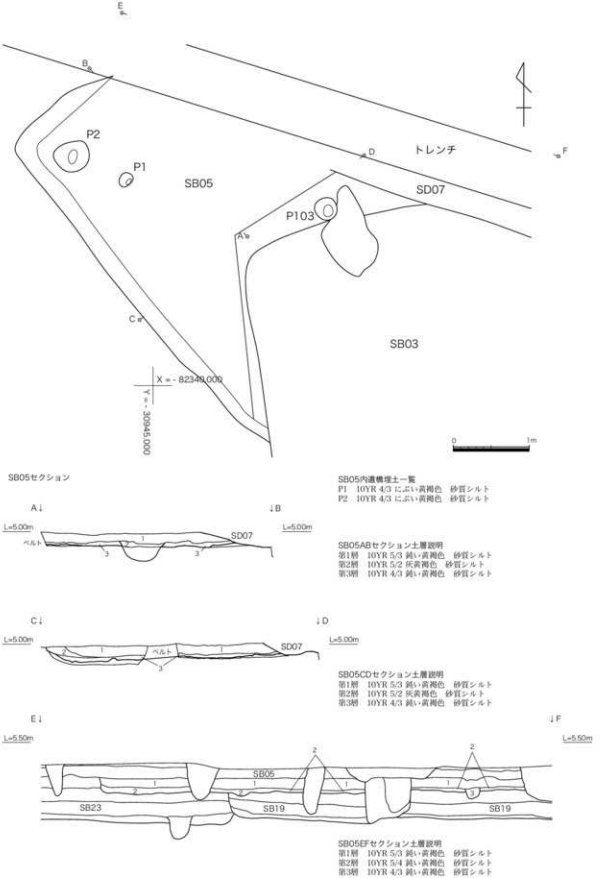
ＳＢ10（第16図）　Ｂ区中央部にある竪穴建物跡で、掘立柱建物跡ＳＢ02に切られＳＢ11などを切る。平面形は4.54m×4.40mの隅丸方形で深さは23cmを測る。南西隅を除く隅角部に主柱穴が検出されたが、火処遺構は確認できなかった。須恵器は東山15号窯式期から折戸10号窯式期に属するものが出土しており、遺構の時期は古代７段階と考えられる。

ＳＢ11（第17図）　Ｂ区南部に存在する竪穴建物跡で、ＳＢ10に切られＳＢ12を切っている。平面形は4.10m×4.00mの隅丸方形で深さは26cmを測る。北隅を除く隅角部に主柱穴が検出されるが、火処遺構は確認されなかった。黒笹90号窯式期の瓶類が混入するが、遺構の時期は古代６段階と考えられる。

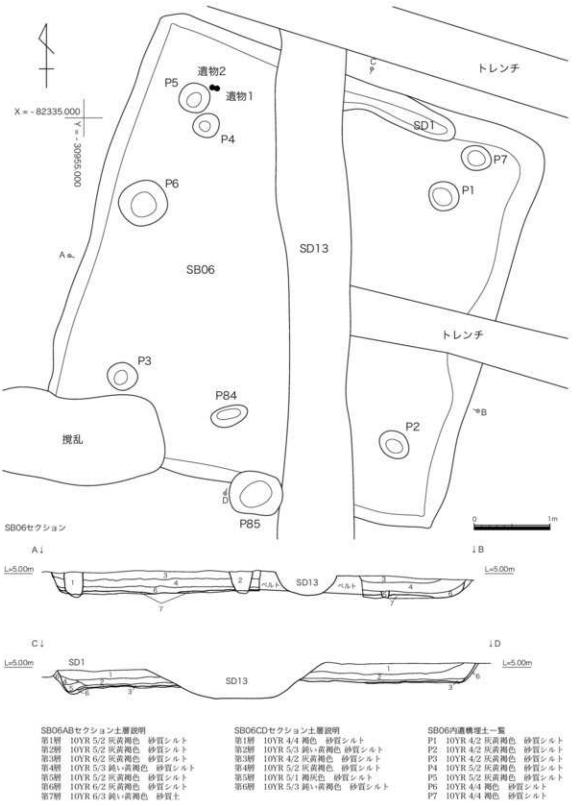
ＳＢ12（第17図）　Ｂ区南部にありＳＢ10とＳＢ11に切られ下位でＳＢ25が検出された竪穴建物跡。平面形は5.50m×4.62mの隅丸方形で深さは20cmを測る。南辺の隅角部に主柱穴が



第11図　竪穴建物跡ＳＢ04遺構図（S=1:50）



第 12 図　竪穴建物跡ＳＢ 05 遺構図（S=1:50）



SB06ABセクション土層説明

第1層	10YR 5/2 灰黄褐色	砂質シルト
第2層	10YR 5/2 灰黄褐色	砂質シルト
第3層	10YR 6/2 灰黄褐色	砂質シルト
第4層	10YR 5/3 鈍い黄褐色	砂質シルト
第5層	10YR 5/2 灰黄褐色	砂質シルト
第6層	10YR 6/2 灰黄褐色	砂質シルト
第7層	10YR 6/3 鈍い黄褐色	砂質土

SB06CDセクション土層説明

第1層	10YR 4/4 褐色	砂質シルト
第2層	10YR 5/3 鈍い黄褐色	砂質シルト
第3層	10YR 4/2 灰黄褐色	砂質シルト
第4層	10YR 5/2 灰黄褐色	砂質シルト
第5層	10YR 5/1 褐灰色	砂質シルト
第6層	10YR 5/3 鈍い黄褐色	砂質シルト

SB06内遺構埋土一覧

P1	10YR 4/2 灰黄褐色	砂質シルト
P2	10YR 4/2 灰黄褐色	砂質シルト
P3	10YR 4/2 灰黄褐色	砂質シルト
P4	10YR 5/2 灰黄褐色	砂質シルト
P5	10YR 5/2 灰黄褐色	砂質シルト
P6	10YR 4/4 褐色	砂質シルト
P7	10YR 4/4 褐色	砂質シルト

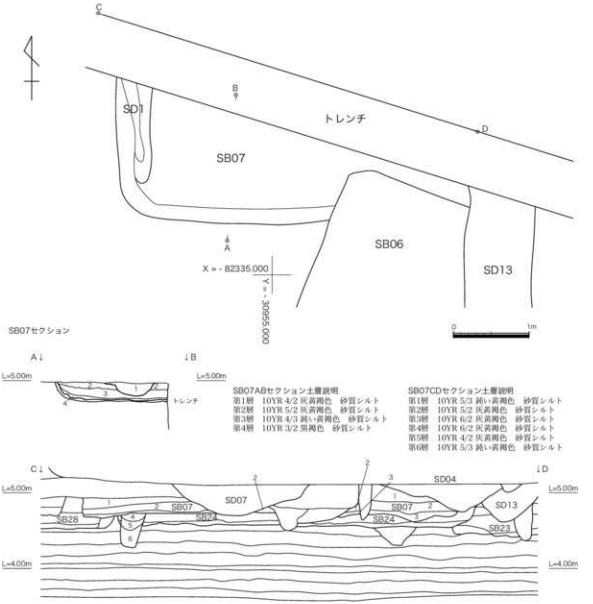
第 13 図　竪穴建物跡ＳＢ 06 遺構図（S=1:50）

2個ずつ検出され建て替えが行われたと思われる。火処遺構や周溝は確認されなかった。古代6段階に属すると考えられる。

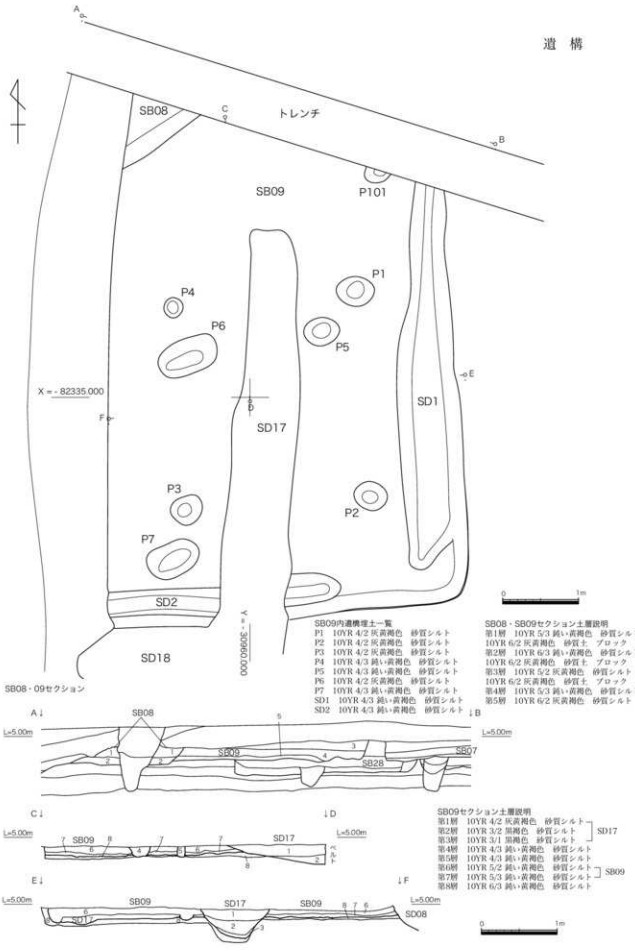
SB13（第18図）　B区中央部に位置する竪穴建物跡。西辺がSD13に切られてプランは不明な点があるが、4.85m以上×3.95mの隅丸長方形である。東辺に主柱穴が2個確認されたが、火処遺構や周溝は発見されなかった。出土遺物には尾張型山茶碗などを含むが、おそらく時期は古代7段階と比定される。

SB14（第19図）　B区中央部で南東端部が検出された竪穴建物跡である。SB05・SB13に切られ、下位にSB20・SB35などが拡がる。東辺に主柱穴2個と南辺の周溝が確認されたが、火処遺構は検出できなかった。遺構の重複関係からみて、古代6段階と思われる。

SB15・SB16（第20図）　B区西部からA区東部にかけて竪穴建物状に検出された遺構で、SB45などに切られる形で確認された。各々2個の柱穴以外の内部施設は不明である。両者とも



第14図　竪穴建物跡SB07遺構図（S=1:50）



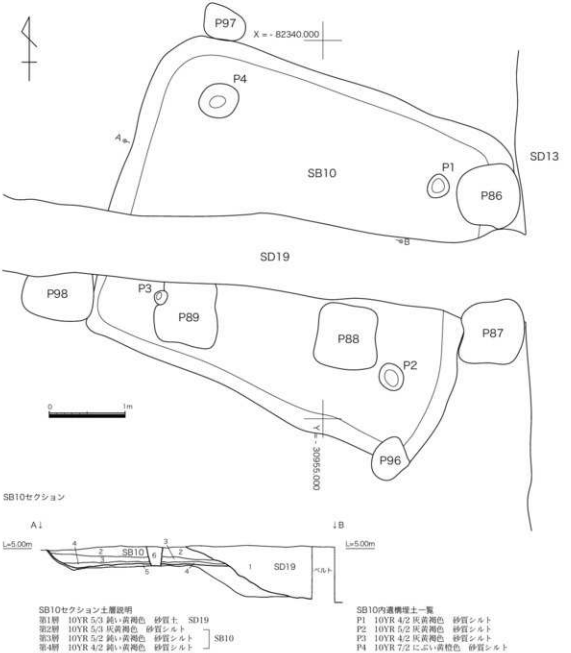
第 15 図　竪穴建物跡ＳＢ 08・09 遺構図（S=1:50）

出土遺物は大半が中世に属するので、現状では古代の竪穴建物跡としての評価は難しい。

ＳＢ 17（第 21 図）　Ｂ区北西部に所在する竪穴建物跡で、ＳＤ 12 などに切られ全形は不明である。南辺の隅角部２ヶ所で主柱穴が検出されたが、火処遺構や周溝は確認されなかった。時期は不明だが、おそらく古代７段階と思われる。

ＳＢ 18（第 22 図）　Ｂ区南西部にある竪穴建物跡で、ＳＤ 08 に大きく切られ東西両端部のみが確認された。両端部が正しく同一の遺構であるかについては確実ではない。出土遺物は大半が中世に属するので、現状では古代の竪穴建物跡としては評価できない。

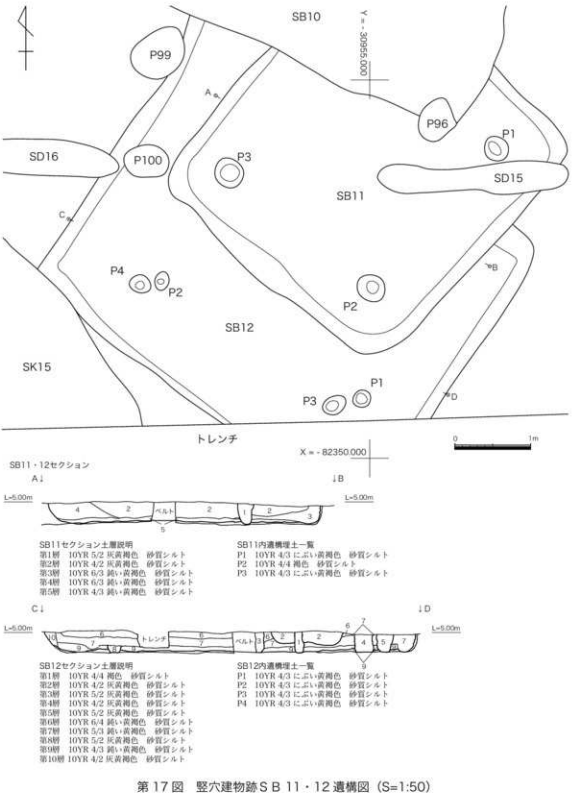
ＳＢ 19（第 23・24 図）　Ｂ区北東部に存在する竪穴建物跡で、ＳＢ 05 などに切られ、ＳＢ 21・ＳＢ 22 などを切る。北辺と東辺は調査区外に拡がるが、平面形は 6.18m × 4.20m 以上の隅丸方形で深さは 23cm を測る。主柱穴らしきピット２



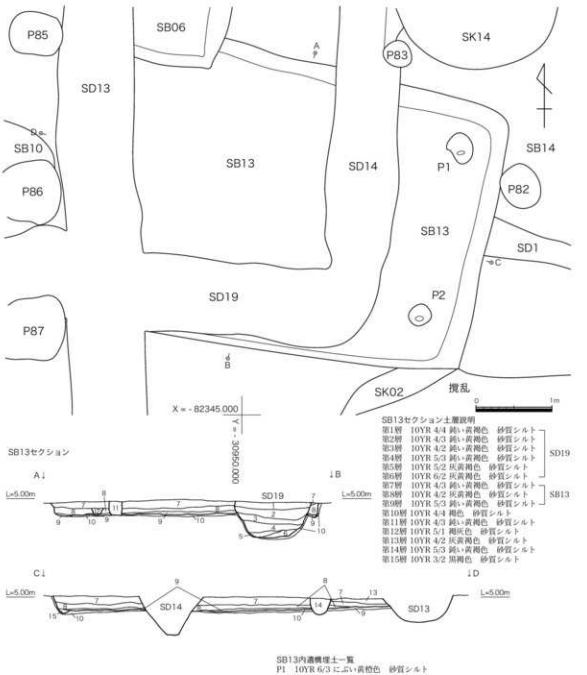
第 16 図　竪穴建物跡ＳＢ 10 遺構図（S=1:50）

基と土坑が存在し、南部に地床炉と思われる焼土と炭化物の広がりが確認された。出土須恵器からみて古代５段階に位置づけられる。

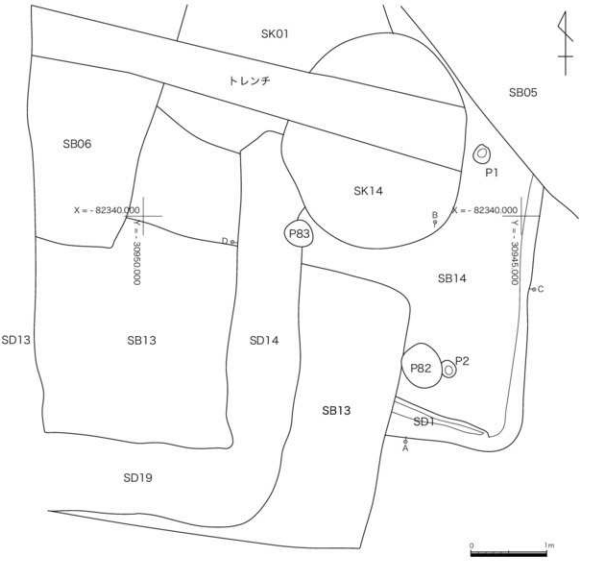
ＳＢ20（第25図）　Ｂ区中央部で検出された竪穴建物跡で南側は撹乱により滅失していた。平面形は5.16m×2.26m以上の隅丸方形で、深さは



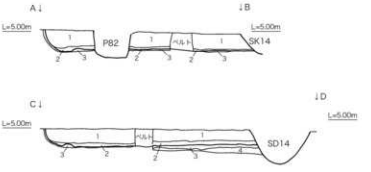
第17図　竪穴建物跡ＳＢ11・12遺構図（S=1:50）



第 18 図　竪穴建物跡ＳＢ 13 遺構図（S=1:50）



SB14セクション

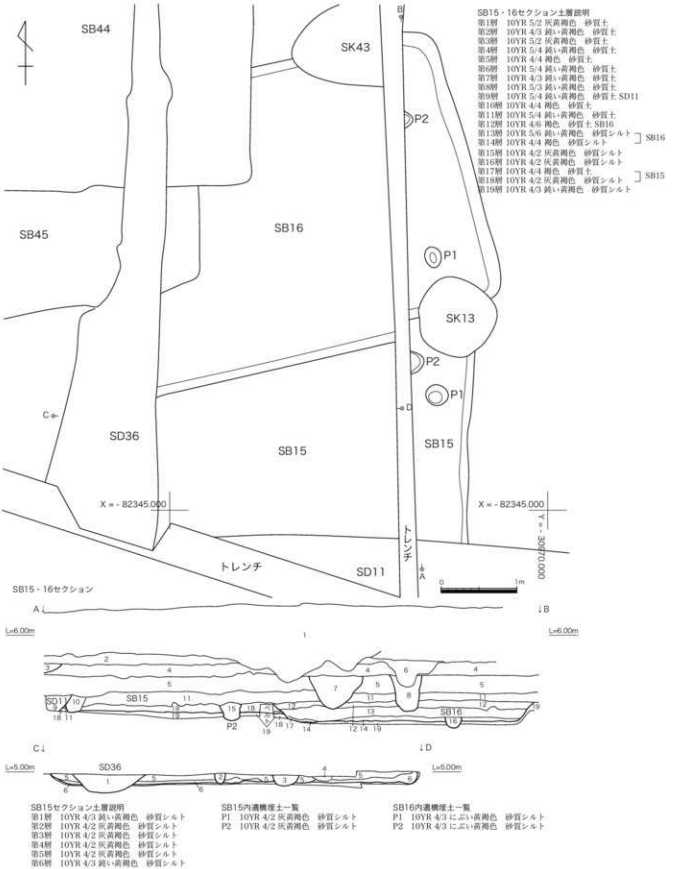


SB14セクション土層説明
第1層　10YR 5/2 灰黄褐色　砂質シルト
第2層　10YR 6/2 淡い黄褐色　砂質シルト
第3層　10YR 6/3 淡い黄褐色　砂質土
第4層　10YR 4/2 淡い黄褐色　砂質土

SB14内遺構埋土一覧
P1　10YR 5/2 灰黄褐色　砂質シルト
P2　10YR 5/2 灰黄褐色　砂質シルト

第 19 図　竪穴建物跡ＳＢ 14 遺構図（S=1:50）

遺構

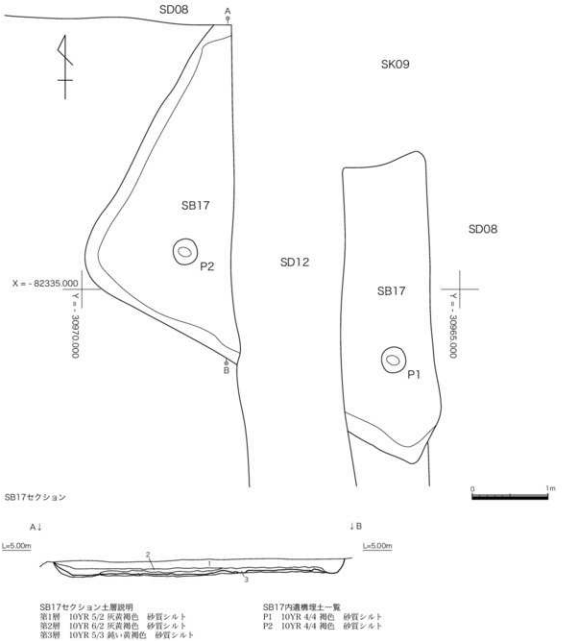


第 20 図　竪穴建物跡ＳＢ 15・16 遺構図（S=1:50）

20cmを測る。主柱穴らしきピットは1基しか確認できなかった。西壁端にカマドと思われる焼土と炭化物の厚い堆積が確認されたが、カマドの構造解明には至らなかった。下位にはＳＢ36があり、古代5段階に属するだろう。

ＳＢ21（第23・24図）　B区北東部に所在する5.45m以上×4.30mの隅丸長方形プランの竪穴建物跡で東辺は調査区外に拡がる。ＳＢ19に切られＳＢ22を切っており、深さは23cmを測る。主柱穴は特定しがたいが、北辺東部にカマドと思われる焼土と炭化物の広がりが確認された。出土須恵器からみて、時期は古代4段階と思われる。

ＳＢ22（第23・24図）　B区北東部にある竪穴建物跡で、ＳＢ19・ＳＢ21・ＳＢ23に切られプランを特定しがたいが5.45m以上×4.30mの隅丸長方形で、深さは23cmを測る。柱穴や火処遺構などの内部施設は不明である。岩崎17号窯式期から高蔵寺2号窯式期の須恵器を含むが、遺



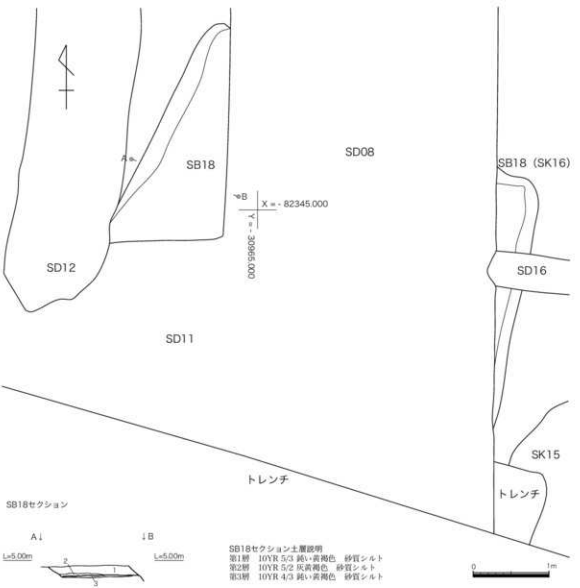
第21図　竪穴建物跡ＳＢ17遺構図（S=1:50）

構の切り合い関係からみて古代３段階前後と推測される。

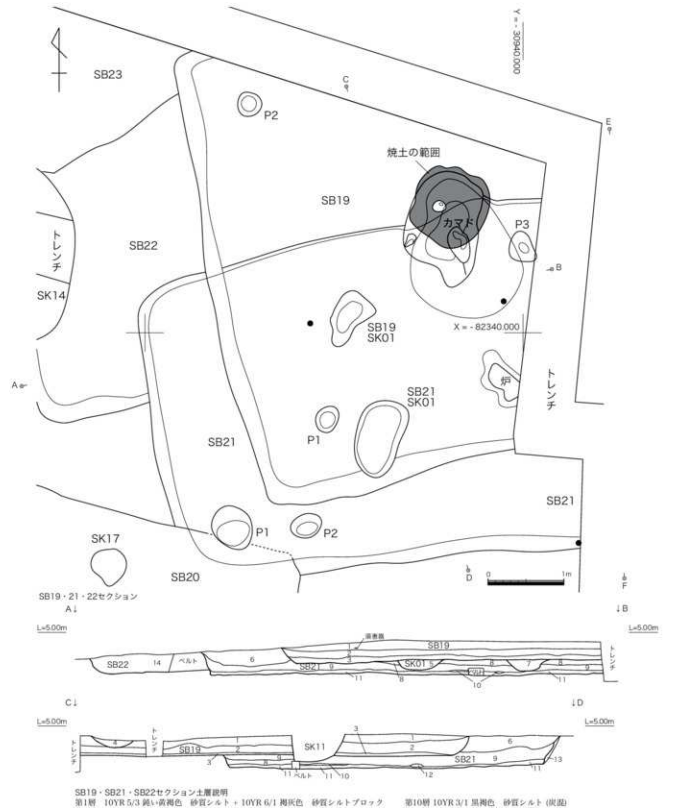
ＳＢ 23（第 26・27 図）　Ｂ区北部に存在する竪穴建物跡で、ＳＢ 22 を切っており、北半部は調査区外に展開する。平面形は 5.45m × 4.65m 以上の隅丸方形で、深さは 32cm を測る。にぶい黄褐色砂質シルト層を貼床にし、中央付近では焼土と炭化物の厚い堆積が確認された。これは床面よりもやや高く砂質土などを盛り上がりその表面が焼けていたもので、別の竪穴建物跡のカマドである可能性も考えられたが、ここではＳＢ 23 の地床炉と想定したい。時期は古代４段階に位置づけられる。

ＳＢ 24（第 28 図）　Ｂ区北部に所在する幅 3.70m の隅丸長方形の竪穴建物跡で、北辺は調査区外に拡がる。ＳＢ 07 の下位で検出され、ＳＢ 23 を切っており、深さは 20cm を測る。主柱穴などのピットが５基検出されたが、カマドなどの火処遺構は確認されなかった。時期は古代５段階と思われる。

ＳＢ 25（第 29・30 図）　Ｂ区南部に位置する竪穴建物跡で北西端がＳＤ 19 に切られ滅失する。



第 22 図　竪穴建物跡ＳＢ 18 遺構図（S=1:50）



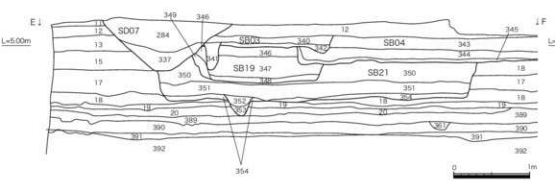
第 23 図　竪穴建物跡ＳＢ 19・21・22 遺構図（1）（S=1:50）

平面形は5.43m×5.34mの隅丸方形で、深さはやや浅く11cmを測る。柱穴は四隅に2基ずつ存在しており一度建替えが行われたものと推定される。中央部南西寄りに薄い焼土と炭化物の拡がりが確認されたが、火処遺構と認定するには至らなかった。SB10・SB11よりも下位で検出され、SB26を切りSB27に切られることなどから時期は古代4段階に属するだろう。

SB26（第29・30図）　B区南部にある竪穴建物跡でSB25とSD19に切られる。平面形は5.82m×3.20mの隅丸長方形で、深さは19cmを測る。柱穴は四隅で検出されるが、火処遺構は確認されなかった。古代3段階と推定される。

SB27（第31図）　B区南部に存在する竪穴建物跡で、SB25を切っている。平面形は5.78m×5.00mの隅丸平行四辺形で、深さはやや浅く11cmを測り、柱穴は東辺で2基が確認された。西辺南寄りに焼土と炭化物の拡がりが確認され、土師器甕（324～327）の破片が出土していることからカマドと推定される。遺構の重複関係と出土遺物からみて、古代4段階と思われる

SB28（第32図）　B区北西部のSB09などの下位で検出された幅4.00mの隅丸長方形の竪穴建物跡で、北辺は調査区外に拡がる。主柱穴などのピット4基と土坑1基および溝2条が検出された。土坑SK01の南に炭化物と少量の焼土ブ

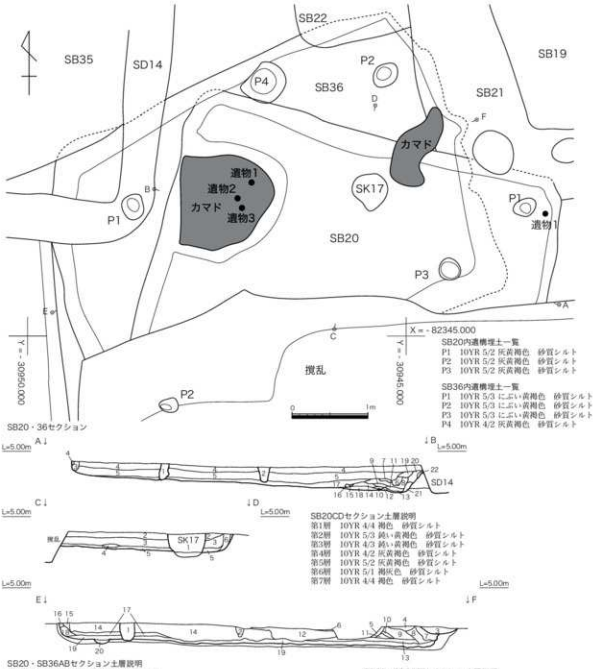


SB19内遺構埋土一覧
P1　10YR 4/3 にぶい黄褐色　砂質シルト
P2　10YR 5/3 にぶい黄褐色　砂質シルト
SK1　10YR 5/3 にぶい黄褐色　砂質シルト
炉跡　10YR 5/3 にぶい黄褐色　砂質シルト

SB21内遺構埋土一覧
P1　10YR 4/3 にぶい黄褐色　砂質シルト
P2　10YR 4/3 にぶい黄褐色　砂質シルト
P3　10YR 4/3 にぶい黄褐色　砂質シルト
SK1　10YR 5/3 にぶい黄褐色　砂質シルト

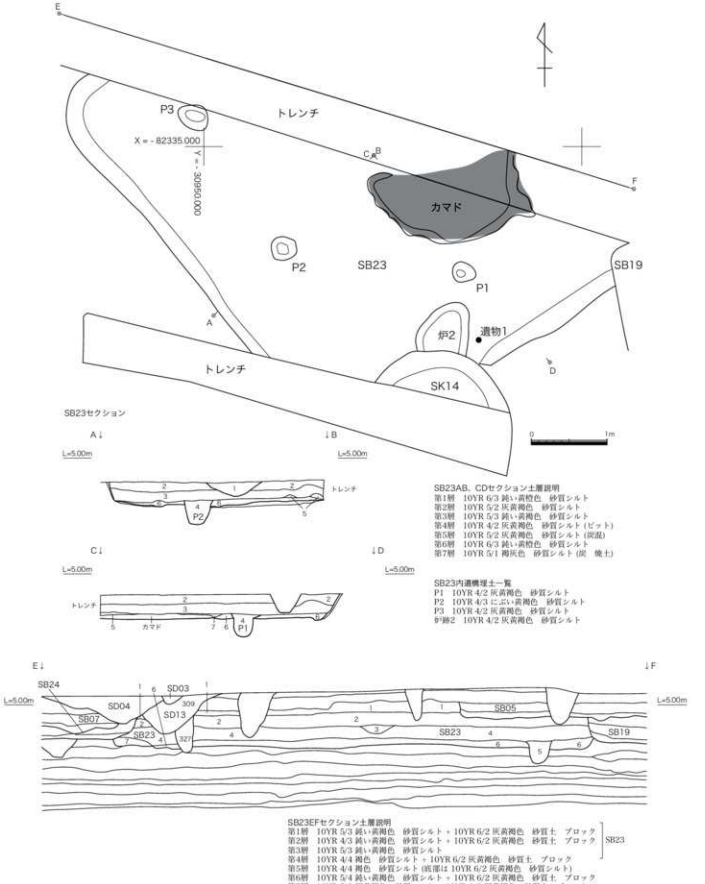
SB19・SB21・SB22セクション土層説明
11 10YR 5/4 鈍い黄褐色　砂質土
12 10YR 5/3 鈍い黄褐色　砂質土
13 10YR 4/4 褐色　砂質土＋10YR 6/2 灰黄褐色　砂質土　ブロック
15 10YR 5/2 灰黄褐色　砂質土＋10YR 7/2 鈍い黄橙色　砂質土　ブロック（炭微量）
17 10YR 7/3 鈍い黄橙色　砂質シルト＋10YR 5/6 黄褐色　砂質土　ブロック
18 10YR 7/4 鈍い黄橙色　砂質シルト（焼性強）
19 10YR 7/4 鈍い黄橙色　粘質土＋10YR 5/6 黄褐色　粘質土（土器片混）
20 2.5Y　4/1 黄灰色　粘質シルト
340 10YR 6/3 鈍い黄橙色　砂質シルト
341 10YR 5/2 灰黄褐色　砂質シルト　SB03
342 10YR 5/3 鈍い黄褐色　砂質シルト
343 10YR 5/3 鈍い黄褐色　砂質シルト
344 10YR 5/3 鈍い黄褐色　砂質シルト＋10YR 6/2 灰黄褐色　砂質土　ブロック　SB04
345 10YR 5/2 灰黄褐色　砂質シルト
346 10YR 5/3 鈍い黄褐色　砂質シルト
347 10YR 5/3 鈍い黄褐色　砂質シルト＋10YR 6/2 灰黄褐色　砂質土　ブロック　SB19
348 10YR 6/3 鈍い黄橙色　砂質シルト
349 10YR 6/4 鈍い黄橙色　砂質シルト
350 10YR 5/3 鈍い黄褐色　砂質シルト＋10YR 6/2 灰黄褐色　砂質土　ブロック
351 10YR 5/2 灰黄褐色　砂質シルト＋10YR 6/2 灰黄褐色　砂質土　ブロック　SB21
352 10YR 4/2 灰黄褐色　砂質シルト＋10YR 6/2 灰黄褐色　砂質土ブロック
353 10YR 6/2 灰黄褐色　砂質シルト
354 10YR 6/2 灰黄褐色　砂質シルト＋10YR 4/4 褐色　砂質土　ブロック
361 2.5Y　6/2 灰黄色　砂質シルト
389 2.5Y　6/3 鈍い黄色　粘土＋10YR 4/4 褐色　砂質土　ブロック
390 2.5Y　6/2 灰黄褐色　粘土
391 2.5Y　2/1 黒色　粘土　一部グライ化　掲色土の浸食をうける
392 2.5Y　2/1 黒色　粘土

第24図　竪穴建物跡SB19・21・22遺構図（2）（S=1:50）



第 25 図　竪穴建物跡ＳＢ 20・36 遺構図（S=1:50）

遺 構



第 26 図 竪穴建物跡ＳＢ 23 遺構図（S=1:50）

ロックが拡がる部分があり、地床炉などの火処遺構と想定された。古代５段階の遺構と考えられる。

ＳＢ 29（第 33 図）　Ｂ区北西部に位置し南東端のみが確認された。柱穴は隅角部で１基検出されるが、火処遺構は不明である。出土須恵器からみて古代４段階と思われる。

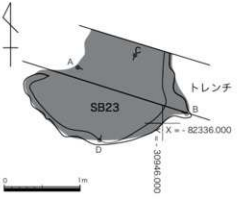
ＳＢ 30（第 34 図）　Ｂ区南西部で展開する幅 3.38m の隅丸方形の竪穴建物跡で、南半分の状況は不明。ＳＢ 37 を切り、柱穴は隅角部で１基検出されるが、火処遺構は不明である。古代４段階の遺構であろう。

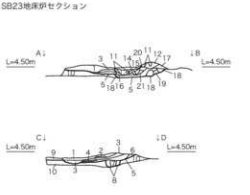
ＳＢ 31（第 36 図）　Ｂ区西部からＡ区東部に所在し、ＳＢ 15 などの下位で検出された。平面形は 4.64m × 4.00m の隅丸長方形で、深さは 16cm を測る。主柱穴は概ね四隅で確認された。にぶい黄褐色砂質シルト層を貼床にするが、火処遺構は確認されていない。時期は古代８段階か。

ＳＢ 32（第 37・38 図）　Ｂ区西部にある竪穴建物跡で東部はＳＤ 08 に壊される。ＳＢ 17 の下位で検出されＳＢ 33 に切られる。平面形は 4.80m 以上× 4.70m の隅丸方形で、深さは 24cm を測る。南辺の主柱穴は確認できたが北辺は不明。北辺東寄りに灰黄褐色砂質シルトが充填された土坑上面に焼土面が拡がっており、カマド状遺構と思われる。出土須恵器からみて古代１段階に属する。

ＳＢ 33（第 37・38 図）　Ｂ区西部に存在する竪穴建物跡で、ＳＢ 17 の下位で検出されＳＢ 32 を切る。ＳＤ 08 とＳＤ 12 に壊され規模は不明であるが、深さは 23cm を測る。明瞭な主柱穴および火処遺構は確認されていない。時期は古代４段階と推測される。

ＳＢ 34（第 39 図）　Ｂ区中央部、ＳＢ 09 などの下位で検出された平面形が 5.52m × 4.40m の隅丸長方形を呈する竪穴建物跡である。南東端が





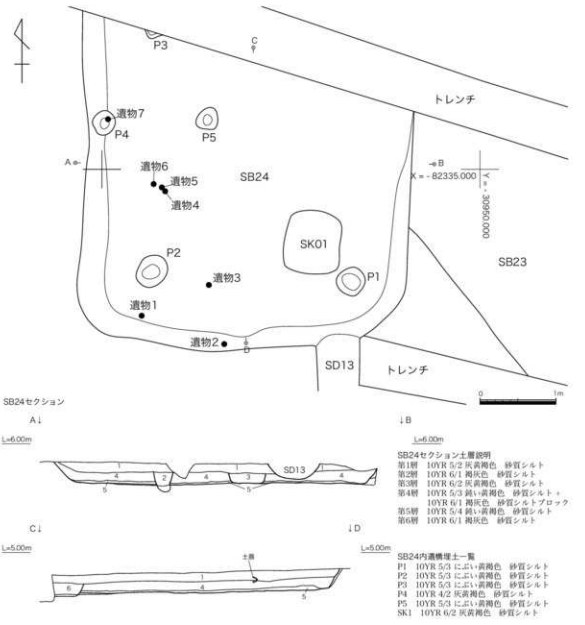
SB23地床炉セクション土層説明
第1層　10YR 5/1 褐灰色　砂質土
第2層　10YR 6/4 鈍い黄橙色　砂質土
第3層　10YR 6/2 灰黄褐色　砂質土
第4層　10YR 5/3 鈍い黄褐色　砂質土
第5層　10YR 5/3 鈍い黄褐色　砂質土 (炭多量混)
第6層　10YR 5/4 鈍い黄褐色　砂質土
　＋10YR 6/1 砂質シルトブロック
第7層　10YR 5/3 鈍い黄褐色　砂質土
第8層　10YR 6/4 鈍い黄橙色　砂質土 (炭多量)
第9層　10YR 6/2 灰黄褐色　砂質土
第10層 10YR 5/6 黄褐色　砂質土
第11層 7.5YR 7/6 橙色　土 (焼土)
第12層 10YR 6/4 鈍い黄橙色　砂質土
第13層 10YR 6/2 灰黄褐色　砂質土
第14層 10YR 5/1 褐灰色　砂質土
第15層 10YR 5/3 鈍い黄褐色　砂質土
第16層 5YR 4/3 鈍い赤褐色　土 (焼土)
第17層 10YR 6/1 褐灰色　砂質土
第18層 10YR 5/4 鈍い黄褐色　砂質土
第19層 10YR 7/2 鈍い黄橙色　砂質土
第20層 10YR 6/3 鈍い黄橙色　砂質土
第21層 10YR 6/3 鈍い黄橙色　砂質土 (炭微量)

第 27 図　竪穴建物跡ＳＢ 23 地床炉遺構図（S=1:50）

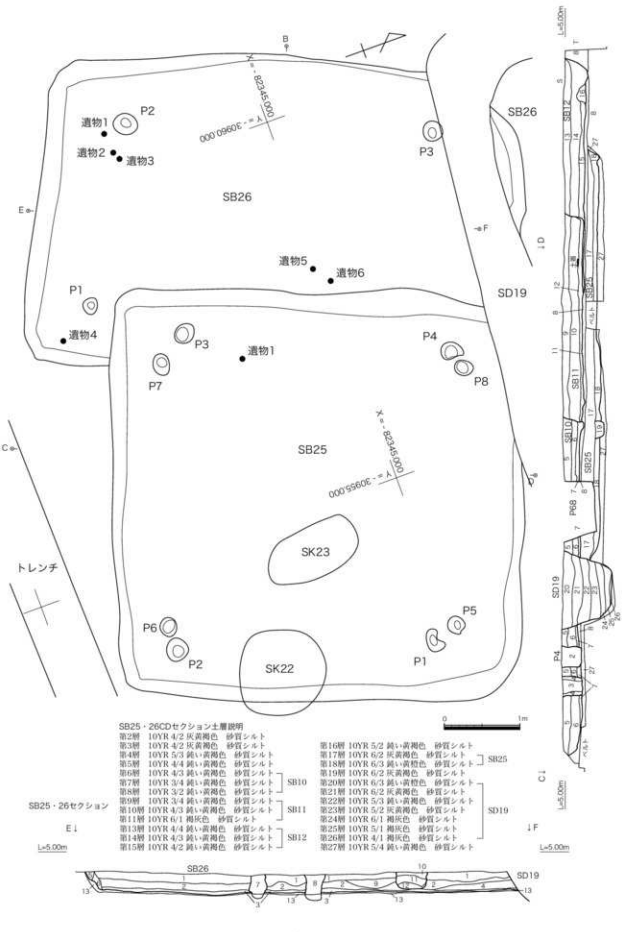
ＳＢ35に切られ、深さはやや深く31cmを測る。灰黄褐色砂質シルトを床面に貼り、そこから掘削された柱穴は四隅に4基確認されたが、火処遺構は発見されなかった。出土須恵器からみて古代1段階と考えられる。

ＳＢ35（第40図）　Ｂ区中央部に位置する平面形が7.00m×4.50mの隅丸長方形となる竪穴建物跡である。深さは22cmを測り、主柱穴は6基配列すると推測されそのうち3基が確認された。が、火処遺構は不明である。ＳＢ25に切られＳＢ36を切ることなどから、古代4段階の遺構と推定される。

ＳＢ36（第25図）　Ｂ区中央部に所在する竪穴建物跡で、上位にＳＢ20が展開している。平面形は5.70m×4.10mの隅丸長方形と推測され、深さは21cmを測る。主柱穴らしきピットが3基、東辺にカマドと思われる焼土と炭化物の堆積が1ヶ所確認された。カマドは壁際がにぶい黄褐色砂質シルトで盛り上げられ、表面に焼土ブロックが拡がっていた。出土須恵器には高蔵寺2号窯式



第28図　竪穴建物跡ＳＢ24遺構図（S=1:50）



第 29 図　竪穴建物跡ＳＢ 25・26 遺構図（1）(S=1:50)

期に属するものが多いが、諸状況からみて古代３段階と考えたい。

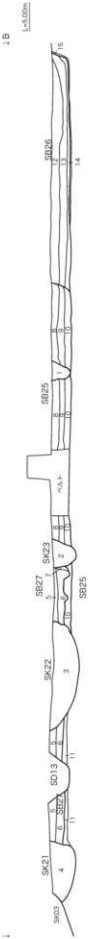
ＳＢ 37（第 34・35 図）　Ｂ区南西部にある竪穴建物跡で、南半部はＳＤ 11 などに壊され不明。床面は黄褐色砂質シルトブロックなどで床面が整地され、北辺にカマドが確認された。カマドは、にぶい黄褐色砂質シルトなどで両袖が造られ、煙道部が北壁面をえぐる形で設けられていたと推測される。両袖の内側に灰白色粘土柱が存在し、その外周に土師器甕体部片（遺物実測図はなし）が一部貼り付けられた、これがカマドの支脚と考えられる。柱穴は全く確認できなかった。時期は古代１段階である。

ＳＢ 40（第 41 図）　Ａ区東部で北辺部のみ検出された竪穴建物跡である。深さは 11cm を測り、主柱穴や火処遺構など内部施設は全く不明である。出土須恵器からみて古代７段階と思われる。

ＳＢ 41（第 42 図）　Ａ区南部に存在する隅丸長方形の竪穴建物跡で、規模は 4.20m 以上× 2.90m、深さは 9cm を測る。主柱穴は２基確認された。当初ＳＸ 05 をＳＢ 41 の火処遺構と考えたが、別遺構と判明したために火処遺構は不明である。出土遺物は大半が中世に属するので、現状では古代の竪穴建物跡としての評価は難しい。

ＳＢ 42（第 43 図）　Ａ区北部に位置する隅丸方形の竪穴建物状遺構で、主柱穴や火処遺構などは不明である。現状ではＳＸ 04 の上層部を誤認した可能性もあり、竪穴建物跡である可能性は低いものである。古代７段階か。

ＳＢ 44・ＳＢ 45（第 41 図）　Ａ区東部で竪穴建物状に検出された遺構である。ＳＢ 44 は多くの柱穴が確認されるが、火処遺構は不明である。一方、ＳＢ 45 は柱穴が少量確認されるが、やはり火処遺構は不明である。両者とも出土遺物は中世に属しＳＢ 16 などを切るので、古代の竪穴建物跡ではないといえる。



SB25・26Aカマドセクション土層説明
第1層　10YR 5/3 鈍い黄褐色　砂質シルト
第2層　10YR 7/2 鈍い黄橙色　砂質シルト　SK23
第3層　10YR 6/2 灰黄褐色　砂質シルト　SK22
第4層　10YR 6/2 灰黄褐色　砂質シルト　SK21
第5層　10YR 5/4 鈍い黄褐色　砂質シルト
第6層　10YR 4/4 褐色　砂質シルト
第7層　10YR 6/2 灰黄褐色　砂質シルト　SB27
第8層　10YR 6/3 鈍い灰黄褐色　砂質シルト
第9層　10YR 5/3 鈍い黄褐色　砂質シルト
第10層 10YR 4/3 鈍い黄褐色　砂質シルト　SB25
第11層 10YR 6/3 鈍い黄褐色　砂質土
第12層 10YR 5/4 鈍い黄褐色　砂質シルト＋10YR 4/砂質土　ブロック　SB26
第13層 10YR 4/4 褐色　砂質シルト
第14層 10YR 4/3 鈍い黄褐色　砂質シルト
第15層 10YR 6/2 灰黄褐色　砂質シルト

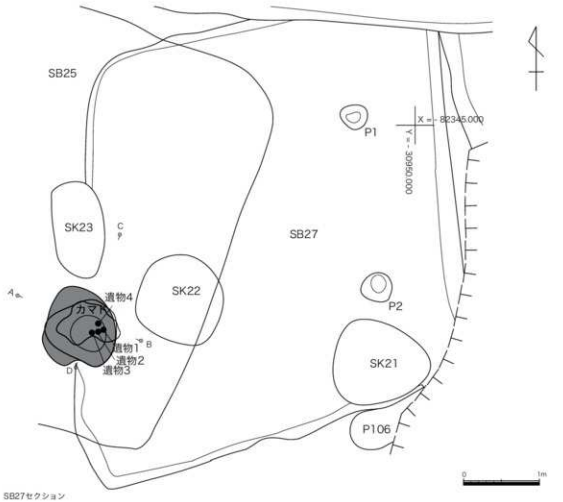
SB25内遺構埋土一覧
P1　10YR 5/3 にぶい黄褐色　砂質シルト
P2　10YR 5/3 にぶい黄褐色　砂質シルト
P3　10YR 5/2 灰黄褐色　砂質シルト
P4　10YR 5/3 にぶい黄褐色　砂質シルト
P5　10YR 6/3 にぶい黄褐色　砂質シルト
P6　10YR 6/3 にぶい黄褐色　砂質シルト
P7　10YR 5/2 灰黄褐色　砂質シルト
P8　10YR 6/2 灰黄褐色　砂質シルト

SB26内遺構埋土一覧
P1　10YR 6/2 灰黄褐色　砂質シルト
P2　10YR 4/2 灰黄褐色　砂質シルト
P3　10YR 5/2 灰黄褐色　砂質シルト

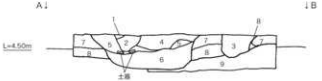
SB25・26Eカマドセクション土層説明
第1層　10YR 5/4 鈍い黄褐色　砂質シルト＋10YR 4/4 褐色　砂質シルトブロック
第2層　10YR 4/4 褐色　砂質シルト
第3層　10YR 4/3 鈍い黄褐色　砂質シルト
第4層　10YR 4/2 灰黄褐色　砂質シルト＋10YR 4/4 褐色　砂質シルトブロック
第5層　10YR 4/3 鈍い黄褐色　砂質シル
第6層　10YR 6/1 褐灰色　砂質シルト＋10YR 4/3 鈍い黄褐色　砂質シルトブロック
第7層　10YR 6/1 褐灰色　砂質シルト
第8層　10YR 6/1 褐灰色　砂質シルト
第9層　10YR 5/3 鈍い黄褐色　砂質シルト＋10YR 褐色　砂質シルトブロック
第10層 10YR 5/3 黄褐灰色　砂質シルト
第11層 10YR 5/1 褐灰色　砂質シルト
第12層 10YR 5/2 灰黄褐色　砂質シルト　＋10YR 4/4 褐色　砂質シルトブロック
第13層 10YR 6/2 灰黄褐色

0　1m

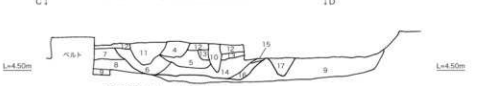
第 30 図　竪穴建物跡ＳＢ 25・26 遺構図（２）（S=1:50）



SB27セクション



SB27ABセクション土層説明
第1層　10YR 5/4 鈍い黄褐色　砂質シルト
第2層　10YR 5/4 鈍い黄褐色　砂質シルト＋10YR 7/2 鈍い黄橙色　砂質シルトブロック
第3層　10YR 7/1 灰白色　砂質シルト
第4層　10YR 4/3 鈍い黄褐褐色　砂質土（酸化）
第5層　10YR 5/3 鈍い黄褐色　砂質シルト（炭混）
第6層　10YR 6/2 灰黄褐色　砂質シルト（焼土混）
第7層　10YR 6/3 鈍い黄橙色　砂質シルト
第8層　10YR 7/2 鈍い黄橙色　砂質シルト＋10YR 5/6 黄褐色土ブロック
第9層　10YR 6/4 鈍い黄橙色　砂質土



SB27CDセクション土層説明
第10層　10YR 6/2 灰黄褐色　砂質シルト
第11層　10YR 4/3 鈍い黄褐色　砂質シルト
第12層　10YR 5/3 鈍い黄褐色　砂質シルト
第13層　10YR 5/3 鈍い黄褐色　砂質シルト＋10YR 7/2 鈍い黄橙色　砂質シルトブロック
第14層　10YR 4/2 灰黄褐色　砂質シルト（炭混）
第15層　10YR 4/3 鈍い黄褐色　砂質土
第16層　10YR 5/2 灰黄褐色　砂質シルト
第17層　10YR 4/1 褐灰色　砂質シルト

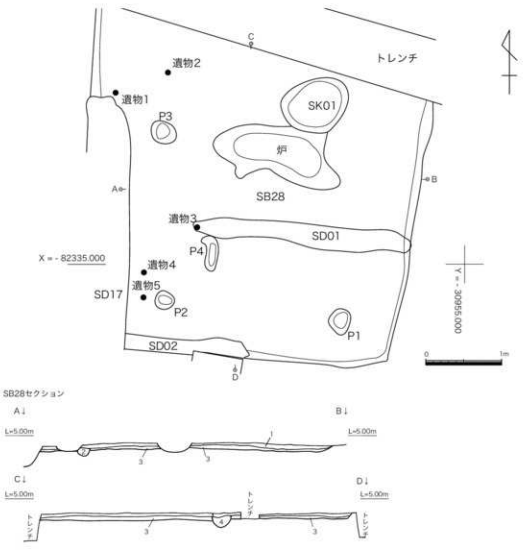
第 31 図　竪穴建物跡ＳＢ 27 遺構図（S=1:50）

ＳＢ 46（第 44 図）　Ａ区北部に位置する隅丸長方形の竪穴建物跡で、ＳＢ 42 の下位で検出された。内部施設には柱穴のみが存在する。古代５段階か。

ＳＢ 47（第 45 図）　Ａ区中央部にある平面形が 5.70m × 5.00m の隅丸方形を呈する竪穴建物跡である。北東辺の北寄りにカマド状遺構が確認された。カマド状遺構は焼土ブロックや炭化物が堆積した状態が確認されており、破壊され本来の形状は全く保っていないものと思われる。主柱穴は３列×３列に配置されるものと思われ現状で６基確認された。覆土から８世紀、カマド状遺構から６世紀後半の遺物が出土しており、遺構の認識に誤認があった可能性がある。現状では古代７段階に位置づけたい。

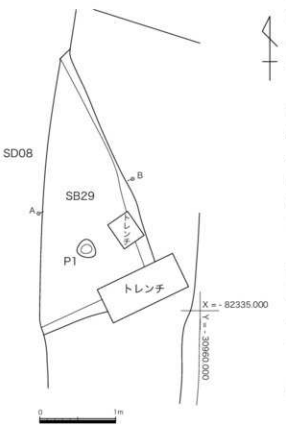
ＳＢ 48（第 46 図）　Ａ区中央部に存在する隅丸長方形の竪穴建物跡で、西部がＳＤ 43 に切られる。内部施設として柱穴と土坑が確認された。出土遺物からは古代４段階の遺構と考えられる。

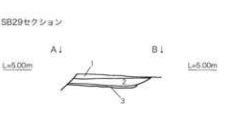
ＳＢ 49（第 47 図）　Ａ区南部で検出された竪穴建物跡で、中央部をＳＤ 43 により大きく破壊さ



第 32 図　竪穴建物跡ＳＢ 28 遺構図（S=1:50）

れている。平面形は4.50m×3.30mの隅丸長方形で、床面は灰黄褐色砂質シルトで貼床として整地され、隅角部で主柱穴、西部で火処遺構が確認された。火処遺構は床面直上に炭化物や焼土ブロックが拡がる形で検出され、骨片らしき白色粒も確認された。この火処遺構はＳＸ05と同様の火葬関連の遺構を誤認した可能性は捨てきれない。ＳＤ43以前の古代４段階の遺構と推測される。





SB29セクション土層説明
第1層　10YR 6/3 鈍い黄橙色　砂質シルト
第2層　10YR 5/3 鈍い黄褐色　砂質シルト＋10YR 6/2 灰黄褐色　砂質シルトブロ
第3層　10YR 5/2 灰黄褐色　砂質シルト

第33図　竪穴建物跡ＳＢ29遺構図（S=1:50）

ＳＢ50（第48図）　Ａ区南西部に位置する平面形が6.34m×3.27m以上の隅丸長方形の竪穴建物跡であり、南部が調査区外に拡がる。床面はにぶい黄橙色砂質土で貼床され、西部の広い範囲で焼土ブロックや炭化物が拡がっていた。炭化物などの拡がりを断ち割って調査したが、特別な構造を確認することはできなかった。時期は古代１段階と思われる

ＳＢ51（第49図）　Ａ区南西端部で検出された隅丸長方形の竪穴建物跡だが、規模は不明である。床面はにぶい黄橙色砂質シルトで整地され、柱穴がいくつか確認された。深さは31cmを測るが、火処遺構は不明である。出土遺物からみて古代２段階と考えられる。

ＳＢ54（第50図）　Ａｂ区に所在する隅丸長方形の竪穴建物跡である。周溝（ＳＤ48とＳＤ51）が巡るとも考えられるが、内部にある溝ＳＤ49とＳＤ50の位置づけが難しい。火処遺構は確認されず、出土遺物は大半が中世に属するので、現状では古代の竪穴建物跡としては評価できないだろう。

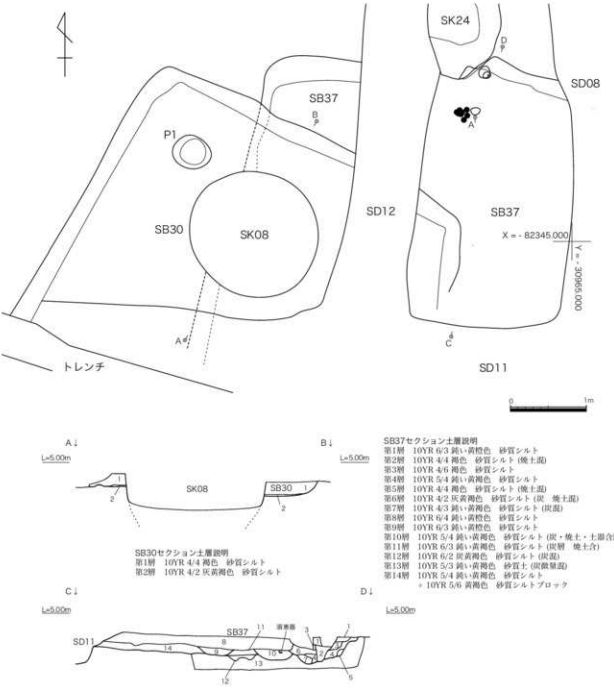
ＳＢ56（第51図）　Ｃ区西部にある幅3.60mの隅丸方形を呈する竪穴建物跡である。ＳＢ58を切る形で検出され、深さは24cmを測り、主柱穴が２基確認されたが、火処遺構は不明である。古代５段階に位置づけたい。

ＳＢ57（第51図）　Ｃ区北西端部に存在する竪穴建物跡で、ＳＢ61・ＳＢ64を切り、主柱穴が１基確認された。床面は灰黄褐色砂質シルトと褐色砂質土で整地されている。出土須恵器からみて古代７段階と思われる。

ＳＢ58（第52図）　Ｃ区中央部で検出された平面形が5.00m×3.80mの隅丸長方形を呈する竪穴建物跡である。主柱穴は６基存在したと推測され５基が確認された。火処遺構は検出されなかったが、北部では大型土坑ＳＫ66に切られている。ＳＢ56に切られＳＢ59を切る形で検出されたことからみて古代４段階であろう。

ＳＢ59（第53図）　Ｃ区中央部に位置する竪穴建物跡で、平面形は6.30m×4.25mの隅丸長方形である。ＳＢ58・ＳＢ65に切られ、ＳＢ60・ＳＢ64を切る形で検出された。主柱穴は４ヶ所で確認され、西端部で火処遺構が検出された。火処遺構は土坑状の凹みに炭化物や焼土ブロックが含まれており、地表面付近で薄い炭化物層が拡がっていた地床炉と思われる。ＳＢ64との重複関係に問題があるが、時期は古代３段階と推測される。

ＳＢ60（第54図）　Ｃ区東部に所在する平面形が5.00m×4.95mの隅丸方形を呈する竪穴建物跡である。床面は灰黄褐色砂質シルトで整地され、主柱穴は２基と土坑１基が内部施設として存在す



第34図　竪穴建物跡ＳＢ30・37遺構図（S=1:50）

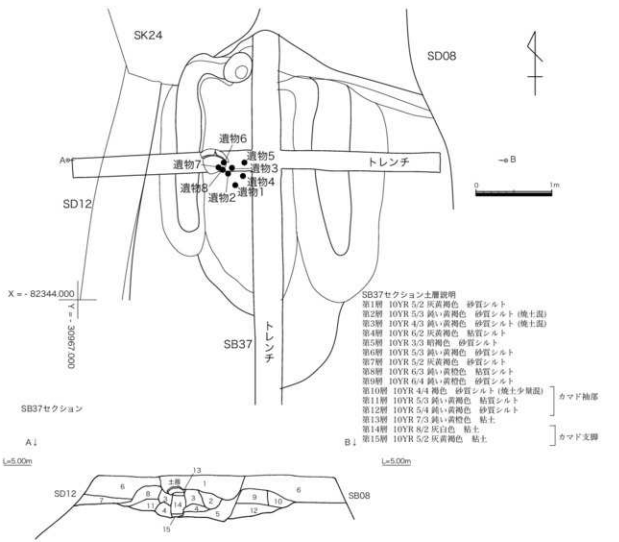
る。火処遺構は検出されなかった。ＳＢ59とＳＢ62に切られる形で検出されたが、出土遺物からみると鳴海32号窯式期の時期と推測され矛盾する。ここでは遺構検出の認識に問題があったと考えて古代５段階と推定しておきたい。

ＳＢ61（第55図）　Ｃ区北部にある竪穴建物跡で、南側の隅角部のみを検出した。床面は灰黄褐色砂質シルトで整地されており、土層断面では床面直上に炭化物が拡がっていることが確認された。ＳＢ57に切られているが、詳細な時期は不明である。古代６段階か。

ＳＢ62（第55図）　Ｃ区東部に存在する竪穴建物跡で、西側の隅角部のみを検出した。床面はにぶい黄橙色砂質シルトで整地される。ＳＢ60を切る形で検出されたが、出土遺物からみると前後関係が逆転する。ここでは古代２段階の遺構と推測しておきたい。

ＳＢ63（第56図）　Ｃ区南部で検出された幅が3.70mを測る隅丸方形を呈する竪穴建物跡である。床面は灰黄褐色砂質土などで整地され、内部施設として柱穴やカマド状遺構が確認された。カマド状遺構は北辺西端部に所在し、浅い土坑状の凹みに炭化物や焼土ブロックが含まれていた。出土遺物からみて古代４段階と推測される。

ＳＢ64（第57・58図）　Ｃ区北西部に位置する隅丸方形の竪穴建物跡である。床面はにぶい黄橙色砂質土で整地され、内部施設として土坑ＳＫ01とカマド状遺構が確認された。カマド状遺構



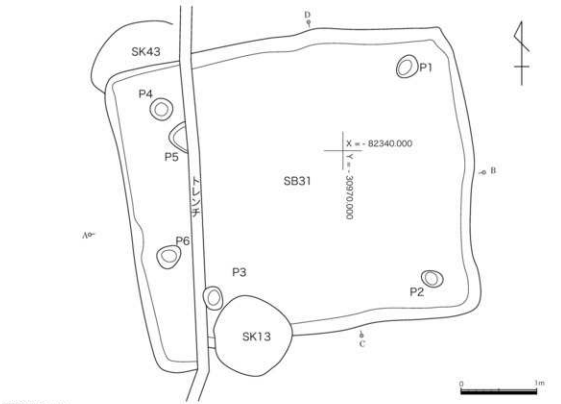
第35図　竪穴建物跡ＳＢ37遺構図（S=1:50）

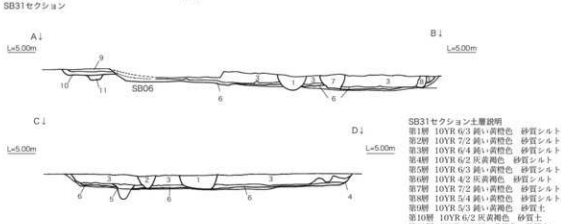
は北辺中央付近に所在し、壁際に炭化物や焼土ブロックが拡がっていた。土坑ＳＫ１にも炭化物層が認められており、これは地床炉の可能性も考えられる。ＳＢ57・ＳＢ59・ＳＢ65に切られる形で検出されたが矛盾することが多く、ここでは時期は古代４段階と推定しておきたい。

ＳＢ65（第57図）　Ｃ区北東部で確認された平面形が4.40m×3.50mの隅丸長方形の竪穴建物跡である。内部施設として隅角部で主柱穴４基と北辺東寄りでカマド状遺構が確認された。カマド状遺構は壁際の凹部に炭化物や焼土ブロックが拡がるものである。ＳＢ59とＳＢ64を切ることなどからみて、時期は古代５段階と考えられる。

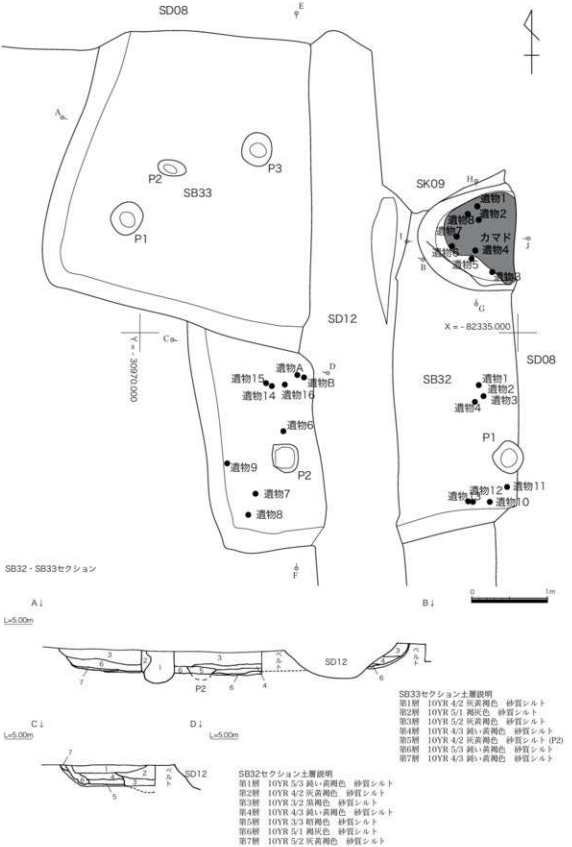
（２）掘立柱建物跡・柵列

ＳＢ52（第59・60図）　Ａ区西部で検出された２間×３間の総柱掘立柱建物跡である。Ａ区の４面目の調査、すなわち基本層序第11層の黄灰色粘質シルト上面（第８図）で初めてその存在が





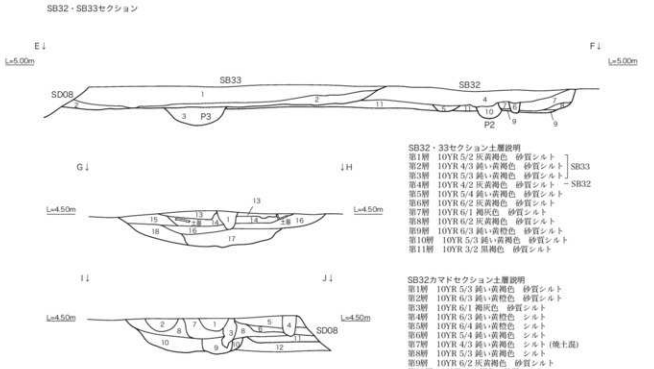
第36図　竪穴建物跡ＳＢ31遺構図（S=1:50）



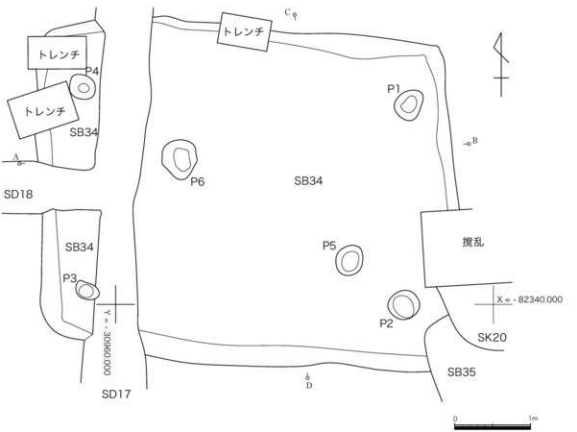
第 37 図　竪穴建物跡ＳＢ 32・33 遺構図（1）(S=1:50)

確認された建物跡であるが、その後の壁面の詳細な検討から、本来は同第７層のにぶい黄橙色砂質シルト上面から掘り込まれた遺構であると推測された（写真図版参照）。規模は5.30m × 4.40mを測り、柱穴Ｐ223 ～ Ｐ234によって構成される。Ｐ234はＰ235を切っているので、ＳＢ52は後述するＳＢ53よりも新しいといえる。柱穴の掘形は隅丸長方形を呈するものが多く、Ｐ223、Ｐ224、Ｐ225、Ｐ226、Ｐ230、Ｐ231、Ｐ234には柱材が残存していた。柱材が遺存しない柱穴についても、土層断面の観察から柱材を抜き取るための穴などが確認できないことから、ＳＢ52の基礎構造は柱を抜き取らないまま朽ちたものと思われる。東西方向の柱間間隔は西から約2.2m・約2.2m、南北方向の柱間間隔は北から約1.8m・約1.8m・約1.7mを測り、概ね等間隔である。柱穴からはわずかな須恵器と古式土師器の小片が出土しており、遺構の時期は奈良時代前後であることは想定されるが、それ以上詳細な時期の特定は難しい。周囲の遺構配置からみて古代６段階と推定しておきたい。

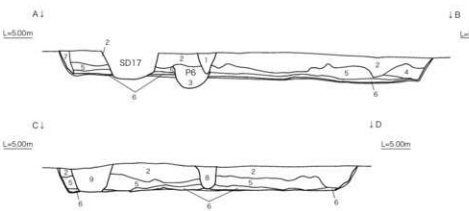
ＳＢ53（第61・62図）　Ａ区西南部に存在する２間×３間の総柱掘立柱建物跡である。ＳＢ52と同様Ａ区の４面目の調査、すなわち基本層序第11層上面で初めて確認された遺構であるが、本来は同第７層上面から掘り込まれた遺構と思われる。規模は4.30m × 4.10mを測り、柱穴Ｐ235 ～ Ｐ246によって構成される。Ｐ235はＰ234によって切られ、Ｐ244はＰ247を、Ｐ245はＰ248を、Ｐ246はＰ249を、Ｐ242はＰ250を切っている。柱穴の掘形は楕円形に近い崩れた隅丸長方形を呈するものが多く、柱材は全く遺存しない。土層断面の観察から明瞭に柱材を抜き取るための穴は確認されないが、ＳＢ53は柱を抜



第38図　竪穴建物跡ＳＢ32・33遺構図（2）（S=1:50）

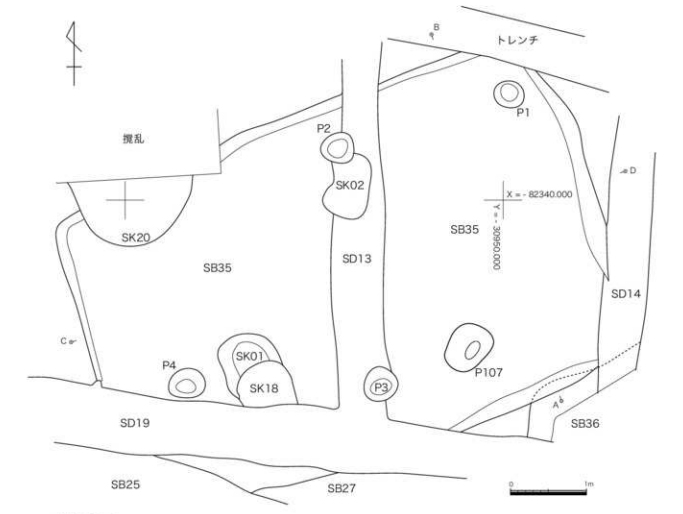


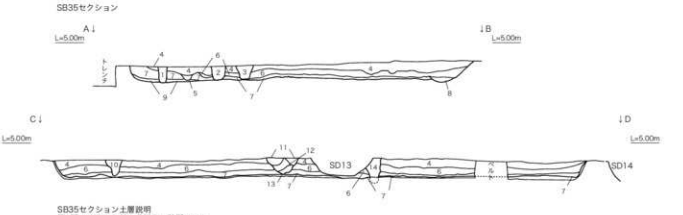
SB34セクション



SB34セクション土層説明
第1層　10YR 5/2 灰黄褐色　砂質シルト（ピット）
第2層　10YR 6/3 鈍い黄橙色　砂質シルト＋10YR 6/1 褐灰色　砂質シルトブロック
第3層　10YR 6/1 褐灰色　砂質シルト
第4層　10YR 4/2 灰黄褐色　砂質シルト＋10YR 6/1 褐灰色　砂質シルトブロック
第5層　10YR 5/3 鈍い黄褐色　砂質シルト
第6層　10YR 5/2 灰黄褐色　砂質シルト（貼床）
第7層　10YR 6/3 鈍い黄褐色　砂質シルト
第8層　10YR 6/4 鈍い黄褐色　砂質シルト（ピット）
第9層　10YR 5/3 鈍い黄褐色　砂質シルト（ピット）

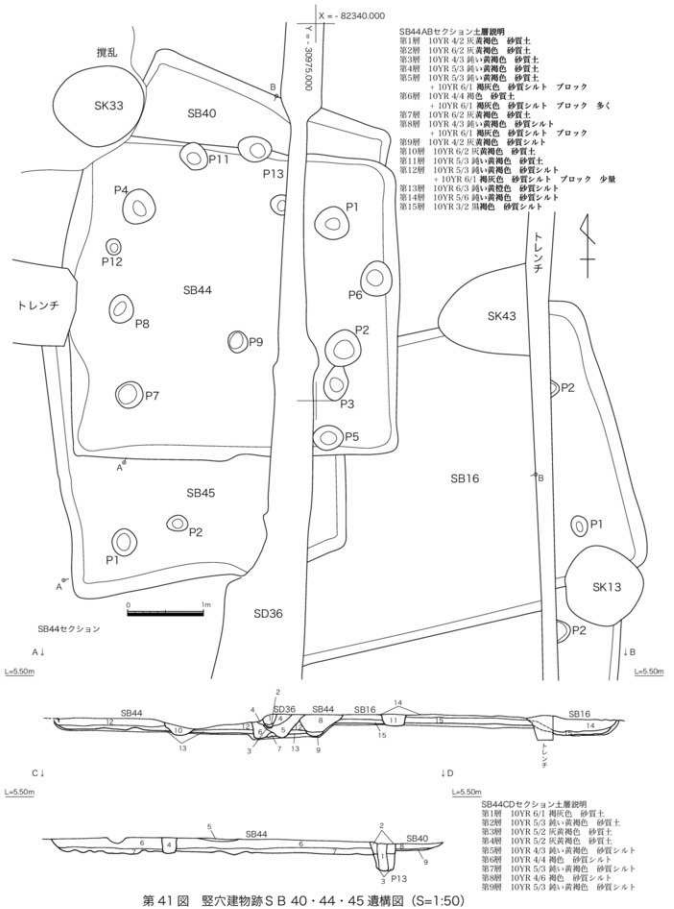
第 39 図　竪穴建物跡ＳＢ 34 遺構図（S=1:50）





SB35セクション土層説明
第1層 10YR 5/3 鈍い黄褐色　砂質シルト
第2層 10YR 5/6 黄褐色　砂質シルト
第3層 10YR 6/3 鈍い黄橙色　砂質シルト
第4層 10YR 5/3 鈍い黄褐色　砂質シルト
第5層 10YR 4/6 褐色　砂質シルト
第6層 10YR 4/4 褐色　砂質シルト
第7層 10YR 5/2 灰黄褐色　砂質シルト＋10YR 4/6 褐色　砂質シルトブロック
第8層 10YR 6/4 鈍い黄橙色　砂質シルト
第9層 10YR 6/3 鈍い黄橙色　砂質シルト（地床）
第10層 10YR 6/2 灰黄褐色　砂質シルト
第11層 10YR 5/2 灰黄褐色　砂質シルト
第12層 10YR 5/4 鈍い黄褐色　砂質シルト
第13層 10YR 4/2 灰黄褐色　砂質シルト
第14層 10YR 5/6 黄褐色　砂質シルト

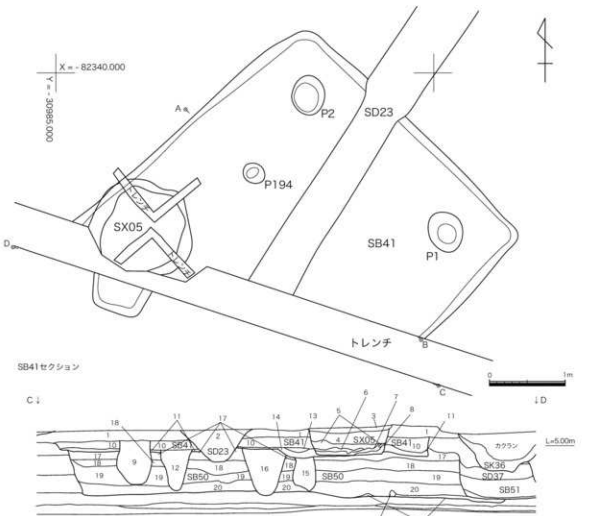
第 40 図　竪穴建物跡ＳＢ 35 遺構図（S=1:50）



SB44ABセクション土層説明
第1層 10YR 4/2 灰黄褐色 砂質土
第2層 10YR 6/2 灰黄褐色 砂質土
第3層 10YR 4/3 褐い黄褐色 砂質土
第4層 10YR 5/3 褐い黄褐色 砂質土
第5層 10YR 5/3 褐い黄褐色 砂質土
+ 10YR 6/1 褐灰色 砂質シルト ブロック
第6層 10YR 4/4 褐色 砂質土
+ 10YR 6/1 褐灰色 砂質シルト ブロック 多く
第7層 10YR 6/2 灰黄褐色 砂質土
第8層 10YR 4/3 褐い黄褐色 砂質シルト
+ 10YR 6/1 褐灰色 砂質シルト ブロック
第9層 10YR 4/2 灰黄褐色 砂質シルト
第10層 10YR 6/2 灰黄褐色 砂質土
第11層 10YR 5/3 褐い黄褐色 砂質土
第12層 10YR 5/3 褐い黄褐色 砂質シルト
+ 10YR 6/1 褐灰色 砂質シルト ブロック 少量
第13層 10YR 6/3 褐い黄橙色 砂質シルト
第14層 10YR 5/6 褐い黄褐色 砂質シルト
第15層 10YR 3/2 黒褐色 砂質シルト

SB44CDセクション土層説明
第1層 10YR 6/1 褐灰色 砂質土
第2層 10YR 5/3 褐い黄褐色 砂質土
第3層 10YR 5/2 灰黄褐色 砂質土
第4層 10YR 5/2 灰黄褐色 砂質土
第5層 10YR 4/3 褐い黄褐色 砂質シルト
第6層 10YR 4/4 褐色 砂質シルト
第7層 10YR 5/3 褐い黄褐色 砂質シルト
第8層 10YR 4/6 褐色 砂質シルト
第9層 10YR 5/3 褐い黄褐色 砂質シルト

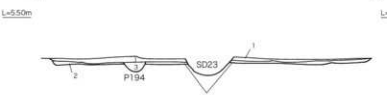
第41図 竪穴建物跡ＳＢ40・44・45遺構図（S=1:50）



SB41CDセクション土層説明

第1層　10YR 4/4 褐色　砂質土 + 10YR 6/2 灰黄褐色　砂質土　ブロック
第2層　10YR 4/2 灰黄褐色　砂質土 + 10YR 6/2 灰黄褐色　砂質土　ブロック　SD23
第3層　10YR 6/3 鈍い黄橙色　砂質土
第4層　10YR 5/3 鈍い黄褐色　砂質土
第5層　10YR 4/2 灰黄褐色　砂質土　SX05
第6層　5YR 6/8 橙色　土　（焼土骨混）
第7層　10YR 4/2 灰黄褐色　砂質土
第8層　10YR 5/2 灰黄褐色　砂質土
第9層　10YR 5/3 鈍い黄褐色　砂質土 + 10YR 6/2 灰黄褐色　砂質土　ブロック
第10層　10YR 5/3 鈍い黄褐色　砂質シルト　SB41
第11層　10YR 6/2 灰黄褐色　砂質シルト

第12層　10YR 5/2 灰黄褐色　砂質シルト
第13層　10YR 5/2 灰黄褐色　砂質シルト
第14層　10YR 6/3 鈍い黄褐色　砂質シルト
第15層　10YR 4/4 褐色　砂質シルト
第16層　10YR 4/4 褐色　砂質シルト
第17層　10YR 5/3 鈍い黄褐色　砂質シルト
第18層　10YR 4/3 鈍い黄褐色　砂質シルト
第19層　10YR 4/4 褐色　砂質シルト　SB50
第20層　10YR 4/2 灰黄褐色　砂質シルト
第21層　10YR 4/3 鈍い黄褐色　砂質シルト
第22層　10YR 3/2 黒褐色　砂質シルト



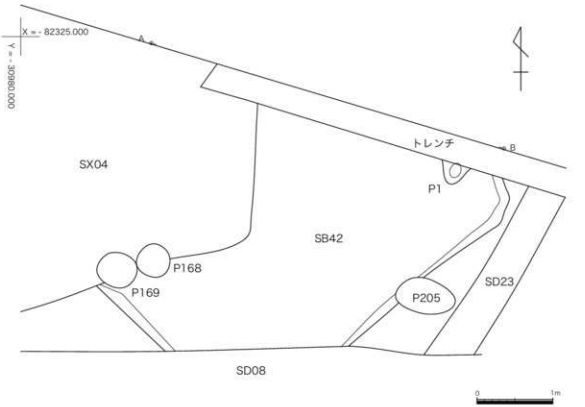
SB41ABセクション土層説明

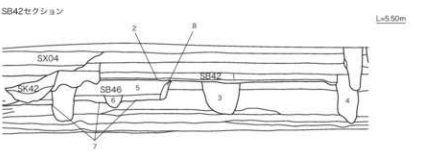
第1層　10YR 5/3 鈍い黄褐色　砂質シルト + 10YR 6/1 褐灰色　砂質シルト　ブロック
第2層　10YR 5/4 鈍い黄褐色　砂質シルト + 10YR 6/1 褐灰色　砂質シルト　ブロック
第3層　10YR 4/2 灰黄褐色　砂質シルト + 10YR 6/1 褐灰色　砂質シルト　ブロック

第 42 図　竪穴建物跡ＳＢ 41 遺構図（S=1:50）

き取られて廃絶した建物跡と思われる。東西方向の柱間間隔は西から概ね約2.1m・約2.0m、南北方向の柱間間隔は北から概ね約1.4m・約1.3m・約1.6mを測るが、ややばらつきが認められる。ＳＢ53に切られるＰ247～Ｐ250の４つの柱穴は１間×２間のＬ字状に並ぶ柵列（あるいは掘立柱建物跡の一部）いうこともできるが、想像をたくましくすればＳＢ53を建てる前に建設が放棄された柱穴群と考えることもできよう。柱穴からはわずかな須恵器と古式土師器の小片が出土しており、遺構の時期は奈良時代と推測されるが、詳細は不明。周囲の遺構配置からみて古代５段階と推定しておく。

ＳＢ66（第63図）　Ａ区東南部に所在する２間×３間の掘立柱建物跡である。Ａ区４面目（基本層序第11層上面）で確認された建物跡で、本来



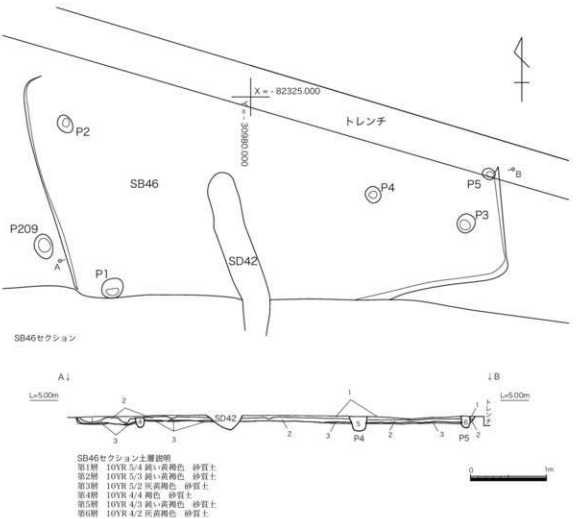


SB42セクション土層説明
第1層　10YR 5/3 鈍い黄褐色　砂質シルト＋10YR 6/2 灰黄褐色　砂質土　ブロック　SB42
第2層　10YR 6/3 鈍い黄橙色　砂質シルト
第3層　10YR 6/3 鈍い黄橙色　砂質土＋10YR 6/2 灰黄褐色　砂質土　ブロック
第4層　10YR 5/3 鈍い黄褐色　砂質シルト＋10YR 7/2 鈍い黄橙色　砂質土　ブロック
第5層　10YR 5/3 鈍い黄褐色　砂質シルト＋10YR 6/2 灰黄褐色　砂質土　ブロック　SB46
第6層　10YR 6/4 鈍い黄橙色　砂質シルト
第7層　10YR 5/2 灰黄褐色　砂質シルト＋10YR 6/2 灰黄褐色　砂質土　ブロック
第8層　10YR 4/2 灰黄褐色　砂質シルト

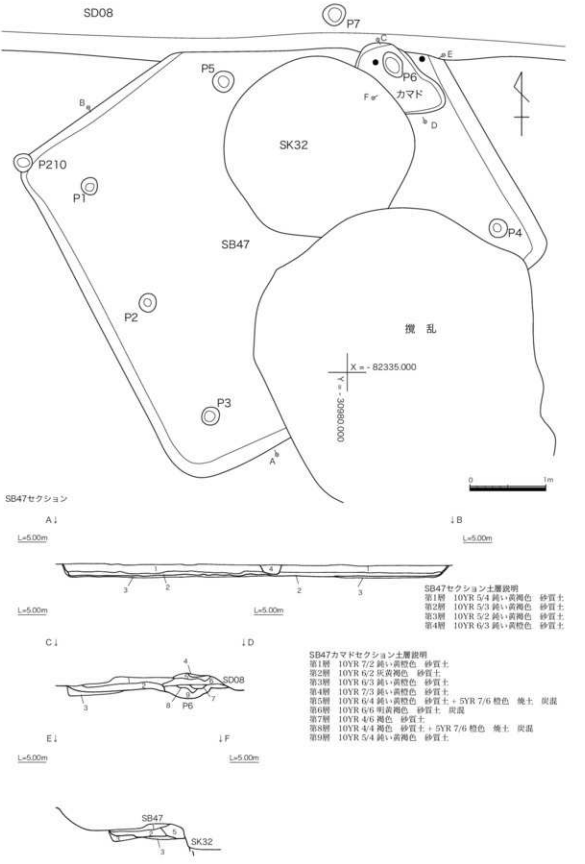
第43図　竪穴建物跡ＳＢ42遺構図（S=1:50）

は同第７層上面から掘り込まれた遺構と推測される。規模は 6.30m × 4.90m を測り、柱穴Ｐ 255 ～Ｐ 259 およびＰ 263 ～Ｐ 265 によって構成され、南西端の柱穴は調査区外にあって不明で、南辺中央の柱穴は検出できなかった。柱穴の掘形は崩れた隅丸長方形を呈しており、柱材は残存しない。北辺の柱間間隔は西から約 2.2m・約 2.7m、東辺の柱間間隔は北から約 2.3m・約 2.0m・約 2.0m を測る。遺構の時期は奈良時代頃と思われるが、詳細な時期は不明。古代５段階と想定しておく。

ＳＢ 02（第 68・69 図）　Ｂ区中央部で検出された２間×３間の掘立柱建物跡である。Ｂ区の２面目の調査、すなわち基本層序第６層相当の標高約 5.00m の高さで確認された建物跡であるが、正確にどの面から掘り込まれていたかは明らかにできなかった。規模は 6.15m × 4.29m を測り、柱穴Ｐ 85 ～Ｐ 90、Ｐ 92、Ｐ 97、Ｐ 98、Ｐ 102 によって構成される。Ｐ 102 はＰ 91 に切られている。柱穴の掘形は隅丸長方形を呈するものが多く、柱材は残存していない。柱穴の土層断面の観察から、上位の堆積はブロック状の埋め土で柱材を抜き取るための穴である可能性が考えられると思われる。北辺の柱間間隔は西から約 2.0m・約 1.8m・約 2.0m、東辺の柱間間隔は北から約 2.1m・約 1.7m を測る。Ｐ 86 などの柱穴からは須恵器と古式土師器の小片が出土しているが、鎌倉時代の溝ＳＤ 13 とＳＤ 19 に切られ、古代７段階の竪穴建



第 44 図　竪穴建物跡ＳＢ 46 遺構図（S=1:50）



第 45 図 竪穴建物跡ＳＢ 47 遺構図（S=1:50）

物跡ＳＢ06・ＳＢ10を切る状況からみて、遺構の時期は古代８段階に比定される。

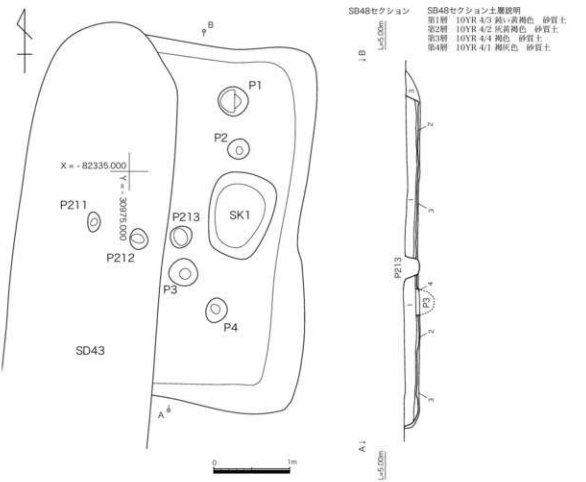
ＳＡ01（第63図）　Ａ区東部に位置する２間分の掘立柱柵列跡である。Ａ区４面目（基本層序第11層上面）で確認され、本来は同第７層上面から掘り込まれた遺構と推測される。規模は3.30mを測り、柱穴Ｐ275～Ｐ277によって構成される。柱穴の掘形は崩れた隅丸長方形を呈しており、柱材は残存しない。遺構の時期は奈良時代頃と思われるが、ＳＤ46との重複関係を含めて詳細な時期は不明。古代６段階と推定しておく。

ＳＡ02（第63図）　Ａ区東部からＢ区西部で検出された３間分の掘立柱柵列跡である。Ａ区４面目（基本層序第11層上面）で確認され、本来は同第７層上面から掘り込まれた遺構と推測される。規模は8.20mを測り、柱穴ＳＫ52とＰ252～Ｐ254によって構成される。柱穴の掘形は崩れた楕円形を呈しており、柱材は残存しない。遺構の時期は奈良時代頃と思われるが、詳細な時期は不明。古代６段階と推定しておく。

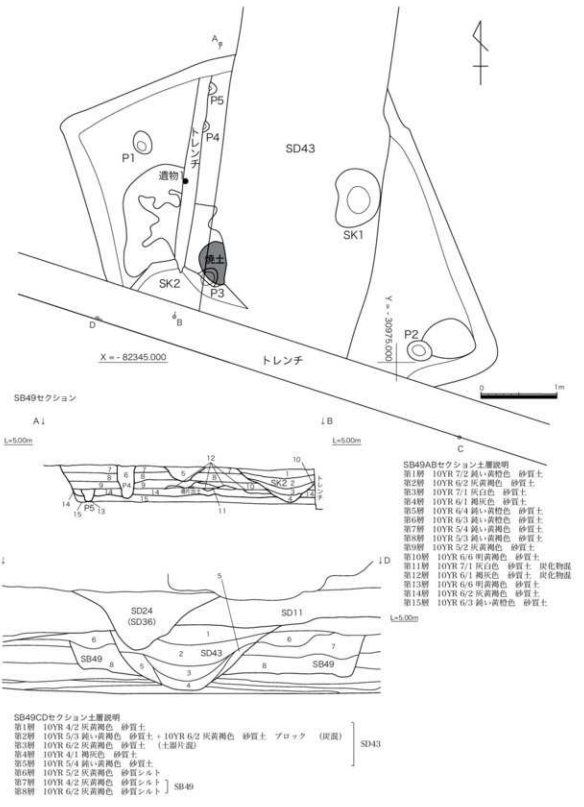
（３）溝

ＳＤ43（第64図）　Ａ区中央部でおおよそ南北方向に確認された幅約2.03m、深さ約0.59mの溝である。南端部が調査区外に伸び、全長は不明。ＳＢ40などの下位で検出され、ＳＢ48・ＳＢ49を切ることなどからみて、古代６段階の時期と推測される。

ＳＤ46（第64図）　Ａ区４面中央部で検出された幅約1.65m、深さ約0.21mの溝である。本来検出されるべき遺構面よりも下げた面で確認され

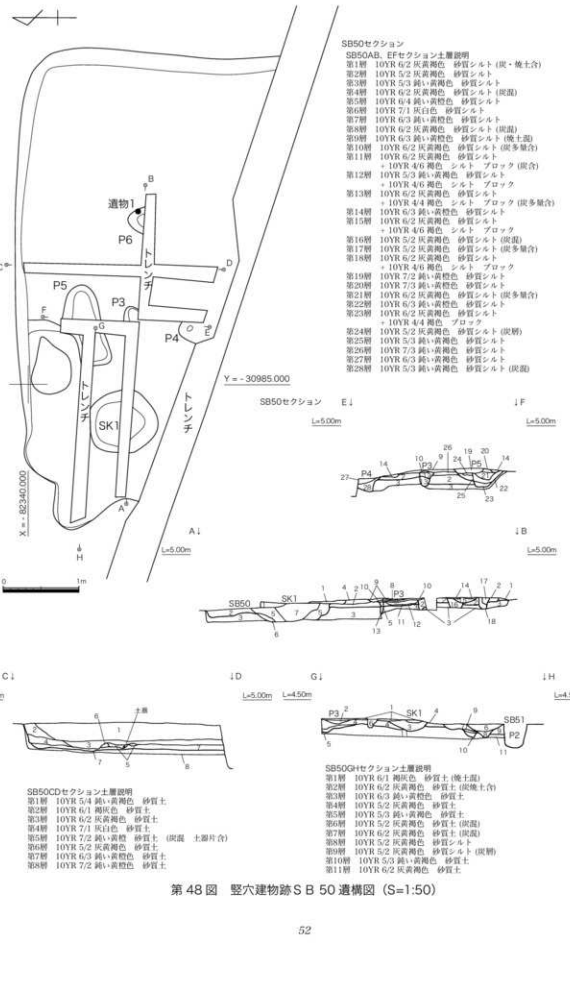


第46図　竪穴建物跡ＳＢ48遺構図（S=1:50）



第 47 図 竪穴建物跡ＳＢ 49 遺構図（S=1:50）

遺 構



SB50セクション土層説明
SB50AB、EFセクション土層説明
第1層　10YR 6/2 灰黄褐色　砂質シルト (炭・焼土含)
第2層　10YR 5/2 灰黄褐色　砂質シルト
第3層　10YR 5/3 鈍い黄褐色　砂質シルト
第4層　10YR 6/2 灰黄褐色　砂質シルト (炭混)
第5層　10YR 6/4 鈍い黄橙色　砂質シルト
第6層　10YR 7/1 灰白色　砂質シルト
第7層　10YR 6/3 鈍い黄褐色　砂質シルト
第8層　10YR 6/2 灰黄褐色　砂質シルト (炭混)
第9層　10YR 6/3 鈍い黄褐色　砂質シルト (焼土混)
第10層　10YR 6/2 灰黄褐色　砂質シルト (炭多量含)
第11層　10YR 6/2 灰黄褐色　砂質シルト
　+ 10YR 4/6 褐色　シルト　ブロック (炭含)
第12層　10YR 5/3 鈍い黄褐色　砂質シルト
　+ 10YR 4/6 褐色　シルト　ブロック
第13層　10YR 6/2 灰黄褐色　砂質シルト
　+ 10YR 4/4 褐色　シルト　ブロック (炭多量含)
第14層　10YR 6/3 鈍い黄橙色　砂質シルト
第15層　10YR 6/2 灰黄褐色　砂質シルト
　+ 10YR 4/6 褐色　シルト　ブロック
第16層　10YR 5/2 灰黄褐色　砂質シルト (炭混)
第17層　10YR 5/2 灰黄褐色　砂質シルト (炭多量含)
第18層　10YR 6/2 灰黄褐色　砂質シルト
　+ 10YR 4/6 褐色　シルト　ブロック
第19層　10YR 7/2 鈍い黄橙色　砂質シルト
第20層　10YR 7/3 鈍い黄橙色　砂質シルト
第21層　10YR 6/2 灰黄褐色　砂質シルト (炭多量含)
第22層　10YR 6/3 鈍い黄橙色　砂質シルト
第23層　10YR 6/2 灰黄褐色　砂質シルト
　+ 10YR 4/4 褐色　ブロック
第24層　10YR 5/2 灰黄褐色　砂質シルト (炭層)
第25層　10YR 5/3 鈍い黄褐色　砂質シルト
第26層　10YR 7/3 鈍い黄褐色　砂質シルト
第27層　10YR 6/3 鈍い黄褐色　砂質シルト
第28層　10YR 5/3 鈍い黄褐色　砂質シルト (炭混)

SB50CDセクション土層説明
第1層　10YR 5/4 鈍い黄褐色　砂質土
第2層　10YR 6/1 褐灰色　砂質土
第3層　10YR 6/2 灰黄褐色　砂質土
第4層　10YR 7/1 灰白色　砂質土
第5層　10YR 7/2 鈍い黄橙　砂質土　(炭混　土器片 含)
第6層　10YR 5/2 灰黄褐色　砂質土
第7層　10YR 6/3 鈍い黄橙色　砂質土
第8層　10YR 7/2 鈍い黄橙色　砂質土

SB50GHセクション土層説明
第1層　10YR 6/1 褐灰色　砂質土 (焼土混)
第2層　10YR 6/2 灰黄褐色　砂質土 (炭焼土含)
第3層　10YR 6/3 鈍い黄橙色　砂質土
第4層　10YR 5/2 灰黄褐色　砂質土
第5層　10YR 5/3 鈍い黄褐色　砂質土
第6層　10YR 5/2 灰黄褐色　砂質土 (炭混)
第7層　10YR 6/2 灰黄褐色　砂質土 (炭混)
第8層　10YR 5/2 灰黄褐色　砂質シルト
第9層　10YR 5/2 灰黄褐色　砂質シルト (炭層)
第10層　10YR 5/3 鈍い黄褐色　砂質土
第11層　10YR 6/2 灰黄褐色　砂質土

第 48 図　竪穴建物跡ＳＢ 50 遺構図 (S=1:50)

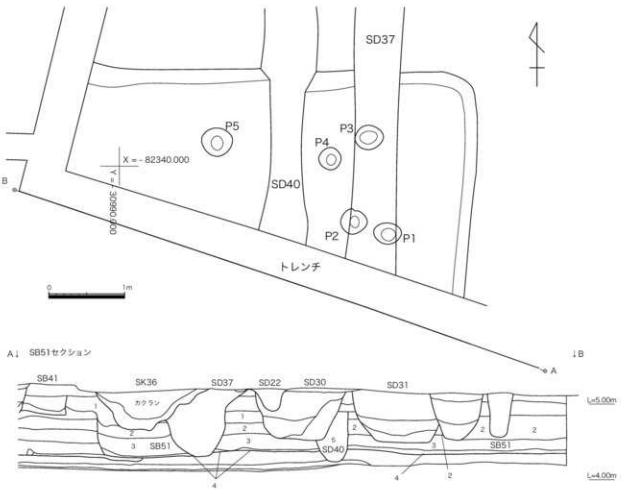
た遺構で、西端部の状況は詳らかではない。上位で古代１段階のＳＢ32などが検出されているにも拘らず、出土遺物からみると遺構の時期は奈良時代頃と思われるが、詳細な時期は不明である。

（4）土坑

ＳＫ20（第65図）　Ｂ区中央部に位置する平面形が1.40m×0.91mの楕円形で、深さ0.72mを測る土坑である。底部は平坦となっており、内部から須恵器甕が破損した状態で出土している。ＳＢ34とＳＢ35を切る形で検出され、時期は８世紀代と推測される。

ＳＫ66（第52図）　Ｃ区中央部に所在する土坑で、下位にＳＢ58が拡がっている。平面形が1.30m×0.85mの歪な楕円形で、最深部で深さ0.50mを測る。内部から須恵器・土師器甕・製塩土器などが多数出土しており、高蔵寺２号窯式期のまとまった資料であると思われる。古代４段階。

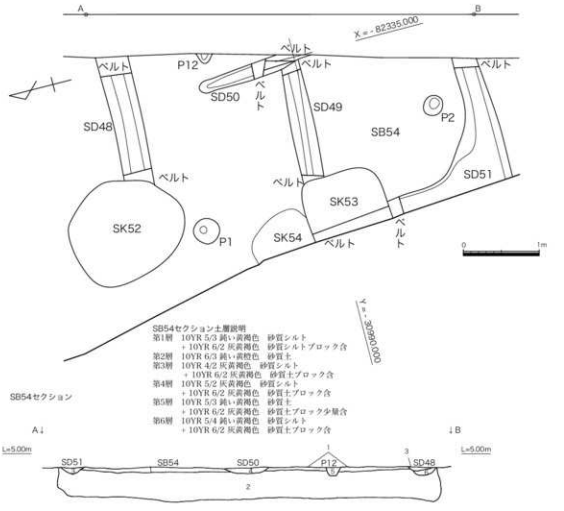
ＳＫ67　Ｃ区中央部にある1.50m×1.30mの楕円形土坑で、深さ0.45mを測る土坑である。黒褐色砂質土と灰黄褐色砂質土が互層になって堆積していた。ＳＢ63を切る形で検出され、内部から出土した遺物から、古代４段階と推測される。



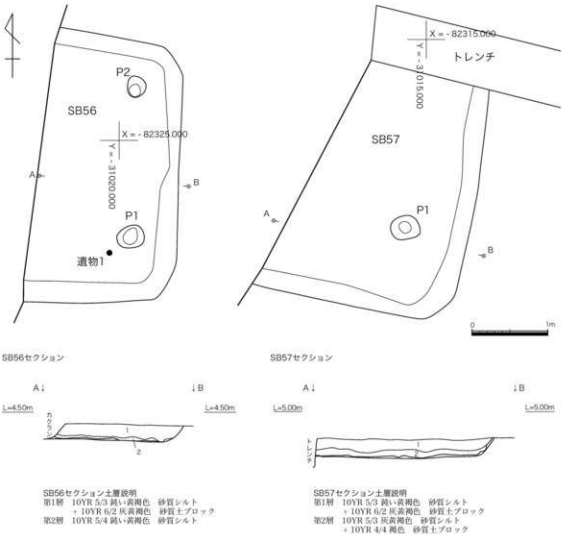
SB51セクション土層説明
第1層　10YR 4/2 灰黄褐色　砂質土
第2層　10YR 5/2 灰黄褐色　砂質シルト
第3層　10YR 6/2 灰黄褐色　砂質シルト＋10YR 4/4 褐色　砂質土　ブロック
第4層　10YR 6/3 鈍い黄橙色　砂質シルト　（貼床）
第5層　10YR 4/3 鈍い黄褐色　砂質シルト

第49図　竪穴建物跡ＳＢ51遺構図（S=1:50）

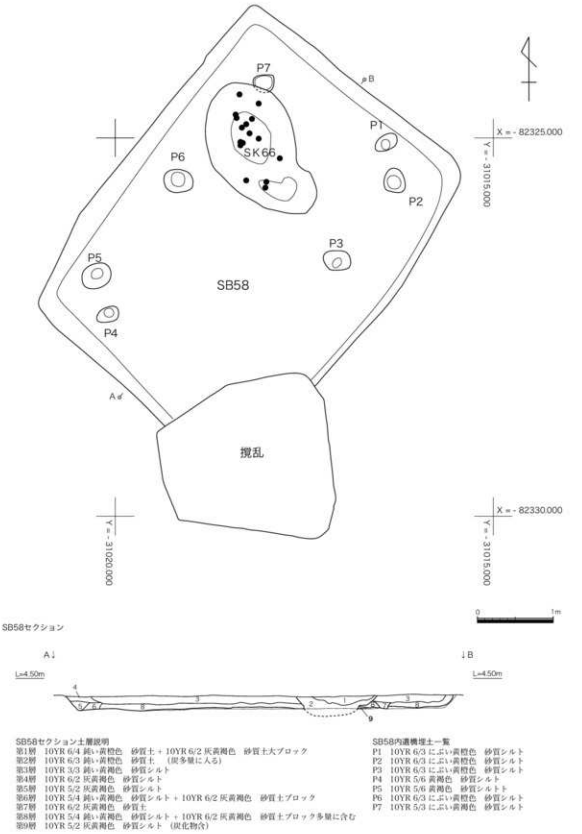
遺　構



第 50 図　竪穴建物跡ＳＢ 54 遺構図（S=1:50）



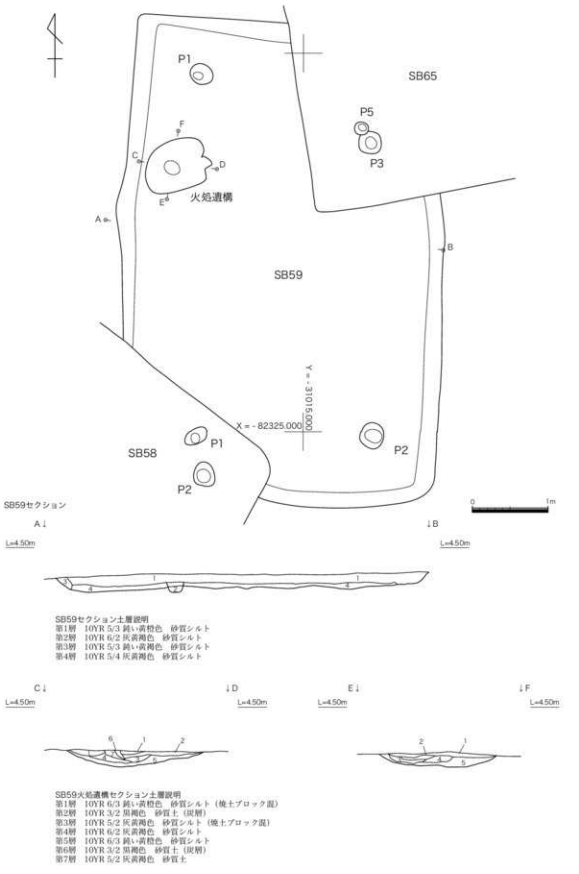
第 51 図　竪穴建物跡ＳＢ 56・57 遺構図（S=1:50）



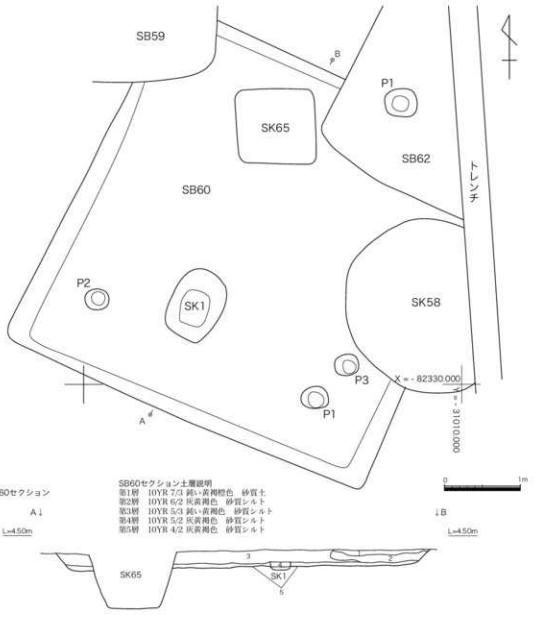
SB58セクション土層説明
第1層　10YR 6/4 鈍い黄橙色　砂質土＋10YR 6/2 灰黄褐色　砂質土大ブロック
第2層　10YR 6/3 鈍い黄橙色　砂質土　（炭多量に入る）
第3層　10YR 3/3 鈍い黄褐色　砂質シルト
第4層　10YR 6/2 灰黄褐色　砂質シルト
第5層　10YR 5/2 灰黄褐色　砂質シルト
第6層　10YR 5/4 鈍い黄褐色　砂質シルト＋10YR 6/2 灰黄褐色　砂質土ブロック
第7層　10YR 6/2 灰黄褐色　砂質土
第8層　10YR 5/4 鈍い黄褐色　砂質シルト＋10YR 6/2 灰黄褐色　砂質土ブロック多量に含む
第9層　10YR 5/2 灰黄褐色　砂質シルト　（炭化物含）

SB58内遺構埋土一覧
P1　10YR 6/3 にぶい黄橙色　砂質シルト
P2　10YR 6/3 にぶい黄橙色　砂質シルト
P3　10YR 6/3 にぶい黄橙色　砂質シルト
P4　10YR 5/6 黄褐色　砂質シルト
P5　10YR 5/6 黄褐色　砂質シルトト
P6　10YR 6/3 にぶい黄橙色　砂質シルト
P7　10YR 5/3 にぶい黄褐色　砂質シルト

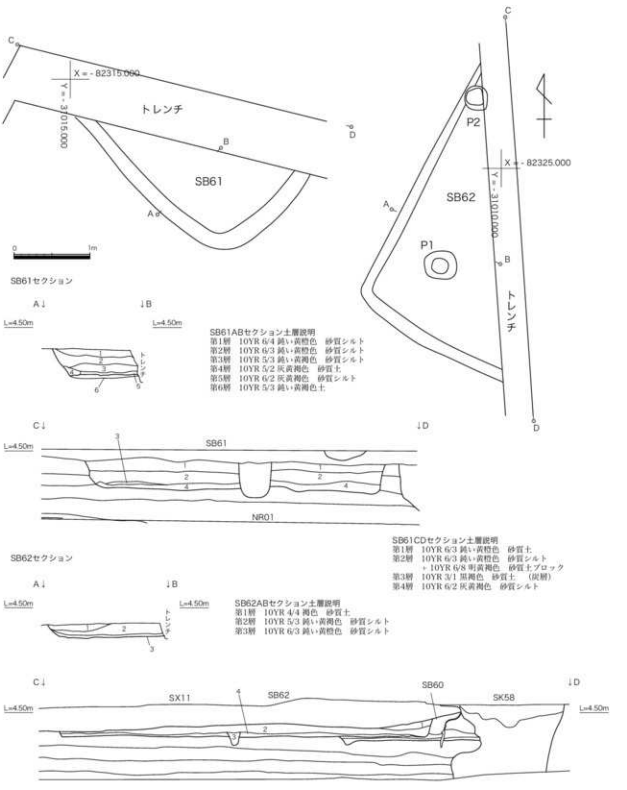
第 52 図　竪穴建物跡ＳＢ 58 遺構図（S=1:50）



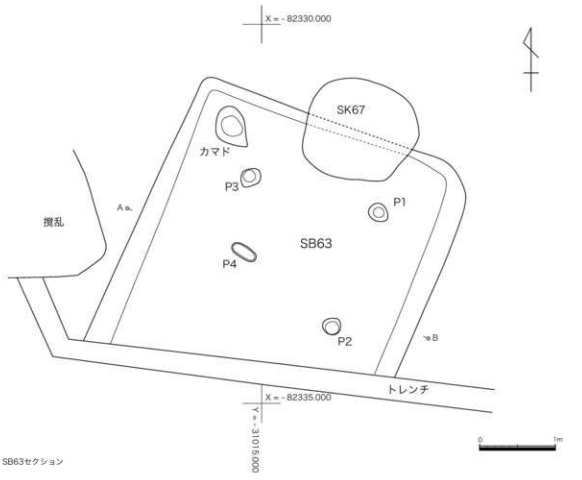
第 53 図　竪穴建物跡ＳＢ 59 遺構図（S=1:50）



第 54 図　竪穴建物跡ＳＢ 60 遺構図（S=1:50）



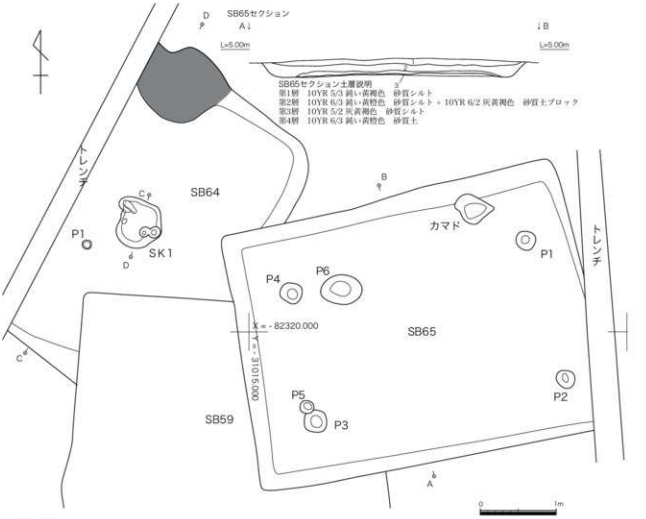
第 55 図　竪穴建物跡ＳＢ 61・62 遺構図（S=1:50）



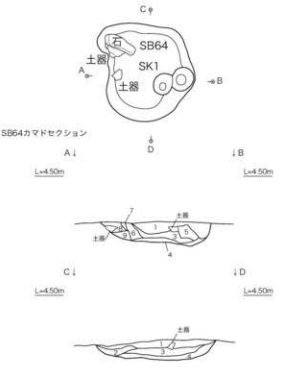
SB63セクション土層説明
第1層　10YR 5/2 灰黄褐色　砂質土
第2層　10YR 5/3 鈍い黄褐色　砂質シルト ＋ 10YR 6/2 灰黄褐色　砂質土ブロック少量
第3層　10YR 6/2 灰黄褐色　砂質シルト（炭化物含）
第4層　10YR 6/3 鈍い黄橙色　砂質シルト
第5層　10YR 5/4 鈍い黄褐色　砂質シルト ＋ 10YR 6/2 灰黄褐色　砂質土ブロック
第6層　10YR 6/2 灰黄褐色　砂質シルト

SB63内遺構埋土一覧
P1　10YR 6/2 灰黄褐色　砂質シルト
P2　10YR 6/2 灰黄褐色　砂質シルト
P3　10YR 6/3 にぶい黄橙色　砂質シルト
P4　10YR 6/3 にぶい黄橙色　砂質シルト
カマド焼跡　10YR 4/2 灰黄褐色　砂質土

第 56 図　竪穴建物跡ＳＢ 63 遺構図（S=1:50）

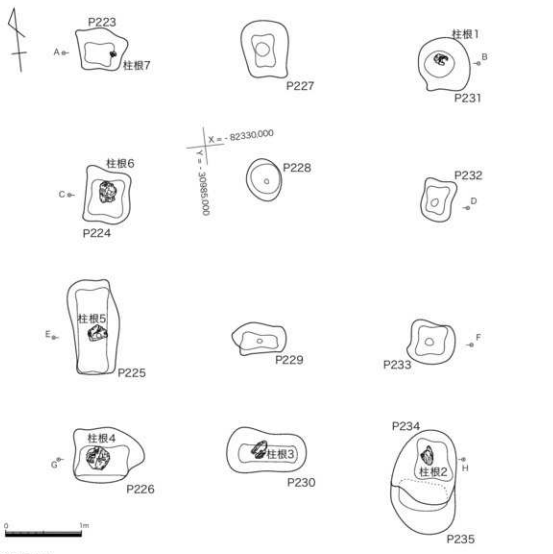


第 57 図　竪穴建物跡ＳＢ 64・65 遺構図（1）(S=1:50)

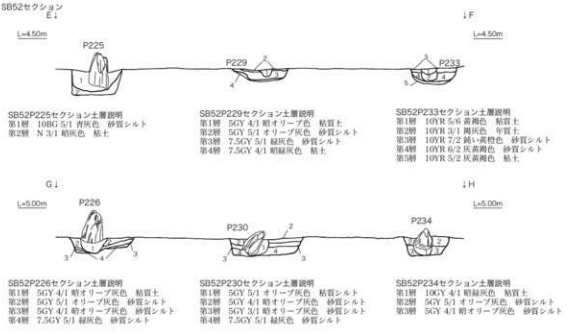


SB64カマドセクション土層説明
第1層　10YR 6/3 鈍い黄橙色　砂質シルト
第2層　10YR 6/4 鈍い黄橙色　砂質シルト
第3層　10YR 3/2 黒褐色　砂質土（炭層）
第4層　10YR 3/2 黒褐色　砂質土＋10YR 5/3 鈍い黄橙色　砂質土ブロック
第5層　10YR 4/2 灰黄褐色　砂質シルト
第6層　10YR 6/2 灰黄褐色　砂質シルト（炭混）
第7層　10YR 3/2 黒褐色　砂質土（炭）
第8層　10YR 6/4 鈍い黄橙色　砂質シルト
第9層　10YR 5/4 鈍い黄褐色　砂質シルト

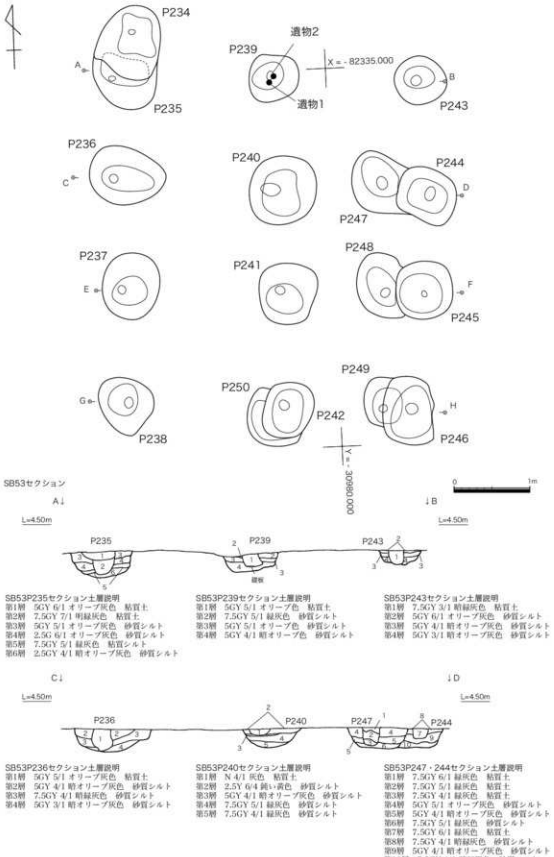
第 58 図　竪穴建物跡ＳＢ 64・65 遺構図（2）



第 59 図　掘立柱建物跡ＳＢ 52 遺構図（1）(S=1:50)



第 60 図　掘立柱建物跡ＳＢ 52 遺構図（2）（S=1:50）



SB53P235セクション土層説明
第1層 5GY 6/1 オリーブ灰色 粘質土
第2層 7.5GY 7/1 明緑灰色 粘質土
第3層 5GY 5/1 オリーブ灰色 砂質シルト
第4層 2.5G 6/1 オリーブ灰色 砂質シルト
第5層 7.5GY 5/1 緑灰色 粘質シルト
第6層 2.5GY 4/1 暗オリーブ灰色 砂質シルト

SB53P239セクション土層説明
第1層 5GY 5/1 オリーブ色 粘質土
第2層 7.5GY 5/1 緑灰色 砂質シルト
第3層 5GY 5/1 オリーブ色 砂質シルト
第4層 5GY 4/1 暗オリーブ色 砂質シルト

SB53P243セクション土層説明
第1層 7.5GY 3/1 暗緑灰色 粘質土
第2層 5GY 6/1 オリーブ灰色 砂質シルト
第3層 5GY 4/1 暗オリーブ灰色 砂質シルト
第4層 5GY 3/1 暗オリーブ灰色 砂質シルト

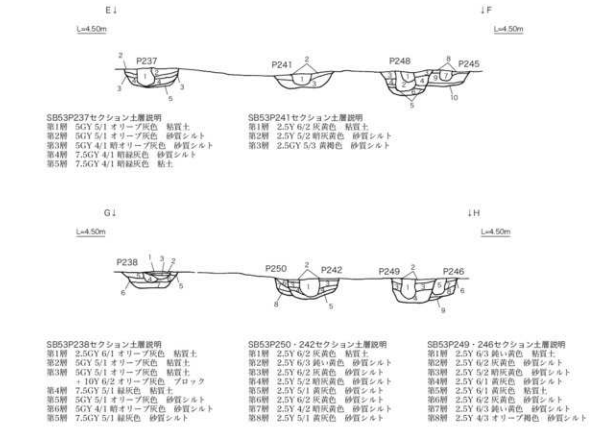
SB53P236セクション土層説明
第1層 5GY 5/1 オリーブ灰色 粘質土
第2層 5GY 4/1 暗オリーブ灰色 砂質シルト
第3層 7.5GY 4/1 暗緑灰色 砂質シルト
第4層 5GY 3/1 暗オリーブ灰色 砂質シルト

SB53P240セクション土層説明
第1層 N 4/1 灰色 粘質土
第2層 2.5Y 6/4 黄い黄色 砂質シルト
第3層 5GY 4/1 暗オリーブ灰色 砂質シルト
第4層 7.5GY 5/1 緑灰色 砂質シルト
第5層 7.5GY 4/1 緑灰色 砂質シルト

SB53P247・244セクション土層説明
第1層 7.5GY 6/1 緑灰色 粘質土
第2層 7.5GY 5/1 緑灰色 粘質土
第3層 7.5GY 4/1 緑灰色 粘質土
第4層 5GY 5/1 オリーブ灰色 砂質シルト
第5層 5GY 4/1 暗オリーブ灰色 砂質シルト
第6層 7.5GY 5/1 緑灰色 砂質シルト
第7層 7.5GY 6/1 緑灰色 粘質土
第8層 7.5GY 4/1 暗緑灰色 砂質シルト
第9層 5GY 4/1 暗オリーブ灰色 砂質シルト
第10層 7.5GY 4/1 暗緑灰色 砂質シルト

第 61 図 掘立柱建物跡ＳＢ 53 遺構図（1）(S=1:50)

SB53セクション



SB53P237セクション土層説明
第1層　5GY 5/1 オリーブ灰色　粘質土
第2層　5GY 5/1 オリーブ灰色　砂質シルト
第3層　5GY 4/1 暗オリーブ灰色　砂質シルト
第4層　7.5GY 4/1 暗緑灰色　砂質シルト
第5層　7.5GY 4/1 暗緑灰色　粘土

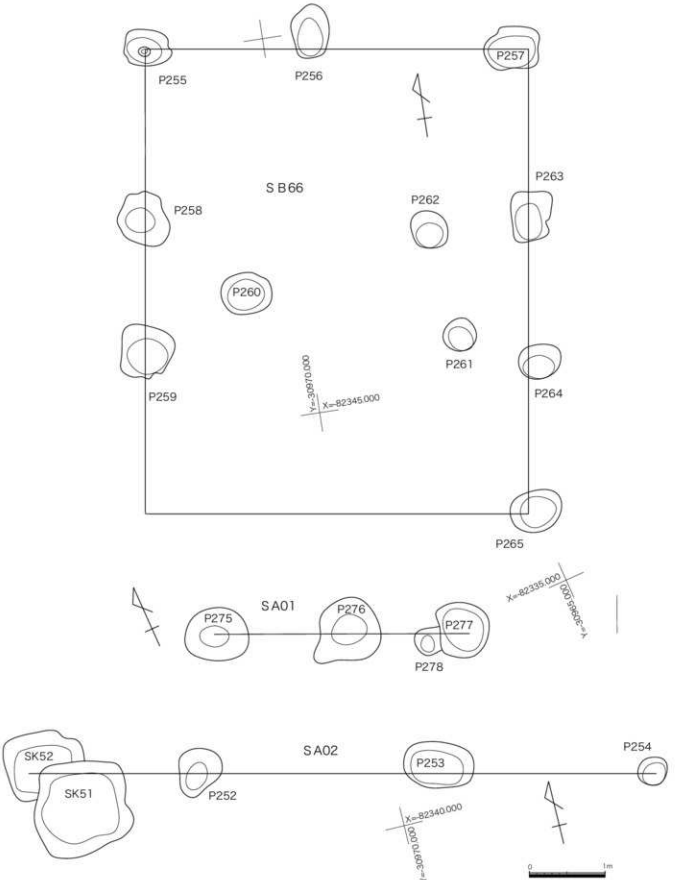
SB53P241セクション土層説明
第1層　2.5Y 6/2 灰黄色　粘質土
第2層　2.5Y 5/2 暗灰黄色　砂質シルト
第3層　2.5GY 5/3 黄褐色　砂質シルト

SB53P238セクション土層説明
第1層　2.5GY 6/1 オリーブ灰色　粘質土
第2層　5GY 5/1 オリーブ灰色　粘質土
第3層　5GY 5/1 オリーブ灰色　粘質土
　＋10Y 6/2 オリーブ灰色　ブロック
第4層　7.5GY 5/1 緑灰色　粘質土
第5層　5GY 5/1 オリーブ灰色　砂質シルト
第6層　5GY 4/1 暗オリーブ灰色　砂質シルト
第5層　7.5GY 5/1 緑灰色　砂質シルト

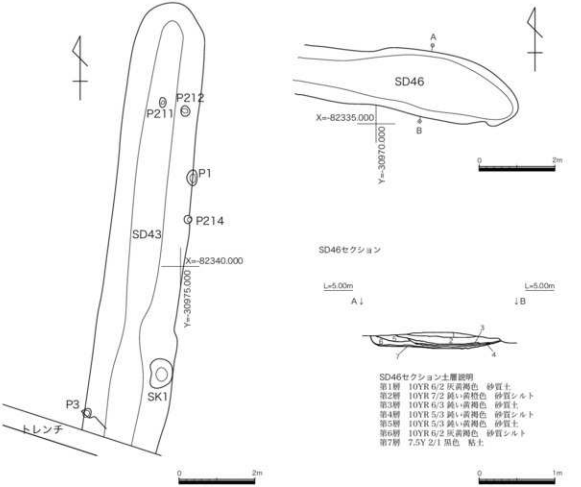
SB53P250・242セクション土層説明
第1層　2.5Y 6/2 灰黄色　粘質土
第2層　2.5Y 6/3 黄い黄色　砂質シルト
第3層　2.5Y 6/2 灰黄色　砂質シルト
第4層　2.5Y 5/2 暗灰黄色　砂質シルト
第5層　2.5Y 5/1 黄灰色　砂質シルト
第6層　2.5Y 6/2 灰黄色　砂質シルト
第7層　2.5Y 4/2 暗灰黄色　砂質シルト
第8層　2.5Y 5/1 黄灰色　砂質シルト

SB53P249・246セクション土層説明
第1層　2.5Y 6/3 黄い黄色　粘質土
第2層　2.5Y 6/2 灰黄色　砂質シルト
第3層　2.5Y 5/2 暗灰黄色　砂質シルト
第4層　2.5Y 6/1 黄灰色　砂質シルト
第5層　2.5Y 6/1 黄灰色　粘質土
第6層　2.5Y 6/2 灰黄色　砂質シルト
第7層　2.5Y 6/3 黄い黄色　砂質シルト
第8層　2.5Y 4/3 オリーブ褐色　砂質シルト

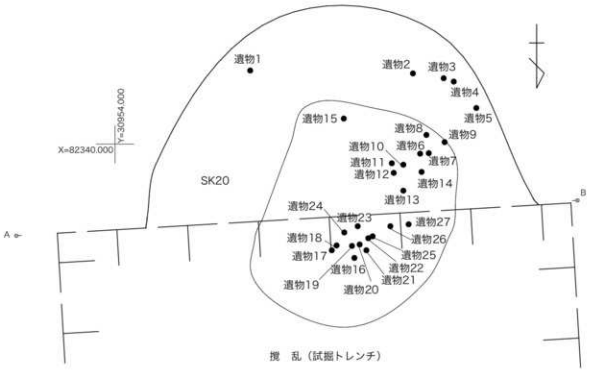
第 62 図　掘立柱建物跡ＳＢ 53 遺構図（2）（S=1:50）

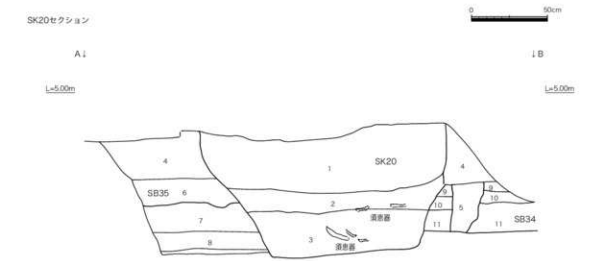


第 63 図　掘立柱建物跡ＳＢ 66、SA01・02 遺構図（S=1:50）



第 64 図　溝ＳＤ 43・46 遺構図（S=1:50、1:100）





SK20セクション土層説明

第1層	10YR 5/2 灰黄褐色 砂質シルト	SK20
第2層	10YR 5/3 鈍い黄褐色 砂質シルト	
第3層	10YR 7/3 鈍い黄橙色 粘質シルト	
第4層	10YR 6/2 灰黄褐色 砂質土	
第5層	10YR 4/3 鈍い黄褐色 砂質シルト（ピット）	
第6層	10YR 6/2 灰黄褐色 砂質土（ややシルト質）	SB35
第7層	10YR 5/2 灰黄褐色 砂質土	
第8層	10YR 4/2 灰黄褐色 砂質土	
第9層	10YR 4/4 褐色 砂質シルト	
第10層	10YR 4/3 鈍い黄褐色 砂質シルト	SB34
第11層	10YR 6/4 鈍い黄橙色 砂質シルト	

第 65 図　土坑ＳＫ 20 遺構図（S=1:20）

第４節　中世の遺構

中世（平安時代末から室町時代）の遺構には掘立柱建物跡３棟以上・溝・井戸・土坑などが存在する。これらの遺構は標高4.7m ～ 5.3m の第４～６層の各上面で掘削されていたと考えられるが、実際の調査では第４～６層の面的な区分を分離して遺構を検出することが難しく、便宜的な遺構面（第１面と第２面）を設定して調査は実施された。このため遺構の密度はそれほど高いとは言えないが、結果として遺構の切り合いが激しい状態となってしまっている。中世の遺構は検出状況や出土遺物から概ね５段階に区分することができた（第５章第２節参照）。ここではこれに基づき個別に遺構を紹介していく。

（１）掘立柱建物跡・柵列

中世の掘立柱建物跡として認識し得たものは８棟存在するが、いずれも柱穴の並びは完全には揃わないものであった。その中でも３棟については比較的良好な状態で特定できたものである。

ＳＢ01（第66・67図）　Ｂ区中央部に位置し２面目の調査で検出された２間×３間の掘立柱建物跡である。柱穴が掘り込まれていた正確な面は明らかにできない。規模は 5.40m × 3.37m を測り、柱穴Ｐ 25、Ｐ 26、Ｐ 28、Ｐ 30、Ｐ 31、Ｐ 35、Ｐ 47、Ｐ 68、Ｐ 70、Ｐ 76 によって構成される。柱穴の掘形は円形を呈するものが多く、柱材は残存していない。柱穴に近在して他の柱穴が存在する場合が多いことから、何度か建て替えられた可能性がある。北辺の柱間間隔は西から約 1.7m・約 1.7m、南北方向の柱間間隔は北から約 2.0m・約 1.5m・約 1.6m を測る。柱穴Ｐ 31 から土師器皿、柱穴Ｐ 47 から東濃型山茶碗などが出土しているが、詳細な時期の特定は難しい。ここでは建物方位からみて中世５段階に位置づけたい。

ＳＢ 38　Ａ区中央部にあり１面目の調査で確認された２間×２間の掘立柱建物跡である。柱穴が掘り込まれていた正確な面は明らかにできない。規模は 6.00m × 4.70m を測り、柱穴Ｐ 146、Ｐ 147、Ｐ 149、Ｐ 157、Ｐ 159、Ｐ 163、Ｐ 164、Ｐ 168、Ｐ 173 によって構成される。柱穴の掘形は円形を呈するものが多く、柱材は残存していない。柱穴Ｐ 147 から土師器内彎型羽釜などが出土しており、遺構の時期は室町時代と考えられる。ここでは建物方位からみて中世５段階に位置づけたい。

ＳＢ 39　Ａ区中央部に所在し１面目の調査で発見された３間×２間の掘立柱建物跡である。規模は 4.90m × 3.00m を測り、柱穴Ｐ 183、Ｐ 184、Ｐ 186、Ｐ 190 ～ Ｐ 197 によって構成される。柱穴の掘形は円形を呈するものが多く、柱材は残存していない。柱穴Ｐ 194 から東濃型山茶碗などが出土しているが、遺構の時期の特定は難しい。中世４段階か。

（２）溝

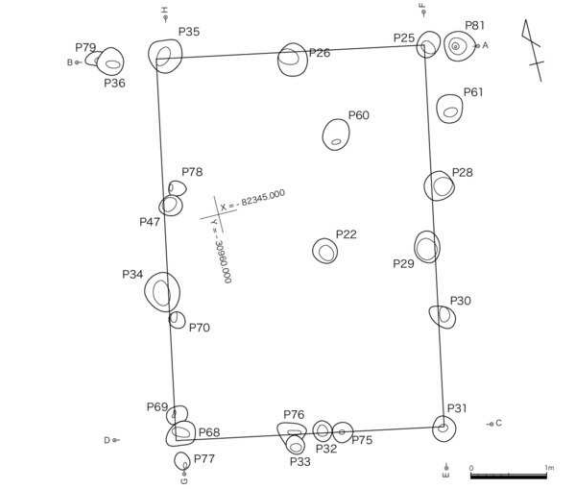
中世の溝は全部で 25 条検出された。規模の大小は様々であるが、全て素掘り溝である。

ＳＤ 04（第 70 図）　Ｂ区中央部に所在する南北方向に走る幅 2.32m、深さ 0.24m の溝である。西肩にはテラス状の段差を持ち、東側が深い断面形を呈している。東肩は近世溝ＳＤ 03 に切られ全形は不明である。出土遺物には古瀬戸後Ⅳ期新段階の陶器を含むが、ＳＤ 07 に切られているので中世４段階と位置づけたい。

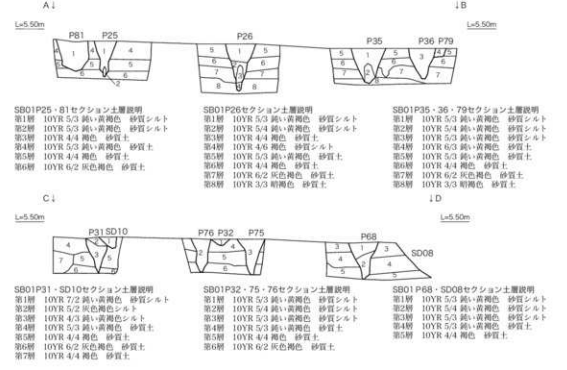
ＳＤ 05　Ｂ区中央北部にある南北方向に走る溝である。全長 5.02m、幅 0.81m、深さ 0.15m、時期は中世４段階と思われる。

ＳＤ 07　Ｂ区北部に位置する幅 0.71m 以上、深さ 0.34m の溝である。方位がおおよそＮ -70° - Ｗを測る点が特徴的である。遺構の時期は、出土した古瀬戸灰釉緑釉小皿からみると 15 世紀中頃と推測されるが、ＳＤ 05 を切ることから中世５段階に位置づけられる。

ＳＤ 08（第 70 図）　Ａ区からＢ区にかけてＬ字状に屈曲する溝で、南北方向の溝は幅 3.86m、深さ 1.07m、東西方向の溝は幅 2.28m、深さ 0.80m の規模を持つ。屈曲部から北側に南北溝が延びる可能性がある。横断面形は逆台形を呈し、埋土は大部分が埋め立てられた斑土である。南北方向の



SB01セクション



SB01P25・81セクション土層説明
第1層　10YR 5/3 鈍い黄褐色　砂質シルト
第2層　10YR 5/3 鈍い黄褐色　砂質シルト
第3層　10YR 4/4 褐色　砂質土
第4層　10YR 5/3 鈍い黄褐色　砂質土
第5層　10YR 4/4 褐色　砂質土
第6層　10YR 6/2 灰色褐色　砂質土

SB01P26セクション土層説明
第1層　10YR 5/3 鈍い黄褐色　砂質シルト
第2層　10YR 5/4 鈍い黄褐色　砂質シルト
第3層　10YR 4/4 褐色　砂質土
第4層　10YR 4/6 褐色　砂質シルト
第5層　10YR 5/3 鈍い黄褐色　砂質土
第6層　10YR 4/4 褐色　砂質土
第7層　10YR 6/2 灰色褐色　砂質土
第8層　10YR 3/3 暗褐色　砂質土

SB01P35・36・79セクション土層説明
第1層　10YR 5/3 鈍い黄褐色　砂質シルト
第2層　10YR 5/4 鈍い黄褐色　砂質シルト
第3層　10YR 5/3 鈍い黄褐色　砂質シルト
第4層　10YR 6/3 鈍い黄褐色　砂質土
第5層　10YR 5/3 鈍い黄褐色　砂質土
第6層　10YR 4/4 褐色　砂質土
第7層　10YR 6/2 灰色褐色　砂質土
第8層　10YR 3/3 暗褐色　砂質土

SB01P31・SD10セクション土層説明
第1層　10YR 7/2 鈍い黄褐色　砂質シルト
第2層　10YR 5/2 灰色褐色シルト
第3層　10YR 4/3 鈍い黄褐色シルト
第4層　10YR 5/3 鈍い黄褐色　砂質土
第5層　10YR 4/4 褐色　砂質土
第6層　10YR 6/2 灰色褐色　砂質土
第7層　10YR 4/4 褐色　砂質土

SB01P32・75・76セクション土層説明
第1層　10YR 5/3 鈍い黄褐色　砂質シルト
第2層　10YR 5/4 鈍い黄褐色　砂質シルト
第3層　10YR 5/3 鈍い黄褐色　砂質シルト
第4層　10YR 5/3 鈍い黄褐色　砂質土
第5層　10YR 4/4 褐色　砂質土
第6層　10YR 6/2 灰色褐色　砂質土

SB01P68・SD08セクション土層説明
第1層　10YR 5/3 鈍い黄褐色　砂質シルト
第2層　10YR 5/4 鈍い黄褐色　砂質シルト
第3層　10YR 5/3 鈍い黄褐色　砂質シルト
第4層　10YR 5/3 鈍い黄褐色　砂質土
第5層　10YR 4/4 褐色　砂質土

第 66 図　掘立柱建物跡ＳＢ 01 遺構図（1）(S=1:50)

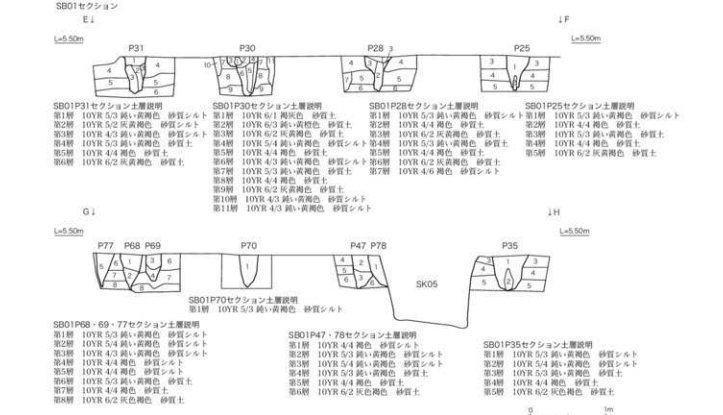
溝については、横断面の土層観察から護岸施設が存在した可能性が考えられたが、詳細な構造は不明である。B区南部でＳＤ11とＴ字状に交差する。また、A区西端部ではＳＤ30よりも西側でＳＤ08の続きが確認することができないことから、ＳＤ30とＴ字状に交差すると思われる。ＳＤ23には確実に切られている。埋土から須恵器、山茶碗、古瀬戸製品などの遺物が多数出土しているが、時期的なまとまりがなく遺構の時期は特定しがたい。南北溝はＳＤ11との関連から中世２段階に掘削されるが、東西溝はこれよりも遅れて掘削されたようである。南北溝と東西溝はともに中世５段階には埋没したと考えられる。

ＳＤ11（第70図）　B区南西部で確認された東西方向に走る溝で、南肩は調査区外に展開している。幅2.26m、深さ0.83mを測ると思われ、ＳＤ08とＴ字状に交差している。埋土中から多量の山茶碗類が出土しており、ＳＤ24に切られて検出されたことから。遺構の時期は中世２段階と位置づけられる。

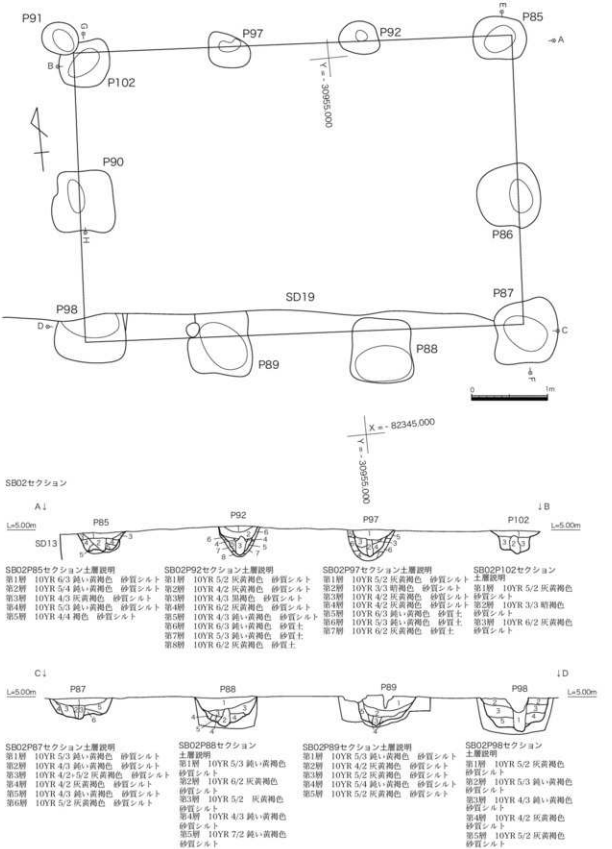
ＳＤ12（第70図）　B区西部に所在し第２面で確認された南北方向に走る溝である。両端はそれぞれＳＤ08とＳＤ11に交わり、断定はできないが両溝の外側には拡がっていかないようである。検出状態ではＳＤ08とＳＤ11に切られている形で確認された。幅1.37m、深さ0.49mを測り、遺構の時期は中世１段階と推測される。

ＳＤ13（第70図）　B区第２面の中央部で確認された南北方向に走る溝で、南北両端は調査区外に伸びている。ＳＤ19を切る形で検出され、規模は幅1.00m、深さ0.35mを測る。出土遺物が少ないが、中世３段階と思われる。

ＳＤ14・ＳＤ17・ＳＤ19（第70図）　B区北半部に位置する「コ」字状に屈曲する溝である。東溝（ＳＤ14）は幅0.87m、深さ0.36m、西溝（ＳＤ17）は幅0.84m、深さ0.32m、南溝（ＳＤ19）は幅0.96m、深さ0.45mを測り、西溝（ＳＤ17）の北端部は途中で収束している。東溝（ＳＤ14）も、ＳＫ01に切られて不明な点が多いが、ＳＫ01より北に拡がらないことが分かる。溝で



第67図　掘立柱建物跡ＳＢ01遺構図（２）（S=1:50）



第 68 図　掘立柱建物跡ＳＢ 02 遺構図（1）(S=1:50)

画された空間の東西幅は約12mを測る。西溝（ＳＤ17）の中程でＳＤ18とＴ字状に交差している。この溝群はＳＤ18とともに、時期は中世１段階と位置づけられる。

ＳＤ15・ＳＤ16　Ｂ区南部で東西方向に走る溝である。配置からみて両者は本来同一のものであった可能性が高い。幅約0.30m～0.45m、深さ約0.10mの小規模な溝である。第２面で検出され、ＳＤ13とＳＤ18で挟まれた空間を区切る形となっている。中世３段階と推測される。

ＳＤ23（第71図）　Ａ区中央部に所在する幅1.02m、深さ0.36mを測る溝である。方位がN-30°-Eを測る点が特徴的で、両端は調査区外に拡がる。ＳＤ08を切る形で検出されたため、遺構の時期は中世５段階と推測される。

ＳＤ24・ＳＤ36　Ａ区中央南部で検出された南北方向に走る最大幅0.74m、深さ0.20mを測る溝である。南端は調査区外に拡がる。出土遺物から時期は15世紀後半と推測される。

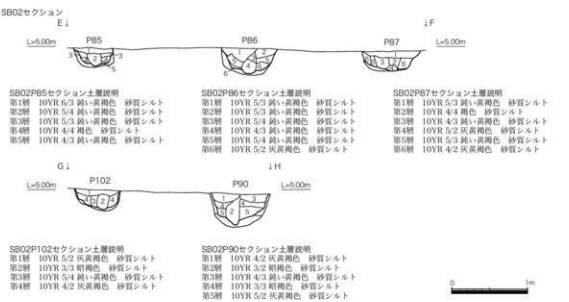
ＳＤ30（第71図）　Ａ区西部に所在する南北方向に走る幅2.85m、深さ0.72mの溝である。第３面でＳＤ40として再検出されたが、これはＳＤ30と同一のものであろう。西肩にはテラス状の段差を持ち、東側が深い断面形を呈している。溝最深部の上位には近世溝ＳＤ22が重複していて、両端は調査区外に拡がる。北部でＳＤ08が交わる形で検出された。遺構の時期は中世４段階と思われる。

ＳＤ31　Ａ区南西部に位置する南北方向に走る溝で、南端は調査区外に拡がる。幅1.23m、深さ0.37mを測り、ＳＤ30の下位で検出された。時期は中世２段階と推定される。

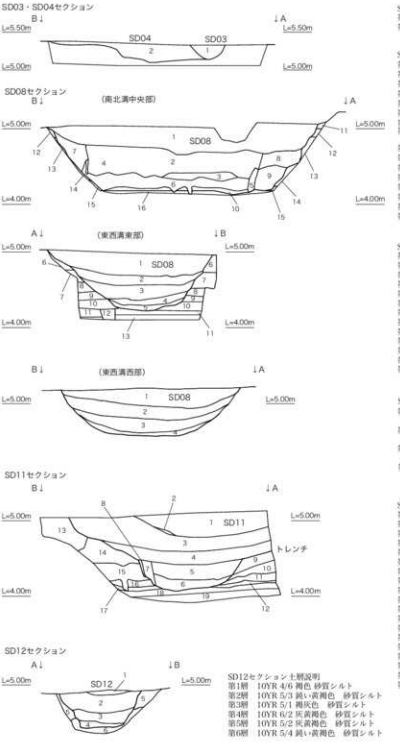
ＳＤ32・ＳＤ37　Ａ区西部にある南北方向に走る溝で、第２面では途切れているように検出され異なる遺構番号を付けたが、第３面では両者は同一のものであることが判明した。幅1.13m、深さ0.44mを測り、ＳＤ08に切られＳＤ33を切っている。時期は中世３段階と推測される。

ＳＤ33（第71図）　Ａ区第２面で検出されたほぼ東西方向に走る溝で、幅1.01m、深さ0.36mを測る。ＳＤ32に切られ、ＳＤ35・ＳＤ38と交差している。東側で北寄りに方位が触れて調査区外に伸びる。東部で多数の山茶碗類が出土し、中世２段階に位置づけられる。

ＳＤ39・ＳＤ20（第71図）　Ａ区北部に存在する東西方向に走る幅0.85m、深さ0.22mの溝である。ＳＤ41の上位にありＳＤ30で交わっている。西端部は一旦取束するが、ＳＤ52につながっているように思われる。東端部はＳＤ20と同一の可能性が高くＳＤ08と合流する。時期は中世３段階と推測される。



第69図　掘立柱建物跡ＳＢ02遺構図（２）（S=1:50）



SD03・SD04セクション土層説明
第1層　10YR 6/2 灰色褐色　砂質土 (SD03)
第2層　10YR 5/3 鈍い黄褐色　砂質土 (SD04)

SD08セクション土層説明
第1層　10YR 5/3 鈍い黄褐色　砂質土
第2層　10YR 4/4 褐色　砂質土
第3層　10YR 6/2 灰黄褐色　砂質土
第4層　10YR 4/3 鈍い黄褐色　シルト
第5層　10YR 4/2 灰色褐色　砂質シルト
第6層　10YR 5/2 灰色褐色　粘質土
第7層　10YR 3/3 暗褐色　砂質土
第8層　10YR 5/3 鈍い黄色褐色　砂質土 60%
　+ 10YR 6/2　灰色粘色　砂質シルト
第9層　10YR 6/2 灰色褐色　砂質土
第10層　10YR 6/3 鈍い黄褐系色　砂質土
第11層　10YR 7/3 鈍い黄褐色 砂質土
第12層　10YR 6/2 灰黄褐色　砂質土
第13層　10YR 5/2 灰黄褐色　砂質土
第14層　10YR 7/2 鈍い黄褐色　砂質土
第15層　10YR 6/2 灰黄褐色　砂質土(粘性弱)
第16層　10YR 3/2 黒褐色　粘性土

SD08セクション土層説明
第1層　10YR 5/2 灰黄褐色 砂質シルト
第2層　10YR 4/3 鈍い黄褐色　砂質シルト
第3層　10YR 5/4 鈍い黄褐色　砂質土
第4層　10YR 4/2 鈍い黄褐色　砂質シルト
第5層　10YR 4/3 鈍い黄褐色　砂質粘土シルト
第6層　10YR 5/2 灰黄褐色 砂質土
第7層　10YR 3/4 暗褐色 砂質土
第8層　10YR 4/3 鈍い黄褐色 砂質土
第9層　10YR 5/3 鈍い黄褐色 砂質土
第10層　10YR 5/2 灰黄褐色 砂質土(粘性あり)
第11層　10YR 5/4 鈍い黄褐色 砂質土(粘性あり)
第12層　10YR 6/3 鈍い黄色　砂質シルト
第13層　10YR 3/2 黒褐色 砂質シルト

SD08セクション土層説明
第1層　10YR 5/3 鈍い黄色　砂質シルト
　+ 10YR 6/1 褐灰色　砂質土　小ブロック
第2層　10YR 4/3 鈍い黄褐色　砂質シルト
　+ 10YR 6/1 褐灰色　砂質土　小ブロック　まばら
第3層　10YR 3/4 暗褐色　砂質シルト
　+ 10YR 6/1 褐灰色　砂質土ブロック
第4層　10YR 4/4 褐色　砂質シルト
　+ 10YR 6/1 褐灰色　砂質土ブロック

SD11セクション土層説明
第1層　10YR 5/2 灰黄褐色 砂質シルト
第2層　10YR 5/3 鈍い黄褐色　砂質シルト
第3層　10YR 5/3 鈍い黄褐色　砂質シルト
第4層　10YR 3/3 暗褐色　砂質土
第5層　10YR 5/3 鈍い黄褐色　砂質粘土シルト
第6層　2.5Y 6/1 黄灰色 砂質シルト
第7層　2.5Y 4/2 鈍い黄褐色　砂質シルト
第8層　2.5Y 5/4 鈍い黄褐色　砂質シルト
第9層　10YR 5/2 灰黄褐色　砂質土
第10層　10YR 4/4 褐色　砂質土
第11層　10YR 4/1 鈍い黄褐色　砂質シルト
第12層　10YR 6/3 鈍い黄褐色　砂質土
第13層　10YR 5/3 褐色　砂質シルト
第14層　10YR 6/2 灰黄褐色 砂質土
第15層　10YR 4/4 暗褐色 砂質土
第16層　10YR 3/2 鈍い黄褐色 砂質土
第17層　10YR 4/2 灰黄褐色 砂質土
第18層　10YR 6/2 灰黄褐色 砂質土
第19層　10YR 6/2 灰黄褐色 砂質土

SD12セクション土層説明
第1層　10YR 4/6 褐色 砂質シルト
第2層　10YR 5/3 鈍い黄褐色　砂質シルト
第3層　10YR 5/1 褐灰色　砂質シルト
第4層　10YR 6/2 灰黄褐色　砂質シルト
第5層　10YR 5/2 灰黄褐色　砂質シルト
第6層　10YR 5/4 鈍い黄褐色　砂質シルト

SD13セクション土層説明
第1層　10YR 5/2 灰黄褐色　砂質シルト
第2層　10YR 5/3 鈍い黄褐色　砂質シルト
第3層　10YR 4/2 灰黄褐色　砂質シルト
第4層　10YR 3/3 暗褐色　砂質シルト
第5層　10YR 3/2 黒褐色　砂質シルト

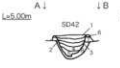
SD14セクション土層説明
第1層　10YR 6/3 鈍い橙褐色　砂質シルト
第2層　10YR 5/2 灰黄褐色　砂質シルト
第3層　10YR 4/2 灰黄褐色　砂質シルト
第4層　10YR 5/4 鈍い黄褐色　砂質シルト

第 70 図　溝ＳＤ 03・04・08・11・12・13・14 遺構図 (S=1:50)

SD23セクション

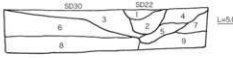
SD23セクション土層説明
第1層　10YR 4/3 鈍い黄褐色　砂質シルト＋10YR 6/1 褐灰色　砂質土ブロック
第2層　10YR 4/4 褐色　砂質シルト＋10YR 6/1 褐灰色　砂質土ブロック
第3層　10YR 3/4 暗褐色　砂質シルト＋10YR 6/1 褐灰色　砂質土ブロック

SD42セクション



SD42セクション土層説明
第1層　10YR 4/3 鈍い黄褐色　砂質土
第2層　10YR 3/3 暗褐色　砂質土
第3層　10YR 4/2 灰黄褐色　砂質土
第4層　10YR 3/2 黒褐色　砂質土
第5層　10YR 4/4 褐色　砂質土
第6層　10YR 3/2 黒褐色　砂質土
第7層　10YR 3/4 黒褐色　砂質土
第8層　10YR 4/6 褐色　砂質土

SD30セクション

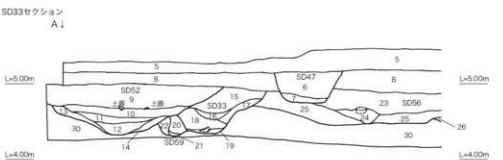


SD30セクション土層説明
第1層　10YR 4/3 鈍い黄褐色　砂
第2層　10YR 4/4 褐色　砂＋10YR 6/2 灰黄褐色　砂質シルトブロック
第3層　10YR 4/2 灰黄褐色　砂質土
第4層　10YR 3/3 暗褐色　砂質土
第5層　10Y 6/1 灰色　砂質シルト
第6層　10YR 3/2 黒褐色　粘質シルト
第7層　10YR 4/4 褐色　砂質シルト
第8層　10YR 3/1 黒褐色　粘質シルト
第9層　10Y 6/1 灰色　粘質シルト

SD39セクション

SD39セクション土層説明
第1層　10YR 4/3 鈍い黄褐色　砂質土＋10YR 6/1 褐灰色　砂質土　ブロック
第2層　10YR 4/4 褐色　砂質土＋10YR 6/1 褐灰色　砂質土　ブロック
第3層　10YR 4/2 灰黄褐色　砂質土
第4層　10YR 3/4 暗褐色　砂質土＋10YR 6/1 褐灰色　砂質土　ブロック
第5層　10YR 4/6 褐色　砂質土
第6層　10YR 3/3 暗褐色　砂質土＋10YR 6/1 褐灰色　砂質土　ブロック
第7層　10YR 4/2 灰黄褐色　砂質土
第8層　10YR 4/6 褐色　砂質土
第9層　10YR 5/3 鈍い黄褐色　砂質土

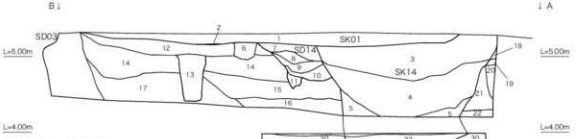
SD33セクション



SD33セクション土層説明
第5層　10YR 5/4 鈍い黄褐色　砂質土＋10YR 6/2 灰黄褐色　砂質シルトブロック少量
第6層　10YR 4/3 鈍い黄褐色　砂質土＋10YR 6/2 灰黄褐色　砂質シルトブロック少量
第7層　10YR 4/2 灰黄褐色　砂質土
第8層　10YR 4/3 鈍い黄褐色　砂質土＋10YR 6/2 灰黄褐色　砂質シルトブロック多量
第9層　10YR 5/2 灰黄褐色　砂質シルト＋10YR 6/2 灰黄褐色　砂質シルトブロック微量
第10層　10YR 4/2 灰黄褐色　砂質シルト
第11層　10YR 4/1 褐灰色　砂質シルト　土器混
第12層　10YR 3/2 黒褐色　砂質シルト
第13層　10YR 4/3 鈍い黄褐色　砂質シルト
第14層　10YR 5/2 灰黄褐色　砂質シルト
第15層　10YR 5/3 鈍い黄褐色　砂質シルト＋10YR 6/2 灰黄褐色　砂質シルトブロック
第16層　10YR 4/2 灰黄褐色　砂質シルト
第17層　10YR 5/3 鈍い黄褐色　粗砂質シルト
第18層　10YR 4/2 灰黄褐色　砂質シルト＋10YR 6/2 灰黄褐色　砂質シルトブロック
第19層　10YR 3/2 黒褐色　シルト
第20層　10YR 4/1 褐灰色　砂質シルト
第21層　10YR 3/2 黒褐色　シルト
第22層　10YR 4/2 灰黄褐色　砂質シルト
第23層　10YR 4/2 灰黄褐色　砂質シルト＋10YR 6/2 灰黄褐色　砂質シルトブロック
第24層　10YR 3/2 黒褐色　砂質シルト
第25層　10YR 4/3 鈍い黄褐色　砂質シルト＋10YR 5/4 鈍い黄褐色　砂質シルトブロック
第26層　10YR 4/2 灰黄褐色　砂質シルト
第30層　10YR 5/3 鈍い黄褐色　砂質シルト＋10YR 4/4 褐色　シルトブロック

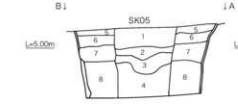
第71図　溝SD23・30・33・39・42遺構図（S=1:50）

SK01・SK14セクション



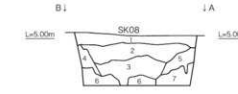
SK09セクション土層説明
第1層 10YR 5/3 鈍い黄褐色 砂質土
第2層 10YR 7/2 鈍い黄褐色 砂質シルト
第3層 10YR 4/2 鈍い黄褐色 砂質シルト(SK14)
第4層 10YR 3/2 暗褐色 砂質土(SK14)
第5層 10YR 4/2 鈍い黄褐色 砂質粘土シルト(SK14)
第6層 10YR 4/2 黄灰色 砂質シルト
第7層 10YR 5/3 鈍い黄褐色 砂質シルト(SK14)
第8層 10YR 5/2 鈍い黄褐色 砂質シルト(SK14)
第9層 10YR 4/2 灰黄褐色 砂質土(炭混SD14)
第10層 10YR 4/3 褐色 砂質土(SD14)
第11層 10YR 5/2 鈍い黄褐色 砂質シルト(SD14)
第12層 2.5Y 6/3 鈍い黄褐色 砂質土
第13層 10YR 4/2 褐色 砂質シルト
第14層 2.5YR 6/3Z 灰黄褐色 砂質シルト
第15層 2.5Y 5/3 鈍い黄褐色 砂質シルト
第16層 2.5Y 5/3 鈍い黄褐色 砂質シルト
第17層 10YR 5/2 暗褐色 砂質土
第18層 10YR 5/2 鈍い黄褐色 砂質粘土シルト
第19層 10YR 4/2 黄灰色 砂質シルト
第20層 10YR 5/3 鈍い黄褐色 砂質シルト
第21層 10YR 5/4 鈍い黄褐色 砂質シルト
第22層 10YR 6/2 灰黄褐色 砂質土

SK05セクション



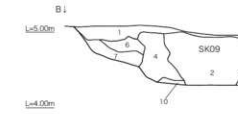
SK05セクション土層説明
第1層 10YR 5/2 灰黄褐色 砂質土
第2層 10YR 6/3 鈍い黄褐色 砂質土
第3層 10YR 5/3 鈍い黄褐色 砂質土
第4層 10YR 4/3 鈍い黄褐色 砂質土
第5層 10YR 6/2 灰黄色褐色 砂質土
第6層 10YR 6/2 灰黄色褐色 粘質土
第7層 10YR 3/3 暗褐色 砂質土(しまりよい)
第8層 10YR 3/3 暗褐色 砂質土

SK08セクション



SK08セクション土層説明
第1層 2.5Y 6/1 黄灰色 砂質土シルト
第2層 2.5Y 6/2 灰黄色 砂質土シルト
第3層 2.5Y 5/2 暗灰黄色 砂質土シルト
第4層 2.5Y 5/2 黄褐色 砂質土シルト
第5層 2.5Y 5/2 黄灰色 砂質土シルト
第6層 2.5Y 5/1 黄褐色 砂質土シルト
第7層 2.5Y 4/3 オリーブ褐色 砂質土シルト

SK09セクション



SK09セクション土層説明
第1層 10Y 7/1 灰白色 砂質土
第2層 10YR 5/3 鈍い黄褐色 砂質土
第3層 5Y 6/2 灰オリーブ 砂質シルト
第4層 5Y 5/1 灰色 砂質シルト
第5層 2.5Y 5/2 暗灰黄色 砂質土
第6層 2.5Y 5/3 黄褐色 砂質土
第7層 10YR 4/3 鈍い黄褐色 砂質土
第8層 10YR 4/4 褐色 砂質土
第9層 10YR 5/1 灰色 砂質土シルト
第10層 5Y 5/1灰色 砂質シルト(粘性弱)

第72図 井戸SK14、土坑SK05・SK08・SK09遺構図 (S=1:50)

ＳＤ 52（第 71 図）　Ａｂ区中央部で検出された東西方向に走る幅 1.68m、深さ 0.30m の溝である。ＳＤ 39 の西側延長部のような配置であるが、断面形状などが異なるため別遺構として認識した。土層断面観察からＳＤ 33 を切ることが判明し、中世３段階に位置づけられる。

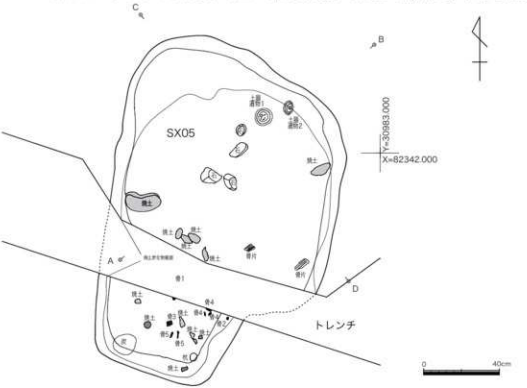
ＳＤ 56（第 71 図）　Ａｂ区北西部で確認された南北方向に走る溝と思われる。北部と西部が調査区外に拡がるため規模は特定できないが、比較的大規模と思われる。南部でＳＤ 57 と同一である可能性が考えられる。ＳＤ 56 の南半部では下位でＳＫ 56 が確認された。多数の山茶碗類が出土し、時期は中世１段階と推測される。

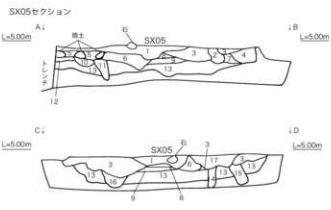
ＳＤ 58　中央部に位置する東西方向に走る溝である。Ａ区西部では確認できなかった遺構である。遺構の時期は不明。

ＳＤ 62　Ｃ区南部で検出された東西方向に走る溝である。幅 1.35m、深さ 0.25m を測り、両端は調査区外に延びるが、Ａｂ区ではその延長部は確認されなかった。詳細な時期は特定できないが、ＳＤ 33 と一連の遺構かもしれない。

（３）井戸

ＳＫ 14（第 72 図）　Ｂ区中央部に位置する平面形が 1.40m × 0.91m の楕円形で、深さ 0.72m を





SX05セクション土層説明
第1層　10YR 5/3 鈍い黄褐色　砂質土
　　(10YR 6/1 褐灰色　砂質シルトブロック含)
第2層　10YR 6/3 鈍い黄褐色　砂質土
　　(10YR 6/1 褐灰色　砂質シルトブロック含)
第3層　10YR 5/4 鈍い黄褐色　砂質土 (焼土ブロック多く含) 骨片含
第4層　10YR 4/3 鈍い黄褐色　砂質土
第5層　10YR 5/2 灰黄褐色　砂質土 (焼土　ブロック多く含)
第6層　10YR 5/3 鈍い黄褐色　砂質シルト (炭層)
第7層　10YR 4/3 鈍い黄褐色　砂質シルト
第8層　10YR 4/2 灰黄褐色　砂質シルト
第9層　10YR 4/2 灰黄褐色　砂質シルト
第10層　10YR 5/2 灰黄褐色　砂質シルト (炭混)
第11層　10YR 5/2 灰黄褐色　砂質シルト (炭・焼土混)
第12層　10YR 5/3 鈍い黄褐色　砂質シルト
第13層　10YR 4/3 鈍い黄褐色　砂質シルト
　　(10YR 6/1 褐灰色　砂質シルトブロック含)
第14層　10YR 4/2 灰黄褐色　砂質シルト (焼土含)
第15層　10YR 5/3 鈍い黄褐色　砂質シルト (炭・焼土混)
第16層　10YR 4/2 灰黄褐色　砂質シルト
　　(10YR 6/4 鈍い黄橙色　砂質シルトブロック含)
第17層　10YR 5/3 鈍い黄褐色　砂質土 (炭混)

第 73 図　火葬施設？ＳＸ 05 遺構図（S=1:20）

測る土坑である。底部で湧水層に達しており、井戸と判断された。内部から木材片が出土しているが、構築物としての位置を保っておらず、井戸側が破損しているものと考えられよう。状況から見て方形木組み井戸と推測されるが、詳細は不明。ＳＤ14を切ることなどから時期は中世１段階と推測される。

ＳＫ56　Ａｂ区北西部に所在する土坑で、ＳＤ56の下位で検出された。平面形が2.93m×1.59mの歪な楕円形で、最深部で深さ1.21mを測る。埋土は黒褐色砂質土で底部から湧水したが、井戸側などの構造物は残存していない。井戸か否かはっきりしない遺構である。中世１段階。

（4）火葬施設？

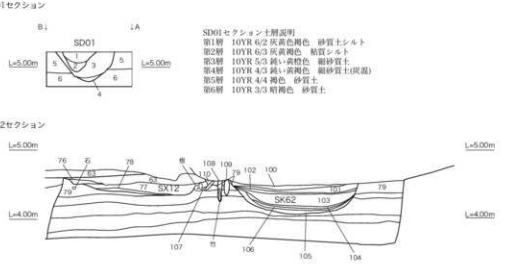
ＳＸ05（第73図）　Ａ区南部で確認された平面形が1.61m×1.37mの隅丸方形の土坑である。検出段階ではＳＢ41の火処遺構と認識したが、最終的には別遺構と認定したもので、南部はＡ区の調査終了直前に調査区を拡張して検出を試みたものである。床はにぶい黄褐色砂質シルトで整地され、その面に礫数個と小ピット群が存在した。床上位には、北部で焼土ブロックが馬蹄形状に拡がり土師器皿が２点出土し、南部では炭化物が薄く堆積しその中に骨片が含まれていた。火葬施設とするには土坑壁が焼けておらず、火葬施設を破壊したものか、あるいは火葬骨を土壙ごと土壙墓に再葬したものかもしれない。時期は中世１段階と推測される。

（5）土坑

ＳＫ05（第72図）　Ｂ区中央部に位置する平面形が1.90m×1.70mの円形で、深さ0.72mを測る土坑である。掘肩の形状や堆積状況は一見井戸と思われるが、底部が湧水層には達していないため土坑と考えられる。

ＳＫ08（第72図）　Ｂ区中央部に所在する土坑である。平面形が1.65m×1.60mの円形で、最深部で深さ0.70m程度を測る。ＳＫ05と同様一見井戸と思われるが、底部が湧水層には達していない。

ＳＫ09（第72図）　Ｂ区北西部でＳＤ08の屈曲部に接する位置にある土坑である。平面形は3.55m×2.40mの楕円形を呈しているが、性格は不明。



第74図　ＳＤ01、ＳＸ12遺構図（S=1:50）

第５節　近世の遺構

近世（江戸時代）の遺構には溝・井戸・土坑などが存在する。基本的には標高約5.4mの第３層上面で遺構が掘削されていた。実際の調査では第３層上面を掘り飛ばしてしまい、下位の中世の遺構面で近世の遺構も検出したので、浅い遺構を見逃している可能性を否定できない。また、Ｂ区東部から東に拡がる現在認められる水田がいつ構築されたかを知る資料を得ることはできなかったが、おそらく近世であろうと想定している。なお、今回の調査で16世紀から18世紀前半までの遺物は極めて少なく、この段階の遺構は確認されなかった。したがって、ここでは18世紀後半以降の遺構を２段階に区分して個別に遺構を紹介していくこととしたい。

（１）溝

ＳＤ01（第74図）　Ｂ区西部に位置し１面目の調査で検出された南北方向に走る溝である。幅0.86m、深さ0.31mを測る小規模なもので、ＳＤ08が埋没・整地された後に掘削されている。近世１段階の遺構と思われる。

ＳＤ02・ＳＤ06　Ｂ区中央部にあるＳＤ01とほぼ平行に走る溝群である。ＳＤ02は幅0.41m、深さ0.03m、ＳＤ06は全長5.10m、幅0.41m、深さ0.03mを測る小規模な溝であるが、両者は本来同一の溝であった可能性が高い。時期はＳＤ01と同時期と推測される。

ＳＤ03（第70図）　Ｂ区中央部に所在する南北方向に走る幅0.46m、深さ0.18mの溝である。下位に中世溝ＳＤ04があり、掘り直されている形となっている。近世１段階と推測される。

ＳＤ09・ＳＤ10　Ｂ区南部で検出された南北方向に走る溝で、配置からみて両者は本来同一のものであった可能性が高い。幅約0.20m、深さ約0.02mの小規模な溝で、古瀬戸後期の遺物を含むが、近世１段階であると推測される。

ＳＤ22（第71図）　Ａ区西部に所在する南北方向に走る幅0.76m、深さ0.25mの溝である。下位にＳＤ30が重複していて、両端は調査区外に拡がる。遺構の時期は近世１段階と考えられる。

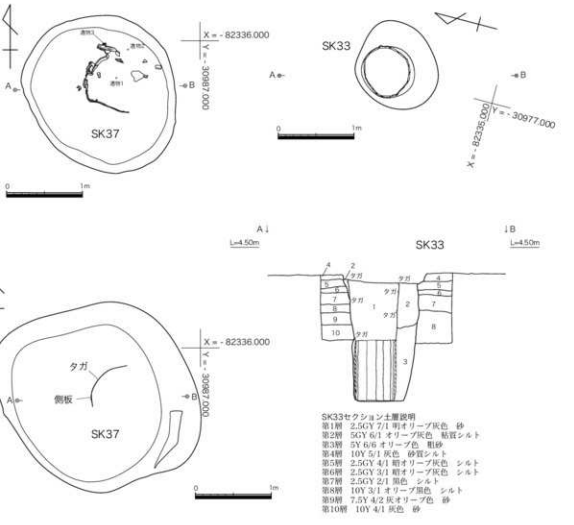
ＳＤ25～ＳＤ27　Ａ区東部で検出された南北方向に走る溝で、配置からみて三者は本来同一のものであった可能性が高い。幅約0.12m～0.24m、深さ約0.06mの小規模な溝で、遺構の時期は近世１段階と思われる。

（２）井戸

ＳＫ32　Ａ区中央部に位置する平面形が2.30m×2.18mの円形土坑である。底部で湧水層に達しており井戸と判断される。井戸側の構築物は全く残存していないが、土層断面からみて井戸側が既に抜き取られて遺存しないものと判断された。時期は近世２段階と推測される。

ＳＫ33（第75図）　Ａ区中央部に所在する平面形が1.10m×1.05mの円形土坑で、上位は現代の撹乱で破壊されていた。井戸側は現状で木製結筒が２段あったものと推測され、上位結筒は既に材が抜き取られて箍のみが残存しており、下位結筒のみが完存していた。井戸の掘肩は井戸側の割に小規模で、井戸側はその中でも北西に偏在して設置されていた。最下部で湧水した。時期は近世１段階と推測される。

ＳＫ37（第75図）　Ａ区南西部で検出された平面形が2.73m×2.44mのやや歪な円形土坑である。底部で湧水層に達しており井戸と判断される。最下部で木製結筒に伴う箍が一部残存しており、井戸側は既に抜き取られたものと考えられる。内部からは常滑窯産赤物井筒が４個体分出土しており、これらを総合的に考えると、本来の井戸側は下位に木製結筒を１段、上位に常滑窯産赤物井筒を４段重ねて構築された井戸と復元できる。それとは別に土坑中位付近で複数の材で方形枠らしきものを形成しており、南西部では竹列、北西部で桟瓦、北部で縦板、南部で横板が存在した。これらは構造物として組まれておらず井戸側を維持できる構築物ではないことから、結筒井戸が廃絶され

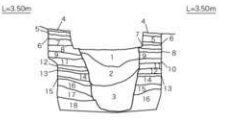


SK33セクション土層説明
第1層　2.5GY 7/1 明オリーブ灰色　砂
第2層　5GY 6/1 オリーブ灰色　粘質シルト
第3層　5Y 6/6 オリーブ色　粗砂
第4層　10Y 5/1 灰色　砂質シルト
第5層　2.5GY 4/1 暗オリーブ灰色　シルト
第6層　2.5GY 3/1 暗オリーブ灰色　シルト
第7層　2.5GY 2/1 黒色　シルト
第8層　10Y 3/1 オリーブ黒色　シルト
第9層　7.5Y 4/2 灰オリーブ色　砂
第10層　10Y 4/1 灰色　砂

SK37セクション土層説明
第1層　2.5Y 6/2 灰黄色　砂質シルト
第2層　5GY 7/1 明オリーブ灰色　砂質シルト
第3層　7.5GY 6/1 緑灰色　砂質シルト
第4層　2.5GY 5/1 オリーブ灰色　砂質シルト
第5層　2.5Y 5/3 黄褐色　砂質シルト
第6層　2.5Y 5/2 暗灰黄色　砂質シルト
第7層　5GY 8/1 灰白色　砂質シルト
第8層　2.5GY 6/1 オリーブ灰色　砂質シルト
第9層　10BG 4/1 暗青灰色　細砂
第10層　10YR 5/1 褐灰色　細砂
第11層　10YR 6/1 褐灰色　粗砂　2をブロック状
第12層　2.5Y 5/2 暗灰黄色　粘質土
第13層　7.5GY 5/1 緑灰色　粘土
第14層　5Y 3/1 オリーブ黒色　粘土
第15層　7.5Y 2/1 黒色　粘土
第16層　10GY 6/1 緑灰色　砂
第17層　2.5Y 5/6 黄褐色　砂質シルト
第18層　2.5Y 6/2 灰黄色　砂質シルト

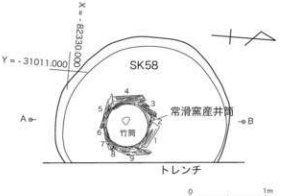
第 75 図　井戸ＳＫ 33・37 遺構図（S=1:50）

SK65セクション



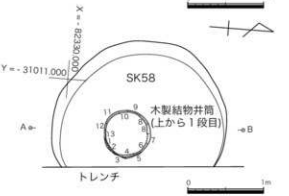
SK65セクション土層説明

第1層　5GY 6/1 オリーブ灰色粘質土　同色細砂含+N3/ 暗灰色粘質シルトブロック
第2層　5GY 5/1 オリーブ灰色シルト
第3層　10Y 5/1 灰色シルト
第4層　10YR 3/1 黒褐色粘質土
第5層　5Y 6/1 灰色粘質土
第6層　5Y 5/1 灰色粘質土
第7層　2.5GY 7/1 明オリーブ灰色粘質土
第8層　7.5GY 6/1 緑灰色粘質土
第9層　5GY 5/1 オリーブ灰色粘質土
第10層　10GY 6/1 緑灰色粘質土
第11層　N 3/ 暗灰色粘質土
第12層　N 3/ 暗灰色粘質土+ 7.5GY 6/1 緑灰色粘質土ブロック少量
第13層　N 2/ 黒色粘質土
第14層　N 4/ 灰色粘質土
第15層　N 3/ 暗灰色粘質土 同色細砂含
第16層　N 4/ 灰色粘質土 同色細砂含
第17層　5BG 5/1 青灰色シルト
第18層　5BG 4/1 暗青灰色シルト

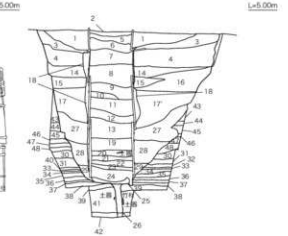


SK58セクション土層説明

第1層　10YR 4/3 鈍い黄褐色　砂質土 + 10YR 6/2 灰黄褐色　砂質土ブロック
第2層　10YR 5/3 鈍い黄褐色　砂質土 + 10YR 6/2 灰黄褐色　砂質土ブロック
第3層　10YR 6/1 褐灰色縞状　砂質土
第4層　10YR 6/1 褐灰色　砂質シルト
第5層　10YR 5/3 鈍い黄褐色　砂質土 + 10YR 4/4　褐色砂質土ブロック
第6層　10YR 6/2 灰黄褐色　砂質土 + 10YR 4/4　褐色砂質土ブロック
第7層　10YR 6/1 褐灰色　砂質シルト
第8層　10YR 5/1 褐灰色　粘質土
第9層　7.5Y 5/1 灰色　砂質土
第10層　7.5Y 6/3 オリーブ黄色　砂質土
第11層　7.5Y 5/1 灰色　砂質シルト
第12層　7.5Y 5/3 灰オリーブ色　砂質シルト
第13層　7.5Y 4/1 灰色　砂質シルト
第14層　10YR 7/2 鈍い黄橙色　砂質シルト
第15層　2.5Y 6/3 鈍い黄色　砂質シルト
第16層　5Y 6/1 灰
第17層　5Y 6/2 灰オリーブ色　砂質シルト
第17層　5Y 7/3 浅黄色　砂質シルト
第18層　5Y 5/1 灰色　砂質土
第19層　10Y 5/1 灰色　砂質土
第20層　10Y 4/1 灰色　砂質シルト
第21層　10Y 3/1 オリーブ黒色　砂質土
第22層　10Y 5/1 灰色　砂質シルト
第23層　10Y 3/2 オリーブ黒色　砂質シルト
第24層　10Y 4/1 灰色　砂
第25層　7.5Y 4/3 暗オリーブ色　粘土（10Y 8/1 灰白色粘土）
第26層　10Y 4/1 灰色　砂
第27層　10Y 6/1 灰色　砂質土
第28層　10Y 5/1 灰色　砂質土
第29層　2.5GY 5/1 オリーブ灰色　粘質シルト
第30層　2.5GY 7/1 明オリーブ灰色　粘質シルト
第31層　2.5GY 6/1 オリーブ灰色　粘質シルト
第32層　5GY 6/1 オリーブ灰色　粘質シルト
第33層　5GY 5/1 オリーブ灰色　粘質シルト
第34層　5GY 6/1 オリーブ灰色　粘質シルト
第35層　N 3/0 暗灰褐質シルト
　+ 5GY 5/1 オリーブ灰色　粘質シルトブロック
第36層　N 3/0 暗灰色　粘質シルト
第37層　N 4/0 灰色　粘質シルト
第38層　N 3/0 暗灰色　粘質シルト
第39層　N 4/0 灰色　粘質シルト
第40層　5GY 6/1 オリーブ灰色　粘質シルト
第41層　5GY 6/1 オリーブ灰色　粘質シルト
第42層　N 7/0 灰白砂（薄水層）
第43層　2.5Y 4/2 暗灰黄色　細粒砂
第44層　10YR 7/2 鈍い黄橙色　砂質シルト
第45層　2.5Y 6/3 鈍い黄色　砂質シルト
第46層　2.5Y 7/2 灰黄色　砂質シルト
第47層　2.5Y 4/1 黄灰色　粘質シルト
第48層　5Y 5/1 灰色　粘質シルト



SK58セクション



第 76 図　井戸ＳＫ 58・65 遺構図（S=1:50）

た後に水溜状遺構として簡易な枠を設置したものと理解したい。ＳＤ22を切る形で検出されたので、井戸が構築された時期は近世２段階と思われる。

ＳＫ58（第76図）　Ｃ区東部で確認された平面形が2.50m×1.60m以上の円形土坑で、井戸側は上位に常滑窯産赤物井筒が１段、下位に木製結筒が３段重ねられたものである。常滑窯産赤物井筒は倒立した状態で据えられ上部は欠損していた。赤物井筒と木製結筒の間には板材を円形に並べたものが挟まれて、赤物井筒の口縁部外側には数個の円礫が置かれていた。３段の結筒は、上位の結筒上部のみが腐食していたが、それ以外はよく残存していた。この状況からみて、本来は３段以上の木製結筒で井戸側が構成されていたものが、上位木製結筒の破損などの理由によって、上位のみ板材を介して常滑窯産赤物井筒に造り替えられたものと推測される。最下部は暗オリーブ色粘土で底部が覆われ、その中央部に竹筒（1107）が差し込まれていた。竹筒の上位に土師器皿（1086）が裏を向けて置かれており、井戸廃絶に伴うものかもしれない。時期は近世１段階と考えられる。

ＳＫ65（第76図）　Ｃ区中央部で検出された平面形が1.05m×1.00mの隅丸方形の土坑である。底部は勢い良く湧く湧水層に達していないが、地下水は蓄積される深さにはなっている。井戸側の構造物は残存せず、井戸側が構築された痕跡も確認されない。井戸と判断することが難しい遺構である。時期は不明。

（３）だるま状遺構

ＳＸ03（第77図）　Ａ区南西部に位置する平面形がだるま形を呈する遺構である。全長8.15m、最大幅5.20mを測る大規模な遺構で、土坑ＳＫ38～40と周溝ＳＤ29で構成される。ＳＫ38とＳＫ39は非常に浅い落ち込みで黄灰色砂質シルトが充填され、その床面は暗黄灰色砂質シルトで構成され表面は硬化していた。ＳＤ01を切る形で構築されており、時期は近世２段階と推測される。性格は全く不明であるが、平面プランのみで比較すれば、竈状遺構として報告された清洲城下町遺跡ＳＸ4006に近似している（鈴木編1995）。井戸ＳＫ37とセットで存在した可能性も考えられる。

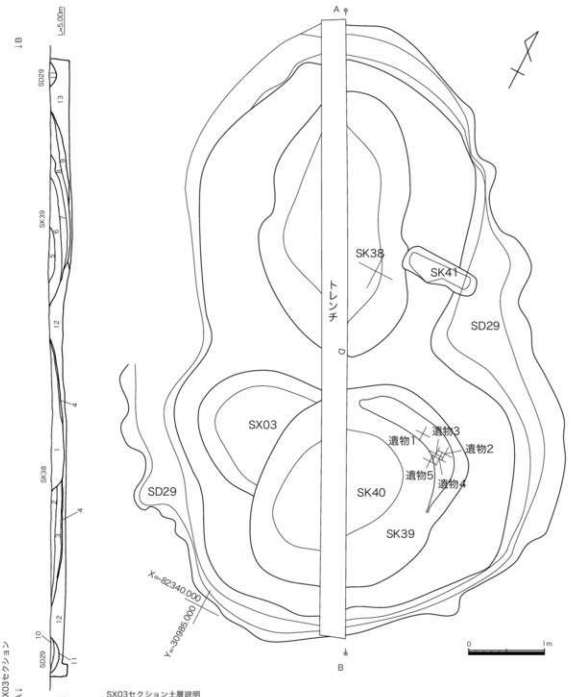
（４）土坑

ＳＫ01　Ｂ区中央にある平面形が4.80m×4.00mの楕円形土坑である。掘肩の形状や堆積状況は一見井戸と思われるが、底部が湧水層には達していないため土坑と考えられた。

（５）不明遺構

ＳＫ03　Ｂ区南東部に位置する不定形な巨大土坑である。調査区東側に展開する現水田に伴うものかもしれない。

ＳＸ12（第74図）　Ｃ区南東部に位置する遺構で、南部と東部は調査区外に拡がる。土坑ＳＫ59、ＳＫ62と周溝ＳＤ61で構成され、周囲には無数の杭（おそらく竹杭）の痕跡が拡がっている。基盤はにぶい黄橙色砂質土がグライ化した状態で、ＳＫ62には下位は灰オリーブ色粘質土・上位は黄灰色砂質土が堆積していた。性格は全く不明であるが、時期は近世２段階と推測される。



SX03セクション土層説明
第1層　10YR 6/2 灰黄褐色　砂質シルト＋7.5YR 5/6 明褐色　砂ブロック
第2層　10YR 7/3 鈍い黄橙色　砂質シルト＋10YR 7/1 灰白色　砂ブロック　少量
第3層　10YR 5/1 褐灰色　砂質シルト
第4層　10YR 3/4 暗褐色　砂質土（腐化）
第5層　2.5Y 6/2 灰黄色　砂質シルト
第6層　2.5Y 6/3 鈍い黄色　砂質シルト
第7層　2.5Y 5/1 黄灰色　砂質シルト
第8層　2.5Y 4/1 黄灰色　砂質シルト
第9層　2.5Y 5/2 暗灰黄色　砂質シルト
第10層　2.5Y 6/3 鈍い黄色　砂質シルト
第11層　2.5Y 6/2 灰黄色　砂質シルト
第12層　2.5Y 5/2 暗灰黄色　砂質シルト
第13層　5BG 5/1 青灰色　砂質シルト

第 77 図　S X 03 遺構図（S=1:50）

第3章　遺　物

第1節　出土遺物の概要

今回の調査で下津新町遺跡から出土した遺物は、整理作業終了後の段階で27リットル入りコンテナに約75箱（焼物と石製品は69箱）にのぼる。その内訳は、土器・須恵器・陶磁器類、石製品、金属製品、木製品などに分けることができる。ここでは、遺物をこの材質別に大別して報告することとしたい。

遺物の採取方法は、通常の包含層や遺構掘削において発見された遺物を採取する方法であり、篩別などの厳密な方法を採用してはいない。遺物は多くは遺構から出土しているが、実際の調査では厳密に遺構面を把握して遺構を掘削していないことなどから、別遺構を起源とする遺物を含んでしまっている場合も想定される。多くの資料群にこのような一括性について疑問が生じていることをあらかじめ断っておきたい。

以上のような状況ではあるけれども、本報告では比較的豊富な出土量を持つ竪穴建物跡や溝などの出土資料を中心に図化して紹介することとした。

第2節　土器・須恵器・陶磁器類

本遺跡から出土した焼物（土器・須恵器・陶磁器類）は遺構内出土遺物と遺構外出土物を合わせて接合前破片数で35469点が出土している。古墳時代から江戸時代までに至る幅広い時期の遺物が存在しており、ここではさらに古墳時代、古代、中世、近世に大きく時期で分けて記述を進めていきたい。（鈴木正貴）

（1）古墳時代

古墳時代の遺物は、A区からC区にかけて南北に走る浅い谷状の落ち込み部分及びその近辺の標高約4.0mの黒灰色粘土層上面で出土している。土器の所属時期は廻間Ⅲ式期から松河戸Ⅰ式期が主体であるが、一部廻間Ⅰ・Ⅱ式期まで遡るものもある。

ＳＸ02出土遺物（第78図16）　S字状口縁甕D類。口縁端部はヨコナデにより肥厚するが、明瞭な面はもたない。頸部にはヘラによる沈線が巡る。体部は外面が粗い斜位・横位のハケ調整、内面がナデ・イタナデ調整される。脚部は外面が斜位のハケ調整後に縦位にナデ消され、内面は端部が折り返された後ナデ調整される。また脚部内面上部には、粗い砂粒などを含まない粘土充填がみられる。

ＳＸ06出土遺物（第78図14・15）　I4は屈折脚高坏の坏部。受け部と口縁部の接合部がやや凹んで沈線状になり、口縁端部はヨコナデにより内面側がわずかに凹面をなす。15はS字状口縁甕C類になるもので、口縁部は上外方に延びて丸く収束する。体部外面は粗いハケ調整がなされる。

ＳＸ07出土遺物（第78図17）　S字状口縁甕D類。口縁端部はヨコナデによって横外方に延びて面をなし、頸部には沈線が巡る。体部外面には斜位の粗いハケ、内面はナデ・イタナデ調整が施される。また外面には成形時についたと思われる指による凹凸が残る。

ＳＸ08出土遺物（第78図12）　口縁部がわずかに有段状を呈する丸底壺。口縁部はやや強いヨコナデ、体部外面はハケ・イタナデ、体部内面はナデ・ケズリ成形・調整される。口縁部外面には煤が付着する。

ＳＸ09出土遺物（第78図1～11）　1は布留甕。口縁部は有段形を呈し、端部は内側に肥厚して丸く収束する。体部外面はナデ、内面は右上がりの斜め方向のケズリ成形・調整がなされる。7～10はS字状口縁甕。7～9はS字状口縁甕D

類の口縁部から体部上半部で、口縁端部がヨコナデにより横外方に延びて斜めの面をなす。体部外面には粗い斜位のハケ調整が施され、7には横位のハケもみられる。10は甕脚部で、端部は内面に折り返されている。ナデ調整。6は直口壺の口縁部、2～5は屈折脚高坏になる。2は坏口縁部と受部の境界に明瞭な稜をもち、4は不明瞭である。調整はナデ。3の脚部は外面イタナデ、内面ナデ調整され、4は外面ナデ（イタか）調整、内面横位のケズリ成形・調整される。11はワイングラス形高坏で、坏部最大径は下位になるが、明瞭な稜はもたない。坏部口縁は端部がヨコナデによりわずかに凹面をなして内湾し、外面がハケ・ミガキ、内面がハケ・ナデ調整される。脚部はゆるやかに八字状に延び、外面がミガキ、内面がハケ調整される。透かし孔はみられない。この一群の土器群の中で11のみ廻間Ⅱ式期以前に遡る可能性が考えられる。

ＳＸ10出土遺物（第78図13）　屈折脚高坏の坏部。口縁部と受部の境界に明瞭な稜をもち、ナデ・ヨコナデ調整される。

ＳＸ11出土遺物（第78図20）　高坏の脚部か。外内面とも赤彩が施される。廻間Ⅱ式以前のものと思われる。

ＳＫ33出土遺物（第78図18）　有段口縁をもつ太頸壺。内面上位にはイタによる連続刺突が1段施され、下位には焼成前の穿孔がみられる。

ＳＫ50出土遺物（第78図19）　有稜高坏の坏部。口縁端部がヨコナデにより横外方にわずかに肥厚する。外内面ともミガキ調整。

その他の出土遺物（第78図21～23）　ここでは遺構を検出する際に出土した遺物を紹介する。21・22は屈折脚高坏。23は口縁端部がヨコナデによって横内外方に延び、横位の面をなす鉢。全体にヨコナデまたはナデ調整される。時期は不明。

（宮腰健司）

（2）古代

古代の遺物には須恵器と土師器などが存在する。須恵器はほとんどが猿投窯系のものと思われ、器種は杯身と杯蓋が最も多く、この他に高杯、はそう、甕、壺類、瓶類などがある。時期によっては灰釉陶器が伴う場合もある。土師器は甕類が圧倒的に多く、わずかに杯などの供膳具や製塩土器などが認められる。土師器甕は口縁端部をつまみあげる伊勢型甕と、口縁部が肥厚し頸部内面に荒いハケ調整が残る濃尾型に分けることができる。

ＳＢ03出土遺物（第79図24～27）　須恵器杯身（24・25）は高蔵寺2号窯式に、須恵器杯蓋（27）は岩崎41号窯式に属する。

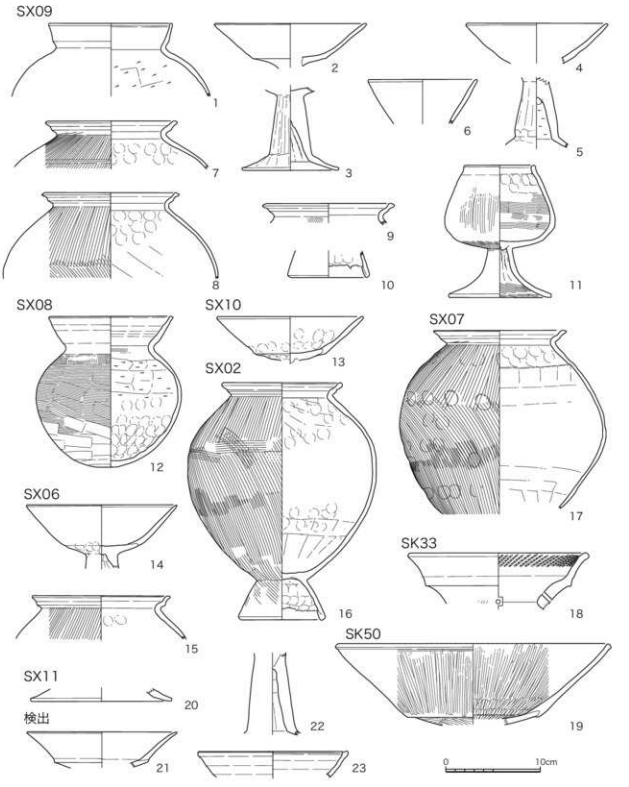
ＳＢ04出土遺物（第79図28～35）　須恵器類は概ね鳴海32号窯式に属し、土師器甕は伊勢型甕（35）が存在する。

ＳＢ05出土遺物（第79図36～46）　須恵器杯身は高蔵寺2号窯式に位置づけられるが、その他の須恵器類は概ね鳴海32号窯式に属する。組成からみると、須恵器鉄鉢（43・44）と鳥形硯蓋（45）を伴う点が特徴的である。38は底部外面に刻紋が残るが判読はできない。41は合子身で体部下半の一部に別製品の破片が融着していた。45は須恵器鳥形硯蓋の口縁部片で、表面に波状紋による羽紋が表現されその上に灰釉がかかっていた。原始灰釉陶器と呼ばれるもので8世紀代に位置づけられる。

ＳＢ06出土遺物（第79図47～70）　須恵器杯類は岩崎17号窯式から折戸10号窯式までに属するものがあり、時期に長い幅が認められる。52は底部に「岡」の異体字が刻書された須恵器無台杯身である。57はフラスコ形瓶の脚部で、自然釉がかかり透かしが認められる。59は9世紀前半の有台椀である。土師器甕は濃尾型甕（70）がある。

ＳＢ07出土遺物（第79図71～81）　須恵器は高蔵寺2号窯式から鳴海32号窯式に属する資料ばかりである。81は体部外面がヘラケズリ調整された鉢である。

ＳＢ08出土遺物（第80図82～85）　85は底部に刻書が残る須恵器椀で、体部外面下半には手持ちヘラケズリ調整がなされていた。



第 78 図　古墳時代の土器

ＳＢ09出土遺物（第80図86～128）須恵器杯類は高蔵寺2号窯式に属するものと折戸10号窯式に属するものの2者が多い。須恵器は杯類のみではなく、薬壺タイプの短頸壺（114）、甕（115）、甕（116）、大形深鉢（117）、灰釉陶器水瓶（119）などさまざまな器種が認められる。114は黒笹14号窯式、123は黒笹14号窯式に属する。111は畿内系土師器皿の口縁部で、体部は直立ぎみに立ち上がっている。土師器甕は濃尾型甕（121・122）がある。本資料には混入と推測される山茶碗類（124～128）なども一定量が含まれている。

ＳＢ10出土遺物（第80図129～158）須恵器杯蓋は134を除き概ね高蔵寺2号窯式に位置づけられるが、須恵器杯身は折戸10号窯式の資料（153）が認められる。須恵器高杯（139～142）は東山15号窯式に属するもので、別遺構の資料が混入したものであろう。土師器甕は7世紀代の伊勢型甕（156）があるが、系譜が不明のもの（154・155）も含まれる。本資料群にも山茶碗（158）が混入していた。

ＳＢ11出土遺物（第81図159～177）須恵器杯類は高蔵寺2号窯式または鳴海32号窯式と思われる資料である。170は猿投窯産ではないものと思われる。土師器杯身（168）は内面にススが付着する畿内系土師器で、ミガキなどの調整痕は不明瞭である。土師器甕は濃尾型甕（174）がある。

ＳＢ12出土遺物（第81図178～189）須恵器杯類は概ね鳴海32号窯式に属し、須恵器鉢（185）が高蔵寺2号窯式に、須恵器無蓋高杯（186）が東山44号窯式に位置づけられやや古くなっている。180は猿投窯産ではないと考えられる。土師器甕は濃尾型甕（187・188）である。山茶碗（189）が混入している。

ＳＢ13出土遺物（第81図190～198）須恵器はさまざまな器種が認められ、そのうち平瓶（194）が折戸10号窯式に属する。191は猿投窯産とは言いがたい。尾張型山茶碗（196・197）や中国産白磁皿（198）も含むことから、良好な一括資料とは評価できない。

ＳＢ14出土遺物（第81図199～211）須恵器杯類は高蔵寺2号窯式から折戸10号窯式までに属するものである。土師器甕は209が著しく古いものと思われるが、その他は濃尾型甕に属し、207は7世紀代、208は8世紀前半に位置づけられる。

ＳＢ17出土遺物（第82図212～214）須恵器杯身は口縁部のみが確認されたが、詳細な時期は特定できない。土師器甕（214）は濃尾型甕に属するかもしれない。

ＳＢ19出土遺物（第82図215～229）須恵器杯類は高蔵寺2号窯式から鳴海32号窯式に位置づけられるが、長頸瓶（224）のみが折戸10号窯式に属し灰釉が施されている。鉄鉢（222）は外面の自然釉が剥離しており、フラスコ形瓶（223）はやや古く東山50号窯式に属する。土師器甕（225～229）は伊勢型甕で7世紀以降に位置づけられる。

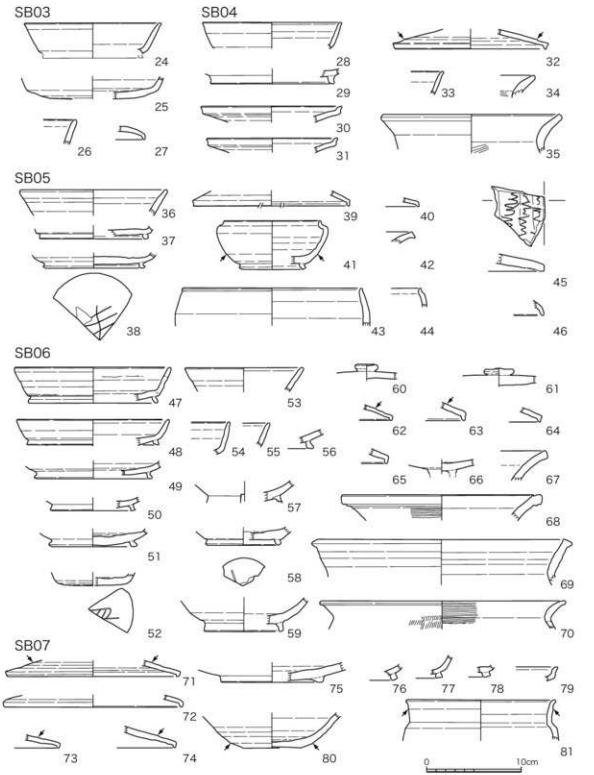
ＳＢ20出土遺物（第82図230～239）須恵器は東山50号窯式から鳴海32号窯式まで分布し時期にまとまりは認められない。土師器には製塩土器の脚部（239）が存在する。

ＳＢ21出土遺物（第82図240～248）須恵器杯類・平瓶（245）・鉢（246）は岩崎41号窯式から高蔵寺2号窯式に位置づけられるものが多数を占める。245はカマドから出土した瓶類で、平瓶かもしれない。土師器甕は伊勢型（247）と濃尾型（248）の両者が存在する。

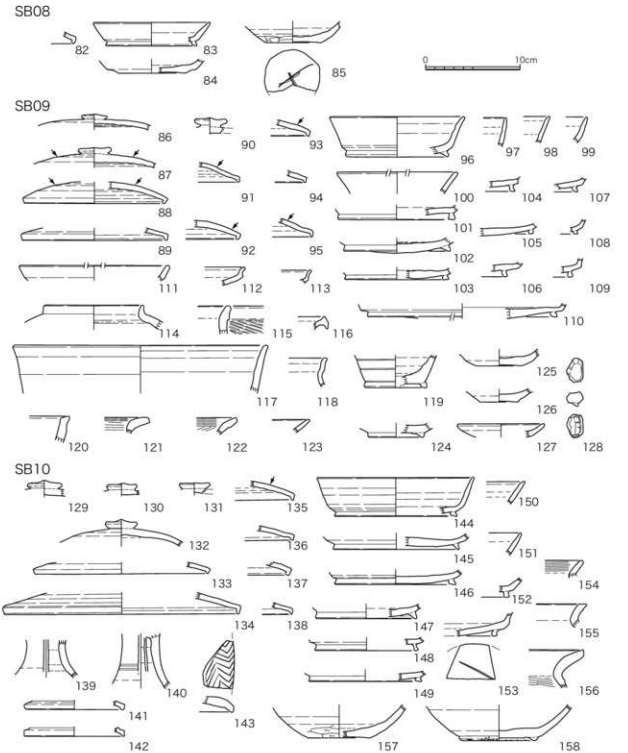
ＳＢ22出土遺物（第82図249～258）須恵器杯類は高蔵寺2号窯式から鳴海32号窯式に位置づけられる。須恵器高杯（257）と須恵器甑（258）は岩崎17号窯式に属する。

ＳＢ23出土遺物（第83図259～262）須恵器杯身（259）は高蔵寺2号窯式に、盤は折戸10号窯式に、甑は岩崎17号窯式に属し、時期はバラバラである。土師器杯身（260）は畿内系土師器と思われるが、表面は剥離していて残存状況は不良である。

ＳＢ24出土遺物（第83図263～279）須恵器杯類は高蔵寺2号窯式から鳴海32号窯式に属



第 79 図　竪穴建物跡出土遺物（1）

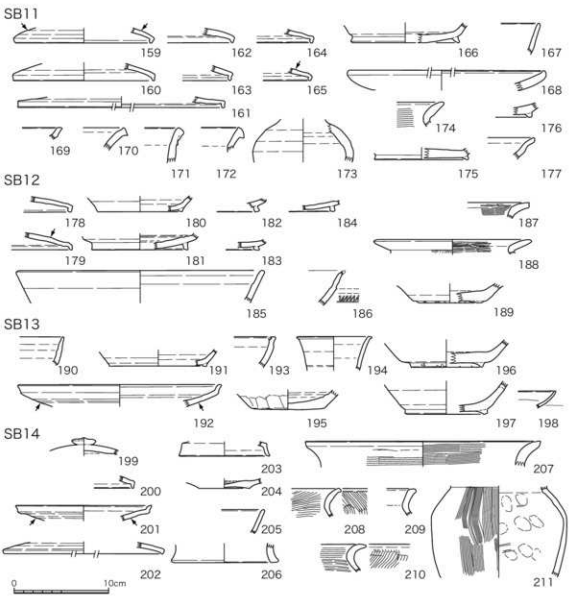


第 80 図　竪穴建物跡出土遺物（2）

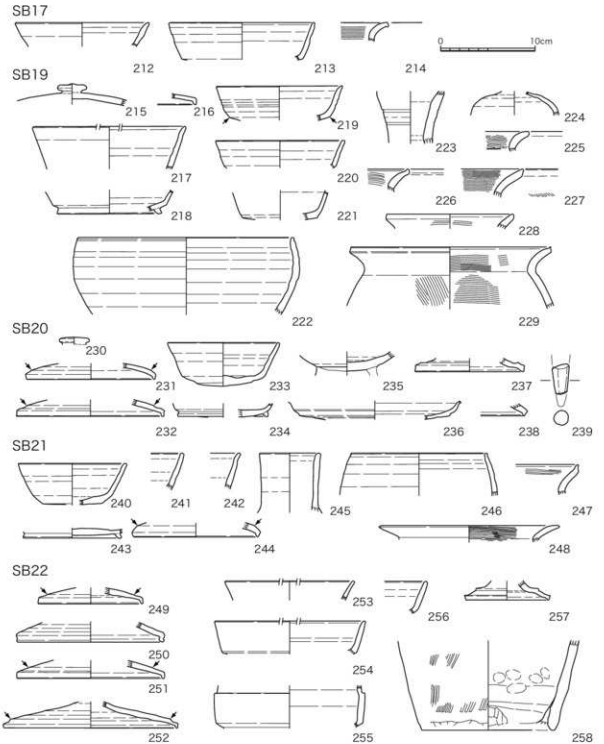
する。折戸10号窯式に位置づけられる資料もあるが、これらは建物跡内の遺構ＳＫ01やＰ５から出土したものであり、これらの遺構はＳＢ24の内部施設ではない可能性も考えられる。土師器甕は伊勢型（279）と濃尾型（278）の両者が存在する。

ＳＢ25出土遺物（第83図280～298）　須恵器は杯蓋がやや多く出土し、多くは高蔵寺２号窯式に属するが、鳴海32号窯式と思われるもの（286～288）があり、杯身は折戸10号窯式に位置づけられるもの（292）が混じる。293は底部外面に「十」と記された刻書が存在する。土師器甕（298）の底部外面には木葉痕が残存している。

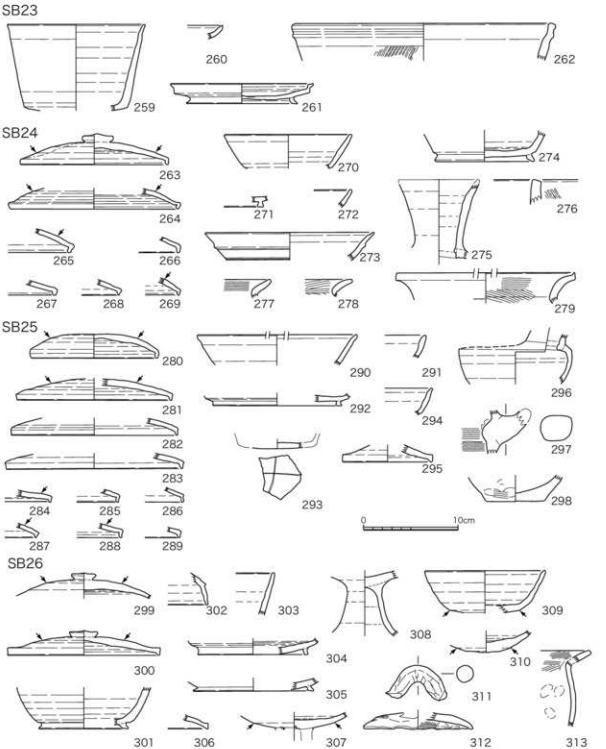
ＳＢ26出土遺物（第83図299～313）　須恵器杯身（301・304）と杯蓋（299・300）などは折戸10号窯式に属するが、他の須恵器には東山44号窯式から岩崎17号窯式に位置づけられるものが多い。土師器には三河型甕（313）の他に蓋が存在する。312は蓋の口縁部、311は蓋の摘みであり、両者は完全には接合しなかったが同一個



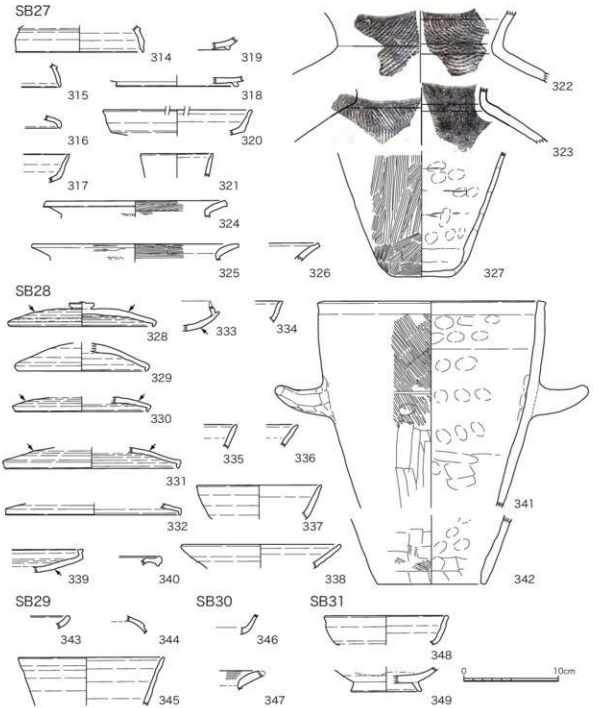
第81図　竪穴建物跡出土遺物（３）



第 82 図　竪穴建物跡出土遺物（4）



第 83 図　竪穴建物跡出土遺物（5）



第 84 図　竪穴建物跡出土遺物（6）

体と考えられる。手づくねで製作され胎土は黒ずんだ色を呈している。

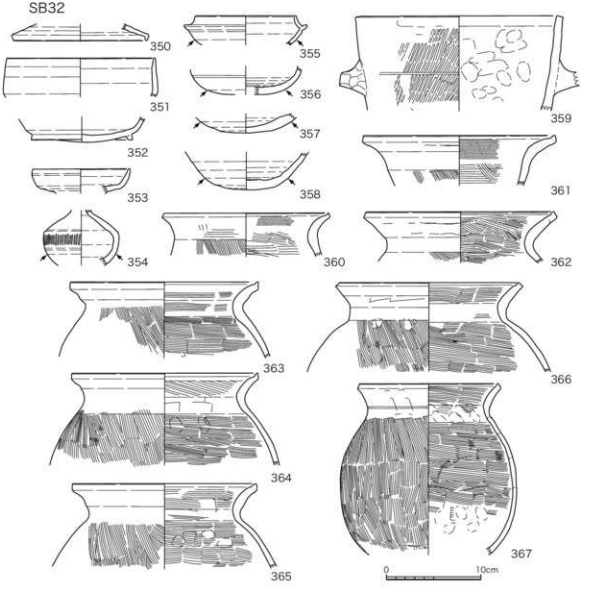
ＳＢ 27 出土遺物（第 84 図 314 ～ 327）　須恵器は時期的にバラバラで鳴海 32 号窯式に属するものが最も新しく、平瓶（321）や甕頸部（322・323）などの器種もある。323 は美濃須衛窯産のものと思われる。カマドから出土した土師器甕（324・325・327）はいずれも濃尾型甕である。

ＳＢ 28 出土遺物（第 84 図 328 ～ 342）　須恵器杯蓋と盤は概ね高蔵寺２号窯式から鳴海 32 号窯式に位置づけられる。328 と 329 は建物跡北西部から出土した。須恵器甑（341・342）は岩崎 17 号窯式に属し建物跡南西部から出土した。

ＳＢ 29 出土遺物（第 84 図 343 ～ 345）　出土遺物は少ない。須恵器無蓋杯身（345）が高蔵寺２号窯式に属する。

ＳＢ 30 出土遺物（第 84 図 346 ～ 347）　出土遺物は少ない。土師器甕は濃尾型のみが認められ、所属時期は８世紀台と思われる。

ＳＢ 31 出土遺物（第 84 図 348 ～ 349）　出土遺物は少ない。百代寺窯式に属する灰釉陶器碗（349）が存在する。



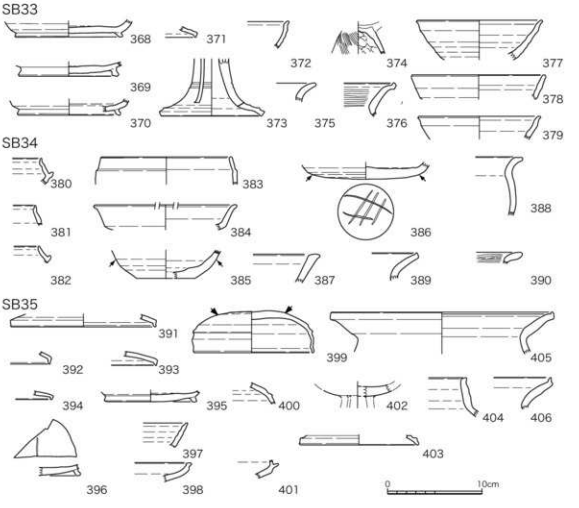
第 85 図　竪穴建物跡出土遺物（７）

ＳＢ 32 出土遺物（第 85 図 350 ～ 367）　高蔵寺２号窯式に属する須恵器杯身（350）と杯蓋（352）が存在するが、それ以外の大部分の須恵器は東山 44 号窯式前後に位置づけられる。土師器甕（360 ～ 367）は口縁端部を上方に摘まみ上げる伊勢型のみが認められた。頸部から口縁部が肥厚する特徴を持ち、内面に横方向のハケ調整、外面に縦方向のハケ調整が残存しており、所属時期は７世紀後半から８世紀初頭までと思われる。口縁端部の摘まみ上げが強いもの（360 ～ 365）と弱いもの（366・367）に分けることができる。

ＳＢ 33 出土遺物（第 86 図 368 ～ 379）　須恵器杯類は概ね高蔵寺２号窯式に属する。350 は東山 44 号窯式前後に位置づけられる高杯、351 は古墳時代に属する台付甕であり、明らかに古い混入遺物である。土師器甕は伊勢型（376）と濃尾型（375）の両者が存在する。

ＳＢ 34 出土遺物（第 86 図 380 ～ 390）　須恵器杯身は東山 44 号窯式に属し、その他の器種も７世紀代に位置づけられる。386 は須恵器壺類で、底部外面に刻書が施されている。土師器甕は伊勢型（389）と濃尾型（390）の両者が存在する。388 は宇田型甕の新しい時期のものと思われる。

ＳＢ 35 出土遺物（第 86 図 391 ～ 406）　須恵器杯身と杯蓋の多くは高蔵寺２号窯式に属するが、内部施設出土資料を中心に東山 44 号窯式のものなども含まれる。土師器甕は伊勢型（406）であり、東山 44 号窯式に伴う資料と考えられる。



第 86 図　竪穴建物跡出土遺物（８）

ＳＢ 36 出土遺物（第 87 図 407 ～ 423） 須恵器は多くが岩崎 17 号窯式と高蔵寺２号窯式に属する。杯類の他に高杯（418）や平瓶（422）などがある。土師器甕は８世紀後半に位置づけられる濃尾型（421）と伊勢型の可能性があるもの（420）がある。

ＳＢ 37 出土遺物（第 87 図 424 ～ 427） 須恵器は東山 15 号窯式の杯蓋（424）と東山 44 号窯式の杯蓋(425)および東山 15 号窯式の杯身(426)と東山 44 号窯式の杯身（427）がある。この他にカマドに使用された土師器甕の体部片が存在するが、図示できなかった。

ＳＢ 40 出土遺物（第 87 図 428 ～ 429） 出土遺物は少ないが、須恵器杯蓋は折戸 10 号窯式に属するものである。

ＳＢ 47 出土遺物（第 87 図 434 ～ 438） 434 ～ 436 はカマドから出土した資料で６世紀後半に位置づけられる須恵器杯身と杯蓋である。437 と 438 は覆土から出土した資料で、438 は８世紀代の畿内系土師器杯身である。

ＳＢ 48 出土遺物（第 87 図 430 ～ 433） 須恵器杯蓋は高蔵寺２号窯式（430・431）や鳴海 32 号窯式（435）に属するが、土師器甕は伊勢型で６世紀台に位置づけられる。

ＳＢ 49 出土遺物（第 87 図 439 ～ 442） 内部施設ＳＫ 01 からは東山 44 号窯式に属する須恵器杯蓋（439）が出土したが、他の須恵器杯蓋（440）は鳴海 32 号窯式に、須恵器杯身（441）は高蔵寺２号窯式に属する。

ＳＢ 50 出土遺物（第 87 図 443 ～ 453） 須恵器杯類は大半が東山 44 号窯式に属し、一部に混入遺物と思われる新しいもの（447）がある。土師器碗（450）は、同種の遺物にしては大きく遺存するものである。焼成が甘く、底部外面はヘラケズリ調整と思われるがはっきりしない。土師器甕は（452・453）は伊勢型甕である。

ＳＢ 51 出土遺物（第 87 図 454 ～ 455） 須恵器杯身（454）と伊勢型の土師器甕（455）があり、両者とも６世紀後半に位置づけられる。

ＳＢ 56 出土遺物（第 88 図 456 ～ 464） 須恵器杯身（458）は岩崎 41 号窯式に、杯蓋（456）は高蔵寺２号窯式に属する。須恵器は杯類以外の製品がやや多く、すり鉢（459）や甕（463）などがある。土師器甕は伊勢型（461・462）と濃尾型（464）の両者が存在し、前者は７世紀代、後者は８世紀初頭に位置づけられる。

ＳＢ 57 出土遺物（第 88 図 465 ～ 473） 須恵器には杯蓋と長頸瓶などがあり、多くは折戸 10 号窯式に属する。土師器甕は濃尾型（472・473）のもののみである

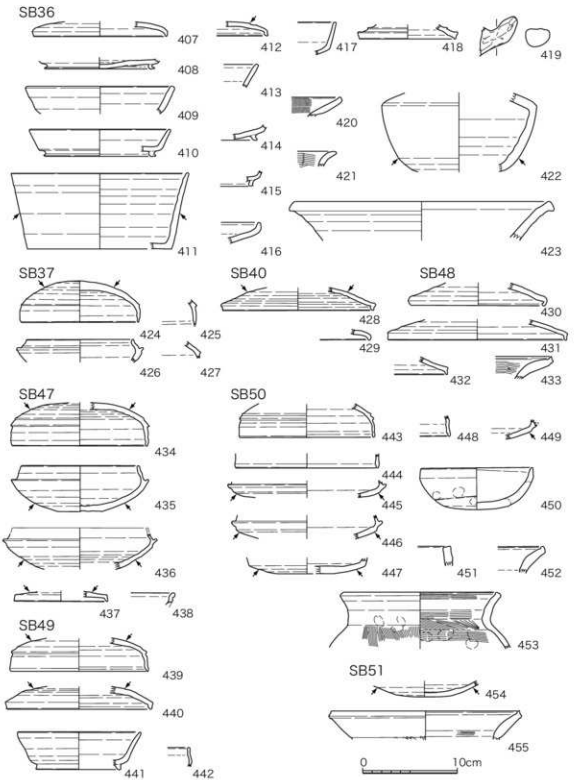
ＳＢ 58 出土遺物（第 88 図 474 ～ 491） 出土遺物には須恵器杯類が多く、詳細な時期の判別ができるものは大半が高蔵寺２号窯式に属するものである。この他に須恵器平瓶（486）、須恵器直口壺（489）、畿内系土師器皿（487）、濃尾型土師器甕（490・491）などがある。須恵器甕（488）は表面に縄席紋、裏面に円弧紋のタタキ調整が残存している。

ＳＢ 59 出土遺物（第 88 図 492 ～ 504） 須恵器杯身（493 ～ 495）は８世紀前半に、須恵器杯蓋（492）は美濃須衛窯産のもので７世紀後半に位置づけられる。須恵器短頸壺（496）は口縁端部に自然釉がかかる。498 は表面がやや摩耗しスが付着した須恵器口縁部で、６世紀頃の高杯などと思われる。土師器甕は伊勢型（501・503・504）と濃尾型（502）の両者が存在し、前者は７世紀代、後者は８世紀代に位置づけられる。

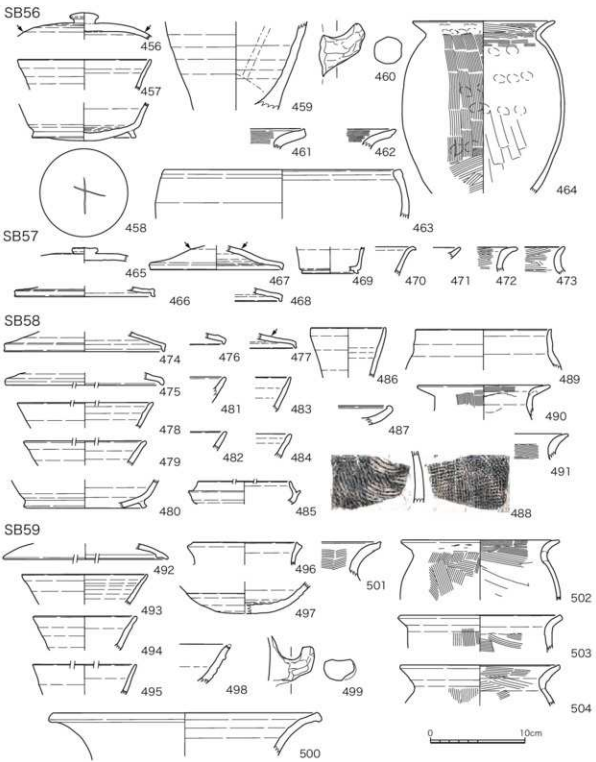
ＳＢ 60 出土遺物（第 89 図 505 ～ 519） 須恵器杯類は高蔵寺２号窯式と鳴海 32 号窯式に属するものであり、その他の須恵器にははそう（513）、横瓶（516）、短頸壺（518）、壺（517）が存在する。土師器甕（514・515・519）は伊勢型に属するもののみで、概ね７世紀代に位置づけられよう。

ＳＢ 61 出土遺物（第 89 図 520） 須恵器杯身が出土しているが、詳細な時期は不明である。

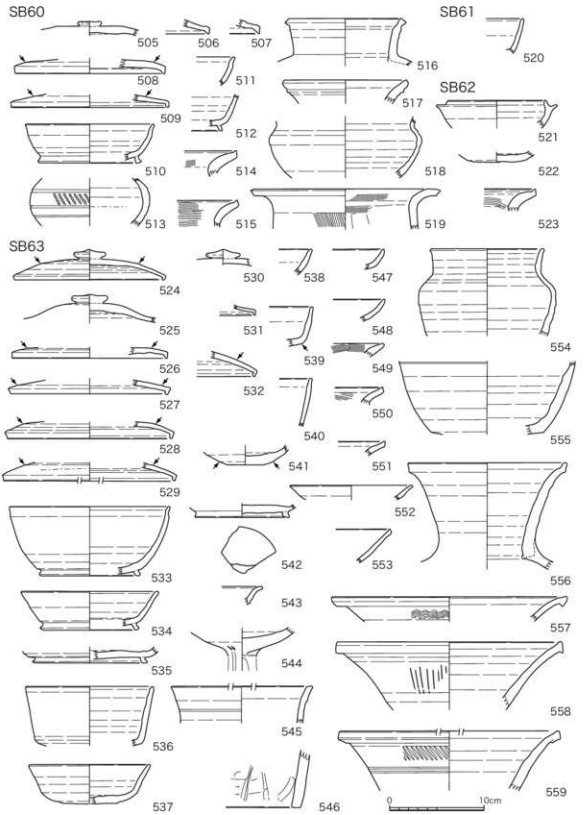
ＳＢ 62 出土遺物（第 89 図 521 ～ 523） 須恵器杯身（521）は東山 50 号窯式に属し、土師器甕（523）は伊勢型に属する。



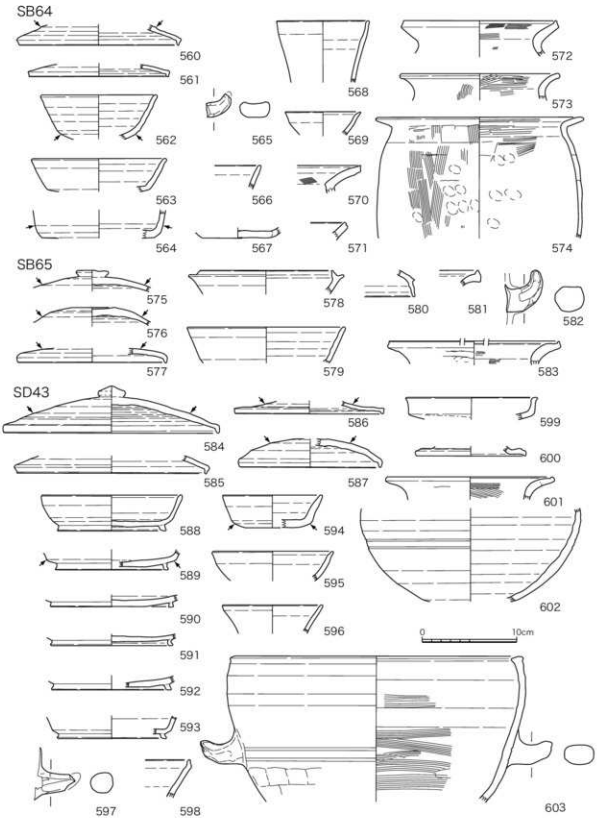
第 87 図　竪穴建物跡出土遺物（9）



第 88 図　竪穴建物跡出土遺物（10）



第 89 図　竪穴建物跡出土遺物（11）



第 90 図　竪穴建物跡・溝 S D 43 出土遺物

ＳＢ63出土遺物（第89図524～559）　須恵器がやや多く出土している。杯類は大半が高蔵寺２号窯式に属するが、一部に岩崎41号窯式と思われるもの（535・537）がある。この他に須恵器は高杯（543・544）、壺（554）、甕（546）、平瓶（555）、提瓶（556）、甕（557～559）などがある。土師器には、畿内系土師器杯身（547・548）と濃尾型甕（549）および伊勢型甕（550・551）がある。

ＳＢ64出土遺物（第90図560～574）　須恵器は高蔵寺２号窯式前後に位置づけられる杯類の他に甕（565）や平瓶（568）などがある。他の遺構に比べ土師器が多く、甕は伊勢型（570・572）と三河型（573・574）の両者が存在する。

ＳＢ65出土遺物（第90図575～583）　須恵器には杯身・杯蓋・甕などがあるが、その所属時期はバラバラである。土師器甕（583）は伊勢型に属する。

ＳＤ43出土遺物（第90図584～603）　須恵器が比較的多量に出土しており、概ね高蔵寺２号窯式から鳴海32号窯式の範囲に属している。602は須恵器鉄鉢で８世紀に、603は表面に黄土が塗布された鍋か鉢で７世紀後半にそれぞれ位置づけられる。

ＳＫ66出土遺物（第91図604～623）　須恵器には杯身（606～610・612・613）と杯蓋（604・605）と碗（611）があり、大半は高蔵寺２号窯式に属し時期的によくまとまっている。土師器には製塩土器の杯部と甕（618～623）がある。製塩土器は器壁が非常に薄く被熱しており、わずかに外反するもの（614）と内彎気味に立ち上がるもの（615～617）がある。土師器甕は618が伊勢型に属する他は濃尾型であり、623の底部は平底となっている。

ＳＫ67出土遺物（第91図624～633）　須恵器杯身と杯蓋は全て鳴海32号窯式に属するが、土師器甕は全て８世紀代に位置づけられ、伊勢型（628）と濃尾型（629～631）の両者が存在する。製塩土器の杯部（633）も確認されている。

ＳＫ64出土遺物（第91図634～635）　須恵器杯身（635）と杯蓋（634）があり、高蔵寺２号窯式に属する。

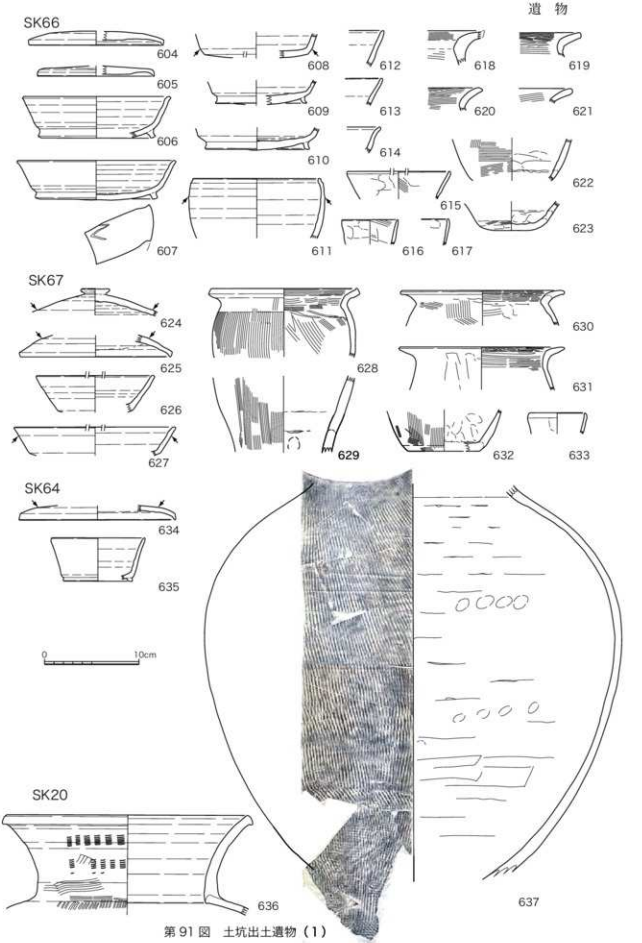
ＳＫ20出土遺物（第91図636～637）　須恵器甕のみが存在する。636と637は黄土が塗布され、タタキ調整されているが、両者は接合しない。

遺構外出土遺物（第92図638～648）　ここでは、古代に位置づけられる遺構以外から出土した古代の遺物の中で特徴的な資料を紹介する。須恵器には口径が40cmを超える鉢（642）、脚部に透かしを持つ円面硯の小片（643）、鍾（644）などが存在する。639は図示していないが内面に「十」と記された刻書を持つ須恵器杯蓋である。一方、土師器には置きカマド片（645）、清郷型鍋（646）、脚部片（647）などがある。

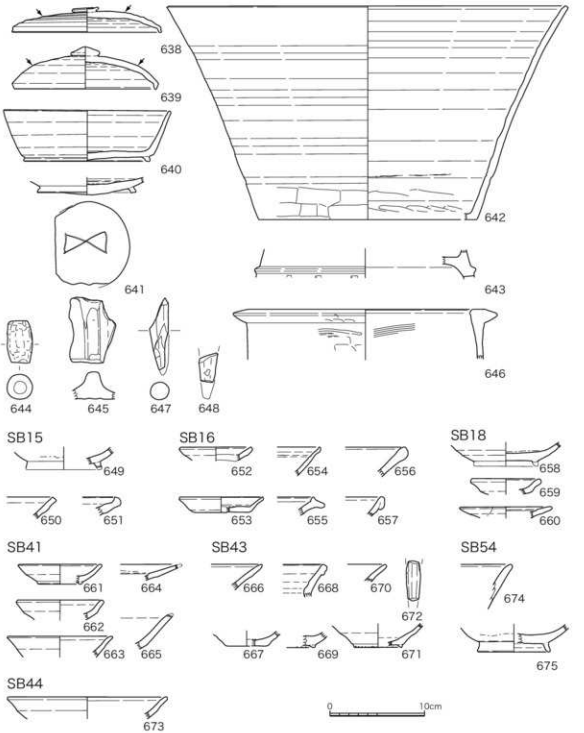
（３）中世

中世の焼物には陶磁器と土器が存在する。陶器は無釉陶器である山茶碗類と瀬戸窯産の施釉陶器（古瀬戸）と常滑窯産陶器などがあり、磁器は中国産の輸入品のみである。山茶碗類は尾張型と東濃型の二者が大多数を占め、わずかに渥美湖西型が存在する程度である。器種は山茶碗、小皿が多く、片口鉢・羽釜・陶丸・子持器台なども認められる。土師器は皿と鍋類が最も多く、皿は底部に回転糸切痕が残るロクロ調整皿と残らない非ロクロ調整皿、鍋類は甕形の体部に口縁端部を内側に折り返す南伊勢系鍋と内彎型羽釜に分けることができる。

ＳＤ11出土遺物（第93図676～735）　遺物は上層から中層にかけて多く出土した。山茶碗類が大半を占め、土師器は小片が存在するのみで図化できない程度であった。山茶碗類には山茶碗・小皿・片口鉢・羽釜・陶丸・子持器台などがあり、その多くは尾張型に属する。大部分は藤澤編年の第４型式～第６型式に位置づけられ、特に第５型式の資料が多い。山茶碗は口径15.2cm～16.4cmに分布し、口縁部が緩やかに外反するものが多い。677は尾張型第６型式、685と703は東濃型第５型式古段階、692は渥美・湖西型第５型式、693と694は東濃型に属すると思われる。



第 91 図　土坑出土遺物（1）



第 92 図　土坑・竪穴建物跡出土遺物

二次的に被熱し煤けたもの（694・706など）、判読できない墨痕が底部に残るもの（710）もある。小碗（711）は東山72号窯式、小皿（712～715）は第5型式～第6型式に位置づけられる。716は藤澤編年第4型式に位置づけられる子持器台で、台上の小杯は2個存在したと思われ、自然釉がたっぷりとかかる。底面は上部に対して斜めに切断され、回転糸切痕が認められる。片口鉢は口縁端部に面を持つもの（729・731）と丸くおさめるもの（730・732）がある。常滑窯産陶器の甕（719・720）、羽釜（732）は中野編年の2型式に属する。陶磁器類はこの他に常滑窯産陶器？の三筋壺（725）などの瓶類、平瓦（728）、龍泉窯系青磁皿（718）、灰釉陶器（707～709）などがある。

ＳＤ12出土遺物（第94図736～764）　山茶碗とその小皿が大半を占めており、磁器や土師器は小片が存在するのみで図化できない。山茶碗（736～756）は渥美・湖西型と推測されるもの（747）を除き尾張型で概ね藤澤編年の第5型式に位置づけられ、ＳＤ11出土遺物と比べれば時期的にまとまった資料である。山茶碗は口径14.4cm～16.2cmに分布し、口縁部は外反するもの（738など）と直線的に開くもの（736など）に区分できる。756は底部外面に「は」と記された墨書が認められる。小皿（757～760）も尾張型第5型式に属し、この他に丸瓦（764）と混入遺物と思われる須恵器などがある。

ＳＤ33出土遺物（第94図765～800）　山茶碗とその小皿が大半を占めており、磁器や土師器は極めて少ない。山茶碗（765～792）は東濃型のもの（777）と渥美・湖西型である可能性があるもの（786）を除き尾張型である。概ね藤澤編年の第5型式から第6型式に位置づけられ、口縁部を外反させ緩いS字状にするものが多い。この他に小皿（793～796）・片口鉢（797・799・800）などがある。

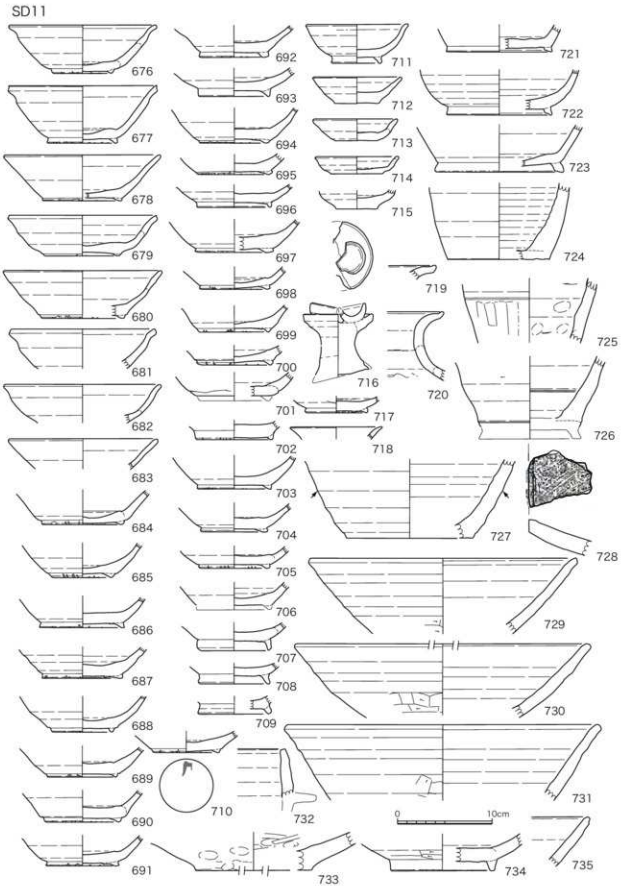
ＳＤ56出土遺物（第95図801～839）　山茶碗類が大多数を占めるが、土師器皿や中国産白磁なども少量含まれる資料群である。山茶碗（801～820）は東濃型のもの（810）を除き尾張型で、概ね藤澤編年の第5型式に位置づけられるが、第6型式に属するものもある。805は上部にススが付着している。山茶碗の破片を円盤状もしくは球状に打ち欠いた加工円盤（831～833）も認められる。小皿（821～828）尾張型で第5型式に属し、823は内面に自然釉がかかる。常滑窯産陶器には甕（834・835）、短頸壺（837）、三筋壺（838）羽釜（839）などがあり、中野編年の2型式に属する。土師器皿（829）は口縁端部が内彎気味に立ち上がるロクロ調整のもので、胎土は赤色系（明褐色）である。非ロクロ調整皿が出現する前の段階のもので12世紀後半に位置づけられよう。土師器鍋には南伊勢系鍋（836）があり、これは北村分類の鍋Ａ４ａ類に相当すると思われる。

ＳＤ04出土遺物（第96図840～857）　東濃型山茶碗、瀬戸窯産施釉陶器、常滑窯産陶器、中国産磁器、土師器などが存在する。東濃型山茶碗（840～843）は大畑大洞窯式から脇ノ島窯式に属するものである。施釉陶器は天目茶碗・灰釉緑釉小皿・直縁大皿・折縁深皿などがあり、概ね古瀬戸後Ⅲ期から古瀬戸後Ⅳ期に位置づけられるものである。中国産磁器には龍泉窯系青磁（852・854・856）があり、土師器には非ロクロ調整皿（853・855）と内彎型羽釜（857）がある。

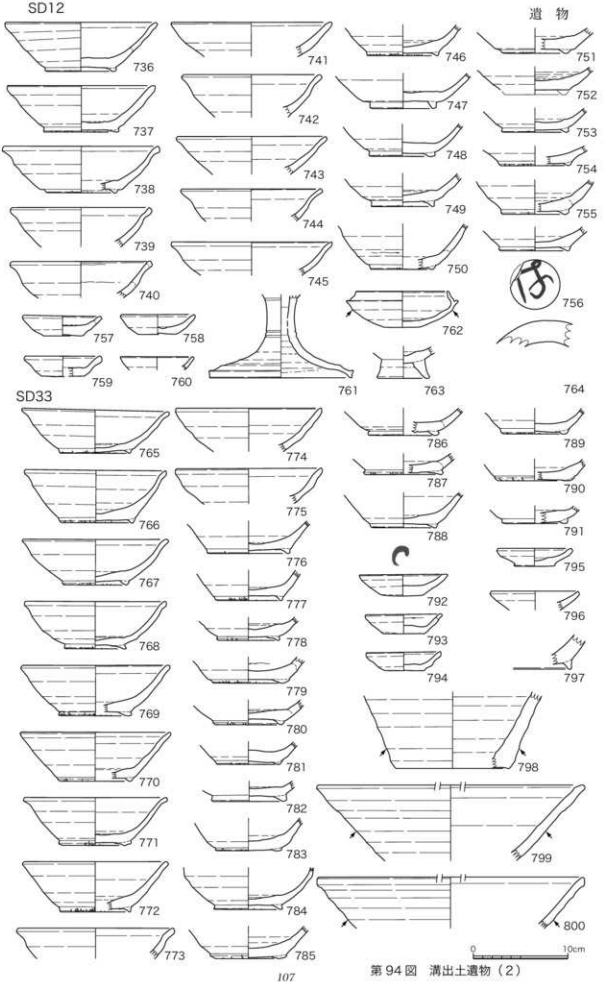
ＳＤ05出土遺物（第96図858～863）　尾張型山茶碗（858・860）、東濃型山茶碗（859）、尾張型小皿（861）、瀬戸窯産陶器天目茶碗（862）・柄付片口（863）などがあり、遺物の時期はバラバラであるが、最新資料は古瀬戸後Ⅳ期古段階に位置づけられる天目茶碗である。

ＳＤ07出土遺物（第96図864～866）　尾張型山茶碗と第4型式に属する小皿があるが、古瀬戸後Ⅳ期古段階に位置づけられる瀬戸窯産陶器灰釉緑釉小皿が最新資料となる。

ＳＤ08出土遺物（第96図867～890）　ＳＤ08は古代の遺構を大きく壊しているためか、須恵器などを多く含む多量の遺物が出土している。


SD11
676
677
678
679
680
681
682
683
684
685
686
687
688
689
690
691
692
693
694
695
696
697
698
699
700
701
702
703
704
705
706
707
708
709
710
711
712
713
714
715
716
717
718
719
720
721
722
723
724
725
726
727
728
729
730
731
732
733
734
735
0
10cm

第 93 図　溝出土遺物（1）

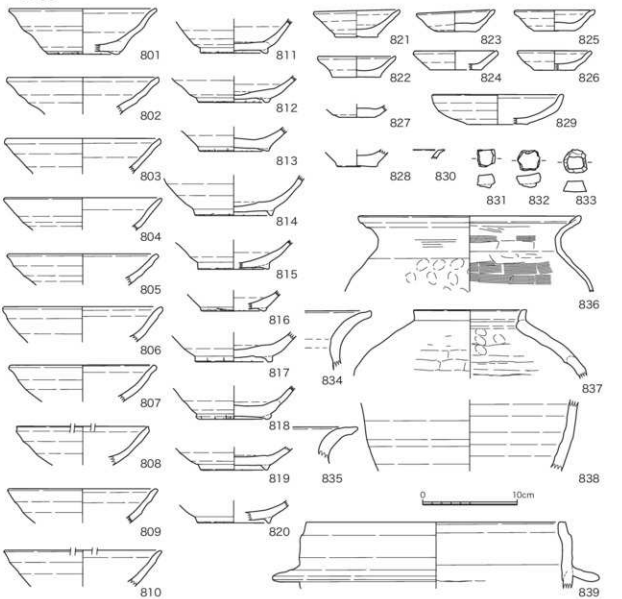

SD12
遺 物
SD33
736
737
738
739
740
741
742
743
744
745
746
747
748
749
750
751
752
753
754
755
756
757
758
759
760
761
762
763
764
765
766
767
768
769
770
771
772
773
774
775
776
777
778
779
780
781
782
783
784
785
786
787
788
789
790
791
792
793
794
795
796
797
798
799
800
10cm

第 94 図　溝出土遺物（2）

ここでは代表的な遺物を紹介する。山茶碗類には第６型式前後の尾張型山茶碗（867 ～ 869）、大畑大洞窯式の東濃型山茶碗（871 ～ 873）、尾張型小皿（870）などがあり、瀬戸窯産陶器には平碗（874）、天目茶碗（875・876）、緑釉小皿（877）、緑釉卸皿（878）、香炉（884・885）、釜か土瓶（886）などが存在し、古瀬戸中Ⅳ期（緑釉卸皿）から古瀬戸後Ⅳ期古段階（平碗）までの各時期にわたっている。この他に中国産白磁玉縁碗（887）や常滑窯産陶器羽釜（882）なども出土した。

ＳＤ 10 出土遺物（第 96 図 891 ～ 897）　本遺構は近世に属すると推測したが、出土遺物には中世に属するものが多くなっている。古瀬戸後Ⅳ期古段階の折縁深皿（895）や土師器内湾型羽釜（896）がみられる。

ＳＤ 14 出土遺物（第 97 図 898 ～ 907）　第４型式から第５型式に属する尾張型山茶碗と小碗が主体を占め、この他に白磁皿（906）と軟質白色土器碗（907）がある。



第 95 図　溝出土遺物（３）

ＳＤ18出土遺物（第97図912～914）　第５型式前後に属する尾張型山茶碗（912・914）と白磁端反碗（913）がある。

ＳＤ17出土遺物（第97図915～921）　第５型式前後に属する尾張型山茶碗と尾張型小皿があり、919の底部には墨書が認められる。

ＳＤ19出土遺物（第97図922～935）　ＳＤ17出土遺物と同様、第５型式前後に属する山茶碗類が多数を占め、この他に灰釉陶器碗（926～928）や中国産白磁玉縁碗（935）などが存在する。

ＳＤ29出土遺物（第97図937～940）　近世の遺構と考えられるが、中世の遺物が若干量出土した。尾張型山茶碗（937）と東濃型山茶碗（938）の他に瀬戸窯産陶器祖母懐茶壺の耳部（940）と土師器南伊勢系鍋（939）がある。

ＳＤ32出土遺物（第97図944～953）　尾張型山茶碗と東濃型山茶碗の両者が存在するが、時期にまとまりは認められない。土師器には内彎型羽釜（953）南伊勢系鍋（950）の両者がある。

ＳＤ39出土遺物（第97図957～963）　山茶碗類には、尾張型山茶碗と小皿と東濃型山茶碗があり、958は高台が無い第８型式に属するものと思われる。962は非ロクロ調整土師器皿で器壁は非常に薄く、口縁部が屈曲し受口状になっている。尾張地域では類例が認められないタイプで伊勢地域の影響を受けたものと推測される。963は瀬戸窯産陶器盤類で古瀬戸後期前半に位置づけられよう。

ＳＤ30（ＳＤ40）出土遺物（第97図941・967～969）　出土遺物は少量である。第５型式前後に属する尾張型小皿（967）、北村分類の鍋Ａ３類に属する土師器南伊勢系鍋（968）、古瀬戸前Ⅰａ期に位置づけられる瀬戸窯産灰釉四（三）耳壺（969）が存在する。古瀬戸前Ⅰａ期の遺物が出土するのは珍しいといえる。

ＳＸ04出土遺物（第98図977～979）　山茶碗や小皿など多量に陶器類が出土しているが、ここでは片口鉢のみを紹介する。口径が30cm前後を測るもので、口縁端部に面取りが認められ、中野編年の２型式に属するものと思われる。

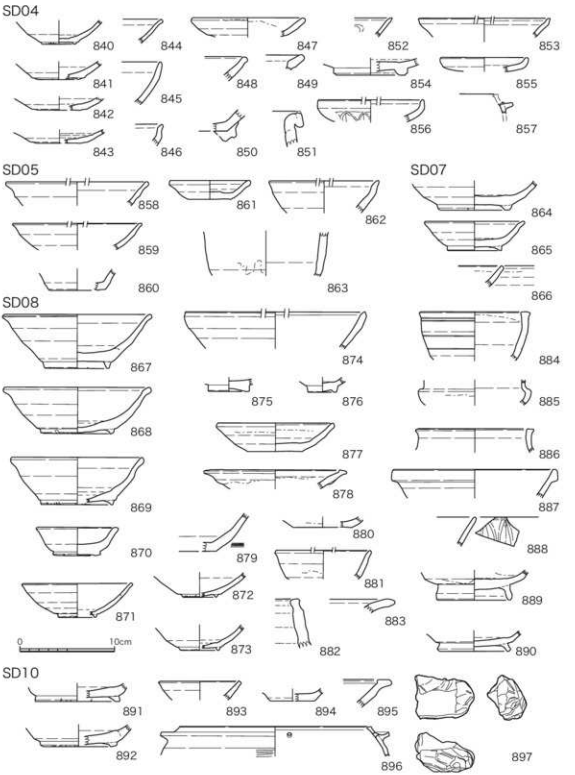
ＳＸ05出土遺物（第98図980～986）　ロクロ調整土師器皿２点（980・981）と常滑窯産陶器片を利用した加工円盤（982）とガラス小玉４点（983～986）が存在する。土師器皿は体部が短く立ち上がる小型のもので、胎土は赤色系（明褐色）である。尾張地域で非ロクロ調整皿が出現する以前の12世紀代のものと思われる。ガラス小玉は大半がＳＸ05内の焼土を含む覆土を篩別して抽出した資料で、明るい青色を呈している。

その他の遺構出土遺物（第98・99図987～1038）　柱穴などの遺構から少量出土した資料を一括して紹介する。須恵器、灰釉陶器、山茶碗類、瀬戸窯産施釉陶器、土師器など多種多様なものが存在する。987は古瀬戸中Ⅲ期に属する灰釉折縁深皿、993は中国産白磁皿、1033は常滑窯産陶器三筋壺体部、1034は白色軟質陶器碗であり、1036の尾張型小皿と1038の東濃型小皿の底部外面には墨書が存在する。

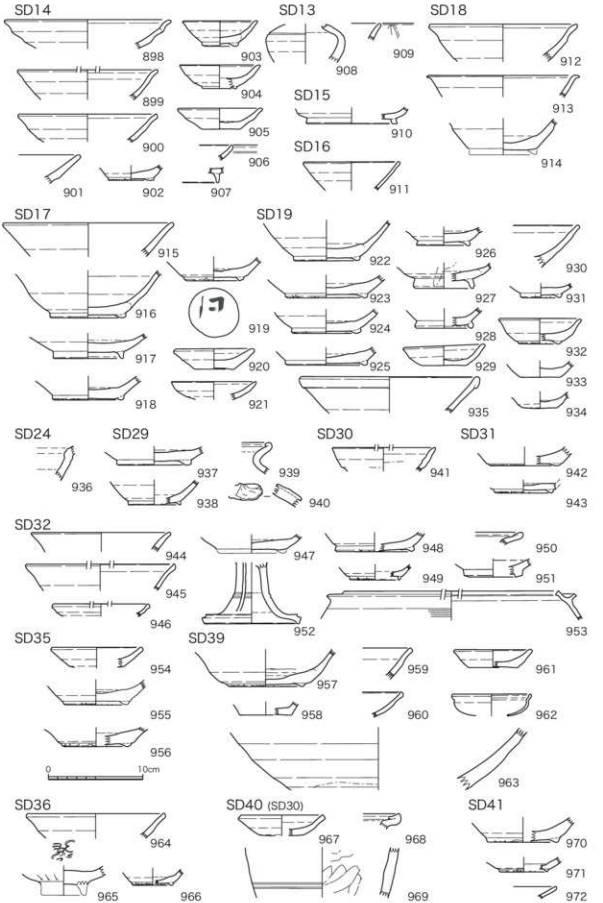
（４）近世

近世の焼物には陶磁器と土器および瓦類が存在する。陶器は瀬戸・美濃・常滑の各窯で産出されたもの、磁器には肥前・瀬戸・関西系の各窯産のものが出土しており、器種は多様である。土師器は中世と同様に皿と鍋類が主体となる。

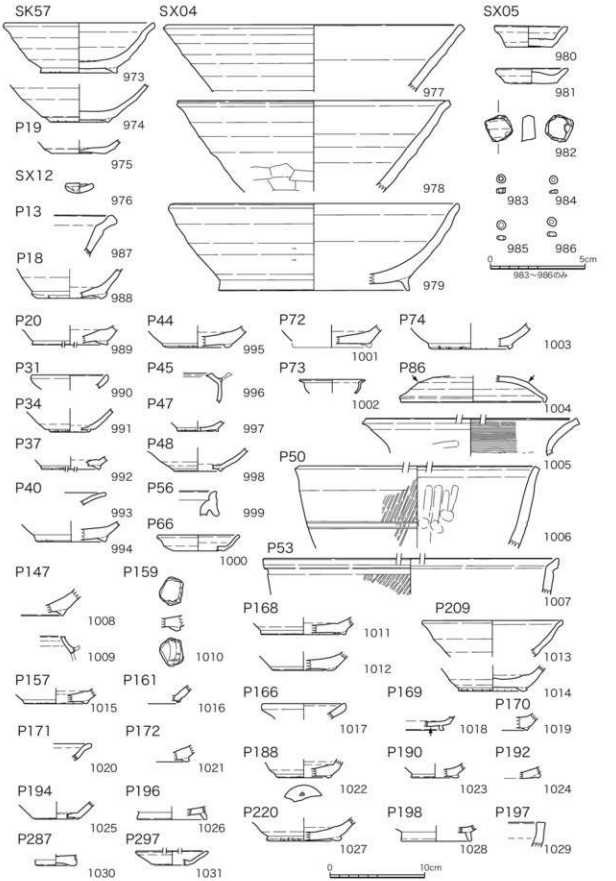
ＳＫ37出土遺物（第100・101図1039～1061）　陶器には肥前窯産灰釉丸碗（1039・1040）、瀬戸窯産染付丸碗（1041）、美濃窯産染付広東茶碗（1042）、瀬戸窯産再興織部蓋（1047）、瀬戸窯産徳利（1050）、瀬戸窯産擂鉢（1051・1052）、瀬戸窯産こね鉢（1053）、瀬戸窯産火鉢（1054）などがある。磁器には肥前窯産白磁丸碗（1045）、肥前窯産染付丸碗（1046）、関西系窯産？染付広東茶碗（1043・1044）、瀬戸窯産染付小碗（1048）などがある。これらを瀬戸美濃窯産の製品でみると、陶器染付丸碗がやや古く位置づけられるが、その他の製品は概ね第９小期から第11小期に属するものである。瓦には桟瓦（1056・


SD04
840
841
842
843
844
845
846
847
848
849
850
851
852
853
854
855
856
857
SD05
858
859
860
861
862
863
SD07
864
865
866
SD08
867
868
869
870
871
874
875
876
877
878
879
880
881
882
883
884
885
886
887
888
889
890
0
10cm
SD10
891
892
893
894
895
896
897

第 96 図　溝出土遺物（4）


SD14
898
899
900
901
902
903
904
905
906
907
SD13
908
909
SD15
910
SD16
911
SD18
912
913
914
SD17
915
916
917
918
SD19
919
920
921
922
923
924
925
926
927
928
929
930
931
932
933
934
935
SD24
936
SD29
937
938
939
940
SD30
941
SD31
942
943
SD32
944
945
946
947
948
949
950
951
952
953
SD35
954
955
956
0
10cm
SD39
957
958
959
960
961
962
963
SD36
964
965
966
SD40 (SD30)
967
968
969
SD41
970
971
972

第 97 図　溝出土遺物（5）



第 98 図　柱穴等出土遺物

1057）と熨斗瓦（1055）があり、19世紀代のものと思われる。常滑窯産陶器としては井筒が4個体分出土した。1058～1060は体部がまっすぐ直線的に立ち、口縁部がL字状に屈曲して終わるものである。外面にはケズリ調整の痕跡が残る他に施紋などは認められない。一方、1061は口縁部が遺存しないが体部上方でややふくらみを持つもので結物の箍を模倣した紋様が刻線で施されている。両者とも赤物と呼ばれる焼成が甘い製品であるが、後者はやや焼成が良い製品である。1058～1061がＳＫ37の井戸側に設置されたものと仮定すると、1061は補修などで追加されたものか、別の井戸の製品が投棄されたものと推測されよう。

ＳＫ39出土遺物（第101図1062～1065）

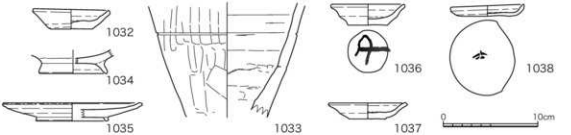
美濃窯産陶器瀬戸（1063）、瀬戸窯産陶器と推測される行平鍋（1064）、常滑窯産赤物甕（1065）などが存在する。

ＳＤ01出土遺物（第102図1066～1080）

瀬戸美濃窯産陶器と土師器が多く認められた。瀬戸美濃窯産陶器には半胴（1072・1077）、志野大皿（1075）、擂鉢（1076）などが存在し、この中で最も新しいと位置づけられるのは藤澤編年登窯第8～9小期に属する半胴（1072）である。陶磁器碗類の底部を円盤状に打ち欠いた加工円盤（1066～1068）も存在する。輸入陶磁器としては龍泉窯系青磁蓮弁紋碗（1073）と白磁碗（1078）がある。土師器には皿と内耳鍋と焙烙がある。土師器皿には口縁部にタールが付着したロクロ調整皿（1069）と非ロクロ調整皿（1070・1071）がある。土師器内耳鍋（1079）は体部がやや直立しながら立ち上がるもので、口縁端部が斜めに面を持ち、体部下半にヘラケズリ調整されたものである。18世紀後半以降に位置づけられよう。土師器焙烙（1080）は内耳部が折損しており、その代わりに同じ部分に焼成後に穿たれた孔が1個存在するものである。

ＳＫ58出土遺物（第102図1081～1093）

瀬戸窯産陶器腰錆碗（1081・1082）・染付丸碗（1083・1084）・擂鉢（1091）・半胴（1092）、美濃窯産陶器黄瀬戸鉢（1089・1090）、常滑窯産陶器井筒（1093）、土師器皿（1085～1087）・鍋（1088）などがある。擂鉢と黄瀬戸鉢が藤澤編年登窯第7小期前後、碗類が登窯第8～9小期に位置づけられる。土師器皿は肌色（淡黄褐色）の胎土を持つ非ロクロ調整皿（1085）、赤色（明褐色）の胎土を持ち体部が直線的に開くロクロ調整皿（1086）および白色（灰白色）の胎土を持ち体部が内彎するロクロ調整皿（1087）がある。



第99図　土坑出土遺物（2）

第3節　石製品（第103図1094～1099）

本遺跡から出土した石製品には砥石や石臼、石製模造品などがあるが、その出土量は少ない。ここでは石製品を一括して報告したい。

ＳＢ26からは滑石製模造品（1094）が1点出土した。半分が欠損し全形は不明だが、平面形が多角形状を呈し円形の孔が穿たれているものである。砥石（1095～1098）は中世の遺構から出土したものが多い。凝灰岩かそれに近似する石材が使用され、形状から平面形が長方形を呈するもの（1095）、バチ形を呈するもの（1096・1097）、隅丸長方形を呈するもの（1098）に分けることができる。1098は粗砥、1095～1097は仕上砥に近いと考えられる。挽臼の上臼（1099）は表土から出土した花崗岩製のもので、時期は特定できないため新しいものである可能性も残っている。

第4節　木製品

本遺跡では多くの木製品は腐食などして残存しなかったものと考えられ、出土した木製品は限られた遺構から出土したもののみである。具体的には、古代の掘立柱建物跡の柱穴から出土した柱根と近世の井戸から出土した木製品だけが確認された。ここでは遺構ごとに記述を進めていきたい。

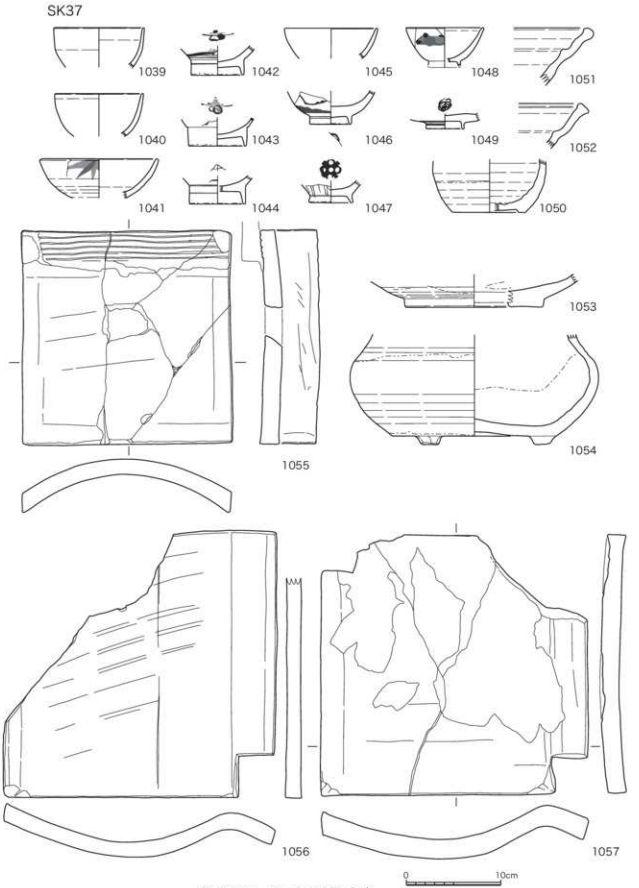
（1）古代（第105図1119～1120）

古代の木製品には掘立柱建物跡ＳＢ52の柱穴から出土した柱材のみが存在する。ＳＢ52の柱穴12基の中でＰ223、Ｐ224、Ｐ225、Ｐ226、Ｐ230、Ｐ231、Ｐ234の7基の柱穴から柱根が出土した。これは柱材が抜き取られることなく現地に残されたものであり、上位は腐食したため結果的に先端が尖る形に変形しているが、下部は本来の形状を維持して残存している。1119はＰ224から出土した柱根で、下端は先端を尖らせている。側面はチョウナのような工具で加工されたと思われるが、はっきりとは特定できない。1120はＰ231から出土した柱根で、下端は平坦に切断されたままの状態となっている。木材の芯部は腐食して残存していない。

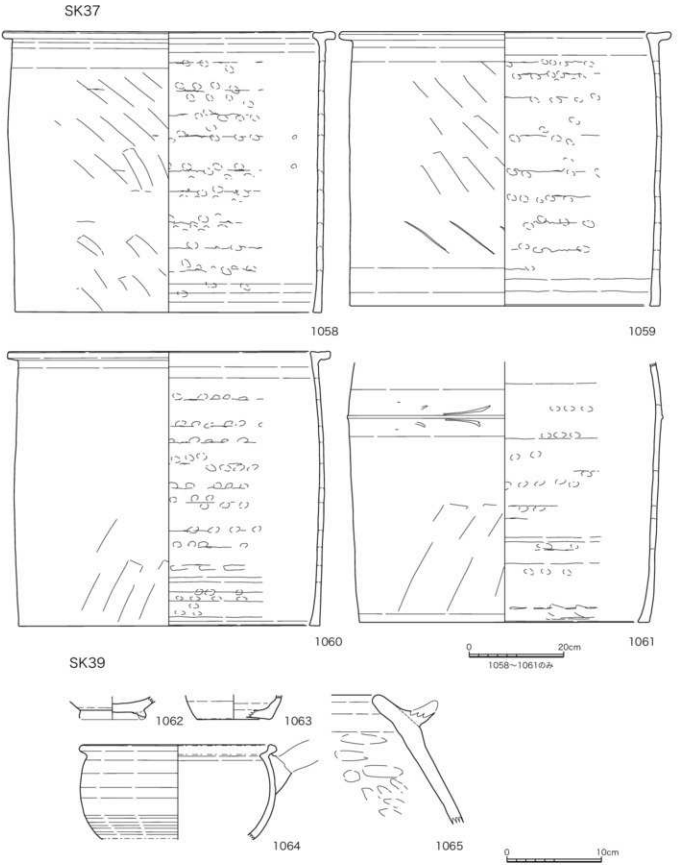
（2）近世

近世の木製品には井戸ＳＫ37とＳＫ58から出土した資料のみが存在する。この遺構ごとに説明を加える。

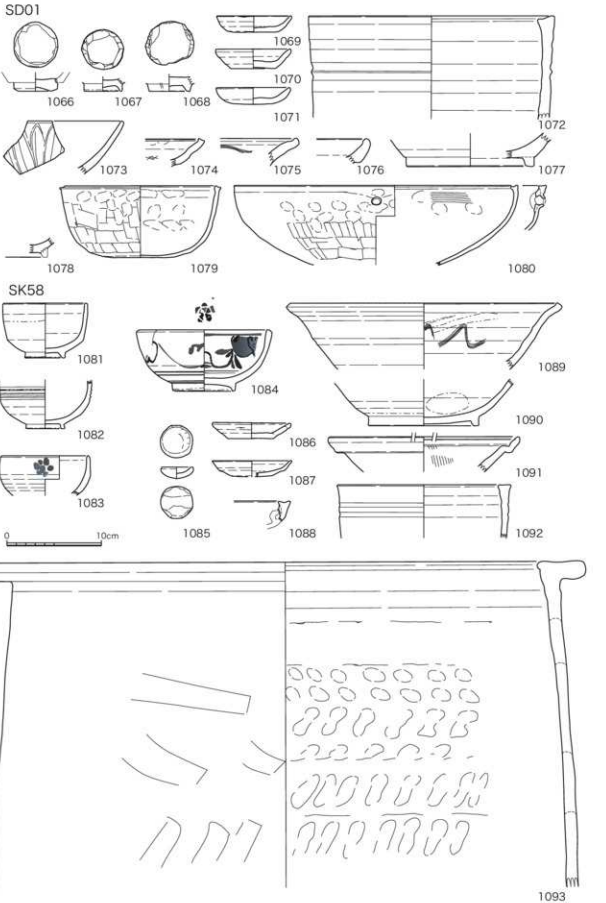
ＳＫ58出土遺物（第104・105図1100～1110・1112～1114）　横櫛、曲物桶、結物桶、楔、折敷、竹筒、刀子柄、結物井筒などがある。横櫛（1100）は、体部が下地に赤色漆、上塗に黒色漆が塗布され、歯部には金色の彩色が施されていた。桶底板（1101～1104）は板材を接ぎ合わせるための釘穴が存在するもので、これを重視すれば全て結物桶の底板と考えられる。ただし、1102は周縁に近い部分に桜皮を綴じ合わせた痕跡が残っており、これについては曲物桶の底板である可能性が高い。1102は板材を接ぎ合わせる面の釘穴部分に目印の傷が残存している。楔（1105）は表面が荒く削られたままの状態であり、結物井筒に使用されたものと想定される。折敷底板(1106)は一部のみが残存しており、かろうじて側板を固定するための孔が存在していた。竹筒（1107）は井戸底に突き刺されたもので、人工的に節の部分が打ち抜かれている。刀子柄（1108）は中子が入る部分の加工が認められないため、やや疑問が残る製品である。1109は円筒形に作られた製品で中央部に凹みが存在する。1110は常滑窯産陶器井筒の下位に円形に並べられた板材の一部である。裏面の調整痕は不明だが、表面には縦挽鋸で切断された痕跡が残存している。結物井筒は3点存在し、1112は上段、1113は中段、1114は下段に据えられたものである。いずれも腐食のため



第 100 図　井戸出土遺物（1）



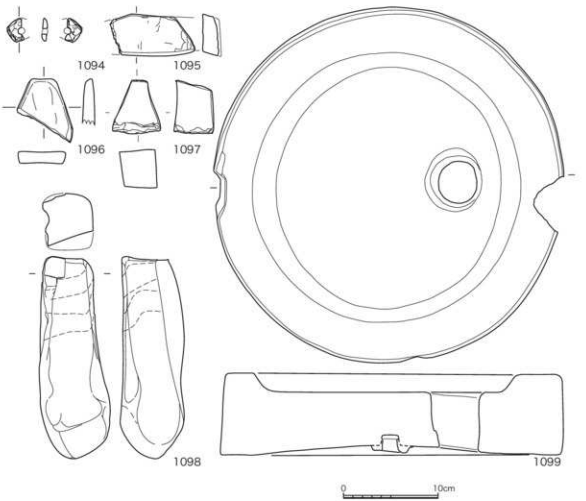
第 101 図　井戸出土遺物（2）



第 102 図　溝・井戸出土遺物

内面の加工痕は観察することが難しい。1112は14枚の側板で構成され、上部が腐食などによって欠損する。内外面はヤリガンナ状工具でやや丁寧に削られ、内面下端部は井筒を重ねるために薄く削られていた。1113も14枚の側板で構成され、内外面はヤリガンナ状工具でやや丁寧に削られているが、内面下端部には特別な削りは認められない。1114は20枚の側板で構成され、内外面はヤリガンナ状工具でやや丁寧に削られるのみであった。この他に木製品ではないが、布の破片が数点出土した（写真図版）。

ＳＫ37出土遺物（第104・105図1111・1115～1118）　横櫛、楔（1115）、板材（1111）などがある。横櫛は3点確認され、1116と1118は白木造り、1117は体部が下地に黒色漆、上塗に赤色漆が塗布され、部分的に金色の彩色が残存していた。



第103図　石製品

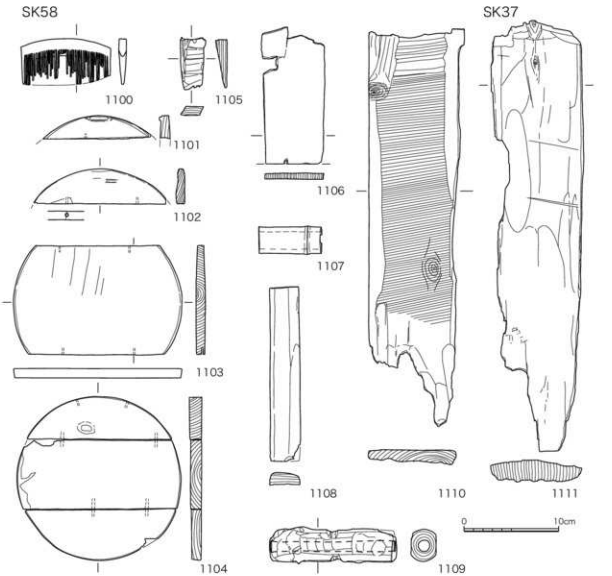
第５節　金属製品・金属関連遺物（第 106 図 1121 ～ 1137）

本遺跡では金属製品・金属関連遺物が 257 点出土しており、遺構から出土した資料も多い。ここでは遺構ごとに代表的な資料を紹介することで記述を進めていきたい。

（1）古代

古代の竪穴建物跡から鉄製品および鉄生産関連遺物がいくつか出土している。残念ながら、発掘調査を実施している時点で明瞭にこれらの資料を確認することができていないこと、一部の竪穴建物跡でサンプルを採取し鍛造剥片などの微細遺物を捜索したものの発見されなかったことなどから、篩別による遺物の採取は一切実施していない。

ＳＢ 05 からは流動滓（1136）が１点出土し、上部が白色を呈し一部欠損している。ＳＢ 14 からは流動滓（1133・1134）が２点出土し、両者とも欠損し気泡が少ない。ＳＢ 19 からは鉄釘（1126）が１点出土している。頭部の折り返しの痕跡が認められるが、頭部そのものはほとんど残存しないようである。ＳＢ 24 からは鉄釘の頭部（1129）が１点認められる。ＳＢ 54 Ｐ１からは



第 104 図　木製品（1）

SK58
SK37
P224
1112
1115
1116
1117
1118
1119
1113
P231
1114
1120
1112～1114のみ
0
20cm
0
10cm

第105図　木製品（2）

鉄釘片と思われる鉄製品（1130）が1点出土した。ＳＢ60からは鉄釘片と思われる鉄製品（1127）が1点確認された。ＳＢ63からは4分の1分割椀型鉄滓（1132）が1点出土した。中央部がわずかに凹むが表面は比較的平滑で気泡は少ないものである。

（2）中世

中世の溝および柱穴から鉄製品および鉄生産関連遺物が出土している。

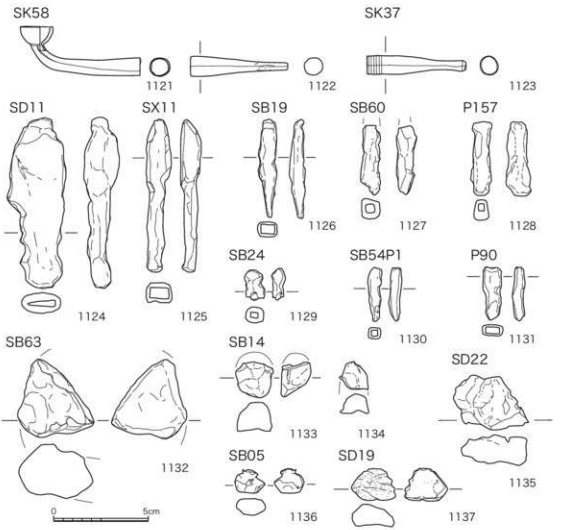
ＳＤ11からは鉄製刀子（1124）などが出土した。1124は錆膨れがひどく全形は不明であるが、柄部は欠損している。ＳＤ19からは白色付着物が認められる流動滓（1137）などが出土した。表面に細かい気泡が多数みられる。Ｐ90とＰ157からは鉄釘の破片（1131・1128）が出土している。

（3）近世

近世の溝および井戸などから鉄製品、銅製品および鉄生産関連遺物が出土した。

ＳＫ58からは煙管などが出土した。1121は真鍮製煙管の羅宇部で、表面は金色に発色しており、側面に接合痕が存在する。1122は銅製煙管の吸口部で特別な装飾は認められない。ＳＫ37でも煙管などが確認された。1123は真鍮製煙管の吸口部で、表面は金色に発色しており、先端に条線が存在している。ＳＤ22からは8分の1分割重複椀型鉄滓（1135）が1点出土した。上面に凹凸が認められ、気泡がやや多いものである。ＳＸ11からは刀子と思われる鉄製品（1125）が出土している。

（鈴木正貴）



第106図　金属製品・金属関連遺物

第４章　自然科学分析

第１節　下津新町遺跡における地下層序と表層地形解析

鬼頭　剛（愛知県埋蔵文化財センター）

（１）はじめに

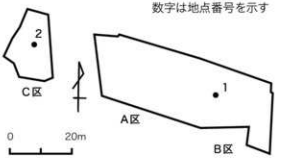
濃尾平野中央部、稲沢市下津新町の下津新町遺跡にて地下層序を観察する機会を得た。その層序解析、放射性炭素年代測定および表層地形解析から新たな知見が得られたので報告する。

（２）試料および分析方法

地下層序解析のため、調査区において地表面や遺構検出面からバックホーにより掘削し層序断面を露出させ、層序断面図の作成と試料採取を行なった。層序断面図の作成にあたり、層相・粒度・色調・堆積構造・化石の有無などの特徴を詳細に記載した。層序断面からは放射性炭素年代測定用試料を採取した。

放射性炭素年代測定は加速器質量分析（AMS）法により測定を行なった。加速器質量分析法は125 μｍの篩により湿式篩別を行ない、篩を通過したものを酸洗浄し不純物を除去した。石墨（グラファイト）に調整後、加速器質量分析計にて測定した。測定された ^{14}C 濃度について同位体分別効果の補正を行なった後、補正した ^{14}C 濃度を用いて ^{14}C 年代を算出した。^{14}C 年代値の算出には、^{14}C の半減期として Libby の半減期 5,568 年を使用した。^{14}C 年代の暦年代への較正には CALIB4.3 を使用した。測定は株式会社パレオ・ラボ（Code No.; PLD）に依頼した。

調査地周辺における現在の表層地形解析のため等高線図を作成した。作成には愛知県稲沢市発行の「稲沢市基本図（1/2500）」にプロットされた標高値を用いた。



第 107 図　下津新町遺跡における深掘調査地点

（３）分析結果

深掘層序

地点１（05B 区）で１地点、地点２（05C 区）で１地点の計２地点でバックホーによる掘削を実施した（第 107 図）。各地点の層序の特徴を以下に述べる。

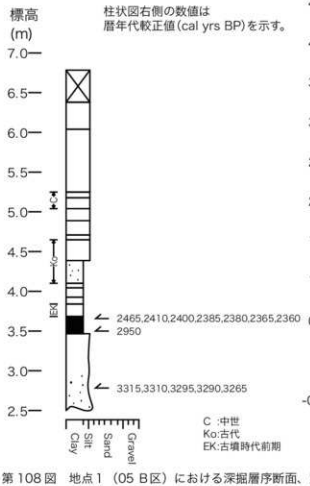
地点１（05B 区）では深度約 4.2m の層序断面を得た（第 108 図）。下位層より、標高 2.50 ～ 3.48m は全体に緑灰色を呈する砂質シルト層であった。堆積構造は不明瞭であり、下部では砂が多く含まれる。標高 3.48 ～ 3.69m は黒褐色の粘土層で、下部においてより黒色の色調がつよい。地層全体に塊状・均質で堆積構造は不明瞭である。標高 3.69 ～ 4.10m は褐灰色の粘土層からなり、考古学的に下部層（標高 3.48 ～ 3.69m）からは古墳時代前期の遺物が出土する。標高 4.10 ～ 4.39m は灰褐色の極細粒砂の混じる粘土層からなる。標高 4.39 ～ 6.36m は灰褐色シルト層からなる。堆積構造はみられない。本層のうち下部層（標高 4.39 ～ 4.65m）とそのさらに下位層にあたる標高 4.10 ～ 4.39m の砂混じり粘土層を加えて古代の遺物が出土する。また、標高 5.04 ～ 5.25m の層準からは中世の遺物が出土している。標高 6.36 ～ 6.77m は褐色シルト層からなるが、現在の瀬戸物や塩化ビニール製の管などが含まれる現代の盛り土である。

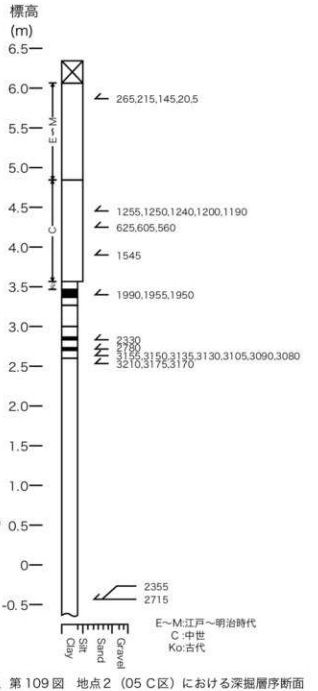
地点２（05C 区）では深度約 7.0m の層序断面を得た。下位層より標高 -0.67 ～ 2.70m は塊状・均質で灰白色を呈する粘土層からなる。最上部（標高 2.60 ～ 2.70m）のみ淡褐色を呈する。標高 2.70m から標高 3.55m までは粘土層からなり、

色調によりつぎのように区分される。標高 2.70 ～ 2.74m は黒色粘土層、標高 2.74 ～ 2.83m は淡褐灰色粘土層、標高 2.83 ～ 2.87m は黒色粘土層、標高 2.87 ～ 3.37m は灰色～淡褐灰色を呈する粘土層、標高 3.37 ～ 3.45m は黒褐色を呈する粘土層、標高 3.45 ～ 3.55m は灰色粘土層である。上位層の灰色粘土層（標高 3.45 ～ 3.55m）からは考古学的に古代の遺物が出土する。標高 3.55 ～ 4.86m は褐色砂質シルト層からなり、12 ～ 15 世紀の中世の遺物が出土する。標高 4.86 ～ 6.06m も褐色を呈する砂質シルト層からなり、本層からは 17 ～ 18 世紀の遺物が出土する。標高 6.06 ～ 6.37m は人工的な盛り土である。本層の上面が地表である。

放射性炭素年代測定

地点 1 と地点 2 で合計 14 試料の放射性炭素年代値を得た（第 1･2 表）。古い値では地点 1（05B 区）の砂質シルト層中から採取した炭化材（標高 2.76m）が 3315, 3310, 3295, 3290, 3265 cal yrs BP（BC 1370, 1360, 1350, 1345, 1315）(PLD-8026)、地点 2（05C 区）の灰白色粘土層の標高 2.54m の植物遺体が 3210, 3175, 3170 cal yrs BP (BC 1260, 1225, 1220) (PLD-5365)、最上部の標高 2.67m の炭化物が 3155, 3150, 3135, 3130, 3105, 3090, 3080 cal yrs BP（BC 1205, 1200, 1190, 1180, 1155, 1140, 1130）(PLD-5361) と約 3000 年前代を示した。このう





第 108 図　地点 1（05 B 区）における深掘層序断面、第 109 図　地点 2（05 C 区）における深掘層序断面

ち、地点２の最下部標高 -0.46m の同じ標高をもつ層準から採取された植物遺体と木材片の２試料において、植物遺体が 2715 cal yrs BP（BC 765）（PLD-5367）、木材片が 2355 cal yrs BP（BC 405）（PLD-8031）と約 2000 年前代を示し、先に述べた約 3000 年前代の試料に対して年代値の逆転が起きている。いっぽう、新しい値では約 2000 年前代から約 1000 年前代の値が多くみられる。さらに、地点２（05C 区）の褐色砂質シルト層中の標高 4.23m から採取した炭化した植物遺体が 625, 605, 560 cal yrs BP（AD 1325, 1345, 1390）（PLD-8030）、褐色砂質シルト層中の標高 5.87m から採取した炭化した植物遺体が 265, 215, 145, 20, 5 cal yrs BP（AD 1685, 1735, 1805, 1930, 1945）（PLD-5366）とたいへん新しい年代値を示した。

遺跡周辺の表層地形解析

東西約 1.5km、南北約 2.0km の範囲全体では標高 4.2m から標高 7.2m までの等高線が描かれ、北および北東方向で標高が高く、南ないし南西方向で標高が低い傾向がある（第 110 図）。本地域の等高線を概観すると、地形の谷状を呈する部分や閉曲線で表され周りよりも低い凹地状の部分が認められる。

さらに詳しく地形要素をみると、標高が高いのは解析範囲北側の稲沢市下津光明寺町から一宮市丹陽町の九日市場から五日市場にかけてである。それらの地域よりも南側にかけては北東から南西方向へ、あるいは東から西へ開口した谷状地形が認められる。谷地形を北から順に列記すれば、東の稲沢市下津住吉町から西の同市下津北山町にかけて東西約 0.94km、南北約 0.19km の大きさのもの、東の稲沢市下津本郷町から南西の同市下津森町にいたる北東 - 南西方向約 0.83km の谷地形、北東の稲沢市下津本郷町から南の下津下町にいたる北東 - 南西方向約 1.22km の谷地形がある。また、閉曲線により周りよりも低い凹地状の地形は、解析図の北側に稲沢市下津蛇池町に標高 5.6 ～ 6.0m までの南北約 0.52km、東西約 0.28km のものが明瞭に認められる。また、下津森町から下津下町には標高 4.8m 以下の凹地地形がある。なお、調査地点から約 0.75km 南西方向に隔たった、現在の JR 東海道本線の稲沢駅は標高が低い場所にあたる。加えて、現在の青木川の流路は地表面の起伏を切るところがみられるなど非調和的であり、明らかに古地形が形成されて後に現在の流路を通るようになったことが読み取れ、時代をさかのぼる議論の際には現在の流路は意味をなさないことがわかる。

（４）考察

下津新町遺跡の地下層序

下津新町遺跡において深掘を実施した。それらの地下層序を観察すると、地層全体にシルトや粘土といった細粒な粒子が卓越した（第 108・109 図）。中でも標高 3.5m ないし標高 4.5m を境にしてそれよりも標高の低い層準では粘土層が、標高の高い層準ではシルト層が卓越する傾向にある。特に標高の低い層準では有機物の集積を示す黒褐色を呈する粘土層が挟まれることが特徴的である。それらの堆積年代について、地点１（05B 区）で標高 3.48 ～ 3.69m の黒褐色粘土層の標高 3.50m から採取した土壌で 2950 cal yrs BP（BC 1000）（PLD-8024）、同じ黒褐色粘土層の標高 3.65m から採取した土壌が 2465, 2410, 2400, 2385, 2380, 2365, 2360 cal yrs BP（BC 515, 460, 455, 435, 430, 420, 415）（PLD-8025）の数値年代であった。地点２（05C 区）では、標高 2.70 ～ 2.74m の黒褐色粘土層の標高 2.74m から採取した有機質粘土が 2780 cal yrs BP（BC 835）（PLD-5362）、標高 2.83 ～ 2.87m の黒褐色粘土層の標高 2.87m から採取した有機質粘土が 2330 cal yrs BP（BC 380）（PLD-5363）、標高 3.37 ～ 3.45m の黒褐色粘土層の標高 3.37m から採取した有機質粘土が 1990, 1955, 1950 cal yrs BP（BC 40, 5, AD 1）（PLD-5364）であった。このように標高 3.5m ないし標高 4.5m を境として、その下位層にあたる粘土層の数値年代が概ね約 3000 年前代～約 2000 年前代前後を示す

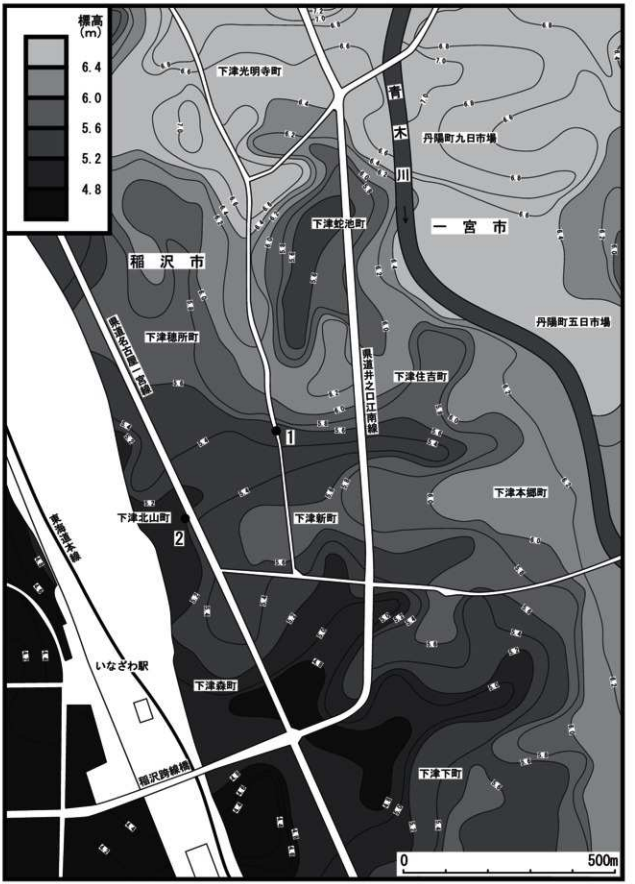
ことがわかった。ところで、今回の調査区の南西約 0.3km に下津北山遺跡がある。下津北山遺跡では標高約 4.1m 付近に 12 世紀の遺構面が検出されており、その下には下位層より標高 1.41 ～ 2.73m に灰色を呈するシルト質砂層、標高 2.73 ～ 3.34m に黒褐色粘土層、標高 3.34 ～ 3.57m にシルト質砂層、標高 3.57 ～ 3.74m に灰褐色のシルト質粘土層、標高 3.74 ～ 4.11m に赤褐色の粘土層が堆積していた（鬼頭ほか , 2000）。これらの地層のうち標高 2.73 ～ 3.34m にみられる黒褐色粘土層で放射性炭素年代測定を行なっている。最下位層のシルト質砂層の直上を覆う黒褐色粘土層の標高 2.737m の土壌が 3350 ± 90 yrs BP（Beta-105386）、同じ黒褐色粘土層の中部、標高 3.007m の土壌が 2750 ± 60 yrs BP（Beta-105385）を示した。この値を CALIB4.3 を用いて暦年代に較正すると、標高 2.737m の土壌が 3630, 3620, 3605, 3600, 3585（BC 1680, 1670, 1655, 1650, 1635）（Beta-105386）、標高 3.007m の土壌が 2845 (BC 900)（Beta-105385）となる。このように今回の調査区から南西方向に離れた下津北山遺跡調査地点でも黒褐色粘土層は

第 1 表　地点 1（05 B区）における放射性炭素年代測定結果

標高 (m)	堆積物	試料の種類	^{14}C 年代 (yrs BP)	δ^{13}C PDB (‰)	暦年代較正値 (1σ, cal AD/BC)	暦年代較正値 (1σ, cal yrs BP)	1σ暦年代範囲 (AD/BC, probability)	1σ暦年代範囲 (cal yrs BP, probability)	Lab code No.(method)
2.76	緑灰色砂質シルト層	炭化材	3061±23	-26.30±0.13	BC 1370, 1360, 1350, 1345, 1315	3315, 3310, 3295, 3290, 3265	BC 1375-1335(49.3%)	3325-3285(49.8%)	PLD-8026(AMS)
							BC 1320-1290(34.3%)	3270-3240(34.3%)	
							BC 1275-1260(16.4%)	3225-3210(16.4%)	
3.50	黒褐色粘土層	土壌	2847±23	-21.59±0.11	BC 1000	2950	BC 1020-970(71.5%)	2970-2920(71.5%)	PLD-8024(AMS)
							BC 955-940(23.9%)	2905-2885(23.9%)	
3.65	黒褐色粘土層	土壌	2439±23	-18.95±0.15	BC 515, 460, 455, 435, 430, 420, 415	2465, 2410, 2400, 2385, 2380, 2365, 2360	BC 525-480(31.6%)	2470-2425(31.6%)	PLD-8025(AMS)
							BC 445-410(23.2%)	2395-2360(23.2%)	
							BC 755-720(20.6%)	2705-2670(20.6%)	
							BC 470-445(17.6%)	2420-2395(17.6%)	

第 2 表　地点 2（05 C区）における放射性炭素年代測定結果

標高 (m)	堆積物	試料の種類	^{14}C 年代 (yrs BP)	δ^{13}C PDB (‰)	暦年代較正値 (1σ, cal AD/BC)	暦年代較正値 (1σ, cal yrs BP)	1σ暦年代範囲 (AD/BC, probability)	1σ暦年代範囲 (cal yrs BP, probability)	Lab code No.(method)
-0.46	灰白色粘土層	植物遺体	2532±26	-28.87±0.12	BC 765	2715	BC 790-760(38.2%)	2740-2710(38.2%)	PLD-5367(AMS)
							BC 615-590(22.8%)	2565-2540(22.8%)	
							BC 680-665(15.1%)	2630-2615(15.1%)	
							BC 575-560(13.4%)	2525-2510(13.4%)	
							BC 630-615(10.6%)	2580-2565(10.6%)	
-0.46	灰白色粘土層	木材片	2392±29	-28.11±0.24	BC 405	2355	BC 485-465(30.3%)	2435-2410(30.3%)	PLD-8031(AMS)
							BC 510-485(23.8%)	2455-2435(23.8%)	
							BC 415-400(23.8%)	2365-2350(23.8%)	
							BC 450-440(13.7%)	2400-2385(13.7%)	
2.54	灰白色粘土層	植物遺体（葉痕）	3007±24	-12.05±0.11	BC 1260, 1225, 1220	3210, 3175, 3170	BC 1310-1255(52.1%)	3260-3205(52.1%)	PLD-5365(AMS)
							BC 1245-1210(36.7%)	3195-3160(36.7%)	
2.67	淡褐灰色粘土層	炭化物	2948±25	-26.88±0.16	BC 1205, 1200, 1190, 1180, 1155, 1140, 1130	3155, 3150, 3135, 3130, 3105, 3090, 3080	BC 1195-1135(58.1%)	3145-3085(58.1%)	PLD-5361(AMS)
							BC 1215-1195(17.2%)	3165-3145(17.2%)	
							BC 1255-1240(14.0%)	3205-3185(14.0%)	
2.74	黒褐色粘土層	有機質粘土	2712±25	-25.22±0.20	BC 835	2780	BC 895-875(40.7%)	2845-2825(40.7%)	PLD-5362(AMS)
							BC 845-825(33.3%)	2795-2775(33.3%)	
							BC 865-845(26.1%)	2810-2795(26.1%)	
2.87	黒褐色粘土層	有機質粘土	2269±21	-24.56±0.13	BC 380	2330	BC 390-355(68.7%)	2340-2305(68.7%)	PLD-5363(AMS)
							BC 275-260(29.0%)	2225-2205(29.0%)	
3.37	黒褐色粘土層	有機質粘土	2038±22	-16.41±0.14	BC 40, 5, AD 1	1990, 1955, 1950	BC 55-35(33.8%)	2000-1985(33.8%)	PLD-5364(AMS)
							BC 35-15(31.2%)	1985-1965(31.2%)	
							BC 15-AD 1(28.9%)	1965-1950(28.9%)	
3.91	褐色砂質シルト層	炭化植物遺体	1664±32	-33.97±0.25	AD 405	1545	AD 380-420(67.4%)	1570-1525(67.4%)	PLD-8028(AMS)
							AD 345-370(32.6%)	1605-1580(32.6%)	
4.23	褐色砂質シルト層	炭化植物遺体	603±23	-23.20±0.12	AD 1325, 1345, 1390	625, 605, 560	AD 1305-1330(48.0%)	645-620(48.0%)	PLD-8030(AMS)
							AD 1340-1355(25.9%)	610-595(25.9%)	
							AD 1385-1395(20.1%)	565-550(20.1%)	
4.47	褐色砂質シルト層	炭化植物遺体	1287±22	-28.30±0.24	AD 690, 700, 710, 750, 760	1255, 1250, 1240, 1200, 1190	AD 685-720(55.6%)	1260-1230(55.6%)	PLD-8029(AMS)
							AD 745-770(44.4%)	1205-1180(44.4%)	
5.87	褐色砂質シルト層	炭化植物遺体	147±21	-28.55±0.12	AD 1685, 1735, 1805, 1930, 1945	265, 215, 145, 20, 5	AD 1725-1775(46.4%)	225-175(46.4%)	PLD-5366(AMS)
							AD 1920-1940(22.0%)	30-10(22.0%)	
							AD 1675-1695(17.3%)	275-255(17.3%)	
							AD 1800-1810(11.1%)	150-135(11.1%)	



第 110 図　下津新町遺跡周辺の等高線図

（稲沢市発行の「稲沢市基本図（1/2500）」の標高値を基に鬼頭が作成）（等高線間隔は 0.2m、数字 1 ～ 2 は調査地点と周辺の主な遺跡を示す）
1. 下津新町遺跡、2. 下津北山遺跡

約 3000 ～ 2000 年前を示し、下津新町遺跡周辺にはその年代を示すころに細粒な堆積物をためるような低エネルギー環境であったことがわかった。

いっぽう、標高 3.5m ないし標高 4.5m を境としたその上位にはシルト層が卓越した。それらの堆積年代について、地点 1（05B 区）では残念ながら数値年代の得られる試料を採取できなかったが、地点 2（05C 区）で試料を得ることができた。その結果から、標高 3.55 ～ 4.86m の褐色砂質シルト層の標高 3.91m から採取した炭化植物遺体は 1545 cal yrs BP（AD 405）（PLD-8028）、同じ地層の標高 4.23m から採取した炭化植物遺体は 625, 605, 560 cal yrs BP（AD 1325, 1345, 1390）（PLD-8030）、同じ地層の標高 4.47m から採取した炭化植物遺体は 1255, 1250, 1240, 1200, 1190 cal yrs BP（AD 690, 700, 710, 750, 760）（PLD-8029）と約 1500 ～ 1200 年前や約 600 ～ 500 年前代の値であった。また、シルト層が卓越するようになって考古遺物も出土するようになる。

以上のように、下津新町遺跡の地下層序では標高 3.5 ～ 4.5m を境として粘土層からシルト層へとその層相が変化し、堆積年代も下位の粘土層で約 3000 年前代～約 2000 年前代前後を、上位のシルト層で約 1500 ～ 1200 年前代や約 600 ～ 500 年前代の値を取り、この粘土層とシルト層との境界で堆積システムが変化したことがわかる。

下津新町遺跡周辺の表層地形解析

現在の表層地形解析から、調査地点周辺には北東 - 南西方向、あるいは東西方向の谷状地形が認められた。これらの存在は現在の表層地形が形成される際に北東 - 南西方向や東西方向の河川流路が当地に存在したことを示すものである。また、解析範囲よりもさらに広範囲をみた場合、標高は全体に北東方向で高く、南西方向に低い傾向があり、当時の河川流路も北東から南西方向へ、または東から西へ向かって流下していたものと予想される。これらの谷状地形のうち稲沢市下津住吉町から同市下津北山町にかけて東西約 0.94km、南北約 0.19km にいたる、東から西側に開いた谷状地形の北側縁辺にあたっている。下津新町遺跡の立地に関して鈴木（2006）はいわゆる「鎌倉街道」との関係に言及しており、鎌倉街道は現在の青木川に並行して通っていたと推定され、鎌倉街道が通る自然堤防と下津新町遺跡の立地する自然堤防とは異なる可能性を指摘したが、表層地形解析においても明らかに立地する地形環境は異なっており、鈴木（2006）の指摘とも矛盾しない。

また、今回の調査地点で最も西側に位置する調査区（05C 区）のさらに西側には、明治 17 年作成の地籍図により現在の青木川から分流した河川が流下していた可能性が指摘されている（鈴木，2006）。この推定に関して、今回の調査区北側、稲沢市蛇池町には表層地形解析によって南北距離最大約 0.52km、東西距離最大約 0.28km の標高 5.6 ～ 6.0m までの閉曲線で囲まれた凹地が存在している。このような地形は河川流路の流下方向の変化により取り残された放棄河道に特有の形態を持っており、下津蛇池町を通る北東から南西方向に流下する河川流路の存在を示唆させ、鈴木（2006）の推定とも調和的である。

謝辞

本論を作成するにあたり、稲沢市役所には都市基本図の入手で便宜を図っていただいた。放射性炭素年代測定では株式会社パレオ・ラボ AMS 年代測定グループの小林紘一氏・丹生越子氏・伊藤　茂氏・廣田正史氏・瀬谷　薫氏・Zaur Lomatatidze 氏・Ineza Jorjoliani 氏にお世話になった。愛知県埋蔵文化財センター調査研究員の鈴木正貴氏には遺跡に関する考古学的情報を教えていただいた。試料の整理・保管と図面作成では整理補助員の前田弘子氏・村上志穂子氏にお手伝いいただいた。記して厚くお礼申し上げます。

文献

鬼頭　剛・堀木真美子・尾崎和美，2000，下津北山遺跡における古環境解析，愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第 88 集「下津北山遺跡」，愛知県埋蔵文化財センター，70-81.

鈴木正貴，2006，鎌倉街道周辺遺跡，平成 17 年度愛知県埋蔵文化財センター「年報」，愛知県埋蔵文化財センター，38-42.

第２節　下津新町遺跡出土木製品の樹種同定

藤根　久・中村賢太郎（パレオ・ラボ）

（１）はじめに

下津新町遺跡は、稲沢市下津新町地内の青木川右岸に位置する古墳時代から江戸時代にかけての遺構や遺物が確認される遺跡である。調査では、古墳時代末～平安時代の竪穴建物跡や掘立柱建物跡など、平安時代末～鎌倉時代の溝に囲まれた屋敷跡などが検出されている。また、江戸時代の区画溝や井戸あるいは畑跡などが検出され、結筒などの木製品が多く出土している。ここでは、これら木製品の樹種同定を行った。

（２）資料と方法

試料は、木製品から材の３方向（横断面・接線断面・放射断面）について、剃刀を用い各方向の薄い切片を剥ぎ取り、ガムクローラルで封入し、永久プレパラートを作成した。各プレパラートは、光学顕微鏡で 40 ～ 400 倍下で観察・同定した。なお、木材プレパラートは、愛知県埋蔵文化財センターに保管されている。

（３）結果および考察

木製品の樹種同定を行った結果、常緑針葉樹のコウヤマキ、スギ、ヒノキ、サワラ、常緑広葉樹のカナメモチ属、ツゲ、落葉広葉樹のウツギ、常緑広葉樹または落葉広葉樹のモチノキ属の８分類群が検出された（第３・４表）。

時期別の木製品樹種を見ると（第４表）、８世紀と思われる柱穴から出土した柱根は、いずれもコウヤマキであった。また、13 世紀と思われるＳＫ 14 から出土した加工材は、ヒノキとサワラであった。

19 世紀では、井戸ＳＫ 37 およびＳＫ 58 から出土した横柵が、カナメモチ属、モチノキ属、ツゲであった。加工材はいずれも針葉樹のスギ、ヒノキ、サワラであった。ＳＫ 58 から出土した曲物桶底板はスギであり、結桶底板はスギとサワラであった。ＳＫ 58 などから出土した結筒側板は、スギとサワラであり、サワラの利用が多い。また、楔はサワラであった。

なお、時期不明の加工材はサワラであった。

以下に、各樹種の木材組織の特徴を記載する。

１）コウヤマキ　*Sciadopitys verticillata Sieb. Et Zucc.* コウヤマキ科

仮道管・放射柔細胞からなる針葉樹材である。早材から晩材への移行は緩やかである。分野壁孔は窓状である。放射組織は５細胞高以下が多い。

コウヤマキは、日本特産の１属１種の常緑高木である。本州の福島県以南・四国・九州の宮崎県の暖帯上部から温帯の山地に分布し、特に長野県の木曽、和歌山県の高野山に多い。木材は、耐久性・耐水性・耐蟻性に優れ、風呂桶や井戸側など水に関わる用具によく使われる。

２）スギ　*Cryptomeria japonica* D. Don スギ科

仮道管・放射柔細胞・樹脂細胞からなる針葉樹材である。晩材の量が多く晩材の仮道管の壁は極めて厚い。樹脂細胞は年輪の後半に散在する。分野壁孔は大きく、孔口が水平に大きく開いたスギ型で１分野に２個ある。

スギは、本州以南の暖帯下部の湿気のある谷間に生育する常緑高木である。日本海側では縄文時代に低地にスギ林が成立していたことが知られている。材はやや軽軟で加工は容易である。

３）ヒノキ　*Chamaecyparis obtuse* Endl. ヒノキ科

仮道管・放射柔細胞・樹脂細胞からなる針葉樹材である。晩材の量は少なく、樹脂細胞は年輪の後半に分布する。分野壁孔は大きく、孔口はやや斜めに細く開いたヒノキ型で１分野に２～４個あり、おもに２個が水平に整然と配列する。

ヒノキは、本州の福島県以南・四国・九州のやや乾燥した尾根や岩上に生育し、材は耐久性・切削性・割裂性に優れ、建築材や曲物などによく使われる。

4）サワラ　*Chamaecyparis pisifera* (Sieb. Et Zucc.) Endl. ヒノキ科

仮道管・放射柔細胞・樹脂細胞からなる針葉樹材である。晩材の量は少なく、樹脂細胞は年輪の後半に接線状に配列する。分野壁孔は、やや開いたヒノキ型で、1分野に2～4個ある。孔口の開口がヒノキより大きい。

サワラは、ヒノキよりも分布域は狭く、主な分布域は東北南部から中部地方の沢沿いの岩上に生育する。材はヒノキよりやや軽軟で劣るといわれる。

5）ウツギ　*Deutzia-crenata* Sieb. et Zucc. ユキノシタ科

非常に小型の管孔が均一に散在し、径の大きな細胞からなる幅の広い放射組織が特徴的な散孔材である。道管の壁孔は交互状に密在し、穿孔は横棒の数が多い階段穿孔である。放射組織は異性1～3細胞幅で背は非常に高い。放射柔細胞は大きいので細胞幅が広く、放射組織の縁には鞘細胞が見られる。

ウツギは、暖帯～温帯下部の北海道以南の山野の日当りの良い所に生育する普通の落葉低木である。

6）カナメモチ属　*photinia* バラ科

薄壁のやや丸い管孔が単独で散在する散孔材である。管孔の穿孔は単一である。放射組織は異性で1～3細胞幅、2～40細胞高、単列部と多列部の縁辺部1細胞は直立細胞からなる。

カナメモチ属は、静岡県以西の暖温帯に分布する常緑広葉樹のカナメモチなどがある。カナメモチの木材は、極めて硬く農具の柄や車輪・車軸などに用いられるほか、庭木として栽培される。

7）モチノキ属　*Ilex* モチノキ科

非常に小型の管孔が年輪幅いっぱいに連続して放射方向またはやや斜状に複合して配列する散孔材である。道管の壁孔は交互状、穿孔は30本前後の階段穿孔であり、内腔には水平のらせん肥厚がある。放射組織は異性、おもに3細胞幅の紡錘形で上下端に方形・直立細胞がある。

モチノキ属は、温帯～暖帯の山地に生育する常緑または落葉性の高木または低木で、約15種がある。山間の湿地に普通の落葉低木のウメモドキ、関東地方以西の山地に生育するソヨゴ、茨城県・福井県以西の山野に普通のクロガネモチ、海岸に近い山地に生育するモチノキなど、暖帯に分布する種類が多い。モチノキは、やや重硬で収縮と狂いが少なく、ツゲの模擬材として櫛に用いられるほか、一般的な器具材（そろばん玉や数珠など）に用いられる。

8）ツゲ　Buxus microphylla Sieb. Et Zucc. var. japonica Rehder et Wilson　ツゲ科

年輪の始めにやや大型の管孔が並び、径を減じて散在する散孔材である。管孔の穿孔は20本程度の横棒からなる階段状である。放射組織は異性1～3細胞幅、2～30細胞高であり、単列部と多列部の縁辺部1細胞は直立細胞である。

ツゲは、宮城県以南の暖帯に分布する常緑の低木ないし小高木である。木材は、極めて割れにくく硬い。木材は、櫛、彫刻材、そろばん玉などに用いられる。

第3-1表　木製品の樹種一覧表

図版番号	保存番号	調査区	グリッド	遺構	遺構の時期	種別	長さ	幅	厚さ	木取り	樹種	取り上げ番号など
–	1	05A	Ⅳ A6c	SB52	8世紀?	柱根	16.9	6.7	4.2	芯持	コウヤマキ	P223
1119	2	05A	Ⅳ A7c	SB52	8世紀?	柱根	17.6	15.1	高 25.5	芯材	コウヤマキ	P224
–	3	05A		SB52	8世紀?	柱根	22.5	20.1	高 46.5	芯材	コウヤマキ	P225
–	4	05A	Ⅳ A7c	SB52	8世紀?	柱根	23.2	21.0	52.5	芯材	コウヤマキ	P226
–	5	05A	Ⅳ A7c	SB52	8世紀?	柱根	21.5	20.5	40.0	芯材	コウヤマキ	P230
1120	6	05A	Ⅳ A6d	SB52	8世紀?	柱根	14.8	13.5	45.0	芯材	コウヤマキ	P231
–	7	05A	Ⅳ A7c	SB52	8世紀?	柱根	20.4	12.8	45.5	芯材	コウヤマキ	P234
–	11	05A	Ⅳ A8e	SK32	19世紀	結桶側板	80.0	12.3	1.8	柾目	スギ	桶 1
–	12	05A	Ⅳ A8e	SK32	19世紀	結桶側板	80.0	11.6	1.7	柾目	スギ	桶 2
–	13	05A	Ⅳ A8e	SK32	19世紀	結桶側板	80.9	12.5	1.7	柾目	スギ	桶 3
–	14	05A	Ⅳ A8e	SK32	19世紀	結桶側板	81.1	12.0	1.8	柾目	スギ	桶 4
–	15	05A	Ⅳ A8e	SK32	19世紀	結桶側板	80.3	11.8	1.6	柾目	スギ	桶 5
–	16	05A	Ⅳ A8e	SK32	19世紀	結桶側板	81.2	10.2	1.8	柾目	スギ	桶 6
–	17	05A	Ⅳ A8e	SK32	19世紀	結桶側板	80.6	12.3	1.7	柾目	スギ	桶 7
–	18	05A	Ⅳ A8e	SK32	19世紀	結桶側板	80.8	8.2	2.1	柾目	スギ	桶 8
–	19	05A	Ⅳ A8e	SK32	19世紀	結桶側板	79.5	9.9	1.6	柾目	スギ	桶 9
–	20	05A	Ⅳ A8e	SK32	19世紀	結桶側板	80.7	11.7	1.5	柾目	スギ	桶 10
–	21	05A	Ⅳ A8e	SK32	19世紀	結桶側板	80.1	12.5	1.7	柾目	スギ	桶 11
–	22	05A	Ⅳ A8e	SK32	19世紀	結桶側板	71.0	15.2	2.1	板目	スギ	桶 12
–	23	05A	Ⅳ A8e	SK32	19世紀	結桶側板	78.6	9.4	1.8	追柾目	スギ	桶 13
–	24	05A	Ⅳ A8e	SK32	19世紀	結桶側板	80.7	12.8	1.5	柾目	スギ	桶 14
–	25	05A	Ⅳ A8e	SK32	19世紀	結桶側板	80.9	12.2	2.0	追柾目	スギ	桶 15
–	26	05A	Ⅳ A8e	SK32	19世紀	結桶側板	80.3	12.3	1.8	追柾目	スギ	桶 16
–	27	05A	Ⅳ A8e	SK32	19世紀	結桶側板	79.8	7.8	1.8	追柾目	スギ	桶 17
–	28	05A	Ⅳ A8e	SK32	19世紀	結桶側板	77.8	9.0	1.8	追柾目	スギ	桶 18
1115	29	05A	Ⅳ A8c	SK37	19世紀	加工材	45.7	9.8	2.2	芯持柾目	スギ	桧材 1
–	30	05A	Ⅳ A8c	SK37	19世紀	加工材	31.8	8.0	2.3	板目	スギ	桧材 2
–	33	05A	Ⅳ A8c	SK37	19世紀	加工材	37.9	11.2	1.7	板目	サワラ	桧材 5
1118	36	05A	Ⅳ A8c	SK37	19世紀	楔棚	6.3	4.2	0.8	板目	モチノキ属	No.12、他多数
1116	37	05A	Ⅳ A8c	SK37	19世紀	楔棚	5.5	4.7	0.8	板目	モチノキ属	No.14、他 2 点
1117	38	05A	Ⅳ A9c	SK37	19世紀	楔棚	4.1	2.6	0.6	板目	カナメモチ属	桧内、他 3 点、漆片
–	40	05A	Ⅳ A9c	SK37	19世紀	加工材	37.3	10.3	1.9	板目	ヒノキ	桧内、他 1 点
–	42	05A	Ⅳ A9c	SK37	19世紀	加工材	13.2	3.2	1.3	柾目	ヒノキ	桧内
–	44	05A	Ⅳ A9c	SK37	19世紀	加工材	12.4	5.2	2.0	板目	ヒノキ	
–	45	05A	Ⅳ A–-	SK37	19世紀	加工材	14.7	6.7	0.5	追柾目	ヒノキ	他多数
1111	46	05A	Ⅳ A9c	SK37	19世紀	加工材	29.1	6.7	1.7	柾目	サワラ	下部桧材、他多数
–	48	05B	Ⅳ A–-	SK14	13世紀?	加工材	7.4	3.1	0.3	追柾目	ヒノキ	遺物 1、他 3 点
–	49	05B	Ⅳ A–-	SK14	13世紀?	加工材	20.3	3.4	0.5	追柾目	サワラ	遺物 5
–	50	05B	Ⅳ A–-	SK14	13世紀?	加工材	13.5	3.4	2.6	芯材	ツガ属	遺物 7
1112	51	05C	Ⅳ J6r	SK58	19世紀	結桶側板	34.3	15.0	2.0	追柾目	サワラ	桶材 1
1112	52	05C	Ⅳ J6r	SK58	19世紀	結桶側板	34.6	8.3	2.1	追柾目	サワラ	桶材 2
1112	53	05C	Ⅳ J6r	SK58	19世紀	結桶側板	29.8	13.3	1.3	板目	サワラ	桶材 3
1112	54	05C	Ⅳ J6r	SK58	19世紀	結桶側板	33.0	15.8	1.6	追柾目	サワラ	桶材 4
1112	55	05C	Ⅳ J6r	SK58	19世紀	結桶側板	33.6	9.8	1.5	板目	サワラ	桶材 5
1112	56	05C	Ⅳ J6r	SK58	19世紀	結桶側板	35.2	15.9	1.8	追柾目	サワラ	桶材 6
1112	57	05C	Ⅳ J6r	SK58	19世紀	結桶側板	38.0	11.5	1.9	板目	サワラ	桶材 7
1112	58	05C	Ⅳ J6r	SK58	19世紀	結桶側板	38.3	14.9	1.5	板目	サワラ	桶材 8
1112	59	05C	Ⅳ J6r	SK58	19世紀	結桶側板	34.6	16.2	1.3	板目	サワラ	桶材 9
1112	60	05C	Ⅳ J6r	SK58	19世紀	結桶側板	34.7	15.0	1.1	板目	サワラ	桶材 10
1112	61	05C	Ⅳ J6r	SK58	19世紀	結桶側板	34.8	15.3	1.4	板目	サワラ	桶材 11
1112	62	05C	Ⅳ J6r	SK58	19世紀	結桶側板	36.6	15.0	1.5	板目	サワラ	桶材 12
1112	63	05C	Ⅳ J6r	SK58	19世紀	結桶側板	33.3	15.8	1.8	板目	サワラ	桶材 13
1112	64	05C	Ⅳ J6r	SK58	19世紀	結桶側板	34.1	10.3	1.7	板目	サワラ	桶材 14
1100	66	05C	Ⅳ J6r	SK58	19世紀	楔棚	9.7	5.0	0.8	板目	ツゲ	3 段枠内、歪つき
1104	67-1	05C	Ⅳ J6r	SK58	19世紀	結桶底板	17.3	16.3	1.1	追柾目	サワラ	3 段枠内
1104	67-2	05C	Ⅳ J6r	SK58	19世紀	結桶底板	-	-	-	板目	スギ	3 段枠内
1104	67-3	05C	Ⅳ J6r	SK58	19世紀	結桶底板	-	-	-	板目	スギ	3 段枠内
1101	67-4	05C	Ⅳ J6r	SK58	19世紀	結桶底板	-	-	-	板目	スギ	3 段枠内
1102	67-5	05C	Ⅳ J6r	SK58	19世紀	曲物桶底板	-	-	-	板目	スギ	3 段枠内
1106	67-6	05C	Ⅳ J6r	SK58	19世紀	加工板材	-	-	-	板目	スギ	3 段枠内
1103	71	05C	Ⅳ J6r	SK58	19世紀	結桶底板	17.6	11.5	0.8	板目	スギ	遺物 1
–	72	05C	Ⅳ J6r	SK58	19世紀	結桶側板	28.4	8.1	2.6	板目	スギ	井戸枠 No.1
–	73	05C	Ⅳ J6r	SK58	19世紀	結桶側板	17.5	1.5	0.8	板目	スギ	井戸枠 No.2
–	74	05C	Ⅳ J6r	SK58	19世紀	結桶側板	46.5	9.5	1.8	板目	スギ	井戸枠 No.3
–	75	05C	Ⅳ J6r	SK58	19世紀	結桶側板	41.2	10.3	1.7	板目	スギ	井戸枠 No.4
–	76	05C	Ⅳ J6r	SK58	19世紀	結桶側板	51.5	8.6	1.8	板目	スギ	井戸枠 No.5
–	77	05C	Ⅳ J6r	SK58	19世紀	結桶側板	11.0	6.7	1.3	板目	スギ	井戸枠 No.6
–	78	05C	Ⅳ J6r	SK58	19世紀	結桶側板	26.7	4.6	1.6	追柾目	スギ	井戸枠 No.7
–	79	05C	Ⅳ J6r	SK58	19世紀	結桶側板	18.5	7.5	1.8	板目	スギ	井戸枠 No.8
1110	80	05C	Ⅳ J6r	SK58	19世紀	結桶側板	42.4	10.0	2.3	板目	スギ	井戸枠 No.9
–	81	05C	Ⅳ J6r	SK58	19世紀	結桶側板	9.5	8.1	1.7	板目	スギ	井戸枠 No.10
1105	85-1	05C	Ⅳ J6r	SK58	19世紀	楔	11.5	1.5	0.3	板目	サワラ	枠内
1113	86	05C	Ⅳ J6r	SK58	19世紀	結桶側板	68.9	16.5	2.0	板目	サワラ	枠材 2-1

第3-2表　木製品の樹種一覧表

図版番号	保存番号	調査区	グリッド	遺構	遺構の時期	種別	長さ	幅	厚さ	木取り	樹種	取り上げ番号など
1113	87	05C	IV J6r	SK58	19世紀	結晶側板	67.1	10.8	2.1	追柾目	サワラ	枠材　2-2
1113	88	05C	IV J6r	SK58	19世紀	結晶側板	68.0	16.8	2.3	板目	サワラ	枠材　2-3
1113	89	05C	IV J6r	SK58	19世紀	結晶側板	67.8	12.5	1.8	板目	サワラ	枠材　2-4
1113	90	05C	IV J6r	SK58	19世紀	結晶側板	67.8	14.2	1.9	板目	サワラ	枠材　2-5
1113	91	05C	IV J6r	SK58	19世紀	結晶側板	67.3	21.6	2.4	追柾目	サワラ	枠材　2-6
1113	92	05C	IV J6r	SK58	19世紀	結晶側板	66.8	9.5	2.3	柾目	サワラ	枠材　2-7
1113	93	05C	IV J6r	SK58	19世紀	結晶側板	67.2	15.4	2.4	柾目	サワラ	枠材　2-8
1113	94	05C	IV J6r	SK58	19世紀	結晶側板	67.1	11.4	2.1	柾目	サワラ	枠材　2-9
1113	95	05C	IV J6r	SK58	19世紀	結晶側板	67.0	16.2	1.9	板目	サワラ	枠材　2-10
1113	96	05C	IV J6r	SK58	19世紀	結晶側板	67.7	19.5	2.0	板目	サワラ	枠材　2-11
1113	97	05C	IV J6r	SK58	19世紀	結晶側板	67.8	8.2	2.0	柾目	サワラ	枠材　2-12
1113	98	05C	IV J6r	SK58	19世紀	結晶側板	68.0	12.3	1.9	柾目	サワラ	枠材　2-13
1113	99	05C	IV J6r	SK58	19世紀	結晶側板	68.3	13.1	2.0	柾目	サワラ	枠材　2-14
1114	103	05C	IV J–r	SK58	19世紀	結晶側板	67.2	13.3	2.2	柾目	サワラ	桶枠　3-1
1114	104	05C	IV J–r	SK58	19世紀	結晶側板	67.3	9.5	2.4	追柾目	サワラ	桶枠　3-2
1114	105	05C	IV J–r	SK58	19世紀	結晶側板	70.5	6.8	2.2	柾目	サワラ	桶枠　3-3
1114	106	05C	IV J–r	SK58	19世紀	結晶側板	70.2	15.3	2.0	板目	サワラ	桶枠　3-4
1114	107	05C	IV J–r	SK58	19世紀	結晶側板	70.7	10.9	2.1	板目	サワラ	桶枠　3-5
1114	108	05C	IV J–r	SK58	19世紀	結晶側板	67.1	8.9	2.3	追柾目	サワラ	桶枠　3-6
1114	109	05C	IV J–r	SK58	19世紀	結晶側板	67.1	12.1	5.1	追柾目	サワラ	桶枠　3-7
1114	110	05C	IV J–r	SK58	19世紀	結晶側板	69.9	14.0	2.0	板目	サワラ	桶枠　3-8
1114	111	05C	IV J–r	SK58	19世紀	結晶側板	67.1	9.6	2.2	追柾目	サワラ	桶枠　3-9
1114	112	05C	IV J–r	SK58	19世紀	結晶側板	66.7	9.1	2.3	柾目	サワラ	桶枠　3-10-1
1114	113	05C	IV J–r	SK58	19世紀	結晶側板	67.1	17.3	1.9	板目	サワラ	桶枠　3-10-2
1114	114	05C	IV J–r	SK58	19世紀	結晶側板	66.6	7.2	2.0	追柾目	サワラ	桶枠　3-11-1
1114	115	05C	IV J–r	SK58	19世紀	結晶側板	67.9	11.0	2.4	板目	サワラ	桶枠　3-11-2
1114	116	05C	IV J–r	SK58	19世紀	結晶側板	67.2	8.6	2.6	柾目	サワラ	桶枠　3-11-3
1114	117	05C	IV J–r	SK58	19世紀	結晶側板	66.8	8.0	2.2	柾目	サワラ	桶枠　3-11-4
1114	118	05C	IV J6r	SK58	19世紀	結晶側板	67.1	9.1	3.2	追柾目	サワラ	桶枠　3-12-1
1114	119	05C	IV J6r	SK58	19世紀	結晶側板	67.2	9.4	3.9	追柾目	サワラ	桶枠　3-12-2
1114	120	05C	IV J6r	SK58	19世紀	結晶側板	67.6	15.3	2.1	板目	サワラ	桶枠　3-13
1114	121	05C	IV J6r	SK58	19世紀	結晶側板	67.1	9.2	2.8	柾目	サワラ	桶枠　3-14
1114	122	05C	IV J6r	SK58	19世紀	結晶側板	68.2	10.3	2.0	板目	サワラ	桶枠　3-15
–	132	05C	IV J–	検出1		加工材	4.9	4.8	0.8	板目	サワラ	
–	134	05C	IV J7r	SX12	19世紀	加工材	55.4	9.3	2.0	板目	サワラ	

第4表　木製品の樹種組成表

時期	遺構	種別	針葉樹				広葉樹				合計
			コウヤマキ	スギ	ヒノキ	サワラ	ウツギ	カナメモチ属	モチノキ属	ツゲ	
8世紀	SB52	柱根	7								7
13世紀	SK14	加工材			1	1	1				3
19世紀	SK37・SK58	横櫛						1	2	1	4
	SK37他	加工材		3	4	3					10
	SK58	曲物桶底板		1							1
	SK58	結桶底板		4		1					5
	SK58他	結桶側板		28		48					76
	SK58	楔				1					1
不明	検出1	加工材				1					1
合計			7	36	5	55	1	1	2	1	108

第５章　考察・まとめ

第１節　地籍図・村絵図による河道の検討

明治 17 年（1884）作成の「地籍字分全図」（以後地籍図）から近代初期の土地利用状況が把握できる。その稲沢市下津地区をトレースしたものが第 111 図である。天保 12 年（1841）に描かれた村絵図（第 112 図）を参考にしながら、地籍図から今回の調査区周辺を検討したい。

地籍図を見ると、調査区北西をかすめるように水田地帯が蛇行しながら連なっていることがわかる。ここには現在、宮田用水（多加木井筋）が流れており、蛇池と呼ばれる地区があるなど、周辺と比較して標高は低い。

この蛇行する水田地帯が、旧河道と考えられる。今回の調査範囲ではこの推定河道は確認されていないが、下津北山遺跡では 96 区・97 区の北で検出された NR01 があるので、この自然流路に連なると思われる。下津北山遺跡の調査成果からすると、15 世紀末以降の河川活動が活発化し下津北山遺跡は終焉を迎えるので、15 世紀末以降、この推定河道には多くの河水・土砂が流れたと思われる。

そして、天保村絵図に見える推定河道内に描かれている子新田・寅新田・酉新田のうち、最も古いは慶安元年（1648）検地の子新田であること（『寛文村々覚書』に記述による）、今回の調査区北西の近隣にある頓乗寺が享保２年（1717）に現在地に移転してきたことから、青木川から分断され、近世初期には乾燥化によって旧河道の土地利用が進んだと考えられる。15 世紀末以降の河川活動によって急速に埋没し河道の役割を失ったものと思われる。

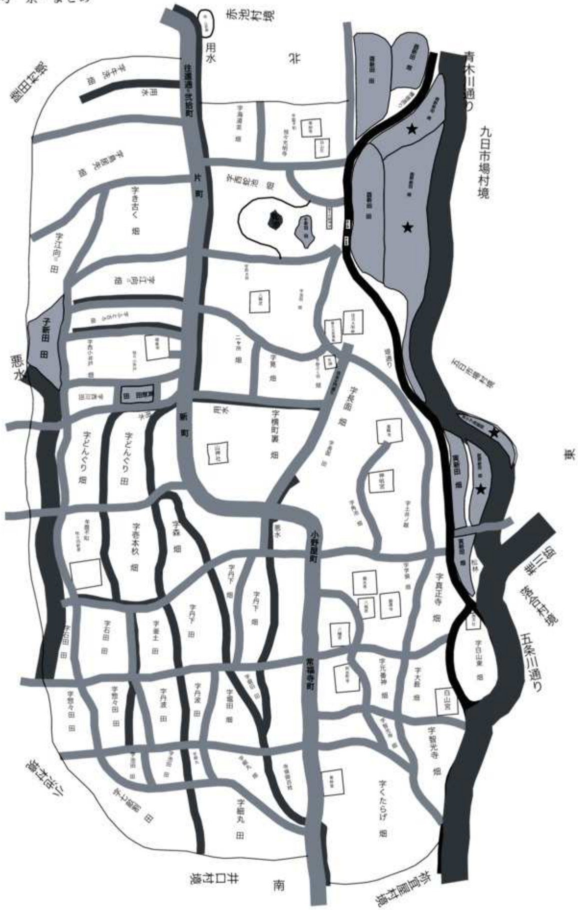
ただし地籍図を見ると、推定河道と青木川の分流点は堤があるのみで水田が広がっているので、最終的に河水の流入がなくなったのは、堤の建設という人為的な遮断によると思われる。

さて、堤の建設時期であるが、文献では管見できず、不明である。しかし、推定河道には新田が多い、すなわち伊奈忠次による検地を受けた慶長 13 年（1608）段階では湿地として検地対象外の土地が多いことから、慶長 13 年（1608）よりあまりさかのぼることはないと考えられる。織田信忠・信雄支配期に稲沢市域での築堤工事に関する史料が散見されることから、16 世紀後半が想像される。

また、堤の建設者を考えると、青木川と推定河道を分ける堤の上に描かれた富士塚が「権太夫御除地」として記載されている。「権太夫」は、「住吉大明神」の西に居屋敷を構える人物で、この絵図中に記載された唯一の人名で、『蓬州旧勝録』（安永８年（1779）刊）にも、「社人牧野権太夫」として宮司として唯一名前が見える。ここから、「権太夫」が近世中期以降の下津村内の神社に強い力をもったことが推測される。また、『寛文村々覚書』には村内の神社７社は「当村祢宜兵部大夫」の持内だとあるので、「兵部大夫」「（牧野）権太夫」は、近世を通じて下津村内の神社を支配する一族だとも考えることもできる。そうすれば、彼らは中世土豪の末裔とも想像され、堤を建設した土豪の末裔として堤に設けられた富士塚を除地として代々認められたと考えられるだろう。

以上から、16 世紀後半の下津村において大きな変化があったと推測される。　（加藤博紀）

第 111 図　明治 17 年作成地籍図からみた河道



第 112 図　天保 12 年作成村絵図（トレース図）

第２節　遺構の変遷

ここでは、今回の下津新町遺跡の発掘調査で検出された遺構の変遷を整理しておく。確認された遺構には竪穴建物跡・掘立柱建物跡・溝・井戸・土坑などがあるが、これらを、検出された遺構面と現場で認識できた遺構の前後関係および遺構の覆土から出土した遺物の年代観を総合的に検討し時期別に整理する方法を採用した。ただし、この方法にはいくつかの問題がある。遺構面の認識については、例えば、掘立柱建物跡ＳＢ52・ＳＢ53などのように、本来検出しなければならない面をよりも下位の面で検出された場合がある。遺構の前後関係についても、遺構検出が難しい状況であったため前後関係の全部を正しく認識できたという保証は無く、遺物の年代観からみる前後関係と逆転することも少なからず発生した。また、出土遺物に関しても、遺構検出や掘削が必ずしも精緻に行われなかったために、本来遺構が持つ時期より新しいものなどが混入したと考えられる事例があり、確実なものとは言えない。加えて、掘立柱建物跡など一部の遺構では遺物が全く出土しないあるいは非常に少ない場合も多く、時期の決定には多くの困難が伴っているといえよう。こうした諸条件を考慮すると、ここで提示した遺構変遷も確定的なものとはいえず、仮説に過ぎないことを認めざるを得ない。このことをあらかじめ断っておきたい。

（１）古墳時代（第113図）

古墳時代の遺構としては、緩やかな落ち込みと土坑・溝および土手状遺構などがある。落ち込みや土坑からは遺物が出土しており、これらは廻間Ⅰ・Ⅱ式期に遡るものがあるものの、主体は廻間Ⅲ式期から松河戸Ⅰ式期（３～４世紀）に属するものである。したがって、正しくは古墳時代の遺構変遷を検討しなければならないと思われるが、大きく西側に落ち込む緩やかな斜面に遺物を含む土坑や落ち込みがあるという遺構構成は変わらないと考えられ、ここで個別の遺構変遷を論ずる意義は薄いと思われる。これらの遺構がほぼ同時期に存在したと理解しておきたい。

（２）古代（第114図）

古代の遺構としては、竪穴建物跡・掘立柱建物跡・溝・土坑などがある。これらは８段階に区分することができる。

古代１段階（東山44号窯式期頃：６世紀末～７世紀初頭頃）

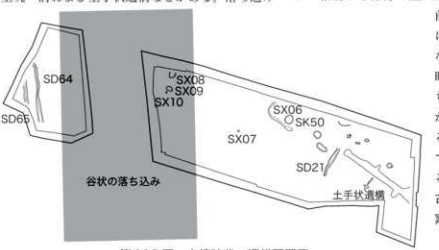
この時期の遺構には竪穴建物跡ＳＢ32・ＳＢ34・ＳＢ37・ＳＢ50がある。この段階はＡ区からＢ区にかけての微高地上に竪穴建物跡が展開しているといえる。Ｃ区からＡ区に存在する南北方向の谷状の落ち込み部分に遺構は拡がっておらず、古墳時代前期の緩やかな落ち込みは埋没しながらもまだ引き続いており、遺構を展開させるには至っていなかったものと思われる。

古代２段階（東山50号窯式期頃：７世紀前半頃）

古代２段階の遺構には竪穴建物跡ＳＢ62・ＳＢ51があるが、全体として遺構は希薄である。この段階はＡ区からＣ区にかけての谷状の落ち込みに相当する部分で竪穴建物跡が展開しており、前代にあった微高地上には遺構が展開していないようである。古墳時代から続いていた落ち込み部が、竪穴建物が構築されるようになる程度にまで乾燥化してきたことを示しているかもしれない。

古代３段階（岩崎17号窯式期頃：７世紀後半頃）

この時期の遺構には



第113図　古墳時代の遺構配置図

竪穴建物跡ＳＢ22・ＳＢ26・ＳＢ36・ＳＢ59がある。この段階はＢ区とＣ区の東西両端部に竪穴建物跡が展開している。Ａ区で遺構が希薄になっていることからみて、詳細な時期を判別することが難しい掘立柱建物跡ＳＢ52・ＳＢ53などの遺構がこの段階に属している可能性は否定できない。

古代４段階（高蔵寺２号窯式期頃：８世紀初頭頃）

本遺跡で出土した須恵器は高蔵寺２号窯式と鳴海32号窯式に属する資料が多くなっている。このため、出土遺物によって遺構変遷をそのまま考察すると、この両窯式期の遺構が非常に多くなってしまい、そのまま時期別の遺構配置図を作成しても重複が激しくて適切な状態とはいえないものになる。そこでここでは、須恵器の窯式別出土量比と検出した時点での遺構の前後関係から、この間を古代４段階から古代６段階の３つに分けて整理することとした。古代４段階は、須恵器が高蔵寺２号窯式を主体としほとんど鳴海32号窯式を含まない時期を指している。この時期の遺構には、竪穴建物跡ＳＢ21・ＳＢ23・ＳＢ25・ＳＢ29・ＳＢ30・ＳＢ33・ＳＢ35・ＳＢ48・ＳＢ49・ＳＢ58、ＳＢ63・ＳＢ64や土坑ＳＫ66などがある。この古代４段階とした中でもわずかに遺構が重複して検出されるものがあることから、建物の建替えは頻繁に行われ本来はさらに時期を細分すべきであろう。古代４段階は全ての調査区で竪穴建物跡が展開している段階といえる。

古代５段階（高蔵寺２号窯式期～鳴海32号窯式期頃：８世紀前葉頃）

古代５段階には、須恵器が高蔵寺２号窯式と鳴海32号窯式の両者を含む時期を指している。この時期の遺構は、竪穴建物跡ＳＢ19・ＳＢ20・ＳＢ24・ＳＢ27・ＳＢ28・ＳＢ46・ＳＢ56、ＳＢ60、ＳＢ65、掘立柱建物跡ＳＢ53・ＳＢ66、溝ＳＤ43・ＳＤ46などがある。竪穴建物跡がＢ区とＣ区に分かれ分布し、掘立柱建物跡が中央のＡ区に展開するという遺構構成となっている。掘立柱建物跡が出現する点に大きな画期を見いだすことが可能であるが、古代４段階以前にたまたま調査範囲内で掘立柱建物跡が検出されなかったに過ぎない可能性も考えられる。

古代６段階（鳴海32号窯式期頃：８世紀中葉頃）

古代６段階は、須恵器が鳴海32号窯式を主体としほとんど高蔵寺２号窯式を含まない時期を指している。この時期の遺構には、竪穴建物跡ＳＢ04・ＳＢ05・ＳＢ07・ＳＢ11・ＳＢ12・ＳＢ14・ＳＢ61、掘立柱建物跡ＳＢ52、溝ＳＤ43、柵列ＳＡ01・ＳＡ02、土坑ＳＫ67などがある。竪穴建物跡がＢ区とＣ区に分かれ分布し、掘立柱建物跡が中央のＡ区に展開するという遺構構成は、古代５段階と同様であると思われる。古代５段階に比べると遺構の数が減少しているようにみられる。

古代７段階（折戸10号窯式期頃：８世紀後葉～９世紀初頭頃）

この時期の遺構には、竪穴建物跡ＳＢ03・ＳＢ06・ＳＢ10・ＳＢ13・ＳＢ17・ＳＢ40・ＳＢ41・ＳＢ42・ＳＢ47・ＳＢ57などがある。Ｃ区では竪穴建物跡が１棟しか確認されておらず、全体として遺構は減少傾向にあると思われる。加えて掘立柱建物跡は調査区内ではみられなくなり、どこか別の場所に移動したものと想定される。

古代８段階（黒笹14号窯式期以降：９世紀前葉頃以降）

黒笹14号窯式期以降の遺構には、竪穴建物跡ＳＢ31と掘立柱建物跡ＳＢ02などがある。遺構の数は激減し、遺構の詳細な時期も特定しにくい状況となっている。この段階で、長らく続いて来た竪穴建物跡を中心とした遺構のあり方は終焉を迎えると思われる。

（３）中世（第115図）

古代から中世への過渡期の状況は、灰釉陶器や土師器清郷型鍋などの良好な資料が見られないことから、問題は多いもののこの段階の遺構はあまり存在しなかったと評価される。次に遺物が一定量認められるのは山茶碗第４型式の段階であり、以降遺物出土量の増減は存在するものの古瀬戸末期まで遺構・遺物は継続するようである。この中世の遺構としては、掘立柱建物跡・溝・井戸・土坑などがある。一部の竪穴建物跡が中世の遺構である可能性は否定できないが、総体として建物遺構は竪穴建物から掘立柱建物に切り替わり、溝で土地が区画される段階と評価できよう。これらの遺構は５段階に区分して整理することができた。

中世１段階（山茶碗第４・５型式期頃：12世紀後半頃）

この時期の遺構には、溝ＳＤ12・ＳＤ14・Ｓ

第 114 図　古代の遺構変遷図

D 17・S D 18・S D 19・S D 56・S D 57・S D 59、火葬施設S X 05などがある。確実にこの段階に位置づけられる掘立柱建物跡を確認することができなかったが、本来は存在していた可能性が考えられる。また、竪穴建物跡S B 15・S B 16・S B 44・S B 45がこの段階の遺構に属すると考えることはできるが、ここでは確実なものではないと判断し除外した。

さて、中世1段階の遺構はA区からB区にかけて展開しており、C区には拡がっていない。遺構の中で特筆すべきものはS D 14・S D 17・S D 19で構成される方形の区画01であろう。内部施設を確認することができないために屋敷跡と特定することはできないが、区画の東西幅が約12mであるので屋敷としてみた場合それほど大規模とはいえないものである。また、区画01の西には S D 12が存在し、さらにその西側には区画03が展開する。区画03に は火葬施設S X 05が点在する他は明瞭な遺構は存在せず、居住域であった可能性は低いものと想定される。

中世2段階（山茶碗第5・6型式期頃：13世紀前半頃）

中世2段階の遺構には、溝S D 11・S D 31・S D 33・S D 35・S D 38・S D 62、井戸S K 14などがある。建物跡は明瞭には確認できなかったが、S K 14の西側に存在する柱穴群が掘立柱建物跡S B 67を構成していた可能性が指摘されよう。また、S D 11の状況からみて、S D 08南北溝の部分にもこの段階の溝が存在したことが予測される。

これらの想定が正しいとすれば、中世2段階では、S D 33とS D 62の北側の区画（区画04）、S D 33とS D 62とS D 31で囲まれた区画（区画05）、S D 33とS D 11とS D 31とS D 08で囲まれた区画（区画06）、S D 08の東側の区画（区画07）の4つの区画を設定することができる。区画04は規模を特定することはできないが、S D 33の北側で柱穴群が存在することから、内部に掘立柱建物跡が存在したと思われる。区画06は南北約22m、東西約25mの規模を持つ方形区画であるが、内部施設は明らかではない。区画07には井戸S K 14があり、その西側で掘立柱建物跡S B 67の存在が想定される。こうした遺構配置からみて、区画07は屋敷であったと評価できる。

中世3段階（古瀬戸後Ⅰ・Ⅱ期頃：14世紀後半～15世紀前葉頃）

この時期の遺構には、溝S D 13・S D 15・S D 16・S D 24・S D 32・S D 37・S D 39・S D 52・S D 63などがある。建物跡は明瞭には確認できなかったが、S D 39の北側で柱穴群が拡がり掘立柱建物跡S B 68・S B 69が建っていた可能性がある。また、S D 08南北溝の部分にもこの段階の溝が存在したことが予測される。

上記の遺構の組み合わせを検討すると、中世3段階では平行する溝5条とこれに直交する溝群で細長い長方形区画が形成されていたと考えられる。具体的には、S D 63以西の区画（区画08）、S D 63とS D 52とS D 32で囲まれた区画（区画09）、S D 63とS D 52とS D 37で囲まれた区画（区画10）、S D 32とS D 39で囲まれた区画（区画11）、S D 37とS D 39とS D 24で囲まれた区画（区画12）、S D 24とS D 20とS D 08で囲まれた北側の区画（区画13）、S D 08とS D 16とS D 13で囲まれた北側の区画（区画14）、同じく南側の区画（区画15）、S D 13よりも東側の区画（区画16）の9つの区画を設定することができる。区画08と区画16は調査区両端部に所在しており、それぞれ外側に対応する溝が検出されていないため、細長い長方形区画ではないと思われる。この他の長方形区画については、その幅は区画09が約26m、区画12が約12m、区画14が約12m、区画15が約12mを測る。区画09は未調査部分に溝が存在した可能性が考えられ、S D 63とS D 32の中央に溝があったと仮定すると幅が12～13mの規模を持つ長方形区画が並ぶ形が想定される。これらの長方形区画のうち区画09と区画11にはそれぞれ掘立柱建物跡S B 68およびS B 69の存在が推測でき、この時期の区画のいくつかは屋敷であったことが窺い知れる。

中世4段階（古瀬戸後Ⅲ・Ⅳ期古段階頃：15世紀中葉頃）

中世4段階の遺構には、溝S D 04・S D 05・S D 08・S D 30、掘立柱建物跡S B 39、柵列などがある。C区では遺構が明瞭には確認されていない。溝の組み合わせからみて、この時期では5つの区画を設定することができる。

具体的には、ＳＤ30以西の区画（区画17）、ＳＤ08以北の区画（区画18）、ＳＤ08以南の区画（区画19）、ＳＤ08とＳＤ04で挟まれた区画（区画20）、ＳＤ04以東の区画（区画21）の５つの区画である。このうち区画20は幅が狭く内部に柵列とＳＤ05などが存在することから居住域とは考えにくい。区画19ではこの段階に属すると思われる掘立柱建物跡ＳＢ39があり、屋敷であったと考えられる。区画19の東西幅は溝端間の距離で約21mを測る。その他の区画では、その性格を推定し得る遺構を発見することができないが、区画18は区画19と同様の遺構配置を呈している可能性がある。

中世５段階(古瀬戸後Ⅳ期新段階頃:15世紀後葉頃)

この段階の遺構には、溝ＳＤ07・ＳＤ23、掘立柱建物跡ＳＢ01・ＳＢ38などがある。中世１段階から中世４段階までの溝は方位がほぼ正方位を示しているのに対し、中世５段階の溝は正方位を示していないという特徴がある。このことから掘立柱建物跡の中で正方位を示さないもの（ＳＢ01・ＳＢ38）がこの段階に属する遺構と推測され、ＳＤ07の南に分布する柱穴群が掘立柱建物跡ＳＢ70およびＳＢ71を構成する可能性も考えられる。

中世５段階では、ＳＤ23以西の区画（区画22）、ＳＤ07以北の区画（区画24）、ＳＤ07以南の区画（区画23）の３つの区画を設定することが可能である。このうち区画22には掘立柱建物跡ＳＢ38、区画23には掘立柱建物跡ＳＢ01・ＳＢ70・ＳＢ71が存在し、それぞれ屋敷であったことが推測されよう。

（４）近世（第115図）

今回の調査で検出された遺構群の中で、中世後期から近世前半に属するものはほとんど確認することができなかった。つまり、瀬戸美濃窯産陶器では大窯期全体および連房式登窯の第１小期から第５小期までの遺物は全く存在しないに等しい状況であり、土師器についても内耳鍋・羽付鍋・釜がセットになって出土する段階の遺物は皆無である。近世の遺構として認められるようになるのは連房式登窯の第８小期以降のことである。

近世後半に認められる遺構としては、溝・井戸・土坑などがある。建物跡は発掘調査の際に遺構面を掘り下げてしまったこともあり、具体的な遺構を確認することができなかったが、掘立柱建物か礎石建物が展開したものと想像される。この段階の遺構は２段階に区分することができ、特に近世２段階はその後の近代へ引き続いていくものと考えられよう。なお、この時期では名古屋から岐阜を結ぶ「岐阜街道」がＡ区とＣ区の間を通っており、今回の調査区はその岐阜街道に面した一角に相当している。

近世１段階（連房式登窯第８・９小期頃：18世紀後葉頃）

この時期の遺構には、溝ＳＤ01・ＳＤ02・ＳＤ03・ＳＤ06・ＳＤ09・ＳＤ10・ＳＤ22・ＳＤ25～ＳＤ27、井戸ＳＫ32・ＳＫ33・ＳＫ58などがある。溝は規模からみて２種に区分でき、ＳＤ02などの小規模なものは耕作痕の可能性が、ＳＤ01とＳＤ03とＳＤ22は区画施設になる可能性が考えられる。そして、この溝や街道によって画された区画として、岐阜街道以西の区画（区画25）、岐阜街道とＳＤ22の間の区画（区画26）、ＳＤ22とＳＤ01の間の区画（区画27）、ＳＤ01とＳＤ03の間の区画（区画28）、ＳＤ03以東の区画（区画29）の５つの区画が設定される。

区画25は井戸ＳＫ58が存在し街道に面した位置にあることから屋敷である可能性が高い。区画26は性格不明であるが、その位置と遺構が存在しないことから現在の道路になる以前の岐阜街道であった可能性も考えられる。この場合、ＳＤ22は岐阜街道の東側溝に位置づけられる。区画27は井戸ＳＫ32・ＳＫ33が存在し街道に面していることから、区画25と同様に屋敷である可能性が高い。区画28と区画29は小規模な溝以外の遺構はあまり存在しないことから、畑などの耕作地であったと思われる。なお、調査区の東側には、現在水田が拡がっており、おそらくこの段階にまでは遡るものと推測される。

近世２段階（連房式登窯第10・11小期頃：19世紀前半頃）

この時期の遺構には、井戸ＳＫ37、だるま状遺構ＳＸ03、不明遺構ＳＸ12などがある。溝などの区画施設は確認されなくなり、屋敷割りなどの具体像は明らかにできない。水回りに関連する遺構と考えられるＳＸ03とＳＸ12が現岐阜街道を挟んで対となって存在していることから、現岐阜街道に面した形で屋敷が展開した可能性を指摘できる。

第 115 図　中世～近世の遺構変遷図

第３節　下津新町遺跡における古代土師器甕について

（１）はじめに

下津新町遺跡では古墳時代後期から平安時代までに属する竪穴建物跡が約 50 棟検出された。各竪穴建物跡からは、出土点数はそれほど多くはないものの、遺物（特に土師器甕）は全くないわけではなく少なからず認められる。ここでは、下津新町遺跡における竪穴建物跡から出土した土師器甕について、その動態を検討してみたい。

さて、尾張の古代土師器甕について、最初に注目したのは城ヶ谷和広であった（城ヶ谷 1990）。城ヶ谷は古代（６世紀後半～ 11 世紀中葉）の土師器をⅣ期９小期に区分し、Ⅰ期（６世紀後半～７世紀末）は伊勢型甕が広がる時期、Ⅱ期（７世紀末～９世紀）は尾張で尾張型長胴甕が認められる時期、Ⅲ期（９世紀～ 11 世紀中頃）は尾張型長胴甕が発展する時期、Ⅳ期（11 世紀）中葉以降は尾張型長胴甕が終焉を迎え清郷型甕が広がる時期と整理した。その後、尾張型と称していたものは資料の増加に伴い濃尾型と称されるようになり、永井宏幸らの考察（永井 1996）などが提示されて編年研究は精緻になったが、おおよその土師器甕の変遷の骨格は変わっていないといえるだろう。このような状況の中、下津新町遺跡の竪穴建物跡は上記の区分では概ねⅠ期からⅡ期に属していることから、ここでは伊勢型甕が濃尾型甕に切り替わっていく様相を明らかにすることを主眼に置き、検討を進めたい。

（２）竪穴建物跡から出土した土師器甕

下津新町遺跡から出土した古代の土師器甕は、概ね口縁端部をつまみあげる伊勢型甕と、口縁部が肥厚し頸部内面に荒いハケ調整が残る濃尾型に分けることができる。この２分法に基づき各段階別に整理してみたい。

古代１段階（東山 44 号窯式期頃）

この時期の竪穴建物跡にはＳＢ 32・ＳＢ 34・ＳＢ 37・ＳＢ 50 がある。このうちＳＢ 32・ＳＢ 34・ＳＢ 50 では土師器甕は伊勢型甕のみが確認された。ＳＢ 37 では土師器甕の口縁部が出土していないが、体部破片からみると伊勢型甕と思われる土師器片が存在する。したがって、この段階では伊勢型甕のみが分布する時期と評価できる。

古代２段階（東山 50 号窯式期頃）

古代２段階の竪穴建物跡ＳＢ 62・ＳＢ 51 があるが、両者とも土師器甕は伊勢型甕のみが確認された。この段階も伊勢型甕のみが分布する時期といえる。

古代３段階（岩崎 17 号窯式期頃）

この段階ではＳＢ 22・ＳＢ 26・ＳＢ 36・ＳＢ 59 があり、ＳＢ 36・ＳＢ 59 では土師器甕は伊勢型甕と濃尾型甕の両者が確認された。特にＳＢ 59 では古い形状の濃尾型甕が確認されており、この段階から濃尾型甕が出現していると考えることができよう。

古代４段階（高蔵寺２号窯式期頃）

この時期の竪穴建物跡にはＳＢ 21・ＳＢ 23・ＳＢ 25・ＳＢ 29・ＳＢ 30・ＳＢ 33・ＳＢ 35・ＳＢ 48・ＳＢ 49・ＳＢ 58、ＳＢ 63・ＳＢ 64 がある。このうち、ＳＢ 35 とＳＢ 48 では伊勢型甕のみが、ＳＢ 21 とＳＢ 33 とＳＢ 63 とＳＢ 64 および土坑ＳＫ 66 では伊勢型甕と濃尾型甕の両者が、ＳＢ 30 とＳＢ 58 では濃尾型甕のみがそれぞれ出土している。この段階では、土師器甕は伊勢型甕と濃尾型甕の両者が竪穴の分布状態で確認されており、両者が共存する時期といえる。

古代５段階（高蔵寺２号窯式期～鳴海 32 号窯式期頃）

古代５段階の竪穴建物跡にはＳＢ 19・ＳＢ 20・ＳＢ 24・ＳＢ 27・ＳＢ 28・ＳＢ 46・ＳＢ 56・ＳＢ 60・ＳＢ 65 がある。このうち、ＳＢ 19 とＳＢ 60 とＳＢ 65 および溝ＳＤ 43 では伊勢型甕のみが、ＳＢ 24 とＳＢ 56 では伊勢型甕と濃尾型甕の両者が、ＳＢ 27 では濃尾型甕のみがそれぞれ出土している。この段階は、数量的にはやや伊勢型甕の方が多いものの、伊勢型甕と濃尾型甕

の両者が共存している時期と評価できそうである。

古代6段階（鳴海32号窯式期頃）

この時期の竪穴建物跡には、SB04・SB05・SB07・SB11・SB12・SB14・SB61がある。このうち、SB04と土坑SK67では伊勢型甕と濃尾型甕の両者が、SB11とSB12とSB14では濃尾型甕のみが出土している。伊勢型甕のみが確認された竪穴建物跡はなくなり、古代5段階に比べると伊勢型甕の割合が減じているように考えられるが、依然として伊勢型甕と濃尾型甕の両者が共存している時期と評価しておきたい。

古代7段階（折戸10号窯式期頃）

竪穴建物跡にはSB03・SB06・SB10・SB13・SB17・SB40・SB41・SB42・SB47・SB57などがあるが、SB10で伊勢型甕らしき遺物が確認されたものの、SB06とSB17とSB57では濃尾型甕のみが確認されている。したがってこの段階で伊勢型甕は概ね消滅し、濃尾型甕のみが展開したといえる。

古代8段階（黒笹14号窯式期以降）

この時期の竪穴建物跡にはSB08・SB09・SB31があるが、土師器甕が出土したものはSB09のみで、濃尾型甕であった。古代7段階と同様、濃尾型甕のみが展開したといえる。

（3）下津新町遺跡の土師器甕の動向

上記の検討の結果、下津新町遺跡から出土した古代の土師器甕の出土状況は大きく3期に整理することができる。

1期：伊勢型甕のみが分布する時期である。古代1段階から古代2段階まで（東山44号窯式期頃～東山50号窯式期頃）が該当する。

2期：伊勢型甕と濃尾型甕の両者が共存している時期である。古代3段階から古代6段階まで（岩崎17号窯式期頃～鳴海32号窯式期頃）が該当する。古代3段階では濃尾型甕がわずかに認められ、古代6段階では伊勢型甕がわずかに残存している状況が確認された。2期は、伊勢型甕が濃尾型甕に切り替わっていく段階であるが、その変化は漸移的なものであったと理解されよう。

3期：濃尾型甕のみが展開した時期である。古代7段階から古代8段階まで（折戸10号窯式期頃以降）が該当する。

このようにみると、城ヶ谷が指摘した尾張での土師器甕の動態は、下津新町遺跡でも概ね当てはまることが確認されよう。土師器甕が伊勢型甕から濃尾型甕に切り替わっていく過程は1世紀以上の時間をかけて変化する緩やかなものであったことが追認されたといえる。

第4節　総　括

（1）下津新町遺跡における歴史の素描

今回の下津新町遺跡の発掘調査で明らかになったことを箇条書きに整理しておきたい。

1）　標高3.5mから4.5mに約2000年から約3000年前に堆積した黒褐色粘土層が存在していたが、この層位には遺構や遺物は確認されなかった。この時期には、後背湿地状の地形で人々が活動できるような状況ではなく、遺跡は展開していないと評価できる。この層位よりも上位にシルトの堆積が認められ、付近に河川が流れるなどの堆積環境が大きく変化したものと考えられる。

2）　古墳時代前期（3世紀～4世紀）には、現岐阜街道の部分で南北方向に伸びる谷状地形が展開しており、その斜面に土器が廃棄された土坑や落ち込みが確認された。また、明確な形で遺構を検出することはできなかったが、水田など耕作に関連する遺構とも推測できる土手状遺構も発見されている。これらの状況から、本遺跡の周辺に古墳時代前期を中心とする集落遺跡があったと予測され、今回の調査地点はその周縁部に該当するのではないかと思われる。

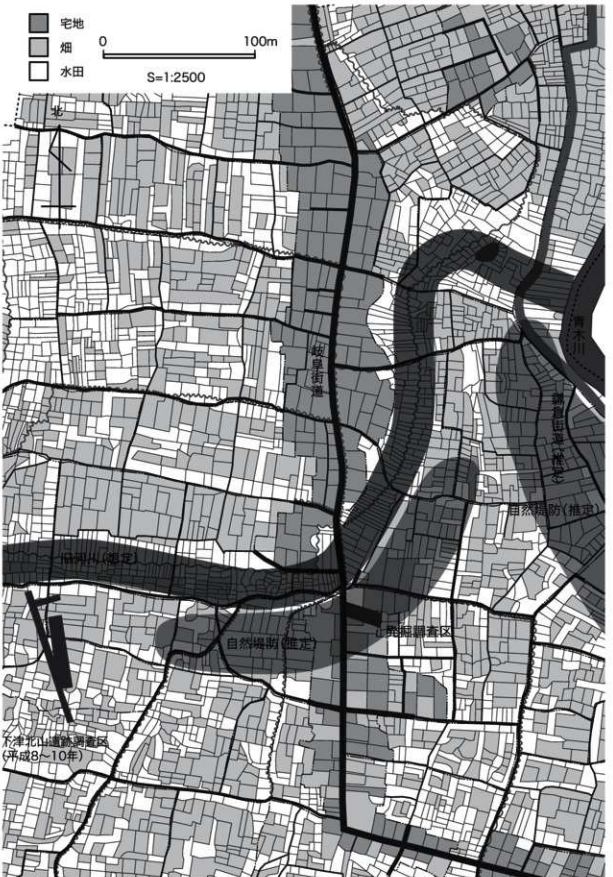
3）　古墳時代中期から後期（5世紀～6世紀後葉）にかけては、全く遺物が出土しておらず、人々の営みを確認することができなかった。

4）　今回の調査地点で初めて人々の居住が認められるのは、古墳時代後期の6世紀末以降である。この段階は、調査区の中で最も標高が高い部分に竪穴建物跡が展開し居住域となっていたことが判明した。この居住域の西側と東側では地形が緩やかに傾斜して下がっているが、現況地形や地籍図などから解析して復元された古流路を検討した結果、居住域の西側と北側で旧河川が、居住域の東側と南側で後背湿地が拡がっていたのではないかと想定したい。この今回の調査区の北西に流れていた旧河川は、本章第1節で検討したとおり、現青木川が下津蛇池付近で西向きから南向きに蛇行し、さらに今回の調査区の北西で西に蛇行し、最終的に下津北山遺跡北端部に向かう形で流路が復元される。この河川は下津北山遺跡の調査成果から15世紀には埋没していくことが明らかになっている（早野2000）が、河川の起源がどこまで遡ることができるかはこれまでのところ不明のままであった。しかし、後述するように6世紀末以降15世紀末まで多少の断絶は存在するものの集落はほぼ同じような形で継続していることからみて、今回確認された集落跡はこの旧河川の左岸に形成された自然堤防上に立地していると考えることが妥当であろう（第116図）。よって、この旧河川は6世紀末頃まで遡るものではないかと推測しておきたい。さて、このように推測を重ねると、この段階の居住域の範囲は旧河川によって左岸に形成された自然堤防上の範囲に拡がっていることが予測される。したがって、居住域は今回の調査区の北東側と西南西側に拡大していた可能性が高いと考えておきたい。

5）　7世紀では、竪穴建物による集落が引き続き営まれていたが、遺構は散漫・散発的である。調査区であった場所は集落の周縁部に相当するのか、あるいは規模の小さな集落が存在していたものと思われる。

6）　8世紀前半～中葉までについては、竪穴建物跡が多数重複しながら存在しており、遺物量と遺構量の面で最盛期を迎えていると評価できる。竪穴建物を主体とし、やや地形が低い部分に溝を伴って総柱掘立柱建物が存在する形で展開した集落であると復元される。竪穴建物を居住施設、総柱掘立柱建物を倉庫と推定すると、倉庫の周辺に居住域が分布するという集落の姿が見えてくるだろう。

7）　8世紀後葉～9世紀前半では、調査区内では集落の規模がやや小さくなり、遺構や遺物の量が共に減少する。総柱ではないものの掘立柱建物もわずかに認められたが、基本は竪穴建物による集落が継続していたといえる。



第 116 図　下津新町遺跡周辺の旧河川と自然堤防の想定（明治 17 年作成地籍図を下図とした）

8）　9 世紀後半～ 12 世紀前半には、人々の営みの痕跡は急激にみられなくなる。わずかに遺物が認められるものの、明確に遺構に伴うものはなく、遺跡の構造を知りうる情報を見いだすことは難しい。中世の遺物が混入しており相対的に新しいと評価される竪穴建物跡 S B 15・S B 16・S B 44・S B 45 がこの頃の遺構の可能性も考えられるが、論拠は乏し過ぎる。

9）　12 世紀後半になると、ほぼ正方位の溝で区画された空間が展開するようになる。東西幅が約 12m の区画 01 とその西側を画する溝 S D 12 があり、溝 S D 12 の西側（区画 03）には火葬施設が存在する。区画 01 は、それを画する溝の規模が大きい割に区画の規模が小さいという特徴があり、一般的な屋敷としてみた場合やや特殊な形状に思われる。火葬施設の存在と合わせて考慮すると、宗教的な施設の一端を検出した可能性が考えられよう。

10）　13 世紀前半では、区画 01 が埋没して新たな形で区画溝が展開している。溝の方位は前代と同様にほぼ正方位であるが、おおよそ方形の区画が展開したと推測され、区画 06 の規模は約 22m ×約 25m であった。ただし、区画溝は正しく格子状に方格地割を形成しておらず、溝もやや蛇行する傾向がある。区画内には掘立柱建物が展開するものもあることから、この段階は屋敷が拡がっていたのではないかと想定されよう。

11）　13 世紀後半～ 14 世紀前半では、遺物の出土量が少なく、明確に遺構に伴うものが見いだされなかったので、遺構の展開状況を復元することができなかった。おそらく 13 世紀前半とあまり変わらない区画割りを呈していたのではないかと想像できる。

12）　14 世紀後半～ 15 世紀前葉には、やや規模の小さな溝で囲まれた長方形区画が並ぶ形が出現している。区画幅は 12 ～ 13m の規模であり、内部には掘立柱建物を想定できる状況であることから、小規模な屋敷であった可能性が考えられる。道路遺構などの施設が発見されていないことから即断はできないが、町屋的な遺構配置を読み取ることもできるものである。この時期で注目されるのは、守護所下津と下津五日市場の存在であろう。下津にあったといわれる守護所は現在の下津城跡を当てる考えが主流で、それとは別に青木川と五条川の合流する部分の左岸自然堤防上に想定する案も浮上している（鈴木 2007）。また、下津五日市場は現地名と名刹正眼寺の推定位置から現在の五日市場に比定するのが有力である。これらの比定は青木川とその左岸に想定されている推定鎌倉街道を強く意識して考察されたものであり、筆者もこの案を否定することはできない。しかし、これとは別に旧河川の左岸自然堤防上に町場を想定し得る小規模な屋敷が並ぶ状況は無視できない問題であり、その意義付けは今後の大きな課題となるに相違ないだろう。

13）　15 世紀中葉になると、やや大型の区画溝 S D 08 が出現して区画 19 などが形成される。区画 19 の東西幅は溝端間の距離で約 21m を測り、溝の規模の割には区画の規模は大きくない。建物跡は不明であるが、おそらくは屋敷であっただろう。溝の方位は前代とほぼ同じといえるが、位置は微妙にずれて存在している。

14）　15 世紀後葉では、区画溝の方位がほぼ正方位ではなくなり、全く異なる方位が現出する。この溝によって 3 区画が画されるが、これまでの区画割に比べると区画の規模が大きくなっているという特徴も認められる。区画内には掘立柱建物も想定され、屋敷跡と評価されよう。この段階で区画の方位が大きく変更されることは注目に値する。当初の発掘調査時点ではこの方位の変更の画期が 15 世紀初頭にあったと考察していたが、遺構の切り合い関係と遺物の詳細な検討の結果、15 世紀後葉であることが判明したのである。これはちょうど守護所下津が焼亡した時期にあたり、その事件の前後（のいずれか）に一時的に区画の方位が変更になったものと考えられよう。この方位変更の意義付けも今後の大きな課題である。

15）15世紀末～18世紀中頃までは、再び遺物の出土がなくなり、これに伴う遺構が構築されなくなったものと考えられる。これは6世紀末以降長く遺跡の立地の基盤となった旧河川が埋没していったことが大きく影響しているものと考えられる。これに加えて、先に指摘した守護所下津の焼亡と守護所が清須に移転したことも無関係ではないと思われる。埋没後の旧河川は、16世紀後半頃に実施されたと想定される一連の築堤工事により乾燥化が進み、江戸時代に入ると新田開発が進められたと考察される。一方、17世紀前半になると、稲沢市井之口を起点として下津・赤池・紗興寺・一宮・黒田・笠松を経由して加納で中山道に至る岐阜街道（御鮨街道）が整備される。今回の調査区においては、A区とC区の間の現道がほぼ岐阜街道に相当すると思われるが、詳細にみるとSD22が岐阜街道の東側溝である可能性が指摘される。ただし、調査区内においては17世紀前半に街道が敷設された画期に伴う遺構の変遷を確認することができていない。

16）18世紀中頃になると、街道に面した屋敷が成立するようになる。街道に面した区画では井戸などを伴う建物群が想定され、その奥の区画で畑、さらに奥の区画で水田が営まれていた様子が復元できよう。この結果、当地でのこのような街道に面した町屋の形状を持つ屋敷の成立が、近接する下津下町や下津片町に比べてやや遅れ18世紀中頃であることが確認できたといえる。18世紀中頃になってようやく「下津新町」ができたと評価できるだろう。

17）19世紀前半では、岐阜街道はやや西側に移動し現在の道路部分に存在したと思われ、その街道に近い部分で水回り？に関連する遺構が展開するようになる。建物跡を確認することができなかったが、おそらく街道に面して礎石建物などが存在したものと思われる。このような遺構配置がそのまま引き継がれて、現在の下津新町の集落が展開したものといえよう。

（2）下津新町遺跡について

今回の発掘調査は、当初「鎌倉街道周辺遺跡」として実施されたものである。調査の結果、本調査区が「下津新町遺跡」として「鎌倉街道周辺遺跡」から分離して称することになったのであるが、ここでその経緯を概説しておきたい。

今回の発掘調査では古墳時代から江戸時代までの遺構と遺物が確認され、多くの成果が得られている。古代と中世（6世紀末から15世紀まで）においては連綿と集落が営まれ続いており、特に古代の遺構は濃密に展開していることが明らかとなった。前項（4）で検討したように、この古代と中世の遺構群は、調査区北西を流れていたと推測される旧河川によって左岸に形成された自然堤防上に展開しており、その遺跡（居住域）の範囲は自然堤防上の範囲に拡がっていることが予測される。

一方、もともとの「鎌倉街道周辺遺跡」は現青木川の右岸に形成された自然堤防上に立地する遺跡である。分布調査や部分的な発掘調査の結果、古代から近世までの遺構や遺物が確認されているが、中心となる遺構・遺物は尾張守護所が存在したといわれる下津城跡と遺跡名にもある幹線道路となる鎌倉街道に伴う集落跡であろう。

したがって、本来の「鎌倉街道周辺遺跡」と今回の調査区は、確認された遺構や遺物の時期はほぼ共通しているものの、（1）遺跡が立地する自然堤防とその由来する河川が異なること、（2）主体となる遺構群の評価が前者は下津城跡と鎌倉街道であるのに対して後者は古代集落が主体であることなど、遺跡の根幹に関わる部分で異なっていることが判明した。この状況を受け、今回の調査区が「鎌倉街道周辺遺跡」の一部と理解する妥当性に問題が生じたため、新たに「下津新町遺跡」を設定することとなったのである。

「下津新町遺跡」の範囲は、上記の見解を受け、旧河川の左岸自然堤防に展開すると推定されるので、第117図のように範囲を設定した。これに伴い、「下津新町遺跡」の範囲にかかる既存の「鎌

第 117 図　下津新町遺跡の範囲図
（国土地理院発行 1：25000「名古屋北部」「一宮」を一部改変した）

倉街道周辺遺跡」と「下津北山遺跡」の範囲も変更することとなった。

1 下津新町遺跡（新規）：古墳時代～近世：稲沢市下津新町１４３番地ほか

2 下津北山遺跡（範囲変更）：古墳時代～近世：稲沢市下津北山町

3 鎌倉街道周辺遺跡（範囲変更）：古墳時代～中世：下津住吉町ほか

（3）さいごに

発掘調査は、地質学的なものであれ考古学的なものであれ、その土地の履歴を明らかにする作業といえる。今回の下津新町遺跡の発掘調査では、最終的に４期16段階の遺構変遷を整理することができ、約2000年間にわたる土地利用のあり方や人々の営みの変遷を少なからず明らかにすることができたといえる。ただし、16段階に分けられる遺構変遷を持つ遺跡をわずかに４つの遺構面のみで把握したことによく示されるように、その調査精度は十分であったとはいいがたいものであった。各段階の様相を逐一現地で明らかにしていく作業は、現実的にはその実現が難しいが、ここで明らかになった成果を踏まえ今後の調査精度の向上を目指して努力していかなければならないと感じている。（鈴木正貴）

主要参考・引用文献

井口喜晴 1984『新修稲沢市史資料編６考古』稲沢市
北村和宏 1996「尾張平野における鎌倉・室町時代の煮沸具の編年」『年報平成７年度』（財）愛知県埋蔵文化財センター
佐藤公保 1986「中世土師器研究ノート（１）」『年報昭和60年度』（財）愛知県埋蔵文化財センター
城ヶ谷和広 1990「古代尾張の土師器～６世紀後半から11世紀の様相～」『年報平成２年度』（財）愛知県埋蔵文化財センター
城ヶ谷和広 2008「猿投窯・尾北窯における窯業生産体制」『日本考古学協会 2008 年度愛知大会研究発表資料集』日本考古学協会
鈴木正貴編 1995『清洲城下町遺跡Ⅴ』愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第 54 集
鈴木正貴 2006「織田信長の都市づくりの源流―尾張守護所の景観復元研究から考える―」『守護所と戦国城下町』高志書院
永井宏幸 1995「奈良・平安時代の土師器甕について」『年報平成６年度』（財）愛知県埋蔵文化財センター
永井宏幸 1996「尾張平野を中心とした古代煮炊具の様相」『鍋と甕そのデザイン』第４回東海考古学フォーラム
中野晴久 1994「生産地における編年について」『「中世常滑焼をおって」資料集』日本福祉大学知多半島総合研究所
楠崎彰一・斉藤孝正 1983『愛知県古窯跡分布調査報告書（Ⅲ）』愛知県教育委員会
早野浩二編 2000『下津北山遺跡』愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第 88 集
日野幸治他編 1985～1988『下津城跡発掘調査報告書（１）～（Ⅳ）』稲沢市教育委員会
北條献示編 2003『下津公民館用地埋蔵文化財発掘調査報告書』稲沢市教育委員会
藤澤良祐 2007「総論」『愛知県史　別編窯業２中世・近世瀬戸系』愛知県

報告書抄録

ふりがな	おりづしんまちいせき
書　　名	下津新町遺跡
副 書 名	
巻　　次	
シリーズ名	愛知県埋蔵文化財センター調査報告書
シリーズ番号	第159集
編著者名	鈴木正貴、加藤博紀、鬼頭剛、藤根久、中村賢太郎
編集機関	財団法人　愛知県教育・スポーツ振興財団　愛知県埋蔵文化財センター
所在地	〒498-0017 愛知県弥富市前ヶ須町野方802-24
発行年月日	西暦 2009年 3月 31日　　TEL0567(67)4161

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 ° ′ ″	東経 ° ′ ″	調査期間	調査面積	調査原因
おりづしんまちいせき 下津新町遺跡	いなざわし　おりづしんまち 稲沢市下津新町	23220	090270	35度 15分 27秒	136度 49分 34秒	20050418～ 20050916、 20051006～ 20051111	2278㎡	道路改良 工事

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
下津新町遺跡	集落	古墳時代前期	落ち込み、土坑など	土師器	
		古墳時代後期～平安時代	竪穴建物跡、掘立柱建物跡、溝、土坑など	須恵器、土師器 灰釉陶器など	古墳時代後期から古代の集落
	城郭	鎌倉時代～室町時代	掘立柱建物跡、柵列、溝、井戸、火葬施設、土坑など	山茶碗類、瀬戸美濃窯産陶器、石器・石製品、木製品、木材、金属製品およびその関連遺物など	下津城周辺の遺構群を検出
		江戸時代	溝、井戸、土坑など		岐阜街道沿いの集落

文書番号	発掘届出(16埋セ第115号・2005.3.8、17埋セ第48号・2005.9.1) 通知(16教生第2253号・2005.3.31、17教生第1239号・2005.9.29) 終了届・保管証・発見届(17埋セ第56号・2005.9.26、17埋セ第77号・2005.11.15)

要約

今回の調査で確認された遺構や遺物は4期に大別される。古墳時代前期では谷に向かう斜面に遺構や遺物が検出された。古墳時代後期から平安時代では竪穴建物と掘立柱建物を中心とした一般的な集落が確認された。鎌倉時代から平安時代では5段階に遺構変遷が把握され、宗教施設・屋敷・町場的な小区画の屋敷などが展開したと想定された。これらの遺構群は守護所下津との関連が注目されよう。戦国時代から江戸時代前半までは集落は途絶えるが、江戸時代後期では岐阜街道に面した屋敷が確認され、これが現在の下津新町につながるものと推定された。調査は当初「鎌倉街道周辺遺跡」として開始されたが、今回の調査区は推定鎌倉街道が通る自然堤防とは異なる河川による自然堤防上に立地しており、遺跡の内容も考慮した結果、「下津新町遺跡」という別遺跡として評価すべきと判断された。

付表の凡例

・付表として遺構一覧表と遺物一覧表を掲載したが、遺物一覧表のみを印刷し、遺構一覧表はCDにデータを収めている。
・遺構一覧表は、発掘調査の過程で検出されたものを全て掲載した。このため欠番になっているものも含まれている。「グリッド」では5mグリッドの下2桁のみを表記した。「遺構面」は発掘調査で最初に検出された遺構面を表記したもので、遺構本来の遺構面を表現しているものではない。
・遺物一覧表は、本書に実測図を掲載したもののみ記述した。「口径」などの数値はcm単位で表記し、残存値には「残」・推定値には「推」の文字を数値の前に記入した。「内面」と「外面」には観察される調整痕や使用痕を上位から順に記載した。

遺構図版の凡例

・発掘調査は第1面から第4面までの各遺構面に分けて実施されたが、ここに掲載する遺構図は発掘調査の際に作成した遺構図をそのまま使用している。したがって、各面における遺構の同時代性は保証されていない。なお、05C区のみは第1面から第3面までの遺構面しか存在しない。
・遺構図の縮尺は200分の1である。各遺構面とも2頁分の遺構図で全体が表現されている。
・遺構は原則として上場線（太線）と下場線（細線）で表現し、必要に応じ中場線を挿入した。等高線は10cm間隔で表現した。

番号	区	グリッド	遺構	取上	口径	底径	器高	破片数	種別	器種	時期	内面	外面	備考
1	B	4A5b	SX09	遺物1群	推13.0	-	残7.7	4	土師器	布留甕		横ナデ	横ナデ、ケズリ、ナデ、有機物付着	
2	Ab	4A5b	SX09	遺物1群遺物5	-	-		1	土師器	高坏		全体に横ナデ、ナデ	-	
3	Ab	4A5b	SX09	遺物1群	-	推10.2	残8.65	2	土師器	高坏		ナデ、横ナデ	絞り	
4	Ab	4A5b	SX09	遺物1群	-	-		1	土師器	高坏		横ナデか調整不明	-	
5	Ab	4A5b	SX09	遺物1群	-	-	残7.9	1	土師器	高坏			粘土貼付け、ナデ、ケズリ	
6	Ab	4A5b	SX09	遺物1群	-	-		1	土師器	直口壺		横ナデ	横ナデ	
7	Ab	4A6b	SX09	遺物4	推7.4	-	残5.1	16	土師器	S字甕		横ナデ、有機物付着	横ナデ、指押圧	
8	Ab	4A6b	SX09	遺物4	推14.0	-	残9.1	15	土師器	S字甕		横ナデ	横ナデ、指押圧、板ナデ	
9	Ab	4A6b	SX09		推14.0	-	残2.3	1	土師器	S字甕		横ナデ、ナデ	横ナデ	
10	Ab	4A6b	SX09		-	推8.0	残2.8	3	土師器	S字甕		-	指押圧、ナデ	
11	Ab	4A5b	SX09	遺物3群	推7.2	推10.8	残14.0	23	土師器	高坏	廻間Ⅱ式以前	横ナデ	横ナデ、ハケ、絞り、ナデ、ハケ	
12	Ab	4A5c	SX08	遺物1、遺物2		-		1	土師器	壺		横ナデ	横ナデ、ハケ、ケズリ、ナデ	
13	Ab	4A6b	SX10	遺物1	推15.3	-	残4.9	6	土師器	高坏		横ナデ、指押圧、ナデ	横ナデ、指押圧、ナデ、	
14	A	4A6g	SX06		推15.8	-	残6.7	2	土師器	高坏		横ナデ	ナデ、ヘラナデ、絞り	
15	A	4A6g	SX06		推14.5	-	残4.5	6	土師器	S字甕		横ナデ	横ナデ、指オサエ	
16	B	4A	SX02	遺2～15	推12.3	推8.6	25.1	46	土師器	S字甕		横ナデ、指押圧	板ナデ、輪状に有機物付着、指押圧、ナデ	
17	A	4A8e	SX07		14.0	-	残19.5	1	土師器	S字甕		横ナデ	横ナデ、指押圧、板ナデ	
18	A	4A9e	SK33		推19.2	-	残5.7	5	土師器	太頸壺		イタナデ、刺突、焼成前穿孔	横ナデ、ナデ	
19	A	4A7g	SK50		推18.6	-	残8.6	4	土師器	高坏		横ナデ	ミガキ	
20	A		SX11			推14.6	残1.4	1	土師器	高坏	廻間Ⅱ式以前	横ナデ	横ナデ	
21	A		検出Ⅳ			推15.6	残4.0	1	土師器	高坏		横ナデ	横ナデ	
22	B	4A	検出（機械）		-	-	残8.7	9	土師器	高坏		接合痕	ナデ	
23	B	4A	検出Ⅳ	遺2、遺3	推16.0	-	残2.5	3	土師器	鉢		-	全体に横ナデ or 回転ナデ	
24	B	4A8.9l	SB03		推14.2	-	残3.2	1	須恵器	杯身	高蔵寺2号窯式期	横ナデ	横ナデ	
25	B	4A8.9l	SB03		-	推10.2	残2.4	1	須恵器	杯身	高蔵寺2号窯式期	横ナデ	横ナデ、回転ヘラケズリ、回転糸切痕	
26	B	4A8l	SB03	P1	-	-	残2.6	1	須恵器	平瓶	7世紀後半～8世紀前	横ナデ	横ナデ	
27	B	4A9l	SB03		-	-	残1.4	1	須恵器	杯蓋	岩崎41号窯式期	横ナデ	横ナデ、自然釉	
28	B	4A9l	SB04		推14.6	-	残2.8	1	須恵器	杯身	8世紀代	横ナデ	横ナデ	
29	B	4A9l	SB04		-	推13.0	残1.6	1	須恵器	杯身	鳴海32号窯式期	横ナデ	横ナデ、回転ヘラケズリ	
30	B	4A9l	SB04		推14.8	-	残1.7	1	須恵器	盤	鳴海32号窯式期	横ナデ	横ナデ	
31	B	4A9l	SB04		推13.8	-	残1.5	1	須恵器	盤	鳴海32号窯式期	横ナデ	横ナデ	
32	B	4A8l	SB04	P2	推15.8	-	残2.1	1	須恵器	杯蓋	鳴海32号窯式期	横ナデ	回転ヘラケズリ、横ナデ	
33	B	4A9l	SB04		-	-	残2.4	1	須恵器	杯身	不明	横ナデ	横ナデ	
34	B	4A9l	SB04		-	-	残2.4	1	土師器	甕	不明	横ナデ、横ハケ	横ナデ	
35	B	4A8l	SB03.04		推18.4	-	残4.1	1	土師器	甕	7世紀代	横ナデ、横ハケ	横ナデ	
36	B	4A8j.k	SB05		推15.3	-	残2.7	1	須恵器	杯身	高蔵寺2号窯式期？	横ナデ	横ナデ	
37	B	4A7l	SB05		-	推11.2	残1.4	1	須恵器	杯身	高蔵寺2号窯式期	横ナデ	横ナデ、回転ヘラケズリ	
38	B	4A8j.k	SB05		-	推10.5	残1.6	1	須恵器	杯身	高蔵寺2号窯式期	横ナデ	横ナデ、回転ヘラケズリ、刻書	
39	B	4A8j.k	SB05		推16.2	-	残1.6	1	須恵器	杯蓋	鳴海32号窯式期	横ナデ	横ナデ、自然釉	
40	B	4A8j.k	SB05		-	-	残0.9	1	須恵器	杯蓋	高蔵寺2～鳴海32号窯式期	横ナデ	横ナデ	
41	B	4A8j.k	SB05		推10.1	推6.4	5.1	1	須恵器	合子	鳴海32号窯式期	横ナデ	横ナデ、自然釉、回転ヘラケズリ、別破片融着	
42	B	4A8j.k	SB05		-	-	残1.2	1	須恵器	甕	鳴海32号窯式期	横ナデ、自然釉	横ナデ	
43	B	4A8j.k	SB05		推18.8	-	残4.0	1	須恵器	鉄鉢	鳴海32号窯式期	横ナデ	横ナデ、自然釉	
44	B	4A7l	SB05		-	-	残2.0	1	須恵器	鉄鉢	鳴海32号窯式期	横ナデ	横ナデ、自然釉	
45	B	4A8j.k	SB05		-	-	残1.8	1	須恵器	鳥形硯蓋	鳴海32号窯式期	横ナデ	横ナデ、灰釉、刻紋	
46	B	4A8k	SB05	P2	-	-	残1.6	1	須恵器	蓋？	鳴海32号窯式期	横ナデ	横ナデ	
47	B	4A7j	SB06	遺物2	推17.0	推14.0	4.0	2	須恵器	杯身	高蔵寺2号窯式期	横ナデ	横ナデ	
48	B	4A8j	SB06		推16.0	推13.8	2.6	2	須恵器	杯身	高蔵寺2号窯式期	横ナデ	横ナデ、回転ヘラケズリ	
49	B	4A8j	SB06		-	推11.6	残1.9	2	須恵器	杯身	岩崎17号窯式期	横ナデ	横ナデ、回転ヘラケズリ	
50	B	4A8j	SB06		-	推8.0	残1.4	1	須恵器	杯身	岩崎17号窯式期	横ナデ	横ナデ、回転ヘラケズリ	
51	B	4A8j	SB06		-	9.0	残1.9	2	須恵器	杯身	鳴海32～折戸10号窯式期	横ナデ	横ナデ、回転ヘラケズリ	
52	B	4A8j	SB06		-	推6.0	残1.4	1	須恵器	杯身	高蔵寺2号窯式期	横ナデ	横ナデ、回転ヘラケズリ、刻書「同」？	
53	B	4A8i	SB06		推12.6	-	残2.5	1	須恵器	杯身	8世紀	横ナデ	横ナデ	
54	B	4A8i	SB06		-	-	残3.4	1	須恵器	杯身	8世紀	横ナデ	横ナデ	
55	B	4A8i	SB06		-	-	残2.5	1	須恵器	杯身	8世紀	横ナデ	横ナデ	
56	B	4A8i	SB06		-	-	残2.3	1	須恵器	盤	鳴海32号窯式期	横ナデ	横ナデ	

番号	区	グリッド	遺構	取上	口径	底径	器高	破片数	種別	器種	時期	内面	外面	備考
57	B	4A8i	SB06		-	-	残 2.3	1	須恵器	フラスコ形瓶	岩崎 41～高蔵寺 2 号窯式期	横ナデ	横ナデ、自然釉、透かし	
58	B	4A8i	SB06		-	推 7.2	残 1.9	1	須恵器	台子？	鳴海 32 号窯式期？	横ナデ	横ナデ、回転ヘラケズリ、刻書	
59	B	4A8i	SB06		-	推 7.6	残 3.6	1	須恵器	有台碗	9 世紀前半	横ナデ	横ナデ	
60	B	4A8i	SB06		-	-	残 1.6	1	須恵器	杯蓋	鳴海 32 号窯式期	横ナデ	横ナデ、回転ヘラケズリ	
61	B	4A8i	SB06		-	-	残 1.8	1	須恵器	杯蓋	高蔵寺 2 号窯式期？	横ナデ	横ナデ、自然釉、回転ヘラケズリ	
62	B	4A8i	SB06		-	-	残 1.6	1	須恵器	杯蓋	鳴海 32 号窯式期	横ナデ	横ナデ、回転ヘラケズリ、自然釉	
63	B	4A8j	SB06	北壁溝	-	-	残 2.0	1	須恵器	杯蓋	高蔵寺 2 号窯式期	横ナデ、自然釉	横ナデ、回転糸切痕	
64	B	4A8i	SB06		-	-	残 1.5	1	須恵器	杯蓋	高蔵寺 2 号窯式期	横ナデ	横ナデ	
65	B	4A8i	SB06		-	-	残 1.6	1	須恵器	杯蓋	高蔵寺 2 号窯式期	横ナデ	横ナデ	
66	B	4A8i	SB06		-	-	残 1.4	1	須恵器	高杯	東山 50 号窯式期	横ナデ、隙間	横ナデ、透かし	
67	B	4A8i	SB06		-	-	残 3.1	1	須恵器	壺	7 世紀？	横ナデ	横ナデ	
68	B	4A8i	SB06		推 21.8	-	残 2.7	1	須恵器	壺	6 世紀？	横ナデ	横ナデ、ハケ？	
69	B	4A8i	SB06		推 26.0	-	残 4.8	1	須恵器	提か壺	高蔵寺 2 号窯式期	横ナデ	横ナデ	
70	B	4A8j	SB06		推 25.8	-	残 3.0	1	土師器	甕	8 世紀前半	横ハケ	横ナデ、縦ハケ	
71	B	4A7i	SB07		推 18.0	-	残 1.7	1	須恵器	杯蓋	鳴海 32 号窯式期	横ナデ	横ナデ、回転ヘラケズリ	
72	B	4A7i	SB07		推 18.6	-	残 1.3	1	須恵器	杯蓋	高蔵寺 2 号窯式期	横ナデ	横ナデ	
73	B	4A7i	SB07		-	-	残 1.4	1	須恵器	杯蓋	高蔵寺 2 号窯式期	横ナデ	横ナデ、回転ヘラケズリ	
74	B	4A7i	SB07		-	-	残 2.3	1	須恵器	杯蓋	鳴海 32 号窯式期	横ナデ	横ナデ、回転ヘラケズリ	
75	B	4A7i	SB07		推 10.6	-	残 2.1	1	須恵器	杯身	鳴海 32 号窯式期	横ナデ、焼成不良	横ナデ、回転ヘラケズリ	
76	B	4A7i	SB07		-	-	残 1.7	1	須恵器	杯身	鳴海 32 号窯式期	横ナデ	横ナデ	
77	B	4A7i	SB07		-	-	残 2.3	1	須恵器	杯身	高蔵寺 2 号窯式期	横ナデ	横ナデ	
78	B	4A7i	SB07		-	-	残 1.2	1	須恵器	杯身	鳴海 32 号窯式期	横ナデ	横ナデ	
79	B	4A7i	SB07		-	-	残 1.5	1	須恵器	壺	鳴海 32 号窯式期	横ナデ	横ナデ	
80	B	4A7i	SB07		推 6.0	残 3.7		1	須恵器	鉢	鳴海 32 号窯式期	横ナデ	横ナデ、体部下端回転ヘラケズリ、回転糸切痕	
81	B	4A7i	SB07		推 15.4	-	残 4.3	1	須恵器	鉢		横ナデ	横ナデ、回転ヘラケズリ	
82	B	4A7h	SB08		-	-	残 1.3	1	須恵器	杯蓋	不明	横ナデ	横ナデ	
83	B	4A7h	SB08		推 12.3	推 9.4	2.5	1	須恵器	杯身	鳴海 32 号窯式期	横ナデ	横ナデ	
84	B	4A7h	SB08		-	推 7.0	1.5	1	須恵器	杯身	鳴海 32 号窯式期以降	横ナデ	横ナデ、回転糸切痕	
85	B	4A7h	SB08	遺物 1	-	5.8	残 2.3	1	須恵器	碗	鳴海 32 号窯式期	横ナデ	横ナデ、体部下半手持ちヘラケズリ、底部回転糸切痕、刻書「十」	
86	B	4A7h	SB09		-	-	残 1.7	1	須恵器	杯蓋	高蔵寺 2 号窯式期	横ナデ	横ナデ、回転ヘラケズリ	
87	B	4A7h	SB09		-	-	残 2.2	1	須恵器	杯蓋	折戸 10 号窯式期	横ナデ	横ナデ、回転ヘラケズリ	
88	B	4A7i	SB09		推 14.6	-	残 2.3	1	須恵器	杯蓋	高蔵寺 2 号窯式期	横ナデ	横ナデ、回転ヘラケズリ	
89	B	4A8h	SB09		推 15.4	-	残 1.3	1	須恵器	杯蓋	鳴海 32 号窯式期	横ナデ	横ナデ、自然釉	
90	B	4A7i	SB09	P4	-	-	残 1.7	1	須恵器	杯蓋	不明	横ナデ	横ナデ、自然釉	
91	B	4A7h	SB09		-	-	残 2.0	1	須恵器	杯蓋	折戸 10 号窯式期	横ナデ、自然釉	横ナデ、回転ヘラケズリ	
92	B	4A7i	SB09		-	-	残 2.0	1	須恵器	杯蓋	高蔵寺 2 号窯式期	横ナデ	横ナデ、回転ヘラケズリ	
93	B	4A8h	SB09		-	-	残 1.7	1	須恵器	杯蓋	高蔵寺 2 号窯式期	横ナデ	横ナデ、自然釉、回転ヘラケズリ	
94	B	4A7i	SB09		-	-	残 1.3	1	須恵器	杯蓋	折戸 10 号窯式期	横ナデ	横ナデ	
95	B	4A8h	SB09		-	-	残 1.9	1	須恵器	杯蓋	折戸 10 号窯式期	横ナデ	横ナデ、回転ヘラケズリ	
96	B	4A7i	SB09		推 14.0	推 10.4	4.2	1	須恵器	杯身	高蔵寺 2 号窯式期	横ナデ	横ナデ、回転糸切痕？	
97	B	4A8i	SB09		-	-	残 3.1	1	須恵器	杯身	不明	横ナデ	横ナデ	
98	B	4A8j	SB09	西壁溝	-	-	残 2.8	1	須恵器	杯身	不明	横ナデ	横ナデ	
99	B	4A7i	SB09	P1	-	-	残 2.7	1	須恵器	杯身	不明	横ナデ	横ナデ	
100	B	4A7i	SB09		推 12.6	-	残 2.3	1	須恵器	杯身	不明	横ナデ	横ナデ	
101	B	4A8j	SB09	西壁溝	-	推 11.2	残 1.6	1	須恵器	杯身	折戸 10 号窯式期	横ナデ	横ナデ、回転ヘラケズリ	
102	B	4A7h	SB09		-	推 11.3	残 1.6	1	須恵器	杯身	高蔵寺 2 号窯式期	横ナデ	横ナデ、回転ヘラケズリ	
103	B	4A7i	SB09		-	推 10.8	残 1.2	1	須恵器	杯身	折戸 10 号窯式期	横ナデ	横ナデ、回転ヘラケズリ、回転糸切痕	
104	B	4A7i	SB09		-	-	残 1.6	1	須恵器	杯身	折戸 10 号窯式期	横ナデ	横ナデ、回転ヘラケズリ	
105	B	4A8i	SB09		-	-	残 1.8	1	須恵器	杯身	高蔵寺 2 号窯式期	横ナデ	横ナデ、回転ヘラケズリ	
106	B	4A8i	SB09		-	-	残 1.5	1	須恵器	杯身	折戸 10 号窯式期	横ナデ	横ナデ、回転ヘラケズリ	
107	B	4A7i	SB09		-	-	残 1.5	1	須恵器	杯身	折戸 10 号窯式期	横ナデ	横ナデ、回転ヘラケズリ	
108	B	4A8i	SB09		-	-	残 1.6	1	須恵器	杯身	高蔵寺 2 号窯式期	横ナデ	横ナデ	
109	B	4A7i	SB09		-	-	残 2.0	1	須恵器	杯身	折戸 10 号窯式期	横ナデ	横ナデ	
110	B	4A8h	SB09	P3	-	推 20.0	残 1.6	1	須恵器	杯身	折戸 10 号窯式期	横ナデ	横ナデ、回転ヘラケズリ	
111	B	4A7i	SB09		推 15.6	-	残 1.6	1	土師器	壺	畿内系	横ナデ	横ナデ	
112	B	4A7h	SB09		-	-	残 1.9	1	須恵器	壺	鳴海 32 号窯式期	横ナデ	横ナデ	
113	B	4A7h	SB09		-	-	残 1.4	1	須恵器	壺	鳴海 32 号窯式期	横ナデ	横ナデ	

番号	区	グリッド	遺構	取上	口径	底径	器高	破片数	種別	器種	時期	内面	外面	備考
114	B	4A7i	SB09		推 10.2	-	残 2.6	1	須恵器	短頸壺	黒笹 14 号窯式期	灰釉、横ナデ	灰釉、横ナデ	
115	B	4A7i	SB09		-	-	残 2.9	1	須恵器	甑	岩崎 17 号窯式期	横ナデ	横ナデ、タタキ	
116	B	4A8j	SB09	西壁溝	-	-	残 1.4	1	須恵器	甕	8 世紀後半	横ナデ、自然釉	横ナデ	
117	B	4A7h	SB09		推 26.6	-	残 5.1	1	須恵器	大形深鉢	高蔵寺 2 号窯式期	横ナデ	横ナデ	
118	B	4A8i	SB09		-	-	残 3.0	1	須恵器	壺	鳴海 32 号窯式期	横ナデ	横ナデ	
119	B	4A8h	SB09		-	推 6.4	残 3.4	1	灰釉陶器	水瓶	折戸 10 号窯式期	横ナデ、灰釉	灰釉、横ナデ、回転ヘラケズリ	
120	B	4A7h	SB09		-	-	残 2.8	1	須恵器	鉢？	8 世紀	横ナデ	横ナデ	
121	B	4A8i	SB09		-	-	残 1.7	1	土師器	甕	8 世紀中～	横ハケ	横ナデ	
122	B	4A7h	SB09		-	-	残 1.7	1	土師器	甕	8 世紀中～	横ハケ	横ナデ、縦ハケ	
123	B	4A7i	SB09		-	-	残 1.4	1	灰釉陶器	皿	黒笹 90 号窯式期	灰釉	灰釉	
124	B	4A8h	SB09		-	推 5.6	残 1.5	1	尾張型	小碗		横ナデ	横ナデ、回転糸切痕	
125	B	4A8h	SB09		-	推 4.7	残 1.8	1	尾張型	小皿		横ナデ、一方向ナデ	横ナデ、回転糸切痕	
126	B	4A8h	SB09		-	推 4.2	残 1.4	1	尾張型	小皿		横ナデ、一方向ナデ	横ナデ、回転糸切痕	
127	B	4A7i	SB09	P5	推 9.0	-	残 1.4	1	尾張型	小皿		横ナデ、自然釉	横ナデ、自然釉	
128	B	4A7i	SB09		-	-	残 1.5	1	尾張型	山茶碗		横ナデ	横ナデ、モミ痕	
129	B	4A9j	SB10		-	-	残 1.7	1	須恵器	杯蓋	不明	横ナデ	横ナデ	
130	B	4A9j	SB10		-	-	残 1.2	1	須恵器	杯蓋	不明	横ナデ	横ナデ、自然釉	
131	B	4A9ij	SB10		-	-	残 1.1	1	須恵器	杯蓋	不明	横ナデ	横ナデ	
132	B	4A9ij	SB10		-	-	残 2.8	1	須恵器	杯蓋	不明	横ナデ	横ナデ、回転ヘラケズリ	
133	B	4A9j	SB10		推 18.2	-	残 1.2	1	須恵器	杯蓋	高蔵寺 2 号窯式期	横ナデ	横ナデ、自然釉	
134	B	4A9j	SB10		推 24.6	-	残 2.3	1	須恵器	杯蓋	鳴海 32 号窯式期	横ナデ	横ナデ	
135	B	4A9j	SB10		-	-	残 2.0	1	須恵器	杯蓋	高蔵寺 2 号窯式期	横ナデ	横ナデ、回転ヘラケズリ	
136	B	4A9j	SB10		-	-	残 1.6	1	須恵器	杯蓋	高蔵寺 2 号窯式期	横ナデ	横ナデ、回転ヘラケズリ	
137	B	4A9j	SB10		-	-	残 1.4	1	須恵器	杯蓋	高蔵寺 2 号窯式期	横ナデ	横ナデ	
138	B	4A9j	SB10		-	-	残 1.2	1	須恵器	杯蓋	不明	横ナデ	横ナデ	
139	B	4A8j	SB10		-	-	残 3.9	1	須恵器	高杯	東山 15 号窯式期	横ナデ	横ナデ、透かし 4 単位	
140	B	4A9ij	SB10		-	-	残 5.8	1	須恵器	高杯	東山 15 号窯式期	横ナデ、自然釉	横ナデ、自然釉、透かし 3 単位	
141	B	4A9j	SB10		-	推 10.4	残 0.9	1	須恵器	高杯	東山 15 号窯式期	横ナデ	横ナデ	
142	B	4A9j	SB10		-	推 10.6	残 0.9	1	須恵器	高杯	東山 15 号窯式期	横ナデ	横ナデ、自然釉	
143	B	4A9j	SB10		-	-	残 1.6	1	須恵器	鳥形硯蓋	鳴海 32 号窯式期	ヘラケズリ	横ナデ、刻紋	
144	B	4A9i	SB10	P4	推 16.4	推 12.8	4.1	1	須恵器	杯身	鳴海 32 号窯式期	横ナデ	横ナデ、回転ヘラケズリ、自然釉	
145	B	4A9j	SB10		-	推 13.2	残 1.7	1	須恵器	杯身	高蔵寺 2 号窯式期	横ナデ	横ナデ、回転ヘラケズリ、回転糸切痕	
146	B	4A9j	SB10		-	推 12.4	残 1.6	1	須恵器	杯身	鳴海 32 号窯式期	横ナデ	横ナデ、回転ヘラケズリ	
147	B	4A9j	SB10		-	推 10.4	残 1.6	1	須恵器	杯身	高蔵寺 2 号窯式期	横ナデ	横ナデ、回転ヘラケズリ	
148	B	4A9j	SB10		-	推 10.4	残 1.4	1	須恵器	杯身	岩崎 41 号窯式期	横ナデ	横ナデ	
149	B	4A8j	SB10		-	推 11.8	残 1.1	1	須恵器	杯身	鳴海 32 号窯式期	横ナデ	横ナデ、回転ヘラケズリ	
150	B	4A9j	SB10		-	-	残 2.4	1	須恵器	杯身	不明	横ナデ	横ナデ	
151	B	4A9j	SB10		-	-	残 2.4	1	須恵器	杯身	不明	横ナデ	横ナデ	
152	B	4A9j	SB10		-	-	残 2.0	1	須恵器	杯身	高蔵寺 2 号窯式期	横ナデ	横ナデ	
153	B	4A8j	SB10		-	-	残 2.5	1	須恵器	杯身	折戸 10 号窯式期	横ナデ	横ナデ、回転ヘラケズリ、刻書	
154	B	4A9ij	SB10		-	-	残 1.8	1	土師器	甕		横ハケ	横ナデ	
155	B	4A9i	SB10	P4	-	-	残 2.3	1	土師器	甕	不明	横ナデ	横ナデ	
156	B	4A9j	SB10		-	-	残 4.0	1	土師器	甕	7 世紀代	横ナデ、横ハケ	横ナデ、縦ハケ	
157	B	4A9j	SB10		-	推 6.6	残 3.5	1	須恵器	鉢？	鳴海 32 号窯式期	横ナデ	横ナデ、体部下半手持ちヘラケズリ、回転糸切痕	
158	B	4A8j	SB10		-	7.4	残 3.8	1	尾張型	山茶碗		横ナデ、一方向ナデ	横ナデ、回転糸切痕、モミ痕	
159	B	4A10ij	SB11		推 14.4	-	残 1.6	1	須恵器	杯蓋	高蔵寺 2 号窯式期	横ナデ	横ナデ、回転ヘラケズリ、自然釉	
160	B	4A10i	SB11		推 14.8	-	残 1.8	1	須恵器	杯蓋	高蔵寺 2 号窯式期	横ナデ	横ナデ、自然釉	
161	B	4A10i	SB11		推 21.6	-	残 1.1	1	須恵器	杯蓋	鳴海 32 号窯式期	横ナデ	横ナデ、自然釉	
162	B	4A10j	SB11		-	-	残 1.5	1	須恵器	杯蓋	高蔵寺 2 号窯式期	横ナデ	横ナデ	
163	B	4A10i	SB11		-	-	残 1.6	1	須恵器	杯蓋	鳴海 32 号窯式期	横ナデ	横ナデ、自然釉	
164	B	4A10ij	SB11		-	-	残 1.4	1	須恵器	杯蓋	鳴海 32 号窯式期	横ナデ	横ナデ、自然釉	
165	B	4A10i	SB11		-	-	残 1.3	1	須恵器	杯蓋	鳴海 32 号窯式期	横ナデ	横ナデ、回転ヘラケズリ	
166	B	4A10i	SB11		-	推 11.4	残 2.1	1	須恵器	杯身	高蔵寺 2 号窯式期	横ナデ	横ナデ、回転ヘラケズリ	
167	B	4A10i	SB11		-	-	残 3.3	1	須恵器	杯身	不明	横ナデ	横ナデ	
168	B	4A10j	SB11		推 21.6	-	残 2.1	1	土師器	杯身	畿内系	調整不明、スス付着	調整不明	
169	B	4A10i	SB11		-	-	残 1.2	1	須恵器	盤	鳴海 32 号窯式期	横ナデ	横ナデ	
170	B	4A10i	SB11		-	-	残 2.3	1	須恵器	壺類		横ナデ	横ナデ	
171	B	4A10i	SB11		-	-	残 3.7	1	須恵器	壺	7 世紀	横ナデ	横ナデ	

遺物一覧表（4）

番号	区	グリッド	遺構	取上	口径	底径	器高	破片数	種別	器種	時期	内面	外面	備考
172	B	4A10i	SB11	P3	-	-	残 2.6	1	須恵器	壺	高蔵寺 2 号窯式期	横ナデ	横ナデ	
173	B	4A10j	SB11		-	-	残 4.5	1	灰釉陶器	瓶類	黒笹 90 号窯式期	横ナデ	横ナデ	
174	B	4A10j	SB11		-	-	残 2.6	1	土師器	甕		横ナデ、横ハケ	横ナデ	
175	B	4A10i	SB11		-	推 9.6	残 1.2	1	尾張型	山茶碗		横ナデ	横ナデ、回転糸切痕	
176	B	4A10ij	SB11		-	-	残 1.3	1	尾張型	山茶碗		横ナデ	横ナデ、回転糸切痕	
177	B	4A10j	SB11		-	-	残 2.3	1	尾張型	山茶碗		横ナデ	横ナデ	
178	B	4A10i	SB12		-	-	残 1.7	1	須恵器	杯蓋	高蔵寺 2 号窯式期	横ナデ	横ナデ、自然釉	
179	B	4A10i	SB12		-	-	残 1.8	1	須恵器	杯蓋	鳴海 32 号窯式期	横ナデ	横ナデ、回転ヘラケズリ	
180	B	4A10k	SB12		-	推 9.0	残 1.7	1	須恵器	杯身		横ナデ	横ナデ、回転糸切痕？	
181	B	4A10i	SB12		-	推 10.0	残 1.7	1	須恵器	杯身	鳴海 32 号窯式期	横ナデ	横ナデ、回転ヘラケズリ	
182	B	4A10k	SB12		-	-	残 1.4	1	須恵器	杯身	鳴海 32 号窯式期	横ナデ	横ナデ	
183	B	4A10j	SB12		-	-	残 1.1	1	須恵器	杯身	鳴海 32 号窯式期	横ナデ	横ナデ、回転ヘラケズリ	
184	B	4A10j	SB12		-	-	残 1.2	1	須恵器	杯身	鳴海 32 号窯式期	横ナデ	横ナデ、回転ヘラケズリ	
185	B	4A10k	SB12		推 26.0	-	残 3.4	1	須恵器	鉢	高蔵寺 2 号窯式期	横ナデ、端部自然釉	横ナデ	
186	B	4A10i	SB12		-	-	残 3.6	1	須恵器	無蓋高杯	東山 44 号窯式期	横ナデ	横ナデ、波状紋	
187	B	4A10j	SB12	P1	-	-	残 1.7	1	土師器	甕	8 世紀中	横ハケ、スス付着	横ナデ	
188	B	4A10k	SB12		推 16.2	-	残 1.5	2	土師器	甕	8 世紀中～	粗い横ハケ	横ナデ、粗い縦ハケ	
189	B	4A10i	SB12		-	推 6.4	残 2.0	1	尾張型	山茶碗		横ナデ	横ナデ、回転糸切痕、モミ痕	
190	B	4A9k	SB13		-	-	残 3.0	1	須恵器	杯身	不明	横ナデ	横ナデ	
191	B	4A9k	SB13		-	推 10.2	残 1.7	1	須恵器	杯身		横ナデ	横ナデ	
192	B	4A9k	SB13		推 21.6	-	残 2.3	1	須恵器	高盤	鳴海 32 号窯式期	横ナデ	横ナデ、回転ヘラケズリ	
193	B	4A9k	SB13	P1	-	-	残 3.2	1	須恵器	鉢？	不明	横ナデ	横ナデ	
194	B	4A9k	SB13		推 7.8	-	残 3.6	2	須恵器	平瓶	折戸 10 号窯式期～	横ナデ、自然釉	横ナデ、自然釉	
195	B	4A9k	SB13		-	推 7.6	残 2.1	2	須恵器	壺	7 世紀～8 世紀	横ナデ	下半静止ヘラケズリ、黄土	
196	B	4A9k	SB13		-	推 7.4	残 2.9	1	尾張型	山茶碗		横ナデ	横ナデ、回転糸切痕、モミ痕	
197	B	4A9k	SB13		-	推 7.8	残 3.5	1	尾張型	山茶碗		横ナデ	横ナデ、回転糸切痕	
198	B	4A9k	SB13		-	-	残 1.8	1	中国産磁器	白磁玉縁口縁碗		白磁釉	白磁釉	
199	B	4A9k	SB14		-	-	残 1.8	1	須恵器	杯蓋	不明	横ナデ、自然釉	横ナデ、回転ヘラケズリ	
200	B	4A9k	SB14		-	-	残 1.3	1	須恵器	杯蓋	折戸 10 号窯式期	横ナデ	横ナデ	
201	B	4A9k	SB14		推 14.4	-	残 1.6	1	須恵器	盤	鳴海 32 号窯式期	横ナデ	横ナデ、回転ヘラケズリ	
202	B	4A9k	SB14		推 16.6	-	残 1.2	1	須恵器	杯蓋	高蔵寺 2 号窯式期	横ナデ	横ナデ	
203	B	4A9k	SB14		推 9.4	-	残 1.5	1	須恵器	壺蓋？	鳴海 32 ～折戸 10 号窯式期	横ナデ、自然釉	横ナデ、自然釉	
204	B	4A9k	SB14		-	推 5.4	残 1.0	1	須恵器	杯身	折戸 10 号窯式期	横ナデ	横ナデ、回転糸切痕	
205	B	4A9k	SB14		-	-	残 2.5	1	須恵器	杯身	不明	横ナデ	横ナデ	
206	B	4A9k	SB14		-	推 10.8	残 2.0	1	須恵器	袋物脚部	7 世紀代	横ナデ、自然釉	横ナデ	
207	B	4A9k	SB14		推 24.6	-	残 2.7	1	土師器	甕	7 世紀代	横ナデ、横ハケ	横ナデ、横ハケ	
208	B	4A9k	SB14		-	-	残 3.0	1	土師器	甕	8 世紀前半	横ハケ	横ナデ、斜めハケ	
209	B	4A9k	SB14		-	-	残 2.8	2	土師器	甕	古墳時代	横ナデ	横ナデ	
210	B	4A9k	SB14		-	-	残 2.9	1	土師器	甕		粗い横ハケ	横ナデ、斜めハケ	
211	B	4A9k	SB14		-	-	残 9.7	3	土師器	甕		指オサエ、横ナデ	縦ハケ	
212	B	4A7.8g	SB17		推 14.2	-	残 2.5	1	須恵器	杯身	不明	横ナデ	横ナデ	
213	B	4A7.8g	SB17		推 15.2	-	残 3.9	1	須恵器	杯身	不明	横ナデ	横ナデ	
214	B	4A7.8g	SB17		-	-	残 2.0	1	土師器	甕		横ハケ	横ナデ	
215	B	4A8.9l	SB19		-	-	残 2.3	1	須恵器	杯蓋	不明	横ナデ	横ナデ、自然釉	
216	B	4A8.9l	SB19		-	-	残 1.2	2	須恵器	杯蓋	鳴海 32 号窯式期	横ナデ	横ナデ、自然釉	
217	B	4A8.9l	SB19		推 15.8	-	残 4.5	2	須恵器	杯身	不明	横ナデ	横ナデ、回転ヘラケズリ？	
218	B	4A8.9l	SB19		-	推 11.0	残 2.5	1	須恵器	杯身	高蔵寺 2 号窯式期	横ナデ	横ナデ	
219	B	4A8l	SB19	炉跡	推 13.2	-	残 3.6	1	須恵器	杯身	高蔵寺 2 号窯式期	横ナデ	横ナデ、回転ヘラケズリ	
220	B	4A8.9l	SB19		推 15.4	-	残 2.9	1	須恵器	杯身	不明	横ナデ	横ナデ	
221	B	4A8.9l	SB19		-	-	残 3.0	1	須恵器	不明		横ナデ	横ナデ、回転ヘラケズリ	
222	B	4A8.9l	SB19		推 22.4	-	残 8.1	1	灰釉陶器	鉄鉢	鳴海 32 号窯式期	灰釉、横ナデ	灰釉剥離、横ナデ	
223	B	4A8.9l	SB19		-	-	残 5.5	1	須恵器	フラスコ形瓶	東山 50 号窯式期	横ナデ	横ナデ、沈線	
224	B	4A8.9l	SB19		-	-	残 2.5	1	須恵器	長頸瓶	折戸 10 号窯式期～	横ナデ	灰釉、横ナデ	
225	B	4A8.9l	SB19		-	-	残 2.1	1	土師器	甕		横ハケ、スス付着	横ナデ	
226	B	4A9l	SB19		-	-	残 2.4	1	土師器	甕		横ハケ	横ナデ	
227	B	4A8.9l	SB19		-	-	残 3.0	1	土師器	甕	7 世紀	横ハケ	横ナデ、縦ハケ	
228	B	4A8l	SB19	炉跡	推 13.4	-	残 1.5	2	土師器	甕		横ナデ	横ナデ	
229	B	4A8.9l	SB19		推 21.2	-	残 6.5	1	土師器	甕	7 世紀～	横ハケ	横ナデ、縦ハケ	

番号	区	グリッド	遺構	取上	口径	底径	器高	破片数	種別	器種	時期	内面	外面	備考
230	B	4A9k」	SB20			-	残 0.8	1	須恵器	杯蓋	不明	-	横ナデ	
231	B	4A8k	SB20	カマド	推 13.5	-	残 1.7	1	須恵器	杯蓋	高蔵寺２号窯式期	横ナデ	横ナデ、回転ヘラケズリ、自然釉	
232	B	4A9k	SB20	カマド	推 15.6	-	残 1.7	1	須恵器	杯蓋	陶邑 32 号窯式期	横ナデ、スス付着	横ナデ、回転ヘラケズリ	
233	B	4A10k	SB20	遺物 1,2	11.8	6.0	4.6	3	須恵器	杯身	岩崎 41 号窯式期	横ナデ	横ナデ、回転糸切後ヨコヘラケズリ	
234	B	4A9k」	SB20		推 9.4	残 1.4	1	須恵器	杯身	高蔵寺２号窯式期	横ナデ	横ナデ、回転ヘラケズリ		
235	B	4A9k	SB20	遺物 1	-	-	残 2.0	1	須恵器	有台杯	７世紀代	横ナデ	横ナデ、回転ヘラケズリ	
236	B	4A9k」	SB20		-	-	残 2.0	1	須恵器	高杯？	不明	横ナデ	横ナデ	
237	B	4A9k」	SB20		-	推 11.4	残 1.4	1	須恵器	高杯	東山 50 号窯式期	横ナデ	横ナデ	
238	B	4A9k」	SB20		-	-	残 1.3	1	須恵器	壺		横ナデ	横ナデ	
239	B	4A9k」	SB20		-	-	残 3.2	1	土師器	製塩土器		-	横ナデ	
240	B	4A9l	SB21		推 11.2	推 6.2	4.3	1	須恵器	杯身	岩崎 41 号窯式期	横ナデ	横ナデ、 回転糸切後に静止ヘラケズリ	
241	B	4A9l	SB21		-	-	残 3.9	1	須恵器	杯身	不明	横ナデ	横ナデ	
242	B	4A9l	SB21		-	-	残 3.8	1	須恵器	杯身	岩崎 41～高蔵寺２号窯式期	横ナデ	横ナデ	
243	B	4A8l	SB21	遺物 1	-	10.4	残 1.0	1	須恵器	杯身	岩崎 41～高蔵寺２号窯式期	横ナデ	横ナデ、回転ヘラケズリ	
244	B	4A9l	SB21		推 13.2	-	残 1.5	1	須恵器	杯蓋	岩崎 41～高蔵寺２号窯式期	横ナデ	横ナデ、回転ヘラケズリ	
245	B	4A8l	SB21	カマド	推 6.2	-	残 6.3	1	須恵器	平瓶？	岩崎 41～高蔵寺２号窯式期	横ナデ	横ナデ	
246	B	4A9l	SB21		推 14.0	-	残 4.5	1	須恵器	鉢	岩崎 41～高蔵寺２号窯式期	横ナデ	横ナデ	
247	B	4A10l	SB21		-	-	残 3.2	2	土師器	壺		横ナデ、横ハケ	横ナデ	
248	B	4A9l	SB21		推 19.0	-	残 1.7	1	土師器	壺		横ハケ	横ナデ	
249	B	4A8k	SB22		推 11.0	-	残 1.7	1	須恵器	杯蓋	高蔵寺２号窯式期	横ナデ	横ナデ、回転ヘラケズリ	
250	B	4A8k	SB22		推 15.2	-	残 2.1	1	須恵器	杯蓋	陶邑 32 号窯式期	横ナデ	横ナデ、自然釉	
251	B	4A8k	SB22		推 15.4	-	残 1.9	1	須恵器	杯蓋	高蔵寺２号窯式期	横ナデ	横ナデ、回転ヘラケズリ	
252	A	4A8k	SB22	遺物 1	推 18.2	-	残 2.7	1	須恵器	杯蓋	高蔵寺２号窯式期	横ナデ	自然釉、回転ヘラケズリ、横ナデ	
253	B	4A8k	SB22		推 13.6	-	残 2.0	1	須恵器	杯身	不明	横ナデ	横ナデ、自然釉	
254	B	4A8k	SB22		推 15.8	-	残 3.5	1	須恵器	杯身	不明	横ナデ	横ナデ	
255	B	4A8k	SB22		-	-	残 4.5	1	須恵器	台子身	陶邑 32 号窯式期？	横ナデ	横ナデ、自然釉	
256	B	4A8k	SB22		-	-	残 3.4	1	須恵器	杯身	不明	横ナデ	横ナデ	
257	B	4A8k	SB22		-	推 8.8	残 2.0	1	須恵器	高杯	岩崎 17 号窯式期	横ナデ	横ナデ	
258	B	4A8l	SB22		-	推 14.0	残 9.5	1	須恵器	鉢	岩崎 17 号窯式期	指オサエ、横ナデ	ケタキ後横ナデ	
259	B	4A8l	SB23		推 14.4	推 11.0	残 9.1	3	須恵器	杯身	高蔵寺２号窯式期	横ナデ	横ナデ、回転ヘラケズリ	
260	B	4A8l	SB23		-	-	残 1.4	1	土師器	杯身	不明	横ナデ、赤面剥離	横ナデ	
261	B	4A8k	SB23	カマド	推 15.2	推 11.8	2.1	2	須恵器	盤	折戸 10 号窯式期	横ナデ	横ナデ、回転ヘラケズリ	
262	B	4A8l	SB23		推 27.2	-	残 3.9	1	須恵器	鉢	岩崎 17 号窯式期	横ナデ	横ナデ、ケタキ	
263	B	4A8j	SB24	遺物 4	15.6	-	3.3	3	須恵器	杯蓋	岩崎 41 号窯式期	横ナデ	横ナデ、回転ヘラケズリ、自然釉	
264	B	4A7j	SB24	P5	推 17.8	-	残 2.1	1	須恵器	杯蓋	折戸 10 号窯式期	横ナデ、自然釉	横ナデ、回転ヘラケズリ	
265	B	4A7j	SB24	遺物 7	-	-	残 2.5	1	須恵器	杯蓋	陶邑 32 号窯式期	横ナデ、自然釉	横ナデ、回転ヘラケズリ	
266	B	4A7.8j	SB24		-	-	残 1.6	1	須恵器	杯蓋	高蔵寺２号窯式期	横ナデ	横ナデ	
267	B	4A7.8j	SB24		-	-	残 1.6	1	須恵器	杯蓋	高蔵寺２号窯式期	横ナデ	横ナデ、自然釉	
268	B	4A7.8j	SB24		-	-	残 1.7	1	須恵器	杯蓋	陶邑 32 号窯式期	横ナデ	横ナデ	
269	B	4A8j	SB24	SK01	-	-	残 1.8	1	須恵器	杯蓋	高蔵寺２号窯式期	横ナデ	横ナデ、回転ヘラケズリ	
270	B	4A7.8j	SB24		推 13.2	-	残 3.6	2	須恵器	杯身	不明	横ナデ	横ナデ	
271	B	4A7.8j	SB24		-	-	残 1.1	1	須恵器	杯身	折戸 10 号窯式期	横ナデ	横ナデ	
272	B	4A7.8j	SB24		-	-	残 1.9	1	須恵器	杯身	不明	横ナデ	横ナデ	
273	B	4A7.8j	SB24		推 17.8	-	残 2.9	1	須恵器	無蓋高杯	東山 50 号窯式期	横ナデ	横ナデ、自然釉	
274	B	4A8j	SB24	SK01	-	推 10.4	残 3.3	1	須恵器	長頸瓶	折戸 10 号窯式期	横ナデ、自然釉	横ナデ、自然釉、回転ヘラケズリ	
275	B	4A8j	SB24		-	-	残 7.9	1	須恵器	平瓶	岩崎 41～高蔵寺２号窯式期	横ナデ	横ナデ	
276	B	4A7.8j	SB24		-	-	残 2.6	1	須恵器	鉢	岩崎 17 号窯式期	横ナデ	横ナデ、ケタキ	
277	B	4A7.8j	SB24		-	-	残 2.0	1	土師器	壺		横ハケ、スス付着	横ナデ	
278	B	4A7.8j	SB24		-	-	残 1.8	1	土師器	壺		横ハケ	横ナデ	
279	B	4A7.8j	SB24		推 18.8	-	残 3.3	1	土師器	壺		横ハケ	横ナデ	
280	B	4A10j	SB25	遺物 2	推 13.4	-	2.5	3	須恵器	杯蓋	高蔵寺２号窯式期	横ナデ	横ナデ、回転ヘラケズリ	
281	B	4A10j	SB25		推 16.4	-	残 2.3	1	須恵器	杯蓋	高蔵寺２号窯式期	横ナデ	横ナデ、回転ヘラケズリ	
282	B	4A10j	SB25		推 17.4	-	残 1.8	1	須恵器	杯蓋	高蔵寺２号窯式期	横ナデ	横ナデ、自然釉	
283	B	4A10j	SB25		推 18.6	-	残 1.6	1	須恵器	杯蓋	高蔵寺２号窯式期	横ナデ	横ナデ、自然釉	
284	B	4A10j	SB25		-	-	残 1.3	1	須恵器	杯蓋	陶邑 32 号窯式期	横ナデ	横ナデ、回転ヘラケズリ	
285	B	4A10j	SB25		-	-	残 1.4	1	須恵器	杯蓋	高蔵寺２号窯式期	横ナデ	横ナデ	
286	B	4A9.10j	SB25		-	-	残 1.5	1	須恵器	杯蓋	陶邑 32 号窯式期	横ナデ	横ナデ	
287	B	4A10j	SB25		-	-	残 1.5	1	須恵器	杯蓋	陶邑 32 号窯式期	横ナデ	横ナデ、回転ヘラケズリ	

番号	区	グリッド	遺構	取上	口径	底径	器高	破片数	種別	器種	時期	内面	外面	備考
288	B	4A1Oj	SB25		-	-	残 1.5	1	須恵器	杯蓋	陶邑 32 号窯式期	横ナデ	横ナデ、回転ヘラケズリ、自然釉	
289	B	4A1Oj	SB25	トレンチ	-	-	残 1.1	1	須恵器	杯蓋	高蔵寺 2 号窯式期	横ナデ	横ナデ	
290	B	4A1Oj	SB25		推 16.8	-	残 3.2	1	白釉陶器	碗		灰釉、横ナデ	灰釉、横ナデ	
291	B	4A1Oj	SB25		-	-	残 2.4	1	須恵器	杯身		横ナデ	横ナデ	
292	B	4A1Oj	SB25		-	推 13.6	残 1.3	1	須恵器	杯身	折戸 10 号窯式期	横ナデ	横ナデ、回転ヘラケズリ	
293	B	4A1Oj	SB25		-	-	残 0.6	1	須恵器	杯身	不明	横ナデ	回転ヘラケズリ、刻書「十」	
294	B	4A1Oj	SB25		-	-	残 2.8	1	須恵器	杯身	不明	横ナデ	横ナデ	
295	B	4A1Oj	SB25		-	推 9.2	残 1.8	1	須恵器	高杯	前期 41 号窯式期	横ナデ	横ナデ	
296	B	4A1Oj	SB25	遺物 1	-	-	残 6.1	1	須恵器	平瓶	前期 41 号窯式期	横ナデ	横ナデ、自然釉	
297	B	4A1Oj	SB25		-	-	残 4.6	1	土師器	甕	7 世紀	横ハケ、指オサエ	横ナデ、ハケ	
298	B	4A1Oj	SB25		-	推 6.2	残 2.8	1	土師器	壺		横ナデ	横ハケ、指オサエ、底部木葉痕	
299	B	4A1Oj	SB26	遺物 4	-	-	残 2.5	1	須恵器	杯蓋	折戸 10 号窯式期	横ナデ	横ナデ、自然釉	
300	B	4A1Oj	SB26	遺物 1	推 16.0	-	残 2.4	1	須恵器	杯蓋	折戸 10 号窯式期	横ナデ	横ナデ、回転ヘラケズリ	
301	B	4A9ii	SB26		-	推 9.2	残 4.4	1	須恵器	壺横	折戸 10 号窯式期	横ナデ	横ナデ、回転ヘラケズリ	
302	B	4A1Oj	SB26		-	-	残 3.4	1	須恵器	杯蓋	6 世紀後半	横ナデ	横ナデ	
303	B	4A9ii	SB26		-	-	残 4.5	1	須恵器	杯身	高蔵寺 2 号窯式期	横ナデ	横ナデ	
304	B	4A9ii	SB26		推 11.6	-	残 1.7	1	須恵器	杯身	折戸 10 号窯式期	横ナデ	横ナデ、回転ヘラケズリ	
305	B	4A9ii	SB26		推 12.6	-	残 1.3	1	須恵器	杯身	前期 41 号窯式期	横ナデ	横ナデ、自然釉、回転ヘラケズリ	
306	B	4A9ii	SB26		-	-	残 1.5	1	須恵器	杯身	前期 17 号窯式期	横ナデ	横ナデ	
307	B	4A1Oj	SB26		-	-	残 1.8	1	須恵器	高杯	東山 44 ～ 50 号窯式期	横ナデ	横ナデ、回転ヘラケズリ	
308	B	4A1Oj	SB26		-	-	残 6.9	1	須恵器	高杯	7 世紀前半	横ナデ	横ナデ	
309	B	4A1Oj	SB26	遺物 6	推 12.6	-	残 4.4	1	須恵器	高杯	前期 41 号窯式期	横ナデ	横ナデ、回転ヘラケズリ	
310	B	4A9ii	SB26	遺物 5	-	-	残 2.3	1	須恵器	壺横	前期 17 か 41 号窯式期	横ナデ	横ナデ、回転ヘラケズリ	
311	B	4A1Oj	SB26		-	-	残 3.8	1	土師器	鉢		-	ナデ	
312	B	4A1Oj	SB26		推 11.6	-	残 1.7	9	土師器	皿		ナデ、ハケ	ナデ、ハケ	
313	B	4A1Oj	SB26		-	-	残 7.9	24	土師器	壺		横ナデ、横ハケ、指オサエ	横ナデ、斜めハケ	
314	B	4A9ij	SB27		推 13.6	-	残 2.8	1	須恵器	杯蓋	6 世紀後半	横ナデ	横ナデ	
315	B	4A1Oj	SB27		-	-	残 2.5	1	須恵器	杯蓋	6 世紀後半	横ナデ	横ナデ	
316	B	4A1Oj	SB27		-	-	残 1.3	1	須恵器	杯身	高蔵寺 2 号窯式期	横ナデ	横ナデ	
317	B	4A1Oj	SB27		-	-	残 3.1	1	須恵器	杯身	不明	横ナデ	横ナデ	
318	B	4A1Oj	SB27		推 12.8	-	残 1.1	1	須恵器	杯身	陶邑 32 号窯式期	横ナデ	横ナデ、回転ヘラケズリ	
319	B	4A1Oj	SB27		-	-	残 1.3	1	須恵器	杯身	高蔵寺 2 号窯式期	横ナデ	横ナデ	
320	B	4A9j	SB27		推 15.4	-	残 2.7	2	須恵器	高杯	前期 41 号窯式期	横ナデ	横ナデ、自然釉	
321	B	4A1Oj	SB27		推 7.4	-	残 2.7	1	須恵器	平瓶	不明	横ナデ、自然釉	横ナデ、自然釉	
322	B	4A1Oj	SB27		-	-	残 7.6	1	須恵器	壺	不明	横ナデ、タタキ	横ナデ、タタキ、自然釉	
323	B	4A1Oj	SB27		-	-	残 5.1	1	須恵器	壺	不明	横ナデ、タタキ、自然釉	横ナデ、タタキ	
324	B	4A1Oj	SB27	カマド	推 19.0	-	残 1.8	1	土師器	壺		横ナデ、横ハケ	横ナデ、縦ハケ	
325	B	4A1Oj	SB27	カマド	推 21.6	-	残 1.8	1	土師器	壺		横ナデ、横ハケ	横ナデ、縦ハケ	
326	B	4A1Oj	SB27		-	-	残 1.9	1	土師器	壺		横ナデ	横ナデ	
327	B	4A1Oj	SB27	カマド、遺物 2		6.3	残 13.1	12	土師器	壺		横ナデ、指オサエ	横ナデ、縦ハケ、斜めハケ	
328	B	4A7i	SB28	遺物 1	推 15.0	-	2.6	3	須恵器	杯蓋	陶邑 32 号窯式期	横ナデ	横ナデ、回転ヘラケズリ、自然釉	
329	B	4A7i	SB28	遺物 2	推 13.7	-	残 3.0	1	須恵器	杯蓋	高蔵寺 2 号窯式期	横ナデ	横ナデ、自然釉	
330	B	4A7i	SB28		推 14.0	-	残 1.5	1	須恵器	杯蓋	高蔵寺 2 号窯式期	横ナデ	横ナデ、回転ヘラケズリ	
331	B	4A7j	SB28		推 18.2	-	残 2.2	1	須恵器	杯蓋	陶邑 32 号窯式期	横ナデ	横ナデ、回転ヘラケズリ	
332	B	4A7i	SB28		推 18.2	-	残 1.2	1	須恵器	杯蓋	高蔵寺 2 号窯式期	横ナデ	横ナデ	
333	B	4A7j	SB28		-	-	残 2.6	1	須恵器	杯身	東山 50 号窯式期	横ナデ	横ナデ、回転ヘラケズリ	
334	B	4A7j	SB28		-	-	残 2.3	1	須恵器	杯身	不明	横ナデ	横ナデ	
335	B	4A7i	SB28		-	-	残 2.5	1	須恵器	杯身	不明	横ナデ	横ナデ	
336	B	4A7i	SB28		-	-	残 2.3	1	須恵器	杯身	不明	横ナデ	横ナデ	
337	B	4A8i	SB28		推 13.0	-	残 3.6	1	須恵器	杯身	不明	横ナデ	横ナデ	
338	B	4A7i	SB28		推 16.8	-	残 2.5	1	須恵器	杯身	不明	横ナデ	横ナデ	
339	B	4A7i	SB28		-	-	残 2.4	1	須恵器	壺	陶邑 32 号窯式期	横ナデ	横ナデ、回転ヘラケズリ	
340	B	4A7i	SB28		-	-	残 1.0	1	須恵器	壺？	不明	横ナデ、自然釉	横ナデ、自然釉	
341	B	4A8i	SB28	遺物 5	推 23.0	-	残 21.9	3	須恵器	甕	前期 17 号窯式期	横ナデ、指オサエ	横ナデ、タタキ、下半縦ヘラケズリ	
342	B	4A7i	SB28	遺物 3	-	推 11.6	残 6.3	1	須恵器	甕	前期 17 号窯式期	指オサエ、横ナデ、ヘラケズリ	タタキ後横ナデ	
343	B	4A7h	SB29		-	-	残 1.3	1	須恵器	壺？	不明	横ナデ	横ナデ	
344	B	4A7h	SB29		-	-	残 1.9	1	須恵器	杯蓋	古墳時代	横ナデ	横ナデ	
345	B	4A7h	SB29		推 16.2	-	残 5.1	1	須恵器	無蓋杯身	高蔵寺 2 号窯式期	横ナデ	横ナデ	
346	B	4A10f	SB30		-	-	残 2.1	1	須恵器	杯身	不明	横ナデ	横ナデ、自然釉	
347	B	4A10f	SB30		-	-	残 2.0	1	土師器	壺	8 世紀	横ハケ、ヌス付着	横ナデ	

番号	区	グリッド	遺構	取上	口径	底径	器高	破片数	種別	断層	時期	内面	外面	備考
348	B	4A9f	SB31		推12.8	-	残3.1	1	須恵器	杯身	高蔵寺2号窯式期	横ナデ	横ナデ	
349	B	4A9g	SB31		-	推7.2	残2.6	1	灰釉陶器	碗	古代寺窯式期	灰釉、横ナデ	灰釉、横ナデ、回転糸切痕	
350	B	4A8g	SB32		推14.0	-	残1.9	2	須恵器	杯蓋	高蔵寺2号窯式期	横ナデ	横ナデ	
351	B	4A8g	SB32		推15.8	-	残4.1	1	須恵器	盤	東山50号窯式期	横ナデ	横ナデ	
352	B	4A8g	SB32		-	推10.8	残2.6	2	須恵器	杯身	高蔵寺2号窯式期	横ナデ	横ナデ、回転ヘラケズリ	
353	B	4A8g	SB32		推10.2	-	残2.6	1	須恵器	高杯	岩崎17号窯式期	横ナデ	横ナデ	
354	B	4A8g	SB32		-	-	残5.8	3	須恵器	ハソウ	東山44号窯式期前後	横ナデ	横ナデ、刺突紋、回転ヘラケズリ	
355	B	4A8g	SB32		推10.4	-	残3.1	1	須恵器	杯身	東山44号窯式期前後	横ナデ	横ナデ、回転ヘラケズリ、自然釉	
356	B	4A8g	SB32		-	-	残3.0	1	須恵器	杯身	東山44号窯式期以前	横ナデ	横ナデ、回転ヘラケズリ	
357	B	4A8g	SB32		-	-	残2.0	1	須恵器	杯身	不明	横ナデ	横ナデ、回転ヘラケズリ	
358	B	4A8g	SB32		-	-	残4.0	1	須恵器	壺か長頸	東山44号窯式期前後	横ナデ	横ナデ、回転ヘラケズリ	
359	B	4A8g	SB32		推20.0	-	残10.0	1	須恵器	蓋	東山44号窯式期	横ナデ、脂オサエ	横ナデ、ケズリ	
360	B	4A8g	SB32		推17.6	-	残4.6	2	土師器	壁		横ナデ、横ハケ	横ナデ、縦ハケ	
361	B	4A8g	SB32		推20.2	-	残3.3	3	土師器	壁		横ナデ、横ハケ	横ナデ、斜めハケ	
362	B	4A8g	SB32	遺物8	推19.8	-	残5.4	1	土師器	壁		横ナデ、横ハケ	横ナデ、斜めハケ	
363	B	4A7g	SB32	遺物 1.2	推19.8	-	残8.0	2	土師器	壁		横ナデ、横ハケ	横ナデ、縦ハケ	
364	B	4A8g	SB32, SB32	遺物A 遺物 14	19.0～19.8	-	残9.8	5	土師器	壁		横ナデ、ハケ、ケズリ、横ハケ	横ナデ、縦ハケ	
365	B	4A7g	SB32	カマド	推19.6	-	残8.9	2	土師器	壁		横ナデ、横ハケ	横ナデ、縦ハケ、スス付着	
366	B	4A8g	SB32	遺物 15	19.0	-	残9.4	5	土師器	壁		横ナデ、横ハケ	横ナデ、縦ハケ	
367	B	4A8g	SB32	遺物9	14.5～5.0	-	残18.1	14	土師器	壁		横ナデ、脂オサエ	横ナデ、縦ハケ	
368	B	4A7g	SB33		-	推11.4	残1.8	1	須恵器	杯身	高蔵寺2号窯式期	横ナデ	横ナデ、回転ヘラケズリ、自然釉	
369	B	4A7g	SB33		-	推10.2	残1.5	2	須恵器	杯身	岩崎17号窯式期	横ナデ	横ナデ、回転ヘラケズリ	
370	B	4A7g	SB33		-	推10.6	残1.7	1	須恵器	杯身	高蔵寺2号窯式期	横ナデ	横ナデ	
371	B	4A7g	SB33		-	-	残1.1	1	須恵器	杯蓋	高蔵寺2号窯式期	横ナデ	横ナデ	
372	B	4A7g	SB33		-	-	残2.8	1	須恵器	壺	高蔵寺2号窯式期	横ナデ	横ナデ	
373	B	4A8g	SB33		-	推10.6	残6.2	1	須恵器	高杯	東山44号窯式期	横ナデ	横ナデ、自然釉	
374	B	4A8g	SB33		-	-	残2.9	1	土師器	台付壁	古墳時代	脂オサエ	斜めハケ	
375	B	4A7g	SB33		-	-	残2.0	1	土師器	壁		横ナデ	横ナデ、縦ハケ、スス付着	
376	B	4A7g	SB33		-	-	残3.6	1	土師器	壁		横ナデ、横ハケ	横ナデ	
377	B	4A7g	SB33		推13.0	-	残4.2	2	須恵器	無台碗	8世紀後半	横ナデ	横ナデ	
378	B	4A7g	SB33		推14.0	-	残2.6	1	須恵器	杯身	8世紀後半	横ナデ	横ナデ	
379	B	4A7f,g	SB33		推12.6	-	残2.4	1	須恵器	無台碗	8世紀後半	横ナデ	横ナデ	
380	B	4A8i	SB34		-	-	残2.8	1	須恵器	杯身	東山44号窯式期	横ナデ	横ナデ	
381	B	4A8i	SB34		-	-	残2.1	1	須恵器	杯身	東山44号窯式期	横ナデ	横ナデ	
382	B	4A8i	SB34		-	-	残1.8	1	須恵器	杯身	東山44号窯式期	横ナデ	横ナデ	
383	B	4A8i	SB34		推13.7	-	残2.9	1	須恵器	鉢	東山44号窯式期？	横ナデ	横ナデ	
384	B	4A8i	SB34		推14.8	-	残2.7	1	須恵器	高杯	7世紀初	横ナデ	横ナデ	
385	B	4A8i	SB34		-	推6.2	残3.0	1	須恵器	杯蓋か？	7世紀代	横ナデ	横ナデ、回転ヘラケズリ	
386	B	4A8i	SB34		-	7.5	残1.7	1	須恵器	壺？	7世紀代	横ナデ	横ナデ、回転ヘラケズリ、刻書	
387	B	4A8i	SB34		-	-	残3.0	1	須恵器	鉢	7世紀代	横ナデ	横ナデ	
388	B	4A8i	SB34		-	-	残6.2	6	土師器	壁		横ナデ	調整不明	
389	B	4A8i	SB34		-	-	残2.9	1	土師器	壁		横ナデ	調整不明	
390	B	4A8i	SB34		-	-	残1.2	1	土師器	壁		横ハケ	横ナデ	
391	B	4A8k	SB35		推11.2	-	残1.3	1	須恵器	杯蓋	高蔵寺2号窯式期	横ナデ	横ナデ	
392	B	4A9i	SB35		-	-	残1.3	1	須恵器	杯蓋	高蔵寺2号窯式期	横ナデ	横ナデ	
393	B	4A8k	SB35		-	-	残1.5	1	須恵器	杯蓋	高蔵寺2号窯式期	横ナデ	横ナデ	
394	B	4A9i	SB35		-	-	残0.9	2	須恵器	杯蓋	高蔵寺2号窯式期	横ナデ	横ナデ	
395	B	4A8k	SB35		-	推9.2	残1.2	1	須恵器	杯身	高蔵寺2号窯式期	横ナデ	横ナデ、回転ヘラケズリ	
396	B	4A9i	SB35		-	-	残1.2	1	須恵器	杯身	高蔵寺2号窯式期	横ナデ、刻書	横ナデ、回転ヘラケズリ	
397	B	4A9i	SB35		-	-	残2.5	1	須恵器	杯身	不明	横ナデ	横ナデ	
398	B	4A9i	SB35		-	-	残2.0	1	須恵器	壺	7世紀後半	横ナデ	横ナデ	
399	B	4A9i	SB35	SK1	13.1	-	4.5	1	須恵器	杯蓋	6世紀後半まで	横ナデ	横ナデ、回転ヘラケズリ	
400	B	4A8i	SB35	P2	-	-	残2.2	1	須恵器	杯蓋	東山44号窯式期	横ナデ	横ナデ	
401	B	4A8i	SB35	P3	-	-	残2.0	1	須恵器	杯身	東山44号窯式期	横ナデ	横ナデ	
402	B	4A8k	SB35		-	-	残1.3	1	須恵器	高杯	東山44号窯式期	横ナデ	横ナデ	
403	B	4A9i	SB35		-	推12.4	残1.0	1	須恵器	高杯	東山44か東山50号窯式期	横ナデ	横ナデ	
404	B	4A9i	SB35	SK1	-	-	残4.1	1	須恵器	壺か鉢	高蔵寺2号窯式期	横ナデ	横ナデ	
405	B	4A9i	SB35		推29.4	-	残4.4	2	土師器	壁		横ナデ	横ナデ、縦ハケ	
406	B	4A9j	SB35		-	-	残3.4	1	土師器	壁		横ナデ	横ナデ	
407	B	4A9k	SB36		推14.0	-	残1.6	1	須恵器	杯蓋	高蔵寺2号窯式期	横ナデ	横ナデ、自然釉	

番号	区	グリッド	遺構	取上	口径	底径	器高	破片数	種別	器種	時期	内面	外面	備考
408	B	4A9k	SB36		推 11.4	推 1.1		1	須恵器	杯身	折戸 10 号窯式期	横ナデ	横ナデ、回転糸切り痕	
409	B	4A9k	SB36		推 15.2	推 2.9		1	須恵器	無台碗	8 世紀後半	横ナデ	横ナデ	
410	B	4A9k	SB36		推 14.8	2.9		2	須恵器	杯身	岩瀬 17 号窯式期	横ナデ	横ナデ、自然釉	
411	B	4A9k	SB36		推 18.4	推 15.2	8.1	2	須恵器	杯身	高蔵寺 2 号窯式期	横ナデ	横ナデ、回転ヘラケズリ	
412	B	4A9k	SB36		-	-	推 1.5	1	須恵器	杯蓋	高蔵寺 2 号窯式期	横ナデ	横ナデ、回転ヘラケズリ、自然釉	
413	B	4A9k	SB36		-	-	推 2.5	1	須恵器	杯身	不明	横ナデ	横ナデ	
414	B	4A9k	SB36		-	-	推 1.6	1	須恵器	杯身	岩瀬 17 号窯式期	横ナデ	横ナデ	
415	B	4A9k	SB36		-	-	推 1.6	1	須恵器	杯身	高蔵寺 2 号窯式期	横ナデ	横ナデ	
416	B	4A9k	SB36		-	-	推 2.2	1	須恵器	蓋	高蔵寺 2 号窯式期	横ナデ	横ナデ	
417	B	4A9k	SB36		-	-	推 3.4	1	須恵器	杯身	高蔵寺 2 号窯式期	横ナデ	横ナデ、自然釉	
418	B	4A9k	SB36		-	推 10.2	推 1.5	1	須恵器	高杯	岩瀬 17 号窯式期	横ナデ、自然釉	横ナデ、自然釉	
419	B	4A9k	SB36		-	-	推 4.2	1	須恵器	甕	7 世紀代		ナデ	
420	B	4A9k	SB36		-	-	推 2.0	1	土師器	壺	8 世紀後半	横ナデ、横ハケ	横ナデ	
421	B	4A9k	SB36		-	-	推 1.6	1	土師器	壺	8 世紀後半	横ナデ、横ハケ	横ナデ	
422	B	4A9k	SB36		-	-	推 8.3	1	須恵器	平瓶		横ナデ	横ナデ、自然釉、回転ヘラケズリ	
423	B	4A9k	SB36		推 27.2	-	推 4.1	1	須恵器	壺	8 世紀後半	横ナデ、自然釉	横ナデ、自然釉	
424	B	4A10g	SB37		12.4	-	4.4	1	須恵器	杯蓋	東山 15 号窯式期	横ナデ	横ナデ、回転ヘラケズリ	
425	B	4A10g	SB37		-	-	推 2.6	1	須恵器	杯蓋	東山 44 号窯式期	横ナデ	横ナデ	
426	B	4A10g	SB37		推 11.2	-	推 2.4	1	須恵器	杯身	東山 15 号窯式期	横ナデ	横ナデ	
427	B	4A10g	SB37		-	-	推 1.7	1	須恵器	杯蓋	東山 44 号窯式期	横ナデ	横ナデ、自然釉	
428	A	4A8e	SB40		推 16.0	-	推 2.4	1	須恵器	杯蓋	折戸 10 号窯式期	横ナデ	横ナデ、回転ヘラケズリ、自然釉	
429	A	4A8e	SB40		-	-	推 1.1	1	須恵器	杯蓋	折戸 10 号窯式期	横ナデ	横ナデ	
430	A	4A8f	SB48		推 14.0	-	推 2.4	1	須恵器	杯蓋	高蔵寺 2 号窯式期	横ナデ	自然釉、調整不明	
431	A	4A8f	SB48		推 18.8	-	推 2.1	1	須恵器	杯蓋	高蔵寺 2 号窯式期	横ナデ	横ナデ	
432	A	4A7f	SB48		-	-	推 1.8	1	須恵器	杯蓋	鳴海 32 号窯式期	横ナデ	横ナデ	
433	A	4A8f	SB48		-	-	推 2.4	1	土師器	壺	6 世紀代	横ナデ、横ハケ	横ナデ	
434	A	4A7d	SB47	カマド	推 14.2	-	推 4.6	1	須恵器	杯蓋	6 世紀後半	横ナデ	横ナデ、回転ヘラケズリ	
435	A	4A7d	SB47	カマド	推 12.4	4.8	4.9	3	須恵器	杯身	6 世紀後半	横ナデ	横ナデ、回転ヘラケズリ	
436	A	4A7c	SB47	カマド	-	-	推 3.7	2	須恵器	杯身	6 世紀後半	横ナデ	横ナデ、回転ヘラケズリ	
437	A	4A7d	SB47		-	推 9.8	推 1.0	1	須恵器	高杯？	高蔵寺 2 号窯式期	横ナデ	横ナデ、回転ヘラケズリ	
438	A	4A7d	SB47		-	-	推 1.2	1	土師器	杯？	鍛冶系 8 世紀代	横ナデ？	横ナデ？	
439	A	4A9f	SB49	SK1	推 14.4	-	推 3.5	2	須恵器	杯蓋	東山 44 号窯式期	横ナデ	横ナデ、回転ヘラケズリ	
440	A	4A7f	SB49		推 15.2	-	推 2.4	1	須恵器	杯蓋	鳴海 32 号窯式期	横ナデ	横ナデ、回転ヘラケズリ	
441	A	4A7f	SB49		推 13.0	推 8.8	4.0	4	須恵器	杯身	高蔵寺 2 号窯式期	横ナデ	横ナデ	
442	A	4A9f	SB49	SK1	-	-	推 2.0	1	須恵器	鉢	不明	横ナデ	横ナデ	
443	A	4A9c	SB50	カマド	推 14.2	-	推 3.5	1	須恵器	杯蓋	東山 44 号窯式期	横ナデ	横ナデ	
444	A	4A9d	SB50	SK1	推 15.2	-	推 1.5	1	須恵器	杯蓋	東山 44 号窯式期	横ナデ	横ナデ	
445	A	4A9d	SB50		-	-	推 1.8	1	須恵器	杯蓋	東山 44 号窯式期	横ナデ	横ナデ、回転ヘラケズリ	
446	A	4A9e	SB50		-	-	推 2.5	1	須恵器	杯身	東山 44 号窯式期	横ナデ	横ナデ、回転ヘラケズリ	
447	A	4A9e	SB50		-	推 6.0	推 1.7	1	須恵器	杯身	高蔵寺 2 号窯式期	横ナデ	横ナデ、回転ヘラケズリ	
448	A	4A9d	SB50	南トレンチ	-	-	推 2.2	1	須恵器	杯蓋	東山 44 号窯式期	横ナデ	横ナデ、回転ヘラケズリ	
449	A	4A9e	SB50		-	-	推 2.2	1	須恵器	杯身	東山 44 号窯式期	横ナデ	横ナデ、回転ヘラケズリ	
450	A	4A9e	SB50		-	11.8	4.5	8	土師器	碗		横ナデ	調整不明、横ナデ？	
451	A	4A9d	SB50	南トレンチ	-	-	推 2.0	1	須恵器	甕	7 世紀代	横ナデ	横ナデ、ヲタキ？	
452	A	4A9d	SB50	南トレンチ	-	-	推 2.8	1	土師器	壺		横ナデ	横ナデ	
453	A	4A9d	SB50	南トレンチ	推 16.4	-	推 6.0	1	土師器	壺	7 世紀代	スス付着、横ハケ、ナデ、横ハケ	ススス付着、横ナデ、縦ハケ	
454	A	4A9d	SB51	遺物 1	-	-	推 1.7	1	須恵器	杯身	6C 後半	横ナデ	横ナデ、回転ヘラケズリ	
455	A	4A9d	SB51		推 20.0	-	推 3.0	2	土師器	壺	6C 後半	横ナデ、横ハケ	横ナデ、縦ハケ	
456	C	4J5q	SB56		-	-	推 2.8	2	須恵器	杯蓋	高蔵寺 2 号窯式期	横ナデ	横ナデ、回転ヘラケズリ	
457	C	4J6q	SB56	一括土器	推 14.0	-	推 3.2	1	須恵器	杯身	不明	横ナデ	横ナデ	
458	C	4J5q	SB56		推 10.6	推 4.0	推 5.4	2	須恵器	杯身	岩瀬 41 号窯式期	横ナデ、回転ヘラケズリ	回転ヘラケズリ、刻書「十」	
459	C	4J5q	SB56		-	-	推 9.3	1	須恵器	すり鉢		横ナデ、自然釉	回転ヘラケズリ、横ナデ	
460	C	4J6q	SB56		-	-	推 5.7	1	土師器	甕		-	指オサエ	
461	C	4J5q	SB56		-	-	推 2.1	1	土師器	壺	7 世紀代	横ナデ	横ナデ、横ハケ	
462	C	4J6q	SB56		-	-	推 2.2	1	土師器	壺	7 世紀代	横ナデ	横ナデ、横ハケ	
463	C	4J5q	SB56		-	-	推 5.2	8	須恵器	甕		横ナデ	横ナデ、スス付着、ヘラケズリ	
464	C	4J6q	SB56	一括土器	15.0	-	推 19.2	43	土師器	壺	8 世紀前	横ナデ、指オサエ、縦ハケ	指オサエ、縦ハケ、スス付着、斜ハケ	
465	C	4J4q	SB57		-	-	推 1.6	1	須恵器	杯蓋	折戸 10 号窯式期	横ナデ	横ナデ、自然釉、ヘラケズリ	
466	C	4J4q	SB57		推 14.8	-	推 1.0	1	須恵器	杯蓋	折戸 10 号窯式期	横ナデ	横ナデ	
467	C	4J4q	SB57		推 14.0	-	推 2.5	1	須恵器	杯蓋	折戸 10 号窯式期	横ナデ	回転ヘラケズリ、横ナデ	

番号	区	グリッド	遺構	取上	口径	底径	器高	破片数	種別	器種	時期	内面	外面	備考
468	C	4J4q	SB57		-	-	残 1.4	1	須恵器	杯蓋	鳴海 32 号窯式期	横ナデ	横ナデ	
469	C	4J4q	SB57		-	推 5.9	残 2.8	1	須恵器	長頸瓶	折戸 10 号窯式期	横ナデ	横ナデ	
470	C	4J4q	SB57		-	-	残 3.0	1	須恵器	長頸壺	折戸 10 号窯式期	横ナデ、自然釉	自然釉、横ナデ	
471	C	4J4q	SB57		-	-	残 1.2	1	土師器	皿か碗		横ナデ	横ナデ	
472	C	4J4q	SB57		-	-	残 2.5	1	土師器	甕	8 世紀	横ハケ	横ナデ？	
473	C	4J4q	SB57		-	-	残 2.9	1	土師器	甕		横ナデ、横ハケ	横ナデ	
474	C	4J6q	SB58		推 16.6	-	残 2.1	1	須恵器	杯蓋	高蔵寺 2 号窯式期	横ナデ	横ナデ	
475	C	4J6q	SB58		推 16.4	-	残 1.3	1	須恵器	杯蓋	高蔵寺 2 号窯式期	横ナデ	横ナデ	
476	C	4J6q	SB58		-	-	残 1.1	1	須恵器	杯蓋	高蔵寺 2 号窯式期	横ナデ	横ナデ	
477	C	4J6q	SB58		-	-	残 1.6	1	須恵器	杯蓋	高蔵寺 2 号窯式期	横ナデ	横ナデ、自然釉、ヘラケズリ	
478	C	4J6q	SB58		推 14.2	-	残 2.7	1	須恵器	杯身	不明	横ナデ	横ナデ	
479	C	4J6q	SB58		推 12.6	-	残 2.6	1	須恵器	杯身	不明	横ナデ	横ナデ	
480	C	4J6q	SB58		-	推 12.2	残 3.0	1	須恵器	杯身	高蔵寺 2 号窯式期	横ナデ	横ナデ、回転ヘラケズリ	
481	C	4J5q	SB58		-	-	残 2.7	1	須恵器	杯身	不明	横ナデ	横ナデ、自然釉	
482	C	4J6q	SB58		-	-	残 2.0	1	須恵器	杯身	不明	横ナデ	横ナデ	
483	C	4J5q	SB58		-	-	残 3.6	1	須恵器	杯身	不明	横ナデ	横ナデ	
484	C	4J6q	SB58		-	-	残 2.6	1	須恵器	杯身	不明	横ナデ	横ナデ	
485	C	4J6q	SB58		推 11.6	-	残 2.4	1	須恵器	杯身	東山 50 号窯式期	横ナデ	横ナデ	
486	C	4J6q	SB58		推 7.8	-	残 5.3	1	須恵器	平瓶	7 世紀代	横ナデ、自然釉	横ナデ	
487	C	4J6q	SB58		-	-	残 2.0	1	土師器	皿	畿内系	横ナデ？	横ナデ？	
488	C	4J6q	SB58		-	-	残 5.4	1	須恵器	甕		円弧文タタキ	縄蓆文タタキ	
489	C	4J6q	SB58		推 14.2	-	残 4.3	1	須恵器	直口壺	高蔵寺 2 号窯式期	横ナデ	横ナデ	
490	C	4J6q	SB58		推 13.8	-	残 3.7	1	土師器	甕	8 世紀前	横ナデ、横ハケ、スス付着	横ナデ、縦ハケ、スス付着	
491	C	4J6q	SB58		-	-	残 2.7	1	土師器	甕	8 世紀前	横ナデ、横ハケ	横ナデ	
492	C	4J5q,6q	SB59		推 10.8	-	残 1.7	1	須恵器	杯蓋	7 世紀後半	横ナデ	調整不明、自然釉	
493	C	4J5q	SB59		推 13.2	-	残 3.2	3	須恵器	杯身	8 世紀前半	横ナデ	横ナデ	
494	C	4J6r	SB59		推 10.8	-	残 3.6	1	須恵器	杯身	8 世紀前半	横ナデ	横ナデ	
495	C	4J5q	SB59		推 10.8	-	残 3.2	1	須恵器	杯身	8 世紀前半	横ナデ	横ナデ	
496	C	4J5q	SB59		推 11.0	-	残 2.4	1	須恵器	短頸壺	8 世紀前半	横ナデ、自然釉	端面自然釉、横ナデ	
497	C	4J5q	SB59		-	-	残 3.4	1	須恵器	壺瓶類	不明	横ナデ、自然釉	回転ヘラケズリ、スス付着	
498	C	4J6r	SB59		-	-	残 4.0	1	須恵器	高杯？	6 世紀代？	横ナデ	横ナデ、表面磨滅	
499	C	4J5r	SB59		-	-	残 4.7	1	土師器	甑		-	指オサエ	
500	C	4J5r	SB59		推 28.0	-	残 4.5	1	須恵器	甕	8 世紀代	横ナデ	横ナデ、自然釉	
501	C	4J5r	SB59		-	-	残 4.1	1	土師器	甕	7 世紀	横ナデ、横ハケ	横ナデ、縦ハケ	
502	C	4J5q	SB59		推 16.8	-	残 6.3	3	土師器	甕	8 世紀前半	横ハケ、ケズリ	横ナデ、ハケ	
503	C	4J5q	SB59		推 17.0	-	残 3.9	1	土師器	甕	7 世紀後半	横ナデ、横ハケ	横ナデ、縦ハケ	
504	C	4J5q,6q	SB59		推 16.8	-	残 4.3	1	土師器	甕	7 世紀後半	横ハケ、斜めハケ	横ナデ、縦ハケ	
505	C	4J6q	SB60		-	-	残 1.5	1	須恵器	杯蓋	不明	横ナデ	横ナデ、ヘラケズリ	
506	C	4J6q	SB60		-	-	残 1.5	1	須恵器	杯蓋	鳴海 32 号窯式期	横ナデ	横ナデ	
507	C	4J6r	SB60		-	-	残 1.5	1	須恵器	杯蓋	鳴海 32 号窯式期	横ナデ	横ナデ	
508	C	4J6q	SB60		推 15.8	-	残 1.5	2	須恵器	杯蓋	高蔵寺 2 号窯式期	横ナデ	横ナデ、回転ヘラケズリ	
509	C	4J6q	SB60		推 16.4	-	残 1.3	1	須恵器	杯蓋	高蔵寺 2 号窯式期	横ナデ	横ナデ、回転ヘラケズリ	
510	C	4J6r	SB60		推 13.4	推 10.0	4.1	1	須恵器	杯身	高蔵寺 2 号窯式期	横ナデ	横ナデ	
511	C	4J6q	SB60		-	-	残 3.0	1	須恵器	杯身	不明	横ナデ	横ナデ	
512	C	4J6r	SB60		-	-	残 4.0	1	須恵器	杯身	高蔵寺 2 号窯式期	横ナデ	横ナデ	
513	C	4J6r	SB60		-	-	残 5.0	2	須恵器	ハソウ	6 世紀前半	横ナデ、自然釉	横ナデ、自然釉、刺突文	
514	C	4J6r	SB60		-	-	残 2.7	1	土師器	甕		横ナデ、横ハケ	横ナデ	
515	C	4J6q	SB60		-	-	残 2.8	1	土師器	甕		横ナデ、横ハケ	横ナデ	
516	C	4J6r	SB60		推 11.8	-	残 5.0	1	須恵器	横瓶	7 世紀代	横ナデ、全面自然釉	横ナデ、自然釉	
517	C	4J6r	SB60		推 13.0	-	残 2.5	1	須恵器	壺	6 世紀代	横ナデ、自然釉	横ナデ	
518	C	4J6q	SB60		-	-	残 6.5	1	須恵器	短頸壺	7 世紀代	横ナデ	横ナデ、ヘラケズリ？	
519	C	4J6q	SB60		推 19.2	-	残 4.2	1	土師器	甕	7 世紀中	横ナデ、ケズリ	横ナデ、縦ハケ	
520	C	4J4r	SB61		-	-	残 3.7	1	須恵器	杯身	不明	横ナデ	横ナデ	
521	C	4J5r6r	SB62		推 10.2	-	残 2.9	1	須恵器	杯身	東山 50 号窯式期	横ナデ	横ナデ	
522	C	4J5r	SB62		-	推 3.0	残 1.1	1	須恵器	杯身？	不明	横ナデ	回転ヘラケズリ	
523	C	4J5r	SB62		-	-	残 2.3	1	土師器	甕		横ナデ、横ハケ	横ナデ	
524	C	4J7q	SB63		推 15.8	-	3.2	2	須恵器	杯蓋	高蔵寺 2 号窯式期	横ナデ	横ナデ、回転ヘラケズリ	
525	C	4J7r	SB63		-	-	残 2.9	1	須恵器	杯蓋	高蔵寺 2 号窯式期	横ナデ	横ナデ、回転ヘラケズリ	
526	C	4J7q	SB63		推 16.2	-	残 1.1	1	須恵器	杯蓋	高蔵寺 2 号窯式期	横ナデ	横ナデ、回転ヘラケズリ	
527	C	4J7r	SB63		推 16.2	-	残 1.5	3	須恵器	杯蓋	高蔵寺 2 号窯式期	横ナデ	回転ヘラケズリ、自然釉、横ナデ	

番号	区	グリッド	遺構	取上	口径	底径	器高	破片数	種別	器種	時期	内面	外面	備考
528	C	4J7g	SB63		推17.2	-	残1.8	2	須恵器	杯蓋	高蔵寺2号窯式期	横ナデ	回転ヘラケズリ、横ナデ	
529	C	4J7r	SB63		推18.0	-	残1.9	1	須恵器	杯蓋	高蔵寺2号窯式期	横ナデ	回転ヘラケズリ、横ナデ、自然釉	
530	C	4J7r	SB63		-	-	残1.7	2	須恵器	杯蓋	不明	横ナデ	横ナデ、回転ヘラケズリ	
531	C	4J7r?g	SB63		-	-	残1.1	1	須恵器	杯蓋	高蔵寺2号窯式期	横ナデ	横ナデ	
532	C	4J7g	SB63		-	-	残2.6	1	須恵器	杯蓋	高蔵寺2号窯式期	横ナデ	回転ヘラケズリ、横ナデ	
533	C	4J7g	SB63		推16.8	推10.4	7.3	2	須恵器	壺	高蔵寺2号窯式期	横ナデ	横ナデ、回転ヘラケズリ	
534	C	4J7g	SB63		推14.4	推9.8	4.1	4	須恵器	杯身	高蔵寺2号窯式期	横ナデ	横ナデ	
535	C	4J7r?g	SB63		-	推11.8	残1.7	2	須恵器	杯身	岩崎41号窯式期	横ナデ	横ナデ、回転ヘラケズリ	
536	C	4J7r	SB63		推13.2	-	残6.3	2	須恵器	杯身	高蔵寺2号窯式期	横ナデ	横ナデ、回転ヘラケズリ	
537	C	4J7g	SB63		推12.6	推5.8	4.2	1	須恵器	杯身	岩崎41号窯式期	横ナデ	横ナデ、回転糸切痕？	
538	C	4J7r	SB63		-	-	残2.7	1	須恵器	杯身	不明	横ナデ	横ナデ	
539	C	4J7g	SB63		-	-	残4.2	1	須恵器	杯身	不明	横ナデ	横ナデ、回転ヘラケズリ	
540	C	4J7r	SB63		-	-	残5.1	1	須恵器	杯身	不明	横ナデ	横ナデ	
541	C	4J7r?g	SB63		-	4.1	残2.1	1	須恵器	杯身？	7世紀代	横ナデ	横ナデ、回転ヘラケズリ	
542	C	4J7g	SB63		-	推10.0	残1.3	2	須恵器	杯身	高蔵寺2号窯式期	横ナデ	横ナデ、回転ヘラケズリ、刻書	
543	C	4J7g	SB63		-	-	残3.0	1	須恵器	高杯？	7世紀	横ナデ	横ナデ、自然釉	
544	C	4J7g	SB63		-	-	残3.0	1	須恵器	高杯	東山44号窯式期	横ナデ	横ナデ	
545	C	4J7r	SB63		推14.8	-	残3.9	1	須恵器	壺？		横ナデ	横ナデ	
546	C	4J7g	SB63		-	-	残6.1	2	須恵器	甕	7世紀	ヘラケズリ	短方向ヘラケズリ	
547	C	4J7r?g	SB63		-	-	残2.1	1	土師器	杯身	鍛内系	横ナデ	横ナデ（ミガキ？）	
548	C	4J7r	SB63	カマド	-	-	残2.3	1	土師器	杯身	鍛内系	横ナデ	横ナデ、ヘラケズリ？	
549	C	4J7r	SB63		-	-	残1.4	1	土師器	壺		横ハケ	横ナデ	
550	C	4J7g	SB63		-	-	残1.8	1	土師器	壺		横ナデ、横ハケ	横ナデ	
551	C	4J7r	SB63		-	-	残1.4	1	須恵器？	壺？		横ナデ	横ナデ	
552	C	4J7r	SB63		推12.8	-	残1.6	1	東濃型	山茶碗		横ナデ	横ナデ	
553	C	4J7r	SB63		-	-	残3.6	1	東濃型	山茶碗		横ナデ、自然釉	横ナデ	
554	C	4J7r	SB63		推12.8	-	残9.2	3	須恵器	皿	岩崎41号窯式期	横ナデ、一部自然釉	横ナデ、一部自然釉	
555	C	4J7r	SB63		-	-	残7.7	1	須恵器	平瓶	高蔵寺2号窯式期	横ナデ	ヘラケズリ（のち横ナデ？）	
556	C	4J7r	SB63		推16.6	-	残11.2	1	須恵器	鉢	6世紀末	横ナデ	横ナデ	
557	C	4J7r?g	SB63		推24.8	-	残2.6	1	須恵器	壺	岩崎17号窯式期	横ナデ	横ナデ、自然釉、櫛描波状文	
558	C	4J7g	SB63		推23.6	-	残7.2	1	須恵器	壺	岩崎41号窯式期	横ナデ、自然釉	横ナデ、タタキ	
559	C	4J7g	SB63		推23.0	-	残6.3	2（1+1）	須恵器	壺	東山50号窯式期	横ナデ、自然釉	横ナデ＋自然釉波状文	
560	C	4J4g	SB64	SK1	推16.8	-	残2.1	3	須恵器	杯蓋	高蔵寺2号窯式期	横ナデ	回転ヘラケズリ、横ナデ	
561	C	4J4g	SB64		推14.6	-	残1.2	2	須恵器	杯蓋	高蔵寺2号窯式期	横ナデ	横ナデ	
562	C	4J5g	SB64		推12.0	-	残4.7	2	須恵器	杯蓋	岩崎41号窯式期	横ナデ	横ナデ、ヘラケズリ	
563	C	4J4g	SB64	カマド	推14.0	-	残3.5	1	須恵器	杯身	不明	横ナデ	横ナデ	
564	C	4J5g	SB64		-	-	残2.9	1	須恵器	杯身	高蔵寺2号窯式期	横ナデ	横ナデ、回転ヘラケズリ	
565	C	4J4g-4r	SB64		-	-	残2.5	1	土師器	鉢		-	指オサエ	
566	C	4J～	SB64	カマド	-	-	残2.5	1	須恵器	杯身	不明	横ナデ	横ナデ	
567	C	4J4g	SB64	カマド	-	推6.8	残1.2	1	土師器	壺	猿状圧痕		指オサエ	
568	C	4J4g	SB64	カマド	推9.6	-	残6.5	1	須恵器	平瓶	7世紀	横ナデ、自然釉	横ナデ	
569	C	4J4g	SB64		推8.0	-	残2.5	1	須恵器	杯？		横ナデ、自然釉	横ナデ、自然釉	
570	C	4J～	SB64	カマド	-	-	残2.9	1	土師器	壺		横ナデ、横ハケ	横ナデ	
571	C	4J4g	SB64		-	-	残1.8	1	土師器	壺？	鍛内系？	横ナデ	横ナデ、スス付着	
572	C	4J5g	SB64		推16.2	-	残3.7	1	土師器	壺		横ナデ、横ハケ	横ナデ、調整不明	
573	C	4J4g	SB64	カマド	推16.6	-	残2.8	1	土師器	壺		横ナデ、横ハケ	横ナデ、縦ハケ、スス付着	
574	C	4J4g	SB64	SK1	21.6	-	残12.8	13	土師器	壺		横ナデ、横ハケ、指オサエ、コゲ付着	横ナデ、縦ハケ	
575	C	4J4r	SB65		-	-	残2.2	1	須恵器	杯蓋	不明	横ナデ	横ナデ、回転ヘラケズリ、横ナデ	
576	C	4J4r5r	SB65		-	-	残1.9	2	須恵器	杯蓋？	6世紀代	横ナデ	回転ヘラケズリ、横ナデ	
577	C	4J4r5r	SB65		推15.6	-	残1.5	1	須恵器	杯蓋	高蔵寺2号窯式期	横ナデ	回転ヘラケズリ、横ナデ	
578	C	4J4r5r	SB65		推14.0	-	残2.5	1	須恵器	杯身	東山50号窯式期	横ナデ	横ナデ、自然釉	
579	C	4J4r5r	SB65		推16.4	-	残3.8	3	須恵器	杯身	不明	横ナデ	横ナデ	
580	C	4J4r5r	SB65		-	-	残2.8	1	須恵器	杯蓋	東山44号窯式期	横ナデ	自然釉、横ナデ	
581	C	4J4r5r	SB65		-	-	残1.6	1	須恵器	壺	不明	横ナデ	横ナデ	
582	C	4J4r5r	SB65		-	-	残4.4	1	土師器	甕		-	指オサエ	
583	C	4J4r5r	SB65		推18.0	-	残2.5	1	土師器	壺		横ナデ、横ハケ	横ナデ	
584	A	4A7r	SD43	遺物1	推22.6	-	5.0	7	須恵器	杯蓋	鳴海32号窯式期	横ナデ	横ナデ、回転ヘラケズリ	
585	A	4A9e	SD43		推20.2	-	残1.8	1	須恵器	杯蓋	鳴海32号窯式期	横ナデ	横ナデ、自然釉	
586	A	4A9e	SD43		推15.6	-	残1.3	1	須恵器	杯蓋	高蔵寺2号窯式期	横ナデ	横ナデ、回転ヘラケズリ	
587	A	4A9e	SD43		推15.0	-	残3.0	1	須恵器	杯蓋	鳴海32号窯式期	横ナデ、自然釉	横ナデ、回転ヘラケズリ、自然釉	

番号	区	グリッド	遺構	取上	口径	底径	器高	破片数	種別	器種	時期	内面	外面	備考
588	A	4A7f	SD43	遺物2	推 14.8	11.4	3.8	4	須恵器	杯身	折戸 10 号窯式期	横ナデ	横ナデ、回転ヘラケズリ	
589	A	4A9e	SD43		-	推 11.8	残 2.1	1	須恵器	杯身	鳴海 32 号窯式期	横ナデ	横ナデ、回転ヘラケズリ	
590	A	4A7f	SD43	遺物1	-	推 12.4	残 1.2	1	須恵器	杯身	高蔵寺 2 号窯式期	横ナデ	横ナデ、回転ヘラケズリ	
591	A	4A9e	SD43		-	13.0	残 1.2	3	須恵器	杯身	高蔵寺 2 号窯式期	横ナデ	横ナデ、回転ヘラケズリ	
592	A	4A9e	SD43		-	推 12.6	残 1.5	1	須恵器	杯身	鳴海 32 号窯式期	横ナデ	横ナデ、回転ヘラケズリ	
593	A	4A9e	SD43		-	推 11.6	残 2.3	1	須恵器	杯身	岩崎 41 号窯式期	横ナデ	横ナデ	
594	A	4A7f	SD43	遺物1	推 10.2	推 5.6	3.4	1	須恵器	杯身	岩崎 41 号窯式期	横ナデ	横ナデ、回転ヘラケズリ	
595	A	4A8f	SD43		推 12.6	-	残 3.1	1	須恵器	杯身	不明	横ナデ	横ナデ	
596	A	4A9e	SD43		推 10.4	-	残 3.0	1	須恵器	杯身	不明	横ナデ	横ナデ	
597	A	4A9e	SD43		-	-	残 5.5	1	須恵器	甑	岩崎 17 号窯式期	-	タタキ、指オサエ	
598	A	4A9e	SD43		-	-	残 4.0	1	須恵器	不明		横ナデ	横ナデ	
599	A	4A9e	SD43		推 13.8	-	残 2.3	1	須恵器	杯蓋？		横ナデ	横ナデ、自然釉	
600	A	4A9e	SD43		-	推 11.6	残 1.0	1	須恵器	高杯	東山 44 号窯式期	横ナデ	横ナデ、自然釉	
601	A	4A7f	SD43	遺物1	推 17.4	-	残 2.4	1	土師器	甕		横ナデ、横ハケ、コゲ付着	横ナデ、スス付着	
602	A	4A7f	SD43	遺物1	-	-	残 9.8	1	須恵器	鉄鉢	8 世紀	横ナデ	横ナデ	
603	A	4A7f	SD43	遺物1	推 30.2	-	残 15.5	11	須恵器	鍋か鉢	7 世紀後半	横ナデ、横ハケ	横ナデ、ヘラケズリ？、自然釉、黄土塗布	
604	C	4J6q	SK66		推 14.2	-	残 1.5	1	須恵器	杯蓋	高蔵寺 2 号窯式期	横ナデ	自然釉、横ナデ	
605	C	4J6q	SK66	遺物12	推 12.2	-	残 1.1	1	須恵器	杯蓋	高蔵寺 2 号窯式期	横ナデ	ヘラケズリ、自然釉、横ナデ	
606	C	4J5q	SK66		推 15.6	推 11.6	残 4.4	1	須恵器	杯身	高蔵寺 2 号窯式期	横ナデ、コゲ付着	横ナデ、回転ヘラケズリ	
607	C	4J6q	SK66	遺物10	推 16.4	推 12.0	4.2	1	須恵器	杯身	高蔵寺 2 号窯式期	横ナデ	横ナデ、回転ヘラケズリ、刻書	
608	C	4J5q,6q	SK66		-	-	残 2.5	1	須恵器	杯身	高蔵寺 2 号窯式期	横ナデ	横ナデ、ヘラケズリ	
609	C	4J6q	SK66	遺物14	-	推 10.8	残 2.6	1	須恵器	杯身	高蔵寺 2 号窯式期	横ナデ	横ナデ、回転ヘラケズリ	
610	C	4J6q	SK66	遺物8	-	推 11.0	残 2.4	1	須恵器	杯身	高蔵寺 2 号窯式期	横ナデ	横ナデ、回転ヘラケズリ、スス付着	
611	C	4J5,6q	SK66		推 13.2	-	残 6.4	2	須恵器	碗	高蔵寺 2 号窯式期	横ナデ	横ナデ、ヘラケズリ	
612	C	4J6q	SK66	遺物4	-	-	残 3.8	1	須恵器	杯身	不明	横ナデ	横ナデ	
613	C	4J5q,6q	SK66		-	-	残 2.9	1	須恵器	杯身	不明	横ナデ	横ナデ	
614	C	4J5q	SK66		-	-	残 2.7	1	土師器	製塩土器		指オサエ？	指オサエ	
615	C	4J5q	SK66		推 10.8	-	残 2.9	1	土師器	製塩土器		横ナデ	指オサエ？	
616	C	4J6q	SK66		推 5.8	-	残 2.6	1	土師器	製塩土器		ヘラケズリ？	ケズリか指オサエ	
617	C	4J6q	SK66		-	-	残 2.7	1	土師器	製塩土器		調整不明	ナデ？、指オサエ	
618	C	4J6q	SK66	遺物2	-	-	残 3.5	1	土師器	甕		横ハケ	横ナデ	
619	C	4J5q	SK66		-	-	残 2.5	1	土師器	甕		横ハケ	横ナデ、縦ハケ	
620	C	4J5q	SK66		-	-	残 2.4	1	土師器	甕		横ハケ	横ナデ、縦ハケ	
621	C	4J5q	SK66		-	-	残 1.6	1	土師器	甕		横ハケ	横ナデ、縦ハケ	
622	C	4J5,6q	SK66		-	-	残 4.4	3	土師器	甕		指ナデ	縦ハケ、横ハケ	
623	C	4J6q	SK66		-	-	残 3.1	3	土師器	甕		横ナデ、指オサエ	表面剥離後スス付着	
624	C	4J7r	SK67		-	-	残 2.9	1	須恵器	杯蓋	鳴海 32 号窯式期	横ナデ	回転ヘラケズリ、横ナデ、自然釉	
625	C	4J7r	SK67		推 16.0	-	残 2.3	1	須恵器	杯蓋	鳴海 32 号窯式期	横ナデ、自然釉	回転ヘラケズリ、横ナデ	
626	C	4J7r	SK67		推 12.4	-	残 3.9	1	須恵器	杯身	鳴海 32 号窯式期	横ナデ	横ナデ	
627	C	4J7r	SK67		推 16.8	-	残 3.0	1	須恵器	杯身	鳴海 32 号窯式期	横ナデ	横ナデ、回転ヘラケズリ	
628	C	4J7r	SK67		推 15.4	-	残 7.2	3	土師器	甕	8 世紀	横ハケ、斜めハケ	横ナデ、縦ハケ	
629	C	4F7r	SK67		-	-	残 8.0	1	土師器	甕		指オサエ、コゲ付着	縦ハケ、スス付着	
630	C	4J7r	SK67		推 17.0	-	残 2.7	3	土師器	甕	8 世紀中	横ハケ、指オサエ	横ナデ、縦ハケ、スス付着	
631	C	4J7r	SK67		推 17.4	-	残 4.5	1	土師器	甕	8 世紀中	荒い横ハケ	横ナデ、縦ヘラケズリ	
632	C	4J6q,7r	SK66,SK67		-	推 7.6	残 4.4	8	土師器	甕		指オサエ	縦ハケ、ヘラケズリ	
633	C	4J7r	SK67		推 6.0	-	残 2.2	1	土師器	製塩土器		横ナデ	横ナデ、指オサエ	
634	C	4J7q	SK64		推 16.4	-	残 1.5	1	須恵器	杯蓋	高蔵寺 2 号窯式期	横ナデ	回転ヘラケズリ、横ナデ、自然釉	
635	C	4J6q	SK64		推 9.8	推 7.2	4.6	1	須恵器	杯身	高蔵寺 2 号窯式期	横ナデ	横ナデ	
636	B	4A9j	SK20	遺物 1 等	推 25.6		残 9.5	4	須恵器	甕		横ナデ、黄土塗布	横ナデ、タタキ、黄土塗布	
637	B	4A9j	SK20	遺物 1 等			残 41.8	45	須恵器	甕		指オサエ、横ナデ、黄土塗布	タタキ、黄土塗布	
638	B	4A-	SD08		15.6	-	2.7	1	須恵器	杯蓋		横ナデ	回転ヘラケズリ、横ナデ	
639	B	4A10h	SD08		推 15.0	-	4.5	2	須恵器	杯蓋		横ナデ、刻書「十」	横ナデ、回転ヘラケズリ、横ナデ、自然釉	
640	B	4A8h,10h	SD08	トレンチ	17.4	13.2	5.5	3	須恵器	杯身	高蔵寺 2 号窯式期	横ナデ	横ナデ、回転ヘラケズリ	
641	B	4A11j	北トレンチ		-	推 9.2	残 1.9	1	須恵器	杯身		横ナデ	横ナデ、回転ヘラケズリ、刻書	
642	B	4A9m	東トレンチ		推 42.0	推 23.2	22.6	6	須恵器	鉢		横ナデ	横ナデ、ヘラケズリ	
643	Ab	4A6b	西トレンチ		-	-	残 2.9	1	須恵器	円面硯		自然釉、横ナデ	横ナデ、透かしあり	
644	B	4A9h	検出 3		-	-	-	1	須恵器	土錘		-	指オサエ	

遺物一覧表（12）

番号	区	グリッド	遺構	取上	口径	底径	器高	破片数	種別	器種	時期	内面	外面	備考
645	B	4A10h	SD08	トレンチ	-	-	残 7.0	1	土師器	置カマド		指ナデ	指ナデ	
646	B	4A7g	SK09		推 25.4	-	残 5.2	1	土師器	清郷型鍋		横ナデ、ハケ	横ナデ、ケズリ	
647	A	4A-	検出 2		-	-	残 7.5	1	土師器	不明脚部		-	指オサエ	
648	B	4A9m	東トレンチ		-	-	残 3.1	1	土師器	製塩土器		-	指オサエ	
649	B	4A10f	SB15		-	-	残 2.2	1	灰釉陶器	碗		灰釉、横ナデ	灰釉、横ナデ	
650	A	4A8e	SB15		-	-	残 2.3	1	古瀬戸	灰釉卸皿		灰釉	灰釉、うすい灰釉	
651	A	4A8e	SB15		-	-	残 1.9	1	古瀬戸	折縁深皿		灰釉	灰釉	
652	A	4A9f	SB16		推 7.4	-	残 1.4	1	尾張型	小皿		横ナデ	横ナデ	
653	A	4A9f	SB16		推 8.8	推 5.6	1.7	1	東濃型	小皿		横ナデ、一方向ナデ	横ナデ、回転糸切り痕のち板状圧痕	
654	A	4A6f	SB16		-	-	残 3.0	1	東濃型	山茶碗		横ナデ	横ナデ	
655	A	4A9f	SB16		-	-	残 1.9	1	尾張型	片口鉢		横ナデ	横ナデ	
656	A	4A6f	SB16		-	-	残 3.1	1	尾張型	片口鉢		横ナデ	横ナデ、ヘラケズリ横方向	
657	A	4A6f	SB16		-	-	残 2.0	1	中国産磁器	白磁玉縁口縁碗		白磁釉	白磁釉	
658	B	4A9g	SB18		-	-	残 2.6	1	灰釉陶器	碗		灰釉、横ナデ	灰釉、横ナデ、回転糸切痕	
659	B	4A9g	SB18		推 7.4	-	残 1.6	2	尾張型	小皿		横ナデ	横ナデ	
660	B	4A9g	SB18		推 9.6	-	残 1.2	1	灰釉陶器	段皿		灰釉、横ナデ	灰釉、横ナデ	
661	A	4A9f	SB41		推 8.4	推 4.4	2.1	1	尾張型	小碗		横ナデ	横ナデ、自然釉、モミ痕	
662	A	4A9f	SB41		推 8.9	-	残 2.1	1	尾張型	小碗		横ナデ	横ナデ	
663	A	4A9d	SB41		推 11.0	-	残 2.2	2	須恵器	杯身		横ナデ	横ナデ	
664	A	4A8e	SB41	P3	-	-	残 1.6	1	灰釉陶器	段皿		灰釉、横ナデ	横ナデ	
665	B	4A9d	SB41	カマド	-	-	残 3.6	1	尾張型	山茶碗		横ナデ	横ナデ、端部ススけている	
666	A	4A8c	SB43		-	-	残 2.7	1	尾張型	山茶碗		自然釉、横ナデ	自然釉、横ナデ	
667	A	4A8c	SB43		-	推 4.6	残 1.5	1	尾張型	小皿		横ナデ	横ナデ、回転糸切り痕	
668	A	4A8c	SB43		-	-	残 3.4	1	須恵器	壺		横ナデ	横ナデ	
669	A	4A8c	SB43		-	-	残 1.5	1	東濃型	山茶碗		横ナデ	横ナデ、モミ痕	
670	A	4A8e	SB44		-	-	残 1.8	1	須恵器	杯身		横ナデ	横ナデ	
671	A	4A8f	SB44	P1	-	推 5.0	残 2.5	1	東濃型	山茶碗		横ナデ	横ナデ、モミ痕、回転糸切痕	
672	A	4A8f	SB44	P1	-	-	残 4.2	1	土師器	製塩土器		-	ナデ？	
673	A	4A6d	SB46		推 16.8	-	残 2.3	1	尾張型	山茶碗		横ナデ	横ナデ、自然釉？	
674	Ab	4A7b	SB54	P3	-	-	残 4.7	1	須恵器	鉢？		横ナデ	横ナデ	
675	Ab	4A7bc	SB54		-	推 7.4	残 2.9	1	灰釉陶器	碗		横ナデ、灰釉	灰釉（つけがけ）、横ナデ、回転糸切痕？	
676	B	4A-	SD11	遺物 46	推 15.4	6.2	5.1	1	尾張型	山茶碗		一方向ナデ、横ナデ	横ナデ、モミ痕、回転糸切痕	
677	B	4A-	SD11	遺物 2,9	推 15.6	7.2	6.1	2	尾張型	山茶碗		一方向ナデ、横ナデ	横ナデ、モミ痕、回転糸切痕	
678	B	4A-	SD11	遺物 13	推 16.4	推 8.2	4.8	1	尾張型	山茶碗		一方向ナデ、横ナデ	横ナデ、モミ痕、回転糸切痕	
679	B	4A10f	SD11		推 15.6	推 7.6	4.3	1	尾張型	山茶碗		一方向ナデ、横ナデ	横ナデ、モミ痕、高台ハガレ、回転糸切痕	
680	B	4A10f	SD11		推 16.4	推 8.4	5.1	1	尾張型	山茶碗		横ナデ	横ナデ、モミ痕	
681	B	4A10g	SD11		推 15.2	-	残 4.1	1	尾張型	山茶碗		自然釉、横ナデ	自然釉、横ナデ	
682	B	4A10f	SD11		推 16.4	-	残 4.1	1	尾張型	山茶碗		横ナデ	横ナデ	
683	B	4A10g	SD11		推 15.4	-	残 3.2	1	尾張型	山茶碗		横ナデ	横ナデ	
684	B	4A-	SD11	遺物 49	-	8.6	残 3.6	1	尾張型	山茶碗		横ナデ	横ナデ、モミ痕、回転糸切痕	
685	B	4A-	SD11	遺物 47	-	6.0	残 3.6	1	東濃型	山茶碗		一方向ナデ、横ナデ	横ナデ、モミ痕、回転糸切痕	
686	B	4A-	SD11	遺物 41	-	8.6	残 3.2	1	尾張型	山茶碗		横ナデ	横ナデ、回転糸切痕	
687	B	4A-	SD11	遺物 43	-	8.2	残 3.3	1	尾張型	山茶碗		横ナデ	横ナデ、モミ痕、回転糸切痕	
688	B	4A-	SD11	遺物 19	-	6.2	残 3.8	1	尾張型	山茶碗		横ナデ	横ナデ、モミ痕、回転糸切痕	
689	B	4A-	SD11	遺物 22	-	7.2	残 3.2	1	尾張型	山茶碗		横ナデ、自然釉	横ナデ、回転糸切痕のち板状圧痕、墨書あり	
690	B	4A-	SD11	遺物 27	-	7.6	残 3.4	1	尾張型	山茶碗		横ナデ	横ナデ、モミ痕、回転糸切痕	
691	B	4A-	SD11	遺物 16	-	7.0	残 3.2	1	尾張型	山茶碗		横ナデ	横ナデ、モミ痕、回転糸切痕	
692	B	4A-	SD11	遺物 14	-	6.0	残 3.4	1	渥美湖西型？	山茶碗		横ナデ	横ナデ、モミ痕、回転糸切痕	
693	B	4A-	SD11	遺物 38	-	7.4	残 3.0	1	東濃型	山茶碗		横ナデ、ススけている	横ナデ、自然釉、回転糸切痕	
694	B	4A-	SD11	遺物 4	-	推 6.6	残 3.7	1	東濃型	山茶碗		横ナデ、ススけている	横ナデ、モミ痕、回転糸切痕、ススけている	
695	B	4A-	SD11	遺物 7	-	7.4	残 2.2	1	尾張型	山茶碗		横ナデ、ススけている	横ナデ、モミ痕、回転糸切痕	
696	B	4A-	SD11	遺物 42	-	推 7.8	残 2.4	1	灰釉陶器	碗		横ナデ	横ナデ、回転糸切痕	
697	B	4A-	SD11	遺物 31	-	推 6.4	残 3.5	1	尾張型？	山茶碗		横ナデ、ススけている	横ナデ、モミ痕、回転糸切痕	
698	B	4A-	SD11	遺物 56	-	推 7.2	残 2.4	1	尾張型	山茶碗		自然釉、一方向ナデ、横ナデ	横ナデ、モミ痕、回転糸切痕	

番号	区	グリッド	遺構	取上	口径	底径	器高	破片数	種別	器種	時期	内面	外面	備考
755	B	4A8g	SD12		-	推 6.6	残 3.6	1	尾張型	山茶碗		横ナデ	横ナデ、回転糸切痕	
756	B	4A8g	SD12		-	推 7.0	残 2.5	1	尾張型	山茶碗		横ナデ	横ナデ、回転糸切痕、墨書	
757	B	4A8g7g	SD12		8.0～8.2	4.2～4.3	2.2	2	尾張型	小皿		横ナデ	横ナデ、回転糸切痕	
758	B	4A7g	SD12		-	-	-	1	尾張型	小皿		横ナデ	横ナデ、回転糸切痕	
759	B	4A7g	SD12		8.0	4.6	2.1	3	尾張型	小皿		自然釉、横ナデ	横ナデ、回転糸切痕	
760	B	4A7g	SD12		推 7.6	-	残 1.4	1	尾張型	小皿		横ナデ	横ナデ	
761	B	4A7g	SD12		-	推 14.8	残 8.8	1	須恵器	高杯		横ナデ、自然釉	横ナデ	
762	B	4A8g	SD12		推 9.6	推 3.6	3.8	1	須恵器	杯身		横ナデ	横ナデ、自然釉、ヘラケズリ	
763	B	4A7g	SD12		-	5.2	残 3.4	1	須恵器	高杯	前橋 17 号窯式期	自然釉、横ナデ	横ナデ	
764	B	4A7g	SD12		-	-	残 2.7	1	陶器	丸瓦		布目痕	砂目？、ヘラケズリ	
765	A	4A	SD33	北壁	15.3	7.4	4.8	2	尾張型	山茶碗		一方向ナデ、横ナデ	横ナデ、モミ痕、回転糸切痕	
766	A	4A6e	SD33	遺物 25	14.9	7.5	5.6	4	尾張型	山茶碗		一方向ナデ、横ナデ	横ナデ、モミ痕、回転糸切痕	
767	A	4A6e	SD33	遺物 28	15.0	6.5	4.8	1	尾張型	山茶碗		一方向ナデ、自然釉、横ナデ	横ナデ、モミ痕、回転糸切痕	
768	A	4A6d	SD33	遺物 11	推 14.8	6.5	5.0	1	尾張型	山茶碗		一方向ナデ、横ナデ	横ナデ、回転糸切痕	
769	A	4A6e	SD33	遺物 24	推 15.4	推 7.4	5.3	1	尾張型	山茶碗		一方向ナデ、横ナデ	横ナデ、モミ痕、回転糸切痕	
770	A	4A6e	SD33	遺物 17	推 15.6	推 7.4	5.2	1	尾張型	山茶碗		一方向ナデ、横ナデ	横ナデ、モミ痕、回転糸切痕	
771	A	4A6e	SD33	遺物 14	推 15.0	推 6.2	5.1	1	尾張型	山茶碗		一方向ナデ、横ナデ	横ナデ、モミ痕、回転糸切痕	
772	A	4A6e	SD33	遺物 12	推 15.0	推 7.4	5.3	1	尾張型	山茶碗		一方向ナデ、横ナデ	横ナデ、モミ痕、回転糸切痕	
773	A	4A6e	SD33	遺物 38	推 16.4	-	残 3.2	1	尾張型	山茶碗		横ナデ	横ナデ	
774	A	4A6e	SD33	遺物 16	推 15.4	-	残 4.6	1	尾張型	山茶碗		横ナデ	横ナデ	
775	A	4A6e	SD33		推 15.4	-	残 3.7	1	尾張型	山茶碗		横ナデ	横ナデ	
776	A	4A6e	SD33	遺物 20	-	8.2	残 3.4	1	尾張型？	山茶碗		横ナデ、ススけ昔	横ナデ、モミ痕、回転糸切痕	
777	A	4A6e	SD33	遺物 33	-	6.6	残 3.2	1	東濃型	山茶碗		一方向ナデ、横ナデ	横ナデ、モミ痕、回転糸切痕	
778	A	4A6e	SD33	遺物 37	-	6.2	残 2.4	1	尾張型	山茶碗		自然釉、横ナデ	横ナデ、モミ痕、回転糸切痕	
779	A	4A6e	SD33	遺物 21	-	7.3	残 2.7	1	尾張型	山茶碗		横ナデ	横ナデ、モミ痕、回転糸切痕	
780	A	4A6d	SD33	遺物 10	-	6.5	残 2.6	1	尾張型	山茶碗		自然釉、横ナデ	横ナデ、モミ痕、回転糸切痕	
781	A	4A6e	SD33	遺物 29	-	6.5	残 2.4	1	尾張型	山茶碗		横ナデ、ススけている	横ナデ、モミ痕、回転糸切痕	
782	A	4A6e	SD33	遺物 26	-	7.2	残 2.1	1	尾張型	山茶碗		横ナデ	横ナデ、回転糸切痕	
783	A	4A6e	SD33	遺物 36	-	6.8	残 3.4	1	尾張型	山茶碗		一方向ナデ、横ナデ	横ナデ、モミ痕、回転糸切痕	
784	A	4A6e	SD33	遺物 30	-	7.0	残 4.4	1	尾張型	山茶碗		一方向ナデ、横ナデ	横ナデ、モミ痕、回転糸切痕	
785	A	4A6e	SD33	遺物 25	-	推 6.4	残 3.4	1	尾張型	山茶碗		一方向ナデ、横ナデ	横ナデ、モミ痕、回転糸切痕	
786	A	4A6e	SD33	遺物 7	-	推 6.6	残 2.9	1	渥美湖西型	山茶碗		一方向ナデ、横ナデ	横ナデ、モミ痕、回転糸切痕	
787	A	4A6e	SD33	遺物 31	-	推 8.0	残 2.2	1	尾張型	山茶碗		一方向ナデ、横ナデ	横ナデ、モミ痕、回転糸切痕	
788	A	4A6e	SD33	遺物 43	-	推 6.6	残 3.7	1	尾張型	山茶碗		一方向ナデ、横ナデ	横ナデ、モミ痕、回転糸切痕	
789	A	4A6e	SD33	遺物 40	-	推 6.4	残 2.7	1	尾張型	山茶碗		一方向ナデ、横ナデ	横ナデ、モミ痕、回転糸切痕	
790	A	4A6e	SD33	遺物 23	-	推 7.4	残 2.3	1	尾張型	山茶碗		一方向ナデ、横ナデ	横ナデ、モミ痕、回転糸切痕	
791	A	4A6e	SD33	遺物 43	-	推 6.6	残 1.8	1	尾張型	山茶碗		一方向ナデ、横ナデ	横ナデ、モミ痕、回転糸切痕	
792	A	4A6e	SD33	遺物 25	8.8～9.0	4.3～4.5	2.3	1	尾張型	山茶碗		一方向ナデ、横ナデ	横ナデ、モミ痕、回転糸切痕、墨書	
793	A	4A6e	SD33	遺物 5	7.8	4.4	2.1	1	尾張型	小皿		一方向ナデ、横ナデ	横ナデ、モミ痕、 回転糸切痕のち板状圧痕	
794	A	4A6e	SD33	遺物 9	7.8	4.2	2.0	1	尾張型	小皿		一方向ナデ、横ナデ	横ナデ、モミ痕、回転糸切痕	
795	A	4A6e	SD33		推 7.8	推 4.4	1.9	1	尾張型	小皿		一方向ナデ、横ナデ	横ナデ、モミ痕、 回転糸切痕のち板状圧痕	
796	A	4A6e	SD33	遺物 22	推 9.2	-	残 2.0	1	尾張型	小皿		全面自然釉	横ナデ	
797	A	4A6e	SD33		-	-	残 3.6	1	尾張型	片口鉢		横ナデ	横ナデ	
798	A	4A6e	SD33	遺物 5	推 12.0	-	残 8.1	1	東海系？	壺		横ナデ	横ナデ、ヘラケズリ	
799	A	4A6e	SD33	遺物 3	推 28.2	-	残 8.0	1	尾張型	片口鉢		自然釉、横ナデ	横ナデ、ヘラケズリ	
800	A	4A6e	SD33	遺物 41	推 28.2	-	残 5.4	1	尾張型	片口鉢		自然釉、横ナデ	横ナデ、ヘラケズリ	
801	Ab	4A6b	SD56		推 15.6	推 7.4	4.8	1	尾張型	山茶碗		一方向ナデ、横ナデ	横ナデ、モミ痕、回転糸切痕	
802	Ab	4A6b	SD56		推 16.0	-	残 3.9	2	尾張型	山茶碗		横ナデ	横ナデ	
803	Ab	4A6b	SD56		推 16.2	-	残 3.7	1	尾張型	山茶碗		横ナデ	横ナデ	
804	Ab	4A6b	SD56		推 18.6	-	残 3.4	2	尾張型	山茶碗		横ナデ、自然釉	横ナデ	
805	Ab	4A6b	SD56		推 15.8	-	残 3.3	1	尾張型	山茶碗		上部スス付着、横ナデ	横ナデ	
806	Ab	4A6b	SD56	遺物 2	推 16.8	-	残 3.7	1	尾張型	山茶碗		横ナデ	横ナデ	
807	Ab	4A6b	SD56		推 15.4	-	残 3.9	1	尾張型	山茶碗		横ナデ	横ナデ	
808	Ab	4A6b	SD56		推 14.0	-	残 4.1	1	尾張型	山茶碗		横ナデ	横ナデ	
809	Ab	4A6b	SD56		推 15.6	-	残 3.6	1	尾張型	山茶碗		横ナデ	横ナデ	
810	Ab	4A5b	SD56		推 16.4	-	残 3.8	1	東濃型	山茶碗		横ナデ	横ナデ	
811	Ab	4A6b	SD56		-	7.1	残 3.6	2	尾張型	山茶碗		横ナデ	横ナデ、モミ痕、回転糸切痕	

番号	区	グリッド	遺構	取上	口径	底径	器高	破片数	種別	器種	時期	内面	外面	備考
812	Ab	4A6b	SD56		-	7.5	残 2.8	1	尾張型	山茶碗		横ナデ	横ナデ、モミ痕、回転糸切痕	
813	Ab	4A6b	SD56		-	7.3	残 2.6	1	尾張型	山茶碗		横ナデ	横ナデ、破損後スス付着、モミ痕、回転糸切痕	
814	Ab	4A5b	SD56		-	推 8.0	残 4.3	1	尾張型	山茶碗		横ナデ	横ナデ、モミ痕、回転糸切痕	
815	Ab	4A6b	SD56	遺物 9	-	推 7.4	残 3.1	1	尾張型	山茶碗		横ナデ	横ナデ、モミ痕、回転糸切痕	
816	Ab	4A6b	SD56	遺物 6	-	推 6.4	残 2.1	1	尾張型	山茶碗		横ナデ	横ナデ、モミ痕、回転糸切痕	
817	Ab	4A6b	SD56		-	7.4	残 3.1	3	尾張型	山茶碗		横ナデ	横ナデ、モミ痕、回転糸切痕	
818	Ab	4A6b	SD56	遺物 14	-	7.2	残 3.5	1	尾張型	山茶碗		横ナデ	横ナデ、モミ痕、回転糸切痕	
819	Ab	4A5b	SD56		-	推 6.8	残 2.4	1	尾張型	山茶碗		横ナデ	横ナデ、モミ痕、回転糸切痕	
820	Ab	4A6b	SD56		-	推 7.2	残 2.3	1	尾張型	山茶碗		横ナデ	横ナデ、回転糸切痕	
821	Ab	4A6b	SD56	遺物 5	9.0	4.5	2.9	1	尾張型	小皿		横ナデ	横ナデ、回転糸切痕	
822	Ab	4A6b	SD56		推 8.0	推 5.6	2.0	1	尾張型	小皿		横ナデ	横ナデ、回転糸切痕	
823	Ab	4A6b	SD56		8.2	4.1	2.3	1	尾張型	小皿		自然釉、横ナデ	横ナデ、回転糸切痕	
824	Ab	4A6b	SD56		推 8.8	推 5.6	2.0	1	尾張型	小皿		横ナデ	横ナデ、回転糸切痕	
825	Ab	4A6b	SD56		推 8.2	4.5	2.2	1	尾張型	小皿		横ナデ	横ナデ、回転糸切痕	
826	Ab	4A6b	SD56		推 7.6	推 4.5	2.1	1	尾張型	小皿		横ナデ	横ナデ、回転糸切痕	
827	Ab	4A6b	SD56		-	4.0	残 1.3	1	尾張型	小皿		横ナデ	横ナデ、回転糸切痕	
828	Ab	4A6b	SD56		-	推 4.4	残 1.8	1	土師器	ロクロ調整皿		横ナデ	横ナデ、回転糸切痕	赤色系
829	Ab	4A6b	SD56		推 13.6	推 6.4	3.1	1	土師器	ロクロ調整皿		横ナデ	横ナデ、回転糸切痕	白色系
830	Ab	4A6b	SD56		-	-	残 0.9	1	中国産磁器	白磁碗		白磁釉	白磁釉	
831	Ab	4A6b	SD56		-	-	残 1.5	1	尾張型	山茶碗		横ナデ？	横ナデ？	加工円盤
832	Ab	4A6b	SD56		-	-	残 1.6	1	尾張型	山茶碗		横ナデ？	横ナデ？	加工円盤
833	Ab	4A6b	SD56		-	-	残 1.1	1	尾張型	山茶碗		横ナデ？	回転糸切痕	加工円盤
834	Ab	4A6b	SD56		-	-	残 7.2	1	常滑陶器	甕	2 型式	横ナデ、指オサエ	横ナデ	
835	Ab	4A6b	SD56		-	-	残 3.8	1	常滑陶器	甕	2 型式	横ナデ	横ナデ	
836	Ab	4A6b	SD56		推 23.2	-	残 7.7	15	土師器	南伊勢系鍋		横ナデ、ハケ	横ナデ、スス付着、指オサエ	
837	Ab	4A6b	SD56	遺物 11	推 12.0	-	残 7.3	1	常滑陶器	短頸壺	2 型式	横ナデ、指ナデ	横ナデ、自然釉、ヘラケズリ	
838	Ab	4A5b	SD56		-	-	残 7.5	1	常滑陶器	三筋壺	2 型式	横ナデ	自然釉、横ナデ	
839	Ab	4A6b	SD56	遺物 1	推 27.6	-	残 7.0	1	常滑陶器	羽釜	2 型式	横ナデ	自然釉、横ナデ	
840	B	4A10j	SD04		-	推 3.6	残 2.5	1	東濃型	山茶碗		一方向ナデ、横ナデ	横ナデ、モミ痕、回転糸切痕	
841	B	4A10j	SD04		-	推 4.0	残 1.9	1	東濃型	山茶碗		横ナデ	横ナデ、回転糸切痕	
842	B	4A10i	SD04		-	推 4.6	残 1.3	1	東濃型	山茶碗		横ナデ	横ナデ、回転糸切痕	
843	B	4A10j	SD04		-	推 4.6	残 1.4	1	東濃型	山茶碗		横ナデ	横ナデ、回転糸切痕	
844	B	4A10j	SD04		-	-	残 2.6	1	東濃型	山茶碗		横ナデ	横ナデ	
845	B	4A10j	SD04		-	-	残 4.5	2	古瀬戸	天目茶碗	後IV期新段階	鉄釉	下半露胎	
846	B	4A10j	SD04		-	-	残 2.3	1	古瀬戸	天目茶碗	後IV期新段階	鉄釉	鉄釉	
847	B	4A8j	SD04		推 11.6	-	残 2.0	1	古瀬戸	緑釉小皿	後IV期新段階	灰釉、下半露胎	灰釉、下半露胎	
848	B	4A8j	SD04		-	-	残 2.6	1	古瀬戸	直縁大皿	後III期	灰釉	灰釉	
849	B	4A10j	SD04		-	-	残 1.6	1	古瀬戸	折縁深皿	後III期	灰釉	灰釉	
850	B	4A8j	SD04		-	-	残 3.3	1	古瀬戸	盤類	後II か III期	灰釉	下半露胎	
851	B	4A10j	SD04		-	-	残 3.6	1	常滑陶器	甕		横ナデ	横ナデ	
852	B	4A7j	SD04		-	-	残 2.0	1	中国龍泉窯系磁器	青磁劃花文碗		青磁釉	青磁釉	
853	B	4A10j	SD04		推 13.8	-	残 2.0	1	土師器	非ロクロ調整皿		横ナデ	横ナデ	
854	B	4A10j	SD04		-	推 7.4	残 1.8	1	中国龍泉窯系磁器	青磁碗		青磁釉、輪禿げ	下半露胎	
855	B	4A10j	SD04		推 9.0	-	残 1.5	2	土師器	非ロクロ調整皿		横ナデ	横ナデ	
856	B	4A7j	SD04		推 11.0	-	残 2.3	1	中国龍泉窯系磁器	青磁瓶？		青磁釉	青磁釉	
857	B	4A10j	SD04		-	-	残 1.2	1	土師器	内彎型羽釜		横ナデ	横ナデ	
858	B	4A8i	SD05		推 14.8	-	残 2.5	1	尾張型	山茶碗		横ナデ、スス付着	横ナデ	
859	B	4A8i	SD05		推 13.6	-	残 2.8	1	東濃型	山茶碗		横ナデ、自然釉	横ナデ	
860	B	4A8i	SD05		-	推 6.0	残 2.2	1	尾張型	山茶碗		横ナデ	横ナデ、回転糸切痕．高台はじめからなし	
861	B	4A8i	SD05		推 8.4	推 4.6	2.0 ～ 2.1	1	尾張型	小皿		横ナデ	横ナデ、回転糸切痕	
862	B	4A8i	SD05		推 11.6	-	残 3.4	1	古瀬戸	天目茶碗	後IV期古段階	鉄釉	鉄釉	

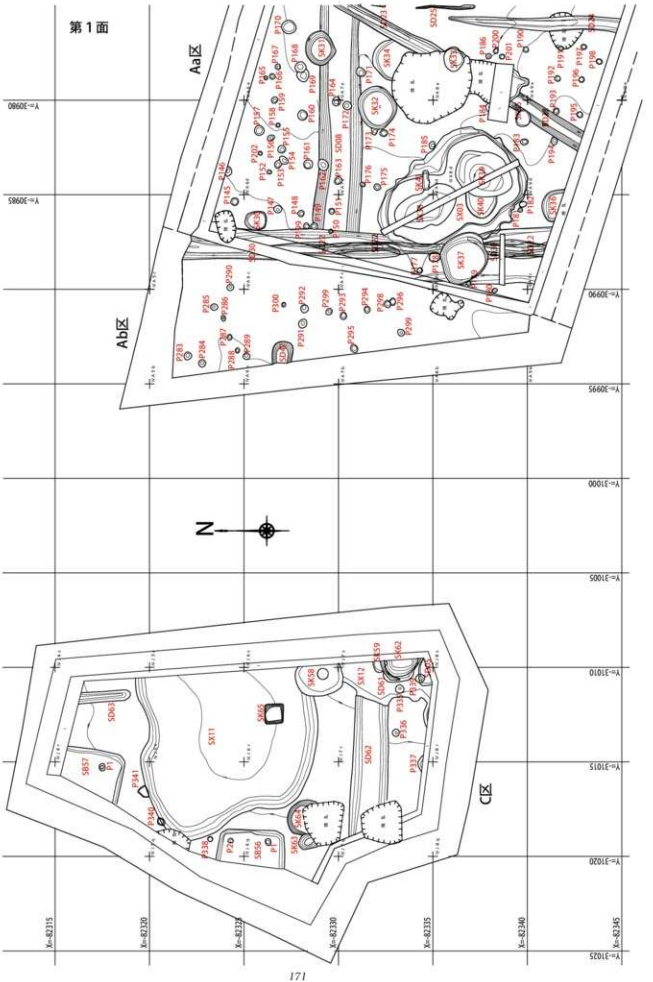
番号	区	グリッド	遺構	取上	口径	底径	器高	破片数	種別	器種	時期	内面	外面	備考
863	B	4A8i	SD05		-	-	残 4.6	1	古瀬戸	柄付片口	中期	灰釉	灰釉、うすい灰釉	
864	B	4A8i	SD07		-	-	残 3.1	1	尾張型	山茶碗		横ナデ	横ナデ、回転糸切痕	
865	B	4A9i	SD07		残 10.4	5.8	3.1	1	尾張型	山茶碗		底も焼き痕、自然釉	横ナデ、回転糸切痕	
866	B	4A8j	SD07		-	-	残 2.2	1	古瀬戸	緑釉小皿	後Ⅳ期古段階	灰釉	下半露胎	
867	A	4A7e	SD08		残 15.4	6.8	5.7	1	尾張型	山茶碗		横ナデ	横ナデ、モミ痕、回転糸切痕	
868	B	4A7g	SD08		残 15.2	7.0	4.9	1	尾張型	山茶碗		横ナデ、ナデ	一方向ナデ?、自然釉、横ナデ	
869	B	4A7g	SD08		残 13.8	7.6	5.0	4	尾張型	山茶碗		横ナデ	一方向ナデ、横ナデ	
870	B	4A8h	SD08		推 8.4	4.0	2.5	1	尾張型	小皿		横ナデ	横ナデ、回転糸切痕	
871	B	4A8h	SD08		推 11.4	推 3.8	3.6	4	東濃型	山茶碗		横ナデ	横ナデ、モミ痕	
872	B	4A7h	SD08		推 3.6	-	残 2.6	1	東濃型	山茶碗		横ナデ	横ナデ、モミ痕、回転糸切痕	
873	B	4A10h	SD08		推 4.0	-	残 2.7	1	東濃型	山茶碗		横ナデ	横ナデ、モミ痕、回転糸切痕	
874	A	4A9h	SB08		残 19.0	-	残 3.9	1	古瀬戸	平碗	後Ⅳ期古段階	灰釉	灰釉	
875	A	4A8h	SB08		-	4.5	残 1.3	2	古瀬戸	天目茶碗	後Ⅱ期	鉄釉	鉄釉	
876	A	4A8h	SB08		-	3.0	残 1.5	2	古瀬戸	小天目茶碗	後Ⅳ期古段階	鉄釉	露胎	
877	A	4A8h	SB08		推 12.4	5.9	3.0	2	古瀬戸	緑釉小皿	後Ⅰ期	灰釉、下半露胎糸きとり	灰釉、下半露胎、回転糸切痕	
878	A	4A7i,8d	SB08		残 13.4	-	残 2.0	1	古瀬戸	緑釉段皿	中Ⅴ期	灰釉、下半露胎糸きとり	灰釉、下半露胎	
879	A	4A9h	SB08		-	-	残 4.0	1	古瀬戸	瓶類?		灰釉	灰釉、露胎	
880	A	4A10h	SB08	南トレンチ	推 6.2	-	残 1.1	1	古瀬戸	小壺	中期	灰釉	灰釉、下半露胎、回転糸切痕	
881	A	4A7h	SB08		推 10.0	-	残 3.0	1	古瀬戸	小鉢	後Ⅳ~Ⅴ期古段階	灰釉	灰釉、下半露胎	
882	A	4A7d	SD08		-	-	残 5.2	2	常滑陶器	羽釜	2型式	横ナデ	横ナデ	
883	B	4A8h	SD08		-	-	残 1.5	1	常滑陶器	壺	2型式	横ナデ、自然釉	横ナデ、自然釉	
884	A	4A-	SB08		推 11.0	-	残 5.2	1	古瀬戸	香炉	後Ⅰ~Ⅱ期	灰釉	灰釉、下半露胎	
885	A	4A8h	SB08		-	-	残 2.7	1	古瀬戸	香炉	後Ⅱ~Ⅲ期	露胎	鉄釉、下半露胎	
886	A	4A8h	SB08		推 11.4	-	残 2.5	1	古瀬戸	壺か土瓶	後Ⅲ~Ⅳ期	灰釉	鉄釉	
887	A	4A-	SD08		推 17.0	-	残 3.0	1	中国産磁器	白磁玉縁口縁皿		白磁釉	白磁釉	
888	B	4A8h	SD08		-	-	残 3.1	1	中国産東葉系磁器	青磁蓮弁文碗		青磁釉	青磁釉	
889	B	4A9h	SD08		-	7.6	残 3.2	2	瓦質陶器	鍋		灰釉	灰釉、下半露胎、回転糸切痕	
890	B	4A8h	SD08		-	7.0	残 2.1	3	瓦質陶器	鍋		横ナデ	横ナデ、回転糸切痕	
891	B	4A10i	SD10		-	推 9.0	残 1.9	1	尾張型	山茶碗		横ナデ	横ナデ、モミ痕、回転糸切痕	
892	B	4A10i	SD10		-	推 7.0	残 2.3	1	尾張型	山茶碗		横ナデ	横ナデ、モミ痕、回転糸切痕	
893	B	4A10i	SD10		推 8.2	-	残 2.0	1	尾張型	小皿		横ナデ	横ナデ	
894	B	4A10i	SD10		-	推 4.6	残 1.3	1	尾張型	小皿		横ナデ	横ナデ回転糸切痕のちナデ	
895	B	4A7i	SD10		-	-	残 2.9	1	古瀬戸	折縁深皿	後Ⅳ期古段階	灰釉	灰釉	
896	B	4A7i	SD10		推 20.4	-	残 3.1	1	土師器	内弯型羽釜		横ナデ、スス、ハケ	横ナデ、スス、ハケ	
897	B	4A10i	SD10		-	-	残 4.2	1	土師器	甕		-	刷毛サエのみ	
898	B	4A8j	SD14		推 17.4	-	残 3.0	1	尾張型	山茶碗		スス付着、横ナデ	横ナデ	
899	B	4A8j	SD14		推 14.8	-	残 3.2	1	東濃型	山茶碗		横ナデ	横ナデ	
900	B	4A8j	SD14		推 14.6	-	残 3.0	1	尾張型	山茶碗		横ナデ	横ナデ	
901	B	4A9i	SD14		-	-	残 3.0	1	尾張型?	鉢		横ナデ	横ナデ	
902	B	4A8j	SD14		-	推 4.8	残 1.6	1	尾張型	小皿		横ナデ	横ナデ、モミ痕、回転糸切痕	
903	B	4A8j	SD14		推 7.8	3.2	2.7	1	尾張型	小皿		横ナデ	横ナデ、回転糸切痕	
904	B	4A9k	SD14		推 8.4	推 3.6	2.5	1	尾張型	小皿		横ナデ	横ナデ	
905	B	4A8j	SD14		8.8	4.1	2.2	1	尾張型	小皿		横ナデ	横ナデ、回転糸切痕	
906	B	4A8j	SD14		-	-	残 1.6	1	中国産磁器	白磁皿		白磁釉	白磁釉	
907	B	4A8k	SD14		-	-	残 1.6	1	信楽製陶器	鉢		横ナデ	横ナデ	
908	B	4A7i	SD13		-	-	残 4.0	1	古瀬戸	花瓶	後Ⅳ~Ⅴ期	露胎、ナデ	灰釉	
909	B	4A9i	SD13		-	-	残 1.8	1	中国産東葉系磁器	青磁蓮弁文碗		青磁釉	青磁釉	
910	B	4A10j	SD15		推 9.6	-	残 1.7	1	須恵器	杯身		横ナデ	横ナデ	
911	B	4A10i	SD16		推 10.2	-	残 3.0	1	東濃型	山茶碗		横ナデ	横ナデ	
912	B	4A8h	SD18		推 15.8	-	残 3.9	3	尾張型	山茶碗		スス付着、横ナデ	横ナデ	
913	B	4A8h	SD18		推 16.0	-	残 2.3	1	中国産磁器	白磁碗		白磁釉	白磁釉	
914	B	4A8h	SD18		-	-	残 3.3	1	尾張型	山茶碗		横ナデ	横ナデ、回転糸切痕	
915	B	4A8i	SD17		推 17.8	-	残 3.5	2	尾張型	山茶碗		横ナデ	横ナデ	
916	B	4A8i	SD17	遺物 4	-	7.3	残 5.0	1	尾張型	山茶碗		横ナデ	横ナデ、モミ痕、回転糸切痕	
917	B	4A9h	SD17		-	7.3	残 2.6	1	瓦質陶器	鍋		灰釉	横ナデ、回転糸切痕	
918	B	4A9h	SD17		-	7.2	残 2.5	1	尾張型	山茶碗		スス付着、横ナデ	横ナデ、モミ痕、回転糸切痕	

番号	区	グリッド	遺構	取上	口径	底径	器高	破片数	種別	器種	時期	内面	外面	備考
919	B	4A8i	SD17	-	-	5.5	残 2.5	1	尾張型	山茶碗		横ナデ	横ナデ、モミ痕、回転糸切痕、墨書	
920	B	4A8i	SD17	-	推 8.2	4.2	2.2	1	尾張型	小皿		自然釉、横ナデ	横ナデ、回転糸切痕	
921	B	4A8i	SD17	-	推 8.8	-	残 1.9	1	尾張型	小皿		自然釉、横ナデ	横ナデ	
922	B	4A9i	SD19	-	-	6.3	残 4.2	1	尾張型	山茶碗		スス付着、横ナデ	横ナデ、モミ痕、回転糸切痕	
923	B	4A8j	SD19	-	-	8.2	残 2.4	1	尾張型	山茶碗		横ナデ	横ナデ、モミ痕、回転糸切痕	
924	B	4A8j	SD19	-	-	推 6.6	残 2.5	1	尾張型	山茶碗		横ナデ	横ナデ、回転糸切痕	
925	B	4A8k	SD19	-	-	推 7.8	残 1.9	1	尾張型	山茶碗		一方向ナデ、横ナデ	横ナデ、モミ痕、回転糸切痕	
926	B	4A9i	SD19	-	-	5.5	残 1.9	1	灰釉陶器	碗		横ナデ	横ナデ、回転糸切痕の与板状圧痕	
927	B	4A9i	SD19	-	-	推 6.2	残 2.7	1	灰釉陶器	碗		横ナデ	灰釉、横ナデ	
928	B	4A9j	SD19	-	-	推 5.8	残 2.1	1	灰釉陶器	碗		横ナデ	横ナデ	
929	B	4A8j	SD19	-	8.6	4.6	2.3	1	尾張型	小皿		横ナデ	横ナデ、回転糸切痕	
930	B	4A9j	SD19	-	-	-	残 4.4	1	尾張型	山茶碗		自然釉、横ナデ	横ナデ	
931	B	4A9i	SD19	-	-	4.1	残 1.5	1	尾張型	小皿		横ナデ	横ナデ、モミ痕、回転糸切痕	
932	B	4A8j	SD19	-	推 8.4	推 4.4	2.7	1	尾張型	小皿		横ナデ	横ナデ、モミ痕、回転糸切痕	
933	B	4A8j	SD19	-	-	4.2	残 1.7	1	尾張型	小皿		自然釉、横ナデ	横ナデ、回転糸切痕	
934	B	4A9j	SD19	-	-	3.8	残 1.7	1	尾張型	小皿		横ナデ	横ナデ、回転糸切痕の与板状圧痕	
935	B	4A8k	SD19	-	推 18.8	-	残 3.8	1	中国産磁器	白磁玉縁口縁碗		白磁釉	白磁釉	
936	A	4A8e	SD24	-	-	-	残 3.6	1	古瀬戸	折縁深皿	後Ⅰ～Ⅱ期	灰釉	灰釉	
937	A	4A6c	SD29	-	-	6.8	残 1.9	1	尾張型	山茶碗		横ナデ	横ナデ、モミ痕、回転糸切痕	
938	A	4A6d	SD29	-	-	推 5.6	残 2.6	1	東濃型	山茶碗		横ナデ	横ナデ、モミ痕、回転糸切痕	
939	A	4A6c	SD29	-	-	-	残 3.3	1	土師器	青伊勢系鍋		横ナデ	横ナデ	
940	A	4A7c	SD29	-	-	-	残 2.4	1	古瀬戸	初期褐釉	後期	鉄釉	鉄釉	
941	A	4A9c	SD30	-	推 10.8	-	残 2.5	1	古瀬戸	緑釉小皿	後Ⅱ～Ⅲ期	鉄釉、下半露胎	鉄釉、下半露胎	
942	A	4A9c	SD31	-	-	推 7.2	残 2.0	1	尾張型	山茶碗		横ナデ	横ナデ、モミ痕、回転糸切痕	
943	A	4A9c	SD31	-	-	推 8.0	残 1.0	1	東濃型	山茶碗		横ナデ	横ナデ、モミ痕、回転糸切痕	
944	A	4A6c	SD32	-	推 14.6	-	残 2.0	1	尾張型	山茶碗		自然釉、横ナデ	横ナデ	
945	A	4A6c	SD32	-	推 15.6	-	残 2.8	1	東濃型	山茶碗		横ナデ	横ナデ	
946	A	4A7c	SD32	-	推 10.0	-	残 1.3	1	東濃型	小皿		横ナデ	横ナデ	
947	A	4A7c	SD32	-	-	-	残 1.6	1	尾張型	山茶碗		横ナデ	横ナデ、回転糸切痕	
948	A	4A5c	SD32	-	-	推 7.8	残 2.0	1	尾張型	山茶碗		横ナデ	横ナデ、モミ痕、回転糸切痕	
949	A	4A6c	SD32	-	-	推 5.0	残 1.6	1	東濃型	山茶碗		横ナデ	横ナデ	
950	A	4A6c	SD32	-	-	-	残 1.3	1	土師器	青伊勢系鍋		横ナデ	横ナデ	
951	B	4A6c	SD32	-	-	推 4.8	残 1.9	1	中国産磁器	白磁碗		白磁釉	型抱ヘラケズリ	
952	A	4A6c	SD32	-	-	推 6.5	残 6.5	1	瀬戸美濃	皿Ⅰ		自然釉	横ナデ	
953	A	4A6c	SD32	-	推 22.6	-	残 3.0	1	土師器	内管型羽釜		横ナデ	横ナデ、横ハケ	
954	A	4A6e	SD35	-	推 9.4	-	残 2.1	1	尾張型（瀬戸）	小皿		横ナデ	横ナデ	
955	A	4A6e	SD35	-	-	推 6.6	残 2.5	1	尾張型	山茶碗		横ナデ、一方向ナデ	横ナデ、モミ痕、回転糸切痕	
956	A	4A6e	SD35	-	-	推 6.6	残 2.0	1	尾張型	山茶碗		横ナデ、一方向ナデ	横ナデ、回転糸切痕	
957	A	4A6d	SD39	-	-	7.8	残 3.9	1	尾張型	山茶碗		横ナデ	横ナデ	
958	A	4A6d	SD39	-	-	推 5.6	残 1.4	1	尾張型（瀬戸）	山茶碗		横ナデ	横ナデ	
959	A	4A6d	SD39	-	-	-	残 3.2	1	尾張型	山茶碗		横ナデ	横ナデ	
960	A	4A6d	SD39	-	-	-	残 2.6	1	東濃型	山茶碗		横ナデ	横ナデ	
961	A	4A6c	SD39	-	推 8.0	推 5.2	1.9	1	尾張型	小皿		横ナデ	横ナデ、回転糸切痕	
962	A	4A6d	SD39	-	推 8.4	-	残 2.3	2	土師器	青伊勢系鍋?		横ナデ、調整不明	横ナデ、調整不明、スス付着	
963	A	4A6f	SD39	-	-	-	残 7.5	1	古瀬戸	腰錆	後Ⅰ～Ⅱ期	灰釉	灰釉、下半露胎	
964	A	4A6c	SD36	推 14.6	-	-	残 2.6	1	尾張型	山茶碗		横ナデ	横ナデ	
965	A	4A6c	SD36	-	-	-	残 2.0	1	中国産東葡萄系磁器	青磁碗		青磁釉	青磁釉、高台内露胎	
966	A	4A6c	SD36	-	-	推 4.0	残 1.6	1	東濃型	山茶碗		横ナデ、一方向ナデ	横ナデ、モミ痕、回転糸切痕	
967	A	4A6c	SD40	-	推 8.6	推 5.0	残 2.2	1	尾張型	小皿		自然釉、横ナデ	横ナデ、回転糸切痕	
968	A	4A7c	SD40	-	-	-	残 1.6	1	古瀬戸	折縁深皿	後Ⅰ期	灰釉	灰釉	
969	A	4A7c	SD40	-	-	-	残 5.2	1	古瀬戸	三（四）耳壺	前ｉａ期	ヘラケズリ、露胎	横ナデ、灰釉	
970	A	4A6d	SD41	-	-	推 7.2	残 2.6	1	尾張型	山茶碗		横ナデ	横ナデ、モミ痕、回転糸切痕	
971	A	4A6e	SD41	-	-	推 5.0	残 1.5	1	東濃型	山茶碗		横ナデ	横ナデ、モミ痕	
972	A	4A6e	SD41	-	-	-	残 1.3	1	土師器	皿		横ナデ	横ナデ、スス付着	

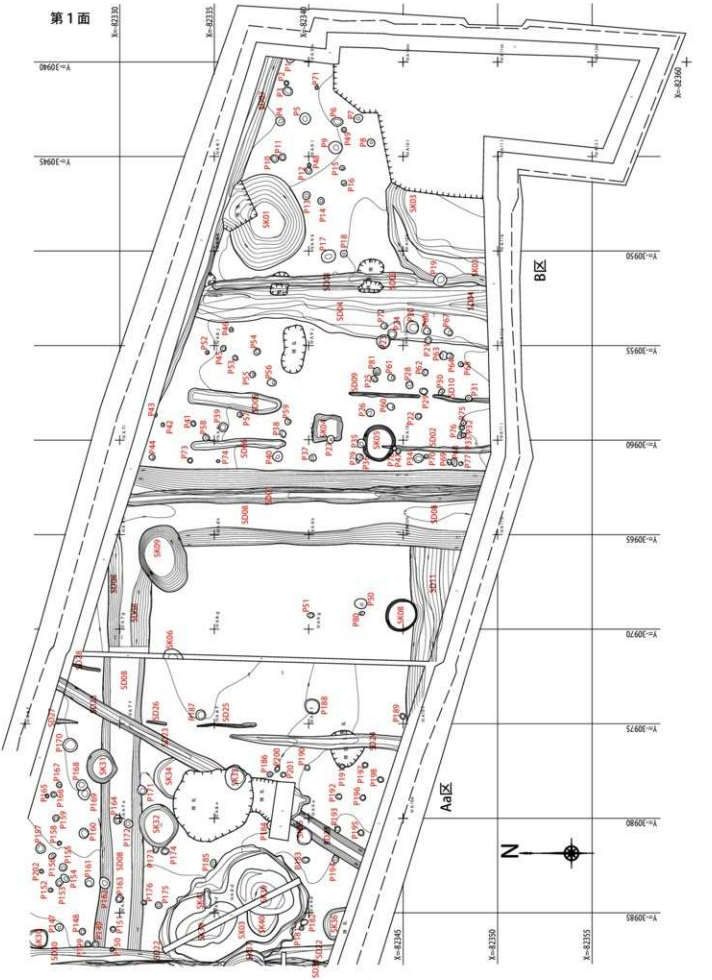
番号	区	グリッド	遺構	取上	口径	底径	器高	破片数	種別	器種	時期	内面	外面	備考
973	Ab	4A6b	SK57	遺物7	推15.8	8.0	5.3	1	尾張型	山茶碗		横ナデ	横ナデ、モミ痕、回転糸切痕の与板状圧痕	
974	Ab	4A6b	SK57	遺物9	-	6.0	残4.0	1	尾張型	山茶碗		横ナデ、自然釉	横ナデ、回転糸切痕	
975	B	4A10j	P19		-	推5.8	残1.4	1	土師器	ロクロ調整出		横ナデ	横ナデ、回転糸切痕、一部重ね焦	
976	C	4j	SX12		2.5	-	1.0	1	土師器	非ロクロ調整出		未調整？	指オサエのみ	
977	Ab	4A-	SX04	第1層	推31.0	-	残7.1	1	常滑陶器	鉢	2か3型式	自然釉、横ナデ	自然釉、横ナデ	
978	Ab	4A-	SX04	第1層	推28.6	-	残9.7	1	常滑陶器	鉢	2型式	自然釉、横ナデ	横ナデ、スス付着、ヘラケズリ	
979	Ab	4A-	SX04	第1層	推30.4	推20.0	9.2	1	常滑陶器	鉢	3型式	自然釉	横ナデ、ヘラケズリ、横ナデ、砂目	
980	A	4A9d	SX05		7.4～7.6	4.8～4.9	2.3	1	土師器	ロクロ調整出		横ナデ	横ナデ、回転糸切痕	
981	A	4A9d	SX05		7.4～7.5	5.5	1.6	1	土師器	ロクロ調整出		横ナデ	横ナデ、回転糸切痕	
982	A	4A9d	SX05		-	-	残1.4	1	常滑	転用加工円盤		-	自然釉	
983	A	4A9d	SX05		-	-	0.3	1	ガラス	小玉		-	-	
984	A	4A9d	SX05		-	-	0.3	1	ガラス	小玉		-	-	
985	A	4A9d	SX06		-	-	0.3	1	ガラス	小玉		-	-	
986	A	4A9d	SX07		-	-	0.3	1	ガラス	小玉		-	-	
987	B	4A9k	P13		-	-	残4.3	1	古瀬戸	折縁深皿	中Ⅳ期	灰釉	灰釉	
988	B	4A9j	P18		-	推6.6	残3.1	1	尾張型	山茶碗		横ナデ	横ナデ、モミ痕、回転糸切痕	
989	B	4A10j	P20		-	推6.6	残3.1	1	尾張型	山茶碗		横ナデ	横ナデ、回転糸切痕	
990	B	4A10j	P31		推8.0	-	残1.5	1	土師器	ロクロ調整出？		横ナデ	横ナデ	
991	B	4A10h	P 34		-	推4.0	残2.5	1	東濃型	山茶碗		横ナデ	横ナデ、モミ痕、回転糸切痕	
992	B	4A9h	P 37		-	推6.0	残1.4	1	東濃型	山茶碗		横ナデ	横ナデ、モミ痕、回転糸切痕	
993	B	4A8h	P40		（推14.0）	-	残1.3	1	中国産磁器	白磁皿		白磁釉	白磁釉	
994	B	4A8h	P40		-	推7.0	残2.1	1	尾張型	山茶碗		横ナデ	横ナデ、自然釉	
995	B	4A7h	P44		-	推6.0	残2.3	1	尾張型	山茶碗		横ナデ	横ナデ、モミ痕、回転糸切痕	
996	B	4A8i	P45		-	-	残3.2	1	土師器	内弯型羽釜		横ナデ	横ナデ、スス付着	
997	B	4A9h	P47		-	推4.4	残1.1	1	東濃型	山茶碗		横ナデ	横ナデ、モミ痕、回転糸切痕	
998	B	4A9k	P48		-	推5.0	残2.4	1	東濃型	山茶碗		横ナデ	横ナデ、モミ痕	
999	B	4A8i	P56		-	-	残2.7	1	常滑陶器	直焼皿		横ナデ	横ナデ	
1000	B	4A10j	P66		推8.6	推5.4	1.6～1.7	1	東濃型	小皿		横ナデ	横ナデ、回転糸切痕	
1001	B	4A9i	P72		-	-	残1.9	1	尾張型	山茶碗		横ナデ	横ナデ、回転糸切痕	
1002	B	4A8h	P73		推7.0	-	残1.4	1	土師器	非ロクロ調整出		横ナデ	横ナデ	
1003	B	4A8h	P74		-	推8.0	残2.7	1	尾張型	山茶碗		横ナデ	横ナデ、モミ痕、回転糸切痕	
1004	B	4A8j	P86		推15.2	-	残2.8	1	須恵器	杯蓋		横ナデ	横ナデ、自然釉、回転ヘラケズリ	
1005	B	4A8j	P86		推22.2	-	残4.0	1	土師器	鍋		横ナデ、ハケ	横ナデ	
1006	B	4A9g	P50		推25.0	-	残8.7	1	須恵器	鉢		横ナデ、指オサエ	横ナデ、タタキ、沈線	
1007	B	4A9i	P53		推31.2	-	残3.8	1	須恵器	甕？		横ナデ、ヘラケズリ	横ナデ、タタキ	
1008	A	4A6c	P147		-	-	残2.8	1	尾張型	片口鉢		横ナデ	ヘラケズリ、横ナデ	
1009	A	4A6c	P147		-	-	残1.9	1	土師器	内弯型羽釜		横ナデ	横ナデ、スス付着	
1010	A	4A6d	P159		-	-	残1.6	1	尾張型	山茶碗		横ナデ	横ナデ、回転糸切痕	加工円盤
1011	A	4A6e	P168		-	推9.0	残1.8	1	尾張型	山茶碗		横ナデ	横ナデ、回転糸切痕	
1012	A	4A6e	P168		-	推6.2	残2.0	1	尾張型	山茶碗		横ナデ	横ナデ、磨滅、回転糸切痕	
1013	A	4A6d	P206		推14.6	-	残3.8	1	尾張型	山茶碗		横ナデ	横ナデ	
1014	A	4A6d	P206		-	7.0	残2.7	1	尾張型	山茶碗		横ナデ	横ナデ、スス付着、回転糸切痕	
1015	A	4A6d	P157		-	推6.6	残1.6	1	尾張型	山茶碗		横ナデ、一方向ナデ	横ナデ、回転糸切痕、モミ痕	
1016	A	4A6d	P161		-	-	残1.8	1	東濃型	山茶碗		重ね焼き痕、横ナデ	横ナデ	
1017	A	4A6e	P166		推8.8	-	残1.6	1	尾張型	小皿		横ナデ、自然釉	横ナデ、自然釉	
1018	A	4A6e	P169		-	-	残1.5	1	須恵器	杯身		横ナデ	横ナデ、ヘラケズリ	
1019	A	4A6e	P170		-	-	残1.8	1	尾張型	山茶碗		横ナデ	横ナデ	
1020	A	4A6e	P171		-	-	残1.8	1	尾張型	山茶碗		横ナデ	横ナデ	
1021	A	4A6d	P172		-	-	残1.7	1	尾張型	山茶碗		横ナデ	横ナデ、モミ痕	
1022	A	4A9f	P188		-	推5.4	残1.9	1	尾張型	山茶碗		横ナデ	横ナデ、モミ痕、回転糸切痕、墨書	
1023	A	4A9e	P190		-	推4.8	残1.5	1	尾張型	小碗		横ナデ	横ナデ、モミ痕	
1024	A	4A9f	P192		-	-	残1.2	1	須恵器	杯身？		横ナデ	横ナデ、回転糸切痕	
1025	A	4A9d	P194		-	推4.6	残1.8	1	東濃型	山茶碗		横ナデ	横ナデ、回転糸切痕、モミ痕	
1026	A	4A9e	P196		-	推7.2	残1.4	1	瓦軸陶器	碗		横ナデ	横ナデ、回転糸切痕	

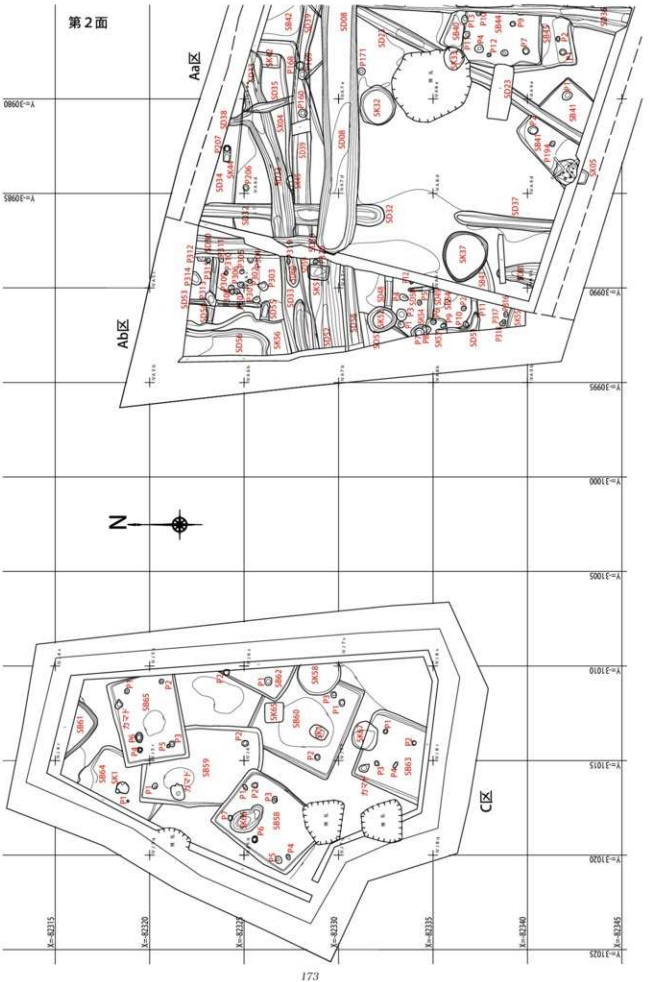
番号	区	グリッド	遺構	取上	口径	底径	器高	破片数	種別	器種	時期	内面	外面	備考
1027	A	4A6c	P220		-	推7.6	残2.5	1	須恵型	山茶碗		横ナデ	横ナデ、回転糸切痕、モミ痕、スス付着	
1028	A	4A9e	P198		-	推7.4	残1.7	1	貝釉陶器	碗		横ナデ	横ナデ	
1029	A	4A9e	P197		-		残2.6	1	古瀬戸	香炉？		灰釉	灰釉	
1030	Ab	4A6c	P287		-	推4.2	残1.1	1	古瀬戸	天目茶碗	後IV期新段階古	鉄釉	露胎	
1031	B	4A8b	P297		推7.4	推3.4	1.5	1	東濃型	小皿		横ナデ	横ナデ、回転糸切痕	
1032	C		SK65		7.7～8.0	4.4～4.5	2.2	1	須恵型	小皿		横ナデ	横ナデ、回転糸切痕	
1033	Ab	4A6b	SK57	遺物3	-		残12.1	1	常滑陶器	三筋壺		横ナデ、自然釉	胴ヘラケズリ	
1034	A	4A～	南トレンチ		-	推7.0	残2.5	1	白色系陶器	碗？		横ナデ	横ナデ、回転糸切痕	
1035	A	4A7c	SK38		推14.4	推7.2	1.9	1	貝釉陶器	皿		灰釉	露胎、回転ヘラケズリ	
1036	B	4A～	SK14	遺物8	7.8～8.2	4.2	2.1	1	須恵型	小皿		横ナデ	横ナデ、回転糸切痕、墨書	
1037	Ab	4A6b	西トレンチ		推8.0	4.0	1.7	1	須恵型	小皿		内面塗膜あり	横ナデ、回転糸切痕	
1038	C	4A6c	西トレンチ		7.7	4.8	1.4	1	東濃型	小皿		横ナデ	横ナデ、回転糸切痕	
1039	A	4A9c	SK37		推9.6	-	残4.2	1	肥前陶器	丸皿		灰釉	灰釉	
1040	A	4A9c	SK37	枡内	推9.2	-	残4.5	1	肥前陶器	丸皿		灰釉	胴底油煙煤み込み、灰釉	
1041	A	4A9c	SK37	枡内	推12.2	-	残4.1	1	瀬戸陶器	丸皿	第8・9小期	透明釉	透明釉、貝須紐	
1042	A	4A～	SK37	枡内	-	5.4	残3.1	1	瀬戸磁器	広東茶碗	第10小期	透明釉、貝須紐	透明釉、貝須紐	生掛け
1043	A	4A9c	SK37		-	6.0	残2.9	1	瀬戸磁器	広東茶碗	第10小期	透明釉、貝須紐	透明釉、貝須紐、高台端部露胎	
1044	A	4A9c	SK37		-	5.9	残3.0	1	関西系磁器?	広東茶碗	第9小期	透明釉、貝須紐	透明釉、貝須紐、高台端部露胎	
1045	A	4A9c	SK37		推9.8	-	残3.2	1	肥前磁器	丸皿		白磁釉	口縁端部鉄釉、白磁釉	
1046	A	4A9c	SK37		-	推4.4	残3.6	1	肥前磁器	丸皿		透明釉	透明釉、貝須紐、高台端部露胎	
1047	A	4A9c	SK37	枡内	-	4.0	残2.3	1	瀬戸陶器	丸皿	第9小期以降	長石釉鉄絵	長石釉鉄絵、高台端部露胎	
1048	A	4A9c	SK37	枡内	推8.0	-	残4.0	1	瀬戸磁器	小碗	第10・11小期	透明釉	透明釉、貝須紐	
1049	A	4A9c	SK37		-	4.0	残1.6	1	関西系磁器	福形湯呑？		透明釉、貝須紐	透明釉、貝須紐、高台端部露胎	
1050	A	4A9c	SK37	枡内	-	7.6	残5.6	1	瀬戸陶器	徳利	第1～4小期	露胎	鉄釉、ヘラケズリ、鋤釉	
1051	A	4A9c	SK37		-	-	残6.1	1	瀬戸陶器	燈鉢	第10小期	鉄釉	鉄釉	
1052	A	4A9c	SK37		-	-	残4.7	1	瀬戸陶器	燈鉢	第9小期	鉄釉	鉄釉	
1053	A	4A9c	SK37		推14.4	推3.4	残3.4	1	瀬戸陶器	こね鉢	第10小期	灰釉、トチン痕	灰釉、露胎ヘラケズリ	
1054	A	4A9c	SK37	枡内	推17.4	残11.6		1	瀬戸陶器	火鉢	第10・11小期	鉄釉、鋤釉、スス状付着物	うのふ釉、鉄釉、回転ヘラケズリ、下半露胎	
1055	A	4A9c	SK37		長22.6	幅22.2	厚2.0	6	いぶし瓦	のし瓦		ハナレ砂、ヘラケズリ	ミガキ	
1056	A	4A9c	SK37	枡内	長28.3	幅29.0	厚1.7	1	いぶし瓦	桟瓦		ハナレ砂、ヘラケズリ	ミガキ	
1057	A	4A9c	SK37	枡内	長27.6	幅28.3	厚2.0	3	いぶし瓦	桟瓦		ハナレ砂、ヘラケズリ	ミガキ、ヘラケズリ、刻印	
1058	A	4A9c	SK37		70.8	65.0	69.4	84	常滑産物	甕		横ナデ、指オサエ	横ナデ、板ナデ、砂目	
1059	A	4A9c	SK37		70.0	推66.0	58.0	103	常滑産物	甕		横ナデ、指オサエ	横ナデ、板ナデ、砂目	
1060	A	4A9c	SK37	枡内	68.6	推64.0	58.0	55	常滑産物	甕		横ナデ、指オサエ	横ナデ、板ナデ、砂目	
1061	A	4A9c	SK37		-	推62.0	55.0	22	常滑産物	甕		横ナデ、指オサエ	頸文、板ナデ、横ナデ、砂目	
1062	A	4A～	SK39	遺物2	-	-	残2.1	1	貝釉陶器	碗		横ナデ	横ナデ、回転糸切痕	
1063	A	4A～	SK39	遺物3	-	推7.6	残2.5	1	瀬戸陶器	徳利		露胎	鉄釉、底露胎物入まとり、回転ヘラケズリ	
1064	A	4A～	SK39	遺物4	推19.6	-	残10.0	1	瀬戸陶器	土瓶		透明釉白化粧、口縁部磁器製	透明釉白化粧、下半露胎、スス付着	
1065	A	4A～	SK39	遺物5	-	-	-	1	常滑陶器	赤物壺		横ナデ、指オサエ	横ナデ	
1066	B	4A10h	SD01		-	-	残4.0	2	古瀬戸	天目茶碗	後IV期古段階	鉄釉	鉄釉、鋤釉	加工円盤
1067	B	4A10h	SD01		-	3.8	残1.2	1	瀬戸陶器	小碗		灰釉	高台端部露胎	加工円盤
1068	B	4A9h	SD01		-	4.4	残1.5	1	中国産磁器	白磁碗		白磁釉	下半露胎	加工円盤
1069	A	4A9h	SD01		7.8	5.2	残1.7	6	土師器	ロクロ調整皿		横ナデ	横ナデ、回転糸切痕のち板状圧痕、タール付着	
1070	B	4A10h	SD01		推7.8	4.8	2.1	7	土師器	非ロクロ調整皿		横ナデ	横ナデ、回転糸切痕	
1071	B	4A10h	SD01		推7.6	-	1.8	1	土師器	非ロクロ調整皿		横ナデ	横ナデ	
1072	B	4A10h	SD01		推25.8	-	残10.9	1	瀬戸陶器	半胴	第8・9小期	鉄釉	鉄釉	
1073	B	4A10h	SD01		-	-	残5.6	1	中国産染翠青磁碗	青磁碗		青磁釉	劃花文	
1074	B		4A9h	SD01	-	-	残2.9	1	古瀬戸	卸皿	後I期	灰釉、下半露胎	下半露胎	
1075	B		4A9h	SD01	-	-	残2.9	1	瀬戸美濃陶器	大皿	第3・4小期	長石釉	長石釉	
1076	B		4A10h	SD01	-	-	残2.6	1	瀬戸陶器	燈鉢	第6小期	鉄釉	鉄釉	
1077	B		4A9h	SD01	-	推13.4	残3.5	1	瀬戸陶器	半胴		鉄釉	下半露胎、横ナデ、回転糸切痕	

番号	区	グリッド	遺構	取上	口径	底径	器高	破片数	種別	器種	時期	内面	外面	備考
1078	B	4A9h	SD01		-	-	残 1.3	1	中国産磁器	白磁碗		白磁釉	露胎	
1079	B	4A9h	SD01	遺物 6	推 15.8	-	7.6	6	土師器	内耳鍋		指ナデ	横ナデ、指オサエ、ヘラケズリ	
1080	B	4A10h	SD01		推 29.8	-	残 8.4	22	土師器	焙烙		ハケ、指オサエ	横ナデ、指オサエ、ヘラケズリ、スス付着	
1081	C	4J6r	SK58	枠内	推 8.6	4.0	5.8	1	瀬戸陶器	腰錆湯呑	第 8・9 小期	長石釉	長石釉、鉄釉、高台端部露胎	
1082	C	4J6r	SK58		-	4.3	残 5.1	1	瀬戸陶器	腰錆茶碗	第 9 小期	長石釉	長石釉、鉄釉、高台端部露胎、重ね焼き痕	
1083	C	4J6r	SK58		推 9.2	-	残 4.2	1	瀬戸陶器	丸碗	第 8・9 小期	灰釉、呉須絵	灰釉、呉須絵	
1084	C	4J6r	SK58	枠内	推 13.6	6.0	6.5	4	瀬戸陶器	丸碗	第 8 小期	灰釉、呉須絵	灰釉染付、呉須絵、高台端部露胎	
1085	C	4J6r	SK58		2.9	-	1.2	1	土師器	非ロクロ調整皿		型打後未調整	指オサエ	肌色系
1086	C	4J	SK58	枠内	8.0 ～ 8.3	4.9	1.7	1	土師器	ロクロ調整皿		横ナデ	横ナデ、回転糸切痕	赤色系
1087	C	4J6r	SK58		推 8.3	推 4.4	残 1.7	1	土師器	ロクロ調整皿		横ナデ	横ナデ、回転糸切痕	白色系
1088	C	4J6r	SK58		-	-	残 2.2	1	土師器	焙烙		横ナデ	横ナデ	
1089	C	4J	SK58	枠内	推 28.4	-	残 7.0	1	美濃陶器	黄瀬戸鉢	第 7 小期	黄瀬戸釉、緑釉流し	黄瀬戸釉	
1090	C	4J6r	SK58		推 11.6	-	残 4.9	1	美濃陶器	黄瀬戸鉢	第 7 小期	灰釉、トチン痕	灰釉、下半露胎釉ふきとり、回転ヘラケズリ	
1091	C	4J6r	SK58		推 20.0	-	残 3.7	1	瀬戸陶器	擂鉢	第 6・7 小期	錆釉、擂目	錆釉	
1092	C	4J6r	SK58		推 9.4	-	残 5.7	1	瀬戸陶器	半胴	第 8・9 小期	鉄釉	鉄釉	
1093	C	4J6r	SK58		62.8	-	残 34.4	31	常滑赤物	井筒		横ナデ、指オサエ	横ナデ、板ナデ	
1094	A	4A9c	SB26		長 2.5	幅残 1.6	高 0.4	1	石製品	滑石製模造品		-	-	
1095	C	4J7b	SK60		長残 9.0	幅 4.3	高 1.7	1	石製品	砥石		-	磨減	
1096	A	4A8c	SK37		長残 6.8	幅残 5.8	高 1.3	1	石製品	砥石		-	磨減	
1097	C	4J6r	SK58	枠内	長 5.5	幅 5.0	高 4.0	1	石製品	砥石		-	磨減	
1098	C	4J4q	SB64	SK1	長 21.5	幅 7.4	高残 6.7	1	石製品	砥石		-	磨減	
1099	A	4A-	表土		長 37.7	幅 36.9	高 8.6	1	石製品	挽臼上臼		-	磨減	
1100	C	4J6r	SK58	枠内	長 9.7	幅 5.0	厚 0.8		木製品	横櫛		-	黒色漆、歯部表裏金色漆	
1101	C	4J6r	SK58	枠内	長残 11.3	幅残 2.6	厚 1.2		木製品	結桶底板		-	平滑、調整痕不明	
1102	C	4J6r	SK58	枠内	長残 13.8	幅残 3.5	厚 1.0		木製品	曲物桶底板		-	調整痕不明、キズあり	
1103	C	4J6r	SK58	遺物 1	長 17.6	幅残 11.5	厚 0.8		木製品	結桶底板		-	平滑、調整痕不明	
1104	C	4J6r	SK58	枠内	長 17.6	幅 17.4	厚 1.3		木製品	結桶底板		-	平滑、調整痕不明	
1105	C	4J6r	SK58	枠内	長 11.5	幅 1.5	厚 0.3		木製品	楔		-	チョウナ痕？	
1106	C	4J6r	SK58	枠内	長残 14.7	幅残 6.7	厚 0.5		木製品	折敷底板		-	平滑、調整痕不明	
1107	C	4J6r	SK58	枠内	2.6	2.7	6.6		竹製品	節抜竹管		-	-	
1108	C	4J6r	SK58	枠内	長 18.3	幅 3.2	厚残 1.2		木製品	刀子柄部		-	平滑、調整痕不明	
1109	C	4J6r	SK58	枠内	長 13.3	幅 3.7	厚 3.0		木製品	不明		-	-	
1110	C	4A6r	SK58	枠材 9	長残 42.4	幅 10.0	厚 2.3		木製品	板材		-	縦挽ノコギリ痕	
1111	A	4A8c	SK37	枠材 1	長残 45.7	幅 9.8	厚 2.2		木製品	井戸側材		-	縦挽ノコギリ痕、チョウナ痕	
1112	C	4J6r	SK58	1 段目	-	60.9	残 38.6		木製品	結物井筒		ヤリガンナ痕？	チョウナ痕	
1113	C	4J6r	SK58	2 段目	59.4	63.6	68.2		木製品	結物井筒		ヤリガンナ痕？	チョウナ痕	
1114	C	4J6r	SK58	3 段目	59.6	63.6	68.8		木製品	結物井筒		ヤリガンナ痕？	チョウナ痕	
1115	A	4A9c	SK37	枠材	長 29.1	幅 6.7	厚 1.7		木製品	板材		-	チョウナ痕？	
1116	A	4A8c	SK37		長残 5.5	幅残 4.7	厚 0.8		木製品	横櫛		-	平滑、調整痕不明	
1117	A	4A9e	SK37	遺物 1	長残 4.1	幅残 2.6	厚 0.6		木製品	横櫛		-	赤色漆、上部金色漆	
1118	A	4A8c	SK37	遺物 12	長残 6.3	幅残 4.2	厚 0.8		木製品	横櫛		-	平滑、調整痕不明	
1119	A	4A7c	P224		長残 17.6	幅 15.1	高 25.5		木製品	柱根		-	調整痕不明	
1120	A	4A6d	P231		長残 14.8	幅 13.5	高 45.0		木製品	柱根		-	調整痕不明	
1121	C	4J-	SK58	枠内	長 6.5	幅 1.7	高 2.4		真鍮製品	煙管		-	表面金色	
1122	C	4J-	SK58	枠内	長 5.1	幅 1.1	高 1.1		銅製品	煙管		-	-	
1123	A	4A8c	SK37	遺物 2	長 5.2	幅 1.0	高 1.0		真鍮製品	煙管		-	表面金色	
1124	B	4A10f	SD11		長 9.1	幅 3.1	高 1.9		鉄製品	刀子		-	-	
1125	C	4J5r	SX11		長 8.1	幅 1.3	高 1.1		鉄製品	刀子？		-	-	
1126	B	4A8l.9l	SB19		長 5.3	幅 1.0	高 0.9		鉄製品	釘		-	-	
1127	C	4J6q	SB60		長残 3.7	幅 1.1	高 1.0		鉄製品	釘		-	-	
1128	A	4A6d	P157		長残 3.9	幅 1.3	高 1.1		鉄製品	釘		-	-	
1129	B	4A7.8j	SB24		長残 1.6	幅 1.0	高 0.6		鉄製品	釘		-	-	
1130	Ab	4A7b	SB54	P1	長残 2.8	幅 0.7	高 0.6		鉄製品	釘		-	-	
1131	B	4A9i	P90		長残 2.7	幅 1.0	高 0.7		鉄製品	釘		-	-	
1132	C	4J5r.4r	SB63		長残 4.1	幅残 4.0	高 2.8		鉄滓	椀型鉄滓		-	-	
1133	B	4A9k	SB14		長残 1.8	幅 1.9	高 1.5		鉄滓	流動滓		-	-	
1134	B	4A9k	SB14		長残 1.5	幅残 1.5	高 1.1		鉄滓	流動滓		-	-	
1135	A	4A9c	SD22		長残 4.1	幅残 2.8	高 1.6		鉄滓	椀型鉄滓		-	-	
1136	B	4A7l	SB05		長 1.6	幅 1.2	高 0.9		鉄滓	流動滓		-	-	
1137	B	4A8j	SD19		長 2.3	幅 1.7	高 1.1		鉄滓	流動滓		-	-	

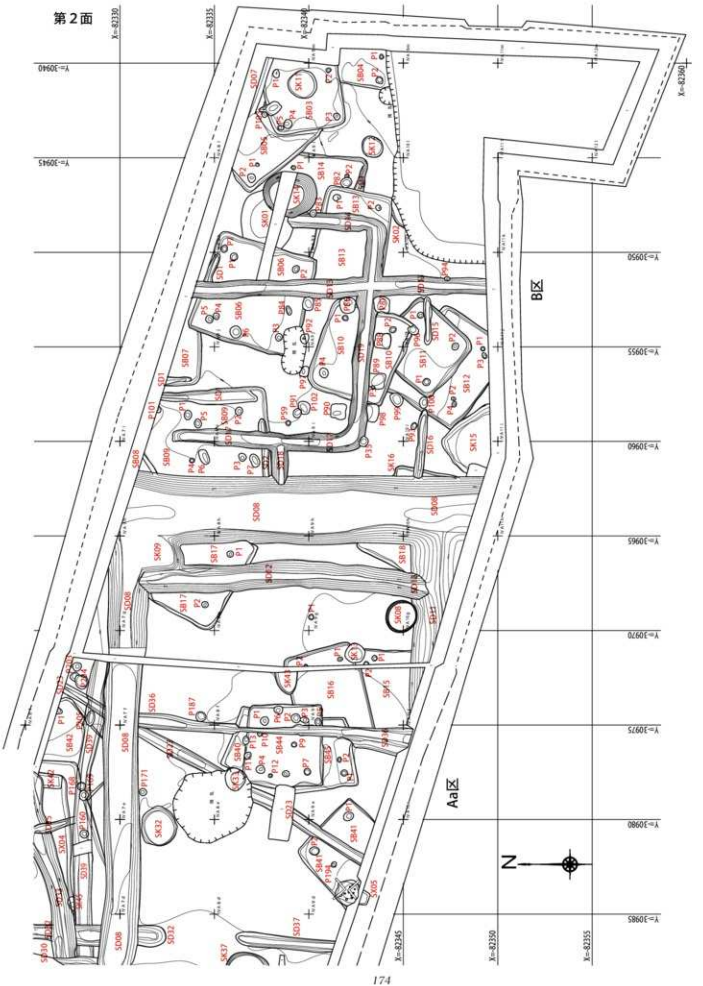

第1面
Aa区
Ab区
C区
N
X=-82315
X=-82320
X=-82325
X=-82330
X=-82335
X=-82340
X=-82345
Y=-30980
Y=-30985
Y=-30990
Y=-30995
Y=-31000
Y=-31005
Y=-31010
Y=-31015
Y=-31020
Y=-31025

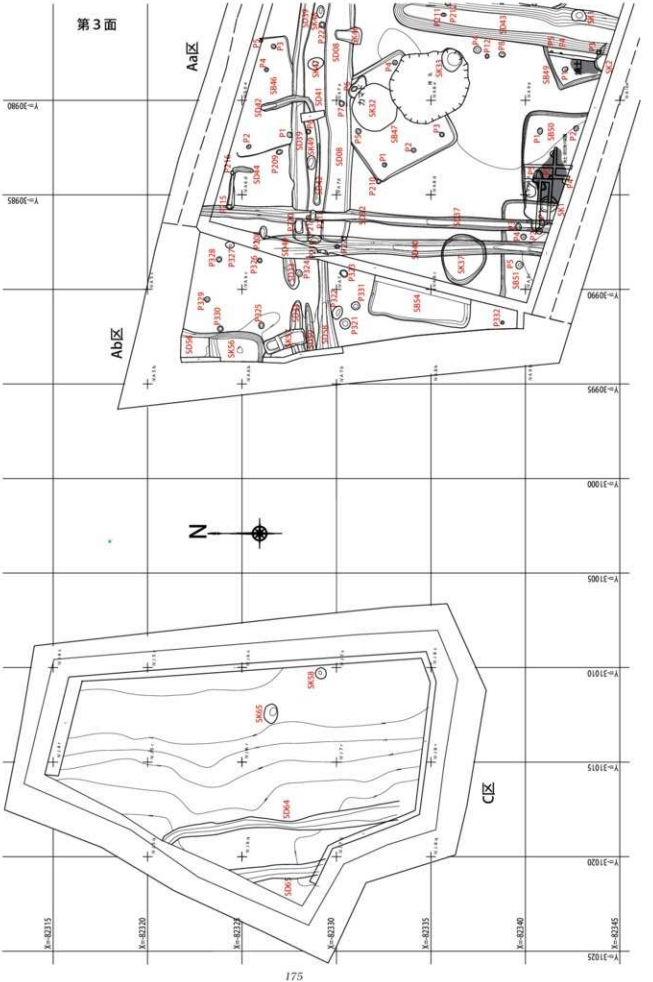
遺構図（2）


第1面
X=-82330
X=-82335
X=-82340
X=-82345
X=-82350
X=-82355
X=-82360
Y=-30940
Y=-30945
Y=-30950
Y=-30955
Y=-30960
Y=-30965
Y=-30970
Y=-30975
Y=-30980
Y=-30985
A・a区
B区
N

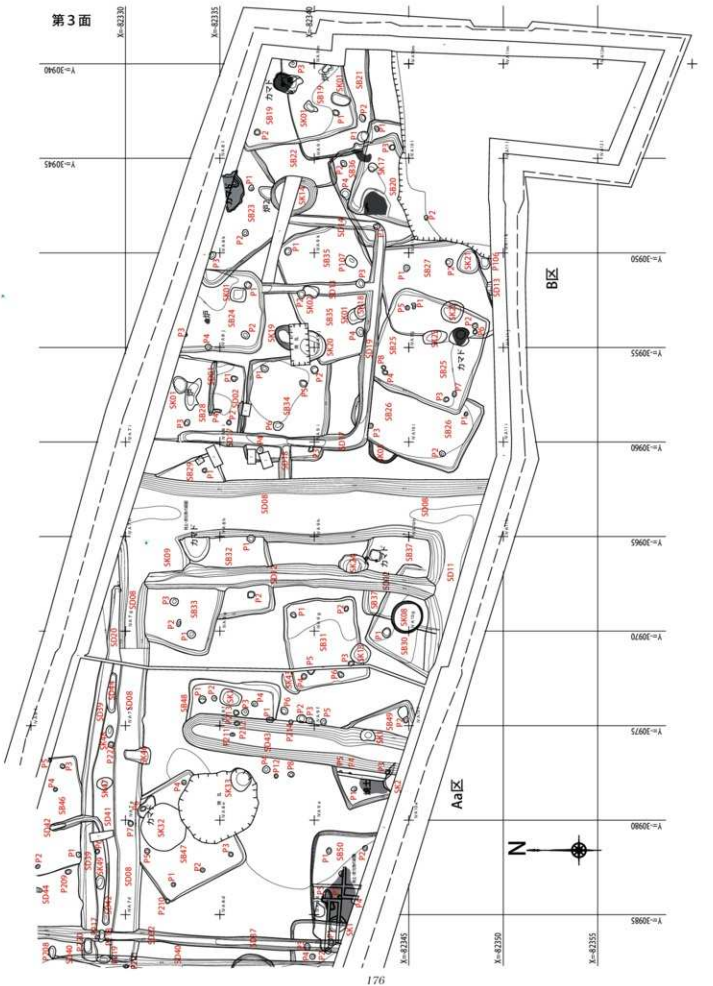

第2面
Aa区
Ab区
C区
N
X=-82315
X=-82320
X=-82325
X=-82330
X=-82335
X=-82340
X=-82345
Y=-30980
Y=-30985
Y=-30990
Y=-30995
Y=-31000
Y=-31005
Y=-31010
Y=-31015
Y=-31020
Y=-31025

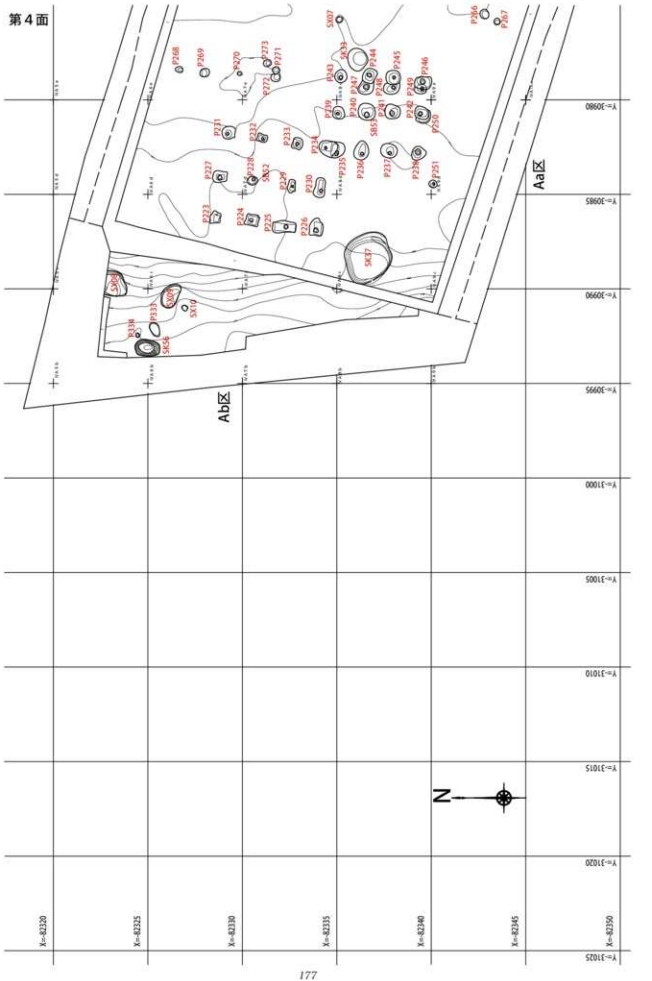
遺構図（4）


第2面
X=82330
X=82335
X=82340
X=82345
X=82350
X=82355
X=82360
Y=-30940
Y=-30945
Y=-30950
Y=-30955
Y=-30960
Y=-30965
Y=-30970
Y=-30975
Y=-30980
Y=-30985
B区
Aa区
N

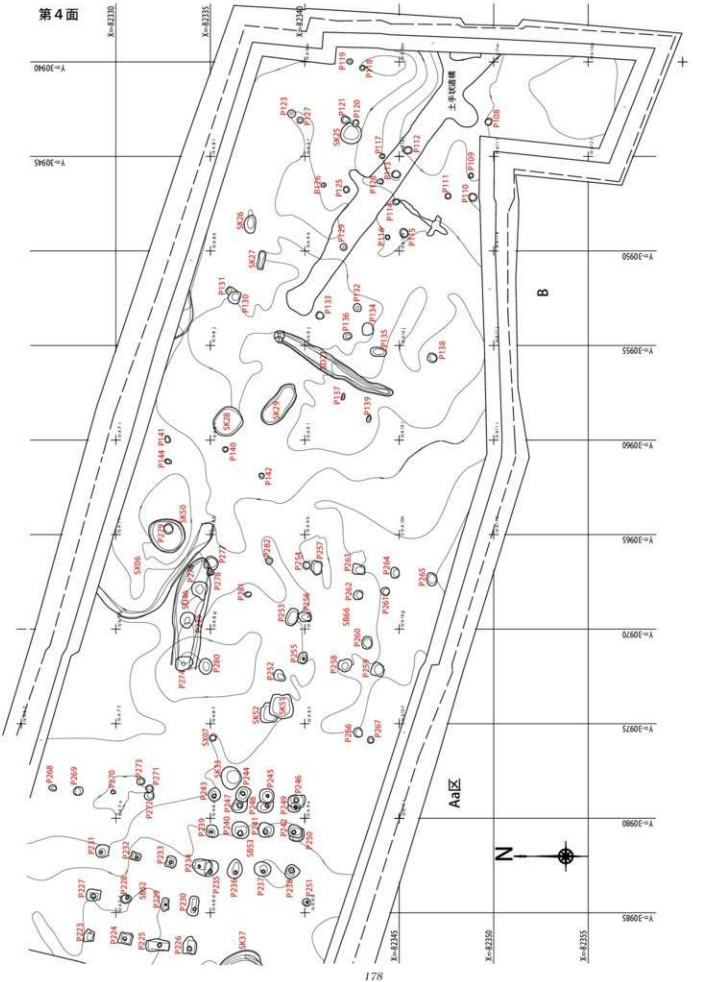

第３面
Aa区
Ab区
C区
N
X=-62315
X=-62320
X=-62325
X=-62330
X=-62335
X=-62340
X=-62345
Y=-30980
Y=-30985
Y=-30990
Y=-30995
Y=-31000
Y=-31005
Y=-31010
Y=-31015
Y=-31020
Y=-31025

遺構図（6）

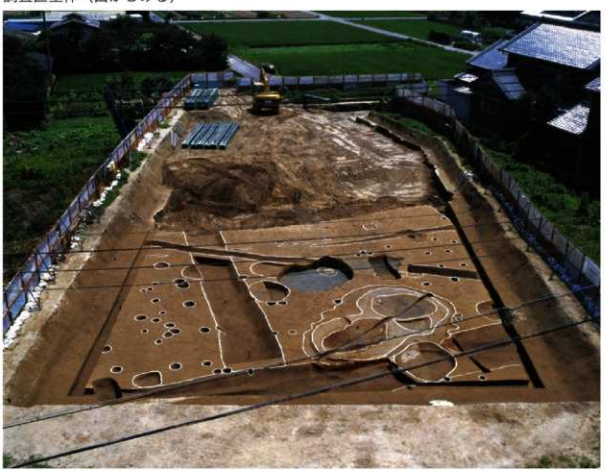

第3面
B区
Aa区
N
X=-82330
X=-82335
X=-82340
X=-82345
X=-82350
X=-82355
Y=-30940
Y=-30945
Y=-30950
Y=-30955
Y=-30960
Y=-30965
Y=-30970
Y=-30975
Y=-30980
Y=-30985


第4面
Ab区
Aa区
N
X=-82320
X=-82325
X=-82330
X=-82335
X=-82340
X=-82345
X=-82350
Y=-30980
Y=-30985
Y=-30990
Y=-30995
Y=-31000
Y=-31005
Y=-31010
Y=-31015
Y=-31020
Y=-31025

遺構図（8）


第4面
X=82330
X=82335
X=82340
X=82345
X=82350
X=82355
Y=30940
Y=30945
Y=30950
Y=30955
Y=30960
Y=30965
Y=30970
Y=30975
Y=30980
Y=30985
B
Aa区
N
土手状遺構

調査区全体（西からみる）

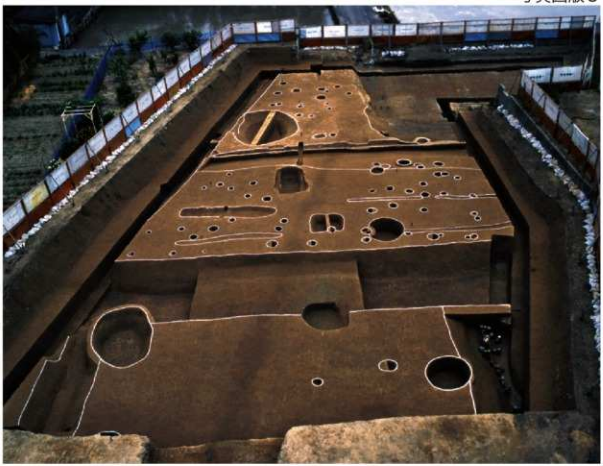


05 A区１面全体（西からみる）

写真図版２

05A 区３面全体（東からみる）

05 A区４面全体（東からみる）



05 B区１面全体（西からみる）

05 B区２面全体（西からみる）

写真図版４

05 B区３面全体（西からみる）

05 B区４面全体（西からみる）

05 C区１面全体（南からみる）

05 C区２面全体（西からみる）

写真図版６

05 Ｃ区３面全体（西からみる）

05 Ａｂ区北壁土層断面（南からみる）

SB53 検出状況

SB52・SB53 検出状況（北からみる）

P225 柱根（南からみる）

SB52 柱根（南からみる）

柱穴の断面（05 A区南からみる）

P242 土層断面（南からみる）

SB02 全体（南からみる）

P88 土層断面（南からみる）

写真図版8

SB03 全体（南東からみる）

SB10 ～ 12 全体（北東からみる）

SB19 全体（南東からみる）

SB21 カマド（南東からみる）

SB20 全体（西からみる）

SB23 地床炉？（北西からみる）

SB27 全体（南からみる）

SB32 カマド状遺構（南東からみる）

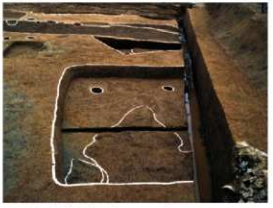
SB37 全体（南からみる）

SB37 カマド（東からみる）

SB37 カマド（南からみる）

SB37 カマド支脚（東からみる）

SB49 全体（北西からみる）



SB50 全体（西からみる）

SB58 全体（北西からみる）

SB65 全体（東からみる）

写真図版 10

SD01・SD02 全体（南からみる）

SD08 土層断面（南からみる）

SD11（西からみる）

SD14 全体（西からみる）

SD33（南西からみる）

SD23 全体（南西からみる）

SD46 全体（西からみる）

SD64 全体（南からみる）

SX07（西からみる）

SX09 全体（北からみる）

SX08 全体（東からみる）

SK20（南からみる）

SX05（北東からみる）

SX05 骨片（北西からみる）

SK14 土層断面（南からみる）

SX03 全体（南東からみる）

写真図版 12

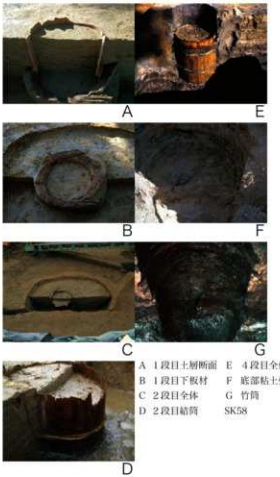
SK32 土層断面（南からみる）

SK37（南からみる）

SK33 土層断面（東からみる）

SK32 全体（北東からみる）

SK58 1 段目（東からみる）



A　1段目土層断面　E　4段目全体
B　1段目下板材　F　底部粘土張
C　2段目全体　G　竹筒
D　2段目結筒　SK58

SK58 3 段目（西からみる）

16

17

8

12

1

6

11

14

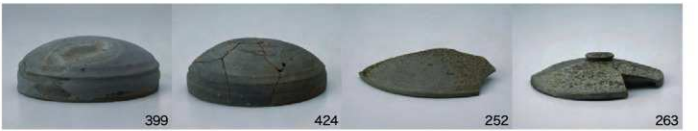
3

2

18

4

写真図版 14


399
424
252
263

280
299
300
328

456
524
639
434

435
640
233
458

411
535
233
458

52
386
45
143

SB 03
27
24
25
26
SB 04
31
30
32
28
33
29
34
SB 05
46
40
39
44
43
42
36
37
38
41

SB 06
61
60
66
70
63
62
65
64
SB 06
54
53
67
69
68
47
48
59
49
58
50
51
SB 06
71
73
74
72
76
77
78
79
80
75
81

SB 08
83
82
85
84
SB 09
86
87
90
92
91
89
93
88
SB 09
100
99
98
97
96
109
106
108
107
104
101
105
102
103
110

SB 09
111
121
122
114
118
112
120
116
119
115
117
SB 10
151
150
152
144
147
148
149
145
146
153
157
SB 10
131
130
129
132
138
133
136
135
134
154
155
140
139
156

写真図版 16

SB 11
159 160 161 162 163
168 166 167 169 170
172 173 171 174
SB 12
179 178 181
182 183 180 184
186 185 187
SB 13
191 190 193 194
195 192

SB 14
199 201 202 200
204 205 206 203
210 209 208 207
SB 14
215 216 224 223
219 217 220 218 221
222 229 227 225
SB 20
230 231 232 238
235 234 237 239 236

SB 21
240 241 242 244
243 246 248 247 245
SB 22
251 250 249
254 256 253
257 255 258
SB 23
262 260
261 259

SB 24
264 265 266 267 268 269
272 270 271 273 276
274 279 277 278
SB 25
281 282
280 283
292 293 290 291 294
295 296 297 298
SB 26
299 300 302
305 304 303 309
307 308 301

SB 27
314
315
316
322
319
318
320
321
324
325
326
323
SB 28
328
329
331
330
332
339
340
333
338
337
336
335
334
SB 32
355
351
356
352
350
353
354
359
362
361
360

SB 33
371
378
372
379
370
368
369
375
379
374
373
SB 34
380
382
381
383
384
385
389
388
387
390
SB 35
392
391
393
394
395
396
397
398
402
406
403
405

SB 36
407
412
416
421
420
413
409
414
410
408
422
423
419
418
SB 47
434
437
438
SB 48
432
431
430
SB 47
436
433

SB 49
440
439
441
442
SB 50
447
443
448
444
446
445
449
451
452
453
SB 56
462
461
460
456
458
459

写真図版 18

SB 57
465
467
466
468
469
470
471
473
472
SB 58
476
474
475
477
485
480
478
479
481
483
482
486
489
488
487
491
490
SB 59
492
496
498
493
494
495
500
497

SB 59
503
501
499
504
502
SB 60
505
509
508
506
507
510
511
512
513
517
516
518
519
515
SB 62
521
523
522

SB 63
526
527
524
525
528
532
529
533
536
537
541
542
SB 63
552
557
559
564
555
558
SB 64
560
561
566
569
568
562
563
564
565
571
573
572
570
567

SB 65
580
575
577
578
579
576
583
582
581
SB 54
674
675
SB 15、16
650
651
657
654
652
655
653
656

SB 26
450
764
728
311
312
1094

450
764
728
1016
873
889

642
275
672
648
647
645
644

464
464
364
327

637
574
366
327

765
766
767
768
676
736
737
867
692
693
677
686
685
869
770
871
1024
1010
1021
730
729
734
716

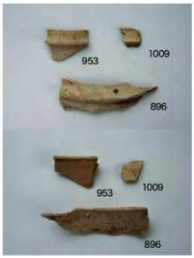
903
821
870
712

757
759
794
792

865
711
905
714

981
983 984 985 986
980
1070
1069

写真図版 22


953
1009
896

855
853
1085
962
1071
1087

887
854
935
852
888
909
856

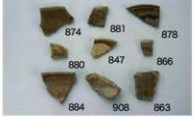
953
1009
896

855
853
1085
962
1071
1087

887
854
935
852
888
909
856

878
881
874
880
847
866
884
908
863

936
895
849
848
850
969
879


878
881
874
880
847
866
884
908
863

936
895
849
848
850
969
879

877

837
839
720
725
726
724

876
846
862
875
845
941
885
886
940

1036
1037

837
839
720
725
726
724

876
846
862
875
845
941
885
886
940

1038

1084

1082

1042

1048

1081

1046

1047

1054

1090

1080

1079

1058

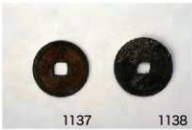
1059

1060

1093

1061

写真図版 24



SK 58 出土布片

愛知県埋蔵文化財センター調査報告書　第159集

下津新町遺跡

2009年3月31日

編集・発行　財団法人愛知県教育・スポーツ振興財団
愛知県埋蔵文化財センター

印刷　新日本法規出版株式会社